Canon

EOS 90D

この使用説明書は、EOS 90Dのファームウェアがver.1.1.0以上であることを前提に説明しています。

J

詳細ガイド

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』(🕮25〜🕮27)、および『取り扱い上のご注意』(🕮28〜🕮30)をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

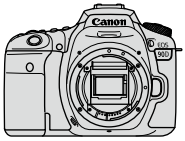
撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ(本機)やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ(本機)で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



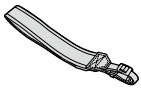
カメラ
（ボディキャップ付き）



バッテリーパック
LP-E6N
（保護カバー付き）



充電器
バッテリー
チャージャー
LC-E6



ストラップ

- メモリーカード（🕮10）、インターフェースケーブル、HDMIケーブルは付属していません。
- 詳細ガイド／使用説明書については、次ページを参照してください。
- レンズキットをお買い上げのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。

- レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください（🕮4）。
  なお、レンズの使用説明書（PDFファイル）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

使用説明書について



製品に付属している冊子は、カメラとWi-Fi機能の基本的な使い方をまとめた「使用説明書」です。
すべての使い方をまとめた「詳細ガイド」（PDFファイル）および、主な仕様などが記載された「補足情報」（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

詳細ガイド／各使用説明書のダウンロードについて

詳細ガイドや、レンズ／ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

- **ダウンロードサイト**
  - **詳細ガイド、補足情報**
    canon.jp/eos-manual
  - **レンズ使用説明書**
    canon.jp/lens-acc-manual
  - **ソフトウェア使用説明書**
    canon.jp/eos-sw-manual

QRコードから詳細ガイド／各使用説明書をダウンロード

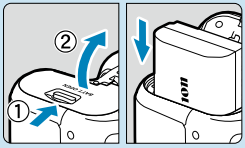
スマートフォン、タブレット使用時は、QRコードから詳細ガイドや、レンズ／ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）をダウンロードすることができます。

www.canon.com/icpd

- QRコード読み取りには、アプリケーションが必要です。
- お住まいの国または地域を選択し、詳細ガイド／各使用説明書をダウンロードします。
- **[🔧：使用説明書・ソフトウェア URL]** を選ぶと、カメラのモニターにQRコードを表示することができます。

すぐ撮影するには

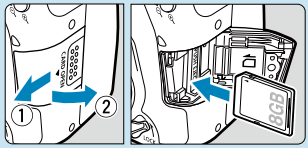
1



バッテリーを入れる（📖47）

- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください（📖44）。

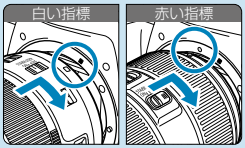
2



カードを入れる（📖48）

- カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

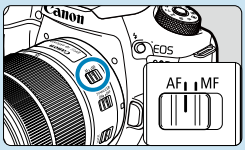
3



レンズを取り付ける（📖54）

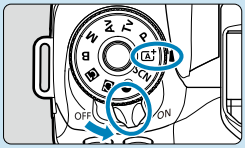
- レンズとカメラのレンズ取り付け指標（白または赤）を合わせて取り付けます。

4



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（📖54）

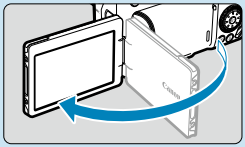
5



電源スイッチを〈ON〉にして、モードダイヤルを〈A+〉にする（📖52）

- モードダイヤルの中央を押しながら回します。
- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

6



モニターを開いてセットする（📖51）

- モニターに日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、📖516を参照してください。

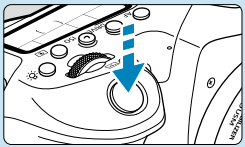
7



ピントを合わせる（📖57）

- ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。
- ファインダー内に〈ϟ〉が点滅するときは、〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げてください。

8



撮影する（📖57）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9



撮影した画像を確認する

- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（📖332）。

- モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（📖71）を参照してください。

本書について

本文中の絵文字について

〈  〉　：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈  〉　：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈〉〈〉　：マルチコントローラー1、マルチコントローラー2を示しています。
〈▲/▼/◀/►〉　：マルチコントローラーを押す方向を示しています。
〈  〉　：設定ボタンを示しています。
 *　：操作ボタンから指を離したあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

・その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

応用　：ページタイトル右の応用は、応用撮影ゾーン（〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モード）限定の機能であることを示しています。
***　：参照ページを示しています。
　：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
 　：補足説明や補足事項を記載しています。
 　：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
?　：困ったときの手助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提と作例写真について

- 電源スイッチが〈ON〉、マルチ電子ロック機能がオフになっていることを前提に説明しています（🕮52、🕮60）。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カメラに表示される作例写真や、本書で使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。**なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください**（🕮511）。

- **SD/SDHC/SDXCメモリーカード**

  UHS-II、UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録サイズに適応する性能（書き込み/読み取り速度）を備えた、大容量のカードを使用してください。詳しくは🕮618を参照してください。

本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
※画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

章目次

はじめに 2

準備と基本操作 43

かんたん撮影ゾーン 75

応用撮影ゾーン 109

AF／ドライブ／露出の設定 123

ストロボ撮影 163

撮影 191

再生 329

無線通信機能 395

機能設定 501

カスタム機能／マイメニュー 551

資料 589

目　次

はじめに　2

カメラと主な付属品 3
使用説明書について 4
すぐ撮影するには 6
本書について 8
使用できるカードについて 10
章目次 11
目　次 12
機能目次 21
安全上のご注意 25
取り扱い上のご注意 28
各部の名称 31

準備と基本操作　43

バッテリーを充電する 44
バッテリーを入れる／取り出す 47
カードを入れる／取り出す 48
モニターを使う 51
電源を入れる 52
レンズを取り付ける／取り外す 54
基本操作 56
メニュー機能の操作と設定 63
クイック設定 67
画面にタッチして操作する 70
モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影） 71

かんたん撮影ゾーン 75

全自動撮影（シーンインテリジェントオート）..... 76
スペシャルシーンモード..... 84
人物を写す..... 86
集合写真を写す..... 87
風景を写す..... 88
動きのあるものを写す..... 89
子供を写す..... 90
流し撮りをする..... 91
花や小物を大きく写す..... 93
料理を写す..... 94
キャンドルライトと人物を写す..... 95
夜景と人物を写す（三脚を使う）..... 96
夜景を手持ちで写す..... 97
逆光シーンを写す..... 98
〈SCN〉モードの注意事項..... 99
フィルター効果を付けた撮影..... 103

応用撮影ゾーン 109

プログラムAE撮影..... 110
シャッタースピードを決めて撮影する（シャッター優先AE）..... 112
絞り数値を決めて撮影する（絞り優先AE）..... 114
露出を自分で決めて撮影する（マニュアル露出）..... 117
長時間露光（バルブ）撮影..... 119

AF／ドライブ／露出の設定 123
AF動作の選択 124
測距エリアとAFフレームの選択（ファインダー撮影） 128
AF方式の選択（ライブビュー撮影） 135
手動ピント合わせ（マニュアルフォーカス） 147
ドライブモードの選択 150
セルフタイマー撮影 153
リモコン撮影 155
アイピースカバー 157
測光モードの選択 158
露出補正 160
露出の固定（AEロック） 161

ストロボ撮影 163
内蔵ストロボ撮影 164
ストロボ機能の設定 168
外部ストロボ撮影 179
光通信ワイヤレスストロボ撮影 180

撮影 191

静止画撮影 192
メニュー目次：静止画撮影（ファインダー撮影） 193
メニュー目次：静止画撮影（ライブビュー撮影） 196
記録画質の設定 199
静止画のアスペクト比 202

撮影直後の画像表示時間 204
カードの入れ忘れの防止 205
レンズの光学特性による影響の補正 206
露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 211
静止画のISO感度の設定 213
明るさ・コントラストの自動補正（オートライティング
オプティマイザ） 218
高輝度側・階調優先の設定 219
測光タイマーの作動時間（ライブビュー撮影） 220
露出Simulation（ライブビュー撮影） 221
ホワイトバランスの設定 222
ホワイトバランスの補正 227
色空間の設定 229
ピクチャースタイルの選択 230
ピクチャースタイルの調整 233
ピクチャースタイルの登録 236
ノイズ低減機能の設定 238
ゴミ消し情報の付加 241
シャッター方式（ライブビュー撮影） 243
多重露出撮影 245
HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影 251
フォーカスブラケット撮影（ライブビュー撮影） 255
インターバルタイマー撮影 258
フリッカーの影響の低減 261
ミラーアップ撮影 263

コンティニュアスAF（ライブビュー撮影）..... 265
レンズの電子式手動フォーカスの設定..... 266
AF補助光の設定..... 267
静止画撮影全般の注意事項..... 269

動画撮影 273
メニュー目次：動画撮影..... 274
動画撮影..... 277
HDR動画の撮影..... 284
フィルター効果を付けた動画撮影..... 285
動画記録画質の設定..... 288
録音の設定..... 295
動画電子IS..... 298
タイムラプス動画の撮影..... 300
ビデオスナップの撮影..... 312
動画サーボAF..... 317
動画サーボAFの被写体追従特性..... 319
動画サーボAF時のAF速度..... 320
その他のメニュー機能..... 322
動画撮影全般の注意事項..... 326

再生 329
メニュー目次：再生タブ..... 330
画像の再生..... 332
インデックス表示（複数画像表示）..... 334
画像の拡大表示..... 336
動画の再生..... 337

動画の前後部分のカット 340
4K動画／4Kタイムラプス動画からのフレームの切り出し 342
テレビで見る 344
画像の保護（プロテクト） 346
画像の回転 349
画像の消去 350
画像の印刷指定／DPOF 354
フォトブックにする画像の指定 358
フィルター効果の付加 361
RAW画像の現像 364
好みの効果を付けた現像（クリエイティブアシスト） 370
RAW現像の種類の選択 372
赤目補正 373
ビデオスナップアルバムの編集 374
JPEG画像のトリミング 377
JPEG画像のリサイズ 379
レーティングの設定 380
画像の自動再生（スライドショー） 383
再生する画像の絞り込み 385
ジャンプ表示（画像飛ばし表示） 387
再生する情報の設定 389
ハイライト警告の表示 391
AFフレームの表示 392
グリッドの表示 393
再生開始時に最初に表示する画像の設定 394

無線通信機能 395
メニュー目次：無線タブ ... 396
Wi-Fi/Bluetooth接続の選択 ... 397
スマートフォンと通信 ... 399
パソコンとWi-Fi接続 ... 426
プリンターとWi-Fi接続 ... 434
Webサービスへ画像を送信 ... 444
アクセスポイントを使用したWi-Fi接続 ... 458
ワイヤレスリモコンと接続 ... 464
2回目以降のWi-Fi接続 ... 467
複数の接続設定の登録 ... 469
Wi-Fi機能の設定 ... 470
Bluetooth機能の設定 ... 471
ニックネームの変更 ... 472
GPS機器を使用した位置情報の付加 ... 473
接続設定の変更／削除 ... 478
無線通信の設定初期化 ... 480
情報表示画面 ... 481
仮想キーボードの操作方法 ... 482
エラー表示の対応 ... 483
無線通信機能での注意事項 ... 494
セキュリティーについて ... 496
ネットワークの設定を確認する ... 497
無線通信機能の接続状態 ... 498

機能設定 501

メニュー目次：機能設定タブ 502
フォルダの作成と選択 505
画像番号の設定 507
縦位置撮影画像の自動回転表示 510
カードの初期化 511
オートパワーオフ 513
画面の明るさの調整 514
モニターの消灯／点灯の設定 515
日付／時刻／エリアの設定 516
表示言語 519
ビデオ方式 520
タッチ操作時の設定 521
操作時の電子音 522
ヘッドフォンの音量 523
バッテリー情報の確認 524
撮像素子の清掃 528
撮影モードガイドの表示 532
機能ガイドの表示 533
ヘルプ機能 534
ファインダー内表示の設定 536
〈INFO〉ボタンで表示する内容 538
モニター表示のカスタマイズ 539
動画撮影時のシャッターボタンの機能 542
HDMI出力時の解像度 543
HDR対応テレビでのRAW画像の表示 544

マルチ電子ロック機能 545
カスタム撮影モードの登録 546
カメラの設定の初期化 547
著作権情報 548
その他の情報 550

カスタム機能／マイメニュー 551

メニュー目次：カスタム機能タブ 552
カスタム機能の設定方法 553
カスタム機能一覧 554
カスタム機能で変更できる内容 556
AF合焦位置の微調整（AFマイクロアジャストメント） 575
カスタム機能の設定解除 581
メニュー目次：マイメニュータブ 582
マイメニューの登録 583

資料 589

ソフトウェア 590
パソコンへの画像の取り込み 592
バッテリーグリップ BG-E14 594
家庭用電源アクセサリー 594
故障かな？と思ったら 595
エラー表示 613
データシート 614
情報表示 622
索　引 635

機能目次

電源

- バッテリー充電（📖44）
- バッテリー残量（📖53）
- 節電機能（📖513）
- バッテリー情報確認（📖524）

カード

- カードなしレリーズ（📖205）
- カード初期化（📖511）
- 動画記録可能カード（📖617）

レンズ

- 取り付け（📖54）
- 取り外し（📖55）

基本設定

- 日付／時刻／エリア（📖516）
- 言語（📖519）
- 電子音（📖522）
- カメラ設定初期化（📖547）
- 著作権情報（📖548）

ファインダー

- 視度調整（📖56）
- ファインダー内表示設定（📖536）
- ファインダー表示形式（📖536）

モニター

- バリアングル（📖51）
- タッチ操作（📖70）
- 明るさ（📖514）
- ヘルプ機能（📖534）
- 水準器（📖539）

AF

- AF動作（📖124）
- AF方式（📖135）
- AFフレーム選択（📖140）
- 瞳AF（📖142）
- 手動ピント合わせ（📖147）
- MFピーキング設定（📖149）
- コンティニュアスAF（📖265）
- 電子式手動フォーカス（📖266）
- AF補助光（📖267）

測光

- 測光モード（📖158）

ドライブ

- ドライブモード（📖150）
- セルフタイマー（📖153）
- 連続撮影可能枚数（📖201）

画像記録

- フォルダ作成／選択（📖505）
- 画像番号（📖507）

画質

- 記録画質（📖199）
- 静止画アスペクト比（📖202）
- レンズ光学補正（📖206）
- ISO感度（静止画）（📖213）
- オートライティング オプティマイザ（📖218）
- 高輝度側・階調優先（📖219）
- ホワイトバランス（📖222）
- ピクチャースタイル（📖230）
- 長秒時露光ノイズ低減（📖238）
- 高感度時ノイズ低減（📖239）
- フリッカー低減（📖261）

撮影

- 撮影モード（📖38）
- マルチ電子ロック（📖60）
- クイック設定（📖67）
- タッチシャッター（📖72）
- クリエイティブアシスト（📖82）
- クリエイティブフィルター（📖103）
- 被写界深度確認（📖116）
- バルブタイマー（📖120）
- 拡大表示（📖144）
- リモコン（📖155）
- リモートスイッチ（📖156）
- 多重露出（📖245）
- HDRモード（📖251）
- フォーカスブラケット（📖255）
- インターバルタイマー（📖258）
- ミラーアップ（📖263）
- 撮影情報表示設定（📖539）
- グリッド（📖540）
- エラー表示（📖613）

露出

- 露出補正（M+ISOオート）（📖118）
- 露出補正（📖160）
- AEロック（📖161）
- AEB（📖211）
- 露出Simulation（📖221）
- セイフティシフト（📖558）

ストロボ

- 内蔵ストロボ（📖164）
- ストロボ調光補正（📖166）
- FEロック（📖167）
- ストロボ機能設定（📖168）
- 外部ストロボ（📖179）
- 光通信ワイヤレス（📖180）

動画撮影

- 自動露出撮影（📖277）
- マニュアル露出撮影（📖279）
- HDR動画（📖284）
- クリエイティブフィルターモード（📖285）
- 動画記録サイズ（📖288）
- ウィンドカット（📖295）
- 録音（📖295）
- マイク（📖296）
- アッテネーター（📖296）
- タイムラプス動画（📖300）
- ビデオスナップ（📖312）
- 動画サーボAF（📖317）
- 動画サーボAFの被写体追従特性（📖319）
- 動画サーボAF時のAF速度（📖320）
- ISO感度（動画）（📖322）
- リモコン撮影（📖322）
- オートスローシャッター（📖324）
- HDMI出力（📖325）
- 4K動画（📖342）
- ヘッドフォン（📖523）
- HDMI出力解像度（📖543）

再生

- 撮影直後の表示時間（📖204）
- 1枚表示（📖332）
- タッチ再生（📖335）
- 拡大（📖336）
- インデックス表示（📖334）
- 動画再生（📖337）
- 動画前後カット（📖340）
- フレーム切り出し（4K）（📖342）
- テレビで見る（📖344）
- プロテクト（保護）（📖346）
- 回転（📖349）
- 消去（📖350）
- レーティング（📖380）
- スライドショー（📖383）
- 画像検索の条件設定（📖385）
- 画像送り（ジャンプ表示）（📖387）
- 再生画像情報設定（📖389）
- ハイライト警告表示（📖391）
- AFフレーム表示（📖392）
- グリッド表示（📖393）
- 撮影情報表示（📖539）
- HDR出力（📖544）

画像加工

- クリエイティブフィルター（📖361）
- RAW現像（📖364）
- 赤目補正（📖373）
- ビデオスナップアルバム（📖374）
- JPEGトリミング（📖377）
- JPEGリサイズ（📖379）

印刷指定

- 印刷指定（DPOF）（📖354）
- フォトブック指定（📖358）

カスタマイズ

- カスタム撮影モード（📖546）
- カスタム機能（C.Fn）（📖552）
- 操作ボタン カスタマイズ（📖571）
- マイメニュー（📖583）

センサークリーニング／ダスト除去

- ゴミ消し情報付加（📖241）
- センサークリーニング（📖528）
- 手作業（📖530）

ソフトウェア

- ダウンロード／インストール（📖590）
- ソフトウェア使用説明書（📖591）

無線通信機能

- スマートフォンと通信（📖399）
- スマートフォンに画像を自動送信（📖412）
- EOS Utilityでカメラを操作（📖426）
- パソコンに画像を自動送信（📖431）
- Wi-Fi対応プリンターで印刷（📖434）
- Webサービスへ画像を送信（📖444）
- ワイヤレスリモコンと接続（📖464）
- 位置情報を画像に付加（📖473）
- 無線通信設定初期化（📖480）

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。

⚠警告　死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

- 乳幼児の手の届くところに置かない。

ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。

- この製品はリチウムボタン電池を使用しています。お子様の手の届かない所に保管してください。飲み込むと危険です。電池を飲み込むと、2時間以内に重傷または死亡するおそれがあります。電池を飲み込んだ、または体内に入れた疑いがある場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- 指定外の電源は使わない。
- 分解や改造をしない。
- 強い衝撃や振動を与えない。
- 破損したときは、内部に触れない。
- 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
- 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
- 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。

感電、破裂、火災の原因となります。

- レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。

光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。

- ファインダーがある製品では、ファインダーで強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）を見ない。

視力障害の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。

感電の原因となります。

●バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
- 指定外の製品で使わない。
- 熱したり、火中投入しない。
- 指定外の製品で充電しない。
- 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
- 液漏れしたものは使わない。
- 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。
●バッテリーチャージャーを使うときは、次のことに注意する。
- 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
- 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
- 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。

●電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
●使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
●コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
●電源に長時間つないだままにしない。
●5℃～ 40℃の範囲外で充電しない。
感電、破裂、火災の原因となります。
●長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。
●使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。
電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。

⚠注意　傷害を負う可能性がある内容です。

● ストロボを目に近付けて発光しない。
目をいためる恐れがあります。
● 長い時間、ファインダーや画面を見続けない。
乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。
● ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。
やけどや故障の原因となります。
● 製品を高温や低温となる場所に放置しない。
製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。
● ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。
● レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。
けがやカメラの故障の原因となります。
● 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。
● カメラを三脚につけたまま移動しない。
けがや事故の原因となります。
● 製品の内部には手を入れない。
けがの原因となります。
● 使用中や使用後に肌に異常を感じた場合は、使用を中止し医師にご相談ください。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 防塵・防滴性能を発揮させるため、カメラの端子カバー、バッテリー収納部ふた、カードスロットカバーなどの開閉部をしっかり閉じてください。
- このカメラは、不用意に降りかかる砂塵や、水滴などのカメラ内部への侵入を抑えることで、防塵性、防滴性に配慮した設計を行っていますが、ゴミやほこり、水、塩分などのカメラ内部への侵入を、完全に防ぐことはできません。ゴミやほこり、水、塩分などが、できるだけカメラに付着しないようにしてください。
- カメラに水が付着したときは、乾いたきれいな布で、ゴミやほこり、塩分などが付着したときは、固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- 万一、カメラが水に濡れて、内部に浸水（水没）したり、ゴミやほこり、塩分などが内部に侵入した恐れがあるときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。

- 指などでミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用したり、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。カメラの電源をOFFにして、水滴が完全に消えるまで待ってから、カメラを使用してください。なお、水滴が完全に消えても、カメラ内部が低温になっているときは、周囲の温度になじむまで、レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外さないでください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

モニターと表示パネルについて

- モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

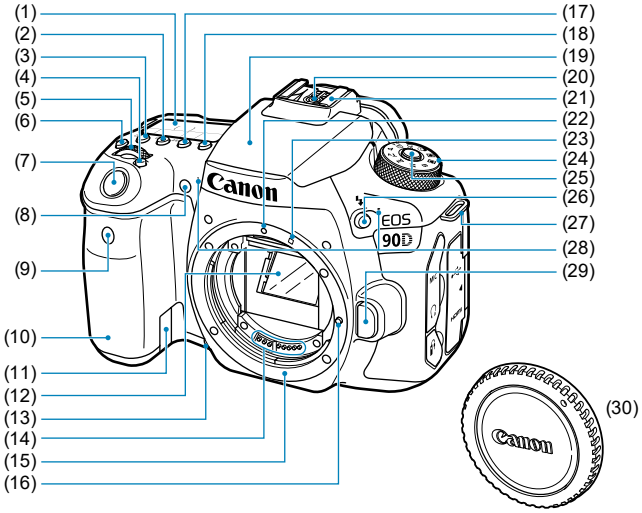
- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

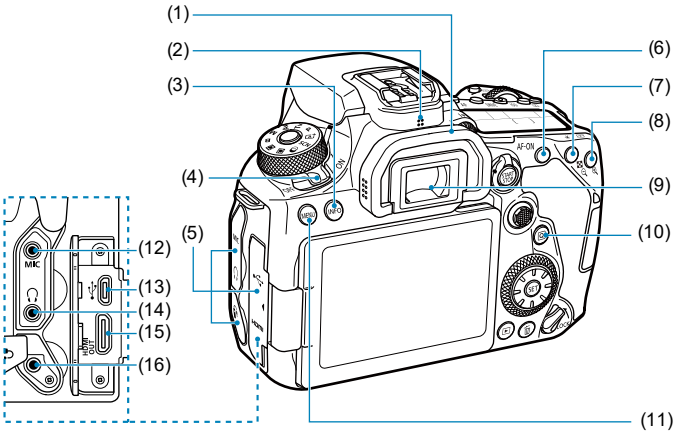
- レンズを取り外したときは、接点(1）やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



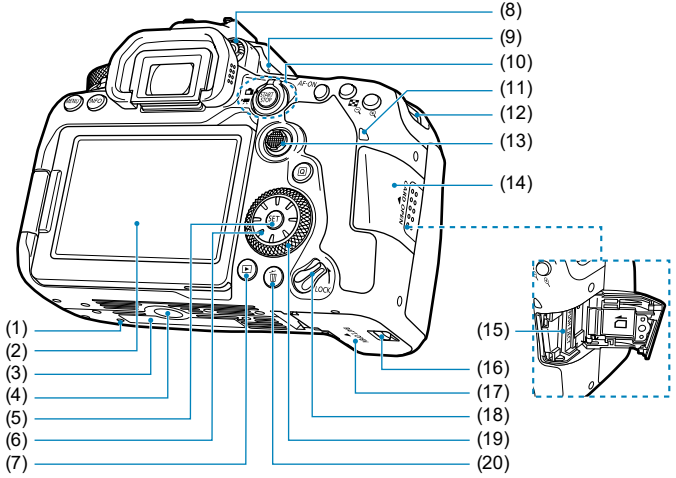
各部の名称



(1) 表示パネル
(2) 〈ISO〉ISO感度設定ボタン
(3) 〈[◉]〉測光モード選択ボタン
(4) 〈[⊡]〉測距エリア／AF方式選択ボタン
(5) 〈メイン電子ダイヤル〉
(6) 〈☼〉表示パネル照明ボタン
(7) シャッターボタン
(8) 赤目緩和／セルフタイマー／リモコンランプ
(9) リモコン受信部
(10) グリップ（バッテリー室）
(11) DCカプラーコード通し部
(12) ミラー
(13) 絞り込みボタン
(14) 接点
(15) レンズマウント
(16) レンズロックピン
(17) 〈DRIVE〉ドライブモード選択ボタン
(18) 〈AF〉AF動作／AF方式選択ボタン
(19) 内蔵ストロボ／AF補助光投光部
(20) シンクロ接点
(21) アクセサリーシュー
(22) EFレンズ取り付け指標
(23) EF-Sレンズ取り付け指標
(24) モードダイヤル
(25) モードダイヤルロック解除ボタン
(26) 〈ϟ〉ストロボボタン
(27) ストラップ取り付け部
(28) 内蔵マイク
(29) レンズロック解除ボタン
(30) ボディキャップ

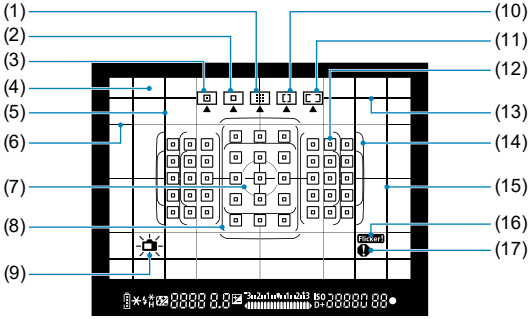


(1) アイカップ
(2) スピーカー
(3) 〈**INFO**〉 インフォボタン
(4) 電源スイッチ
(5) 端子カバー
(6) 〈**AF-ON**〉 AFスタートボタン
(7) 〈✱〉 AEロック／FEロックボタン
〈🔍〉 インデックス／縮小ボタン
(8) 〈⊞〉 AFフレーム選択／
〈🔍〉 拡大ボタン
(9) ファインダー接眼部
(10) 〈Q〉 クイック設定ボタン
(11) 〈**MENU**〉 メニューボタン
(12) 〈**MIC**〉 外部マイク入力端子
(13) 〈•⇄〉 デジタル端子
(14) 〈🎧〉 ヘッドフォン端子
(15) 〈**HDMI OUT**〉 HDMIミニ出力端子
(16) 〈📡〉 リモコン端子



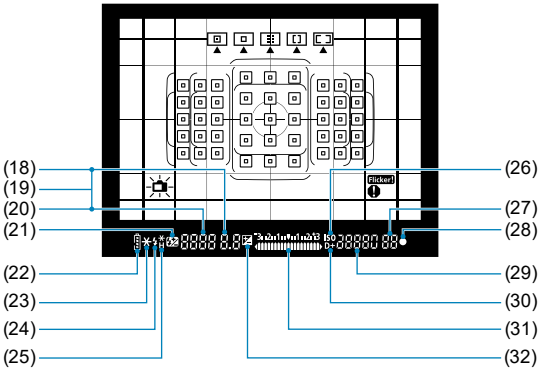
(1) アクセサリー位置決め穴
(2) モニター
(3) シリアル番号
(4) 三脚ねじ穴
(5) 〈SET〉 設定ボタン
(6) 〈✲〉〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉 マルチコントローラー2
(7) 〈▶〉 再生ボタン
(8) 視度調整つまみ
(9) 〈⊖〉 撮像面マーク
(10) 〈📷〉 ライブビュー撮影／〈🎥〉 動画撮影スイッチ〈START STOP〉 スタート／ストップボタン
(11) アクセスランプ
(12) ストラップ取り付け部
(13) 〈✲〉 マルチコントローラー1
(14) カードスロットカバー
(15) カードスロット
(16) バッテリー収納部ふたロック
(17) バッテリー収納部ふた
(18) マルチ電子ロックスイッチ
(19) 〈◌〉 サブ電子ダイヤル
(20) 〈🗑〉 消去ボタン

ファインダー内表示



(1) ゾーンAF（ゾーン任意選択）
(2) 1点AF（任意選択）
(3) スポット1点AF（任意選択）
(4) フォーカシングスクリーン
(5) アスペクト線（1：1）
(6) グリッド
(7) スポット測光範囲
(8) ラージゾーンAFフレーム
(9) 水準器
(10) ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）
(11) 自動選択AF
(12) 〈□〉 1点AFフレーム
〈⊡〉 スポット1点AFフレーム
(13) アスペクト線（16：9）
(14) エリアAFフレーム
(15) アスペクト線（4：3）
(16) 〈Flicker!〉 フリッカー検知
(17) 〈❗〉 警告表示

* 設定に応じた部分のみ表示されます。



(18) 絞り数値

(19) AFフレーム選択表示
([ ] **AF, SEL [ ], SEL AF**)

(20) シャッタースピード
バルブ（**buLb**）
FEロック（**FEL**）
データ処理中／内蔵ストロボ充電中（**buSY**）
マルチ電子ロック警告（**L**）
カード未装填警告（**Card**）
カードフル警告（**FuLL**）
カードエラー警告（**Card**）
エラー表示（**Err**）

(21)〈⚡±〉ストロボ調光補正

(22)〈▭〉バッテリー残量

(23)〈✳〉AEロック
AEB撮影中

(24)〈ϟ〉ストロボ使用勧告（点滅）
ストロボ充電完了（点灯）
FEロック連動範囲外警告（点滅）

(25)〈ϟ*〉FEロック
FEB撮影中
〈ϟH〉ハイスピードシンクロ

(26)〈ISO〉ISO表示

(27) 連続撮影可能枚数
多重露出残り枚数

(28)〈●〉合焦マーク

(29) ISO感度

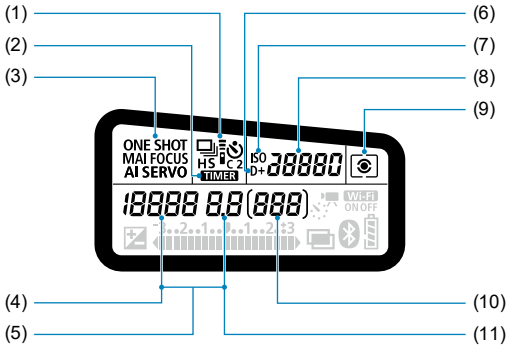
(30)〈**D+**〉高輝度側・階調優先

(31) 露出レベル表示
露出補正量
AEBレベル
赤目緩和ランプ点灯

(32)〈±〉露出補正

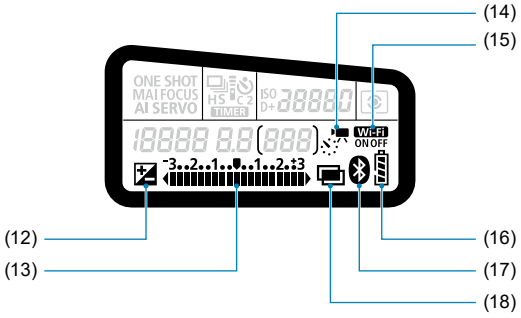
* 設定に応じた部分のみ表示されます。

表示パネル



(1) ドライブモード
(2) 〈TIMER〉バルブタイマー撮影／インターバルタイマー撮影
(3) AF動作
(4) シャッタースピード
バルブ（**buLb**）
FEロック（**FEL**）
タイムラプス動画残り撮影回数
データ処理中／内蔵ストロボ充電中（**buSY**）
マルチ電子ロック警告（**L**）
撮像素子の清掃中（**CLn**）
カード未装填警告（**Card**）
カードフル警告（**FuLL**）
カードエラー警告（**Card**）
エラー表示（**Err**）
(5) AFフレーム選択表示
（**[ ] AF**, **SEL [ ]**, **SEL AF**）
(6) 〈**D+**〉高輝度側・階調優先
(7) 〈**ISO**〉ISO表示
(8) ISO感度
(9) 測光モード
(10) 撮影可能枚数
セルフタイマー作動表示
バルブ露光時間
エラー番号
画像記録中の残り枚数
(11) 絞り数値

* 設定に応じた部分のみ表示されます。



(12)〈 〉露出補正

(13) 露出レベル表示
　　露出補正量
　　AEBレベル
　　赤目緩和ランプ点灯

(14)〈 〉タイムラプス動画撮影

(15)〈 Wi-Fi 〉Wi-Fi機能

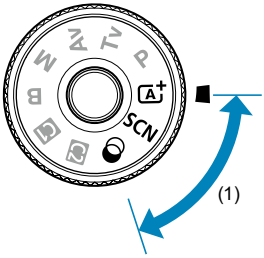
(16) バッテリー残量

(17)〈 〉Bluetooth機能

(18)〈 〉多重露出撮影

モードダイヤル

モードダイヤルの中央（モードダイヤルロック解除ボタン）を押しながら回します。



(1) かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

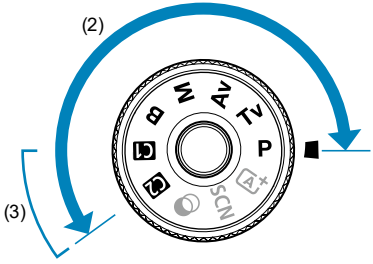
A+：**シーンインテリジェントオート**（📖76）

SCN：**スペシャルシーン**（📖84）

	ポートレート（📖86）		**クローズアップ**（📖93）
	集合写真（📖87）		**料理**（📖94）
	風景（📖88）		**キャンドルライト**（📖95）
	スポーツ（📖89）		**夜景ポートレート**（📖96）
	キッズ（📖90）		**手持ち夜景**（📖97）
	流し撮り（📖91）		**HDR逆光補正**（📖98）

：**クリエイティブフィルター**（📖103）

	ラフモノクロ（📖105）		**ジオラマ風**（📖106）
	ソフトフォーカス（📖105）		**HDR絵画調標準**（📖106）
	魚眼風（📖105）		**HDRグラフィック調**（📖106）
	水彩風（📖105）		**HDR油彩調**（📖106）
	トイカメラ風（📖105）		**HDRビンテージ調**（📖106）



(2) 応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

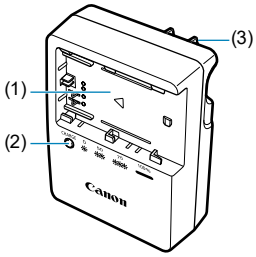
P	プログラムAE (📖110)
Tv	シャッター優先AE (📖112)
Av	絞り優先AE (📖114)
M	マニュアル露出 (📖117)
B	バルブ (📖119)

(3) カスタム撮影モード

撮影モード〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉やAF動作、メニュー機能などを、〈**C1**〉〈**C2**〉に登録することができます (📖546)。

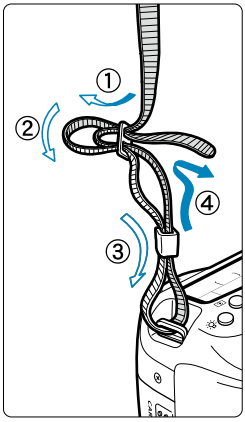
バッテリーチャージャー LC-E6

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6の充電器です（44）。



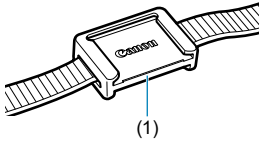
(1) バッテリー取り付け部
(2) 充電ランプ
(3) 電源プラグ

ストラップの取り付け



ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

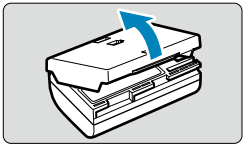
- ストラップにはアイピースカバー（1）が付いています（157）。



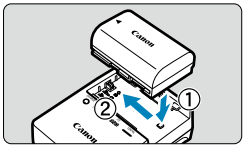
準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

バッテリーを充電する

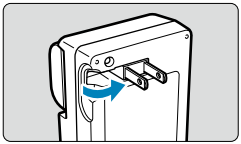


1 付属の保護カバーを外す

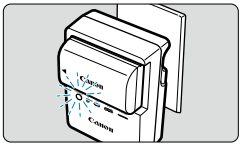


2 バッテリーを充電器に取り付ける

- 取り外しは逆の手順で行います。



3 電源プラグを起こす



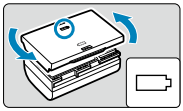
4 電源プラグをコンセントに差し込む

- 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0～49%	オレンジ	1秒ごとに点滅
50～74%		1秒ごとに2回点滅
75%以上		1秒ごとに3回点滅
充電完了	緑	点灯

- **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。**なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。

- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**
  充電してからお使いください。
- **充電は使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっていきます。
- **充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く**
- **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**
  充電済みのバッテリーに付属の保護カバーを取り付けるときは、バッテリーの青いシールに保護カバーの窓〈▭〉が重なるようにします。使用済みのバッテリーのときは、180度回して取り付けます。



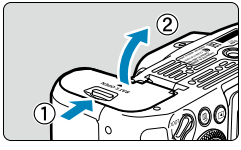
- **カメラを使わないときはバッテリーを取り出しておく**
  バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
- **充電器は海外でも使うことができる**
  充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です**
  バッテリーの劣化度（🕮524）を確認した上で、新しいバッテリーをお買い求めください。

- 充電器をコンセントから取り外したときは、10秒程度、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリー残量（🕮524）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は充電できません。

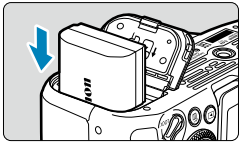
バッテリーを入れる／取り出す

充電したバッテリーパック LP-E6N（またはLP-E6）をカメラに入れます。

入れ方

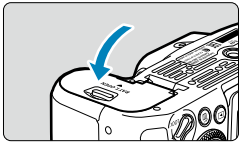


1 バッテリー収納部ふたロックをスライドして、ふたを開ける



2 バッテリーを入れる

- バッテリー接点の方から入れます。
- ロック位置まで入れてください。

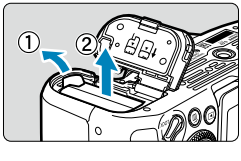


3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

- バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は使用できません。

取り出し方



ふたを開けて、バッテリーを取り出す

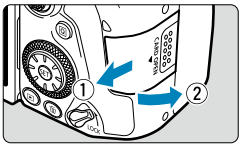
- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー（44）を取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

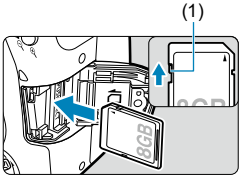
撮影した画像は、カードに記録されます。

- カードの書き込み禁止スイッチ（1）が上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

入れ方

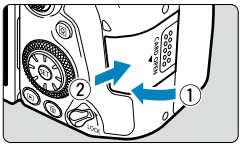


1 カバーをスライドして、開ける



2 カードを入れる

- 図のようにカードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。



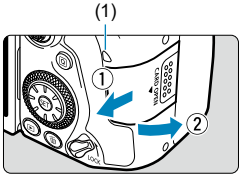
3 カバーを閉める

- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせます。

カードを初期化する

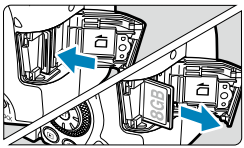
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（📖511）。

取り出し方



1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプ（1）が消えていることを確認して、カバーを開きます。**
- モニターに**［書き込み中...］**と表示されたときは、カバーを閉じてください。



2 カードを取り出す

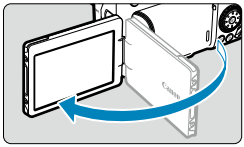
- カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などの設定により変わります。
- **［📷：カードなしレリーズ］**を**［しない］**に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（📖205）。

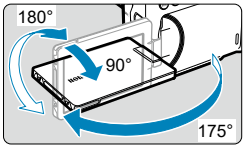
- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。**
  - **カードを取り出す**
  - **バッテリーを取り出す**
  - **カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **家庭用電源アクセサリー（別売／🕮594）使用時に電源コードの抜き差しを行う**
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（🕮507）。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（🕮511）。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。
- UHS-II対応のmicroSDHC/SDXCカードと、（microSDカードからSDカードへの）変換アダプターの組み合わせによる使用はおすすめできません。UHS-II対応カードを使用するときは、UHS-IIに対応したSDHC/SDXCカードの使用をおすすめします。

モニターを使う

モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

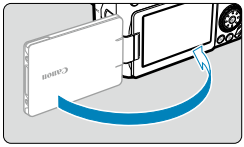


1 モニターを開く



2 モニターを回転させる

- モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。



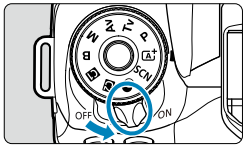
3 画面を表向きにする

- 通常は画面を表向きにして使用します。

- モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないようにしてください。
- カメラの端子にケーブルを接続しているときは、モニターを開いた状態での回転範囲が制限されます。

- カメラを使わないときは、モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。

電源を入れる



- 〈ON〉
  カメラが作動します。
- 〈OFF〉
  カメラは作動しなくなります。カメラを使用しないときはこの位置にします。

日付／時刻／エリアの設定

電源スイッチを入れたときに、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、🕮516を参照して日付/時刻/エリアを設定してください。

表示言語の変更

表示言語を変更するときは、🕮519を参照してください。

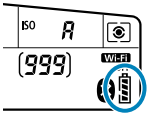
撮像素子の自動清掃

- 電源スイッチを〈ON〉または〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます(小さな音が鳴ることがあります)。清掃中は、モニターに〈 〉が表示されます。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

- カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、**[書き込み中...]**が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

バッテリー残量表示

バッテリーの残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに表示されます。



表示			
残量（%）	100～70	69～50	49～20

表示			
残量（%）	19～10	9～1	0

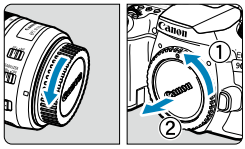
- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
  - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - Wi-Fi機能、Bluetooth機能を使用する
  - モニターを頻繁に使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、バッテリーが早く消耗することがあります。
- 低温下ではバッテリーの残量があっても撮影できないことがあります。

- **[：バッテリー情報]** でバッテリーの状態を確認することができます（524）。

レンズを取り付ける／取り外す

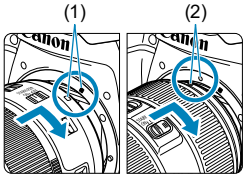
すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。**なお、RFレンズ、EF-Mレンズは使用できません。**

取り付け方



1 キャップを外す

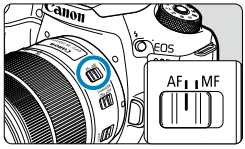
- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

(1) 白い指標
(2) 赤い指標

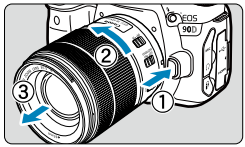


3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

4 レンズキャップを外す

取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

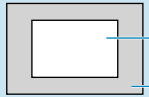
- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

- レンズの使用方法については、レンズの使用説明書を参照してください（📖4）。

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

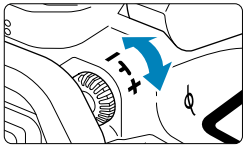


ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

基本操作

ファインダーの調整

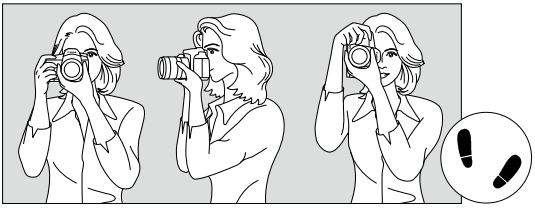


- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、視度調整つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します（📖157）。

- 視度調整を行ってもファインダーが鮮明に見えないときは、視度補正レンズE（別売）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るため、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



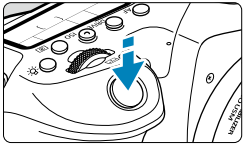
横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

- モニターを見ながら撮影するときは、📖71を参照してください。

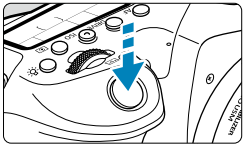
シャッターボタン

シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、ファインダー内と表示パネルに約4秒間表示されます（測光タイマー／⏱4）。



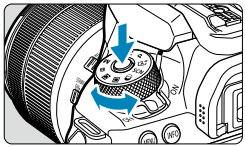
全押し

シャッターが切れて撮影されます。

- **手ブレしにくい撮影のしかた**
  手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。
  - 前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないように構える。
  - シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

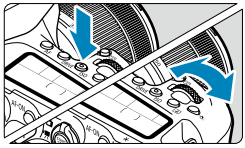
モードダイヤル



ダイヤル中央のロック解除ボタンを押しながら回す

撮影モードの設定に使用します。

メイン電子ダイヤル

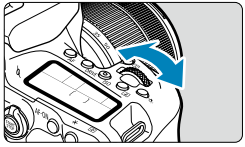


(1) ボタンを押したあと〈 〉を回す

〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉〈 〉ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます（⏱6）。その間に〈 〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AF動作、ドライブモード、ISO感度、測光モード、AFフレームの選択などに使用します。



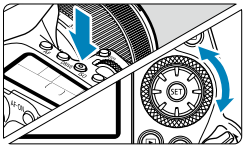
(2)〈 〉のみを回す

ファインダー内の表示や表示パネルを見ながら〈 〉を回します。

- シャッタースピードや絞り数値の設定などに使用します。

- (1) の操作は、〈LOCK〉スイッチが上側（マルチ電子ロック／📖60）でも行うことができます。

◯ サブ電子ダイヤル

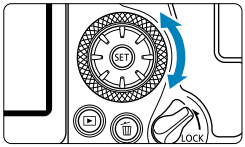


(1) ボタンを押したあと〈◯〉を回す

〈AF〉〈ISO〉〈⊛〉ボタンなどを押すと、その機能の選択状態がタイマーで約6秒間保持されます（⏱6）。その間に〈◯〉を回します。

タイマーが終了するか、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

- AF動作、ISO感度、測光モード、AFフレームの選択などに使用します。



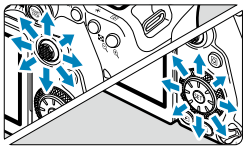
(2)〈◯〉のみを回す

ファインダー内の表示や表示パネルを見ながら〈◯〉を回します。

- 露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

- (1) の操作は、〈LOCK〉スイッチが上側（マルチ電子ロック／📖60）でも行うことができます。

マルチコントローラー1/マルチコントローラー2



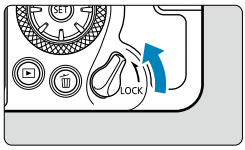
- 〈✣〉は8方向キーと中央押しボタンの構造になっています。親指の腹を軽くあてて操作します。
- 〈✣〉は8方向キーの構造になっています。
- AFフレーム選択、ホワイトバランス補正、ライブビュー撮影／動画撮影時におけるAFフレーム／拡大表示枠の移動、再生時における拡大表示位置の移動、クイック設定などに使用します。
- メニューの選択・設定を行うこともできます。
- 〈✣〉は再生時における画像送りを行うこともできます。

- ホワイトバランス補正、再生時における拡大表示位置の移動は、〈LOCK〉スイッチが上側（マルチ電子ロック）でも行うことができます。

LOCK マルチ電子ロック

[🔧：マルチ電子ロック]を設定し、〈LOCK〉スイッチを上側にすると、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、マルチコントローラーが不用意に動いたり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。

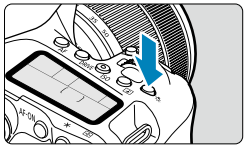
なお、**[🔧：マルチ電子ロック]**については、📖545を参照してください。



〈LOCK〉スイッチ上側：ロック
〈LOCK〉スイッチ下側：ロック解除

- 初期状態でロックしたときは〈◯〉がロックされます。

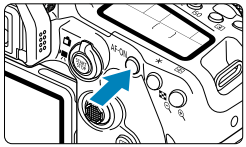
表示パネル照明



〈☼〉ボタンを押すと、表示パネルを照明することができます。〈☼〉ボタンを押すたびに点灯（⏱6）／消灯します。

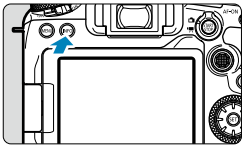
● バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

AF-ON ボタン



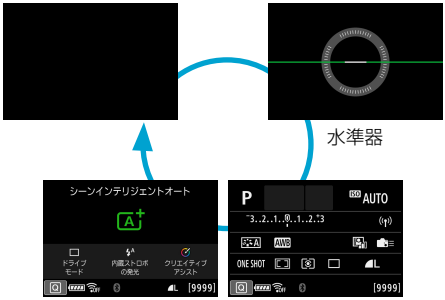
静止画撮影時に撮影モードが応用撮影ゾーンのときは、シャッターボタン半押しと同じ操作を行うことができます（📖57）。
また、動画撮影時も、撮影モードが応用撮影ゾーンのときに、ピント合わせを行うことができます。

INFOボタン



〈INFO〉ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。
下記は、静止画撮影時の画面例です。
クイック設定画面の表示中に〈Q〉ボタンを押すと、撮影機能をクイック設定することができます（📖67）。

ファインダー撮影時

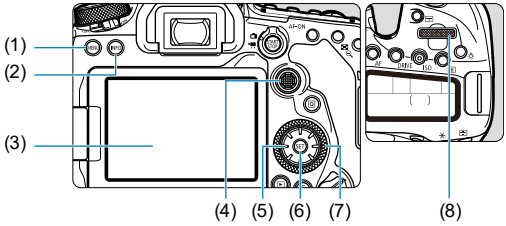


クイック設定画面

ライブビュー撮影時



メニュー機能の操作と設定



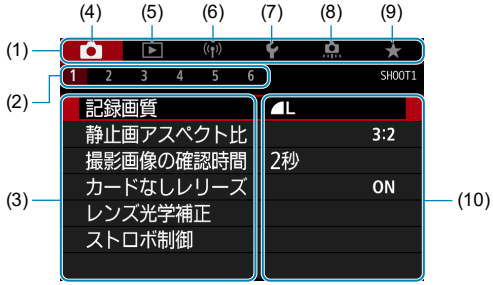
(1) 〈MENU〉ボタン	(5) 〈⁘〉マルチコントローラー2
(2) 〈INFO〉ボタン	(6) 〈SET〉ボタン
(3) モニター	(7) 〈◯〉サブ電子ダイヤル
(4) 〈✲〉マルチコントローラー1	(8) 〈QUICK〉メイン電子ダイヤル

かんたん撮影ゾーンのメニュー画面



* かんたん撮影ゾーンのときは表示されないタブやメニュー項目があります。

応用撮影ゾーンのメニュー画面



(1) メインタブ	(6) (ψ) : 無線機能
(2) サブタブ	(7) : 機能設定
(3) メニュー項目	(8) : カスタム機能
(4) : 撮影	(9) ★ : マイメニュー
(5) : 再生	(10) 設定内容

メニュー機能の設定操作



1 メニューを表示する

- 〈**MENU**〉ボタンを押します。

2 タブを選ぶ

- 〈Q〉ボタンまたは〈**INFO**〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈◌〉を回してサブタブを選びます。



3 項目を選ぶ

- 〈◎〉を回して項目を選び、〈(SET)〉を押します。



4 内容を選ぶ

- 〈◎〉を回して内容を選びます。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。



5 内容を設定する

- 〈(SET)〉を押すと設定されます。

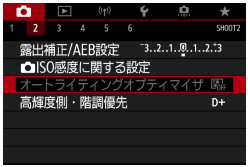
6 設定を終了する

- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、撮影準備状態に戻ります。

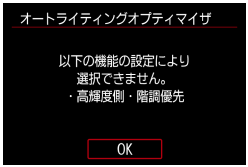
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈**MENU**〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- メニュー画面にタッチしたり、〈✲〉〈◎〉でメニュー機能の操作を行うこともできます。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈**MENU**〉ボタンを押します。

メニュー項目の灰色表示

例：高輝度側・階調優先設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈SET〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。
優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

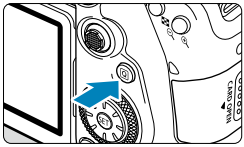
● 項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

● 【：カメラ設定初期化】でメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます（📖547）。

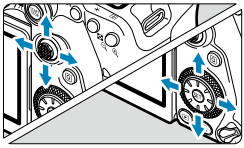
クイック設定

モニターに表示されている項目を直接選択して、設定することができます。

ファインダー撮影時



1 〈Q〉ボタンを押す（⏲10）



2 項目を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉〈◄〉〈►〉を押して選びます。

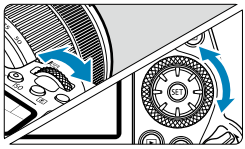
応用撮影ゾーン



- 〈SET〉を押します。
- 項目によっては、〈SET〉を押さずに〈⌒〉〈◌〉を回して設定することができます。

かんたん撮影ゾーン





3 内容を選ぶ

- 〈⚙〉〈◎〉を回すか、〈◄〉〈►〉を押して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと元の画面に戻ります。
- 〈📷≡〉、〈[ ]〉、〈((•))〉を選んだときは、〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。



- クイック設定画面の表示中に〈AF〉〈DRIVE〉〈ISO〉〈◉〉〈⊞〉〈⊞〉ボタンを押すと、設定画面が表示され、〈⚙〉〈◎〉〈◄〉〈►〉や、〈⊞〉ボタンで設定を変更することができます。

ライブビュー／動画撮影時

1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）



2 項目を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して選びます。

3 内容を選ぶ

- 〈⚙〉〈◎〉を回すか、〈◄〉〈►〉を押して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈Q〉ボタンを押すと元の画面に戻ります。

再生時

1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）



2 項目を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して選びます。

3 内容を選ぶ

- 〈⚙〉〈◯〉を回すか、〈◀〉〈▶〉を押して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 画面下側に【SET】が表示される項目は、〈(SET)〉を押して設定します。
- キャンセルするときは〈MENU〉ボタンを押します。
- 〈Q〉ボタンを押すと元の画面に戻ります。

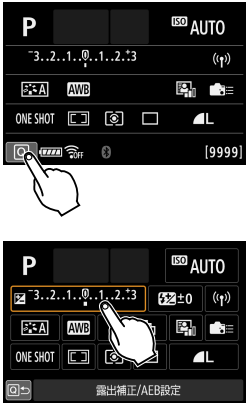
- 画像回転を行うときは、【縦位置画像回転表示】を【する 📷 🖵】に設定してください（📖349）。【縦位置画像回転表示】が【する 🖵】【しない】に設定されているときは、【画像回転】で選んだ内容は画像に記録されますが、カメラで回転表示は行われません。

- インデックス表示中に〈Q〉ボタンを押すと、1枚表示に切り換わり、クイック設定状態になります。再度〈Q〉ボタンを押すと、インデックス表示に戻ります。
- 他のカメラで撮影した画像は、選択できる項目が制限されることがあります。

画面にタッチして操作する

タッチ

画面例（クイック設定）



- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば【Q】をタッチすると、クイック設定の状態になります。【Q↩】をタッチすると、元の画面に戻ります。

ドラッグ

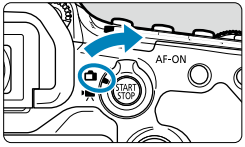
画面例（メニュー画面）



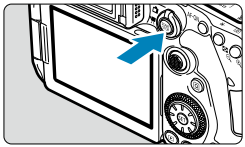
- モニターに指を触れたまま動かします。

- **【♪：電子音】**を**【タッチ音切】**または**【切】**に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります（📖522）。
- **【♪：タッチ操作】**でタッチ操作時の設定を変更することができます（📖521）。

モニターを見ながら撮影する(ライブビュー撮影)



1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にする



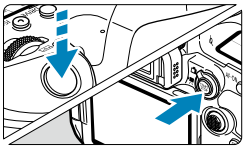
2 ライブビュー映像を表示する

- 〈START STOP〉ボタンを押します。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- 〈ϟ〉が点滅するときは、〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げてください。
- 画面にタッチして人物の顔や被写体を選ぶこともできます（📖72）。



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- 〈START STOP〉ボタンを押すと、ライブビュー撮影が終了します。

タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。



1 タッチシャッター機能を設定する

- 画面左下の［OFF］にタッチします。タッチするたびに、［ON］と［OFF］が切り換わります。
- ［ON］（タッチシャッター：する）
  タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- ［OFF］（タッチシャッター：しない）
  タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。



2 画面にタッチして撮影する

- 画面上の顔や被写体にタッチします。設定されているAF方式（135～136）で、タッチした位置でピント合わせが行われます（タッチAF）。
- ［ON］に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

- ドライブモードの設定にかかわらず、1枚撮影になります。
- AF動作の設定にかかわらず、**[ワンショットAF]** でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- クリエイティブフィルターの魚眼風設定時は、タッチした位置に関わらず、画面中央のAFフレームでピント合わせが行われます。
- クリエイティブフィルターのジオラマ風設定時は、タッチシャッターは機能しません。
- **[📷:撮影画像の確認時間]** を **[ホールド]** に設定して撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影を行うことができます。

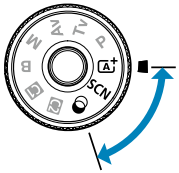
- バルブ撮影時は、1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

かんたん撮影ゾーン

この章では、モードダイヤルの「かんたん撮影ゾーン」を使って上手に撮影する方法を説明しています。
「かんたん撮影ゾーン」では、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます。







全自動撮影(シーンインテリジェントオート)

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます（📖80）。

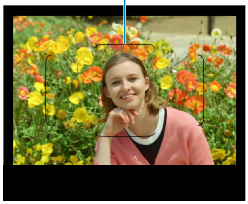


1 モードダイヤルを〈A+〉にする



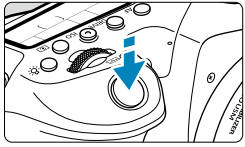
2 〈SET〉を押す

- メッセージを確認して [OK] を選びます。



3 カメラを被写体（写したいもの）に向ける

- 基本的に一番近くにある被写体にピントが合います。
- ファインダー撮影時は、エリアAFフレーム（1）の中央を被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。
- ライブビュー撮影時に、画面に枠（AFフレーム）が表示されているときは、AFフレームを被写体に合わせます。



4 ピントを合わせる

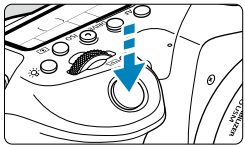
- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
  〈ϟ〉が点滅するときは、〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げてください。

ファインダー撮影時

- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが表示されます。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。暗い場所では、AFフレームが一瞬赤く光ります。
- 内蔵ストロボが上がっていれば、暗い場所では、必要に応じてAF補助光（ストロボの連続発光）が自動投光されます。

ライブビュー撮影時

- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが緑色で表示され、同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- 被写体が動いているときは、ピントが合うと、AFフレームが青色で表示され、AFフレームが被写体の動きに追従して動きます。電子音は鳴りません。



5 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- 画面に撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 内蔵ストロボを収納するときは、手で押し下げます。

● 撮影する被写体や撮影状況などにより、被写体の動き（止まっている／動いている）を適切に検知できないことがあります。

● 〈A+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮影すると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを応用撮影ゾーン（📖39）にして、〈SCN〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（📖230）。

ブレの少ない画像の撮影

- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。撮影機材の重さに耐えられる三脚を使用してください。また、カメラを三脚に確実に固定してください。
- リモートスイッチ（別売／📖156）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売／📖155）などの使用をおすすめします。

こんなときは

- **ピントが合わない（ファインダー撮影時はファインダー内に〈●〉が点滅、ライブビュー撮影時はAFフレームがオレンジ色に点灯）**

  明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（📖57）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

- **複数のAFフレームが同時に表示される**

  表示されているすべての位置にピントが合っています。

- **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせが行われない**

  レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉になっているときは、〈AF〉にしてください。

- **シャッタースピード（数字）が点滅している**

  光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、内蔵または外部ストロボ（📖179）を使用して撮影することをおすすめします。

- **暗い写真になった**

  内蔵ストロボを上げておくと、日中逆光時や暗い場所で自動的にストロボ撮影となります。

- **暗い場所で内蔵ストロボを上げて撮影したら、内蔵ストロボが連続発光した**

  AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続発光することがあります（🕮126）。

- **ストロボ撮影で、明るい写真になった**

  ストロボ撮影時に、被写体が近いと、明るい写真（露出オーバー）になることがあります。被写体から離れて撮影してください。

- **ストロボ撮影で、画面の下側が不自然に暗くなった**

  被写体に近づきすぎると、レンズの影が写り込むことがあります。被写体から離れて撮影してください。また、レンズフードは外して撮影してください。

内蔵ストロボを使用しないときは、下記の説明を参考にしてください。

- 手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッタースピード）が点滅します。カメラが動かないように構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズを使用するときは、広角側にすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。
- 暗い場所で人物を撮影するときは、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。
止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

- ライブビュー撮影時に、人の顔を検知してピント合わせが行われたときは、構図を変えても、その顔にピントを合わせ続けます。

動いているものを撮影する



シャッターボタンを半押しすると、被写体の動きに追従してピント合わせが行われます。
シャッターボタンを半押ししたまま、被写体をエリアAFフレーム（ファインダー撮影時）または画面内（ライブビュー撮影時）に捉え続け、シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

シーン判別アイコン



カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。ライブビュー撮影時は、判別したシーンのアイコンが画面の左上に表示されます（🕮627）。

設定の変更

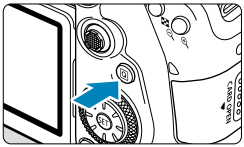


ファインダー撮影時は、〈Q〉ボタンを押して、ドライブモード、内蔵ストロボの発光、クリエイティブアシストの設定を変更することができます。



ライブビュー撮影時は、アイコンにタッチして、記録画質、タッチシャッター、クリエイティブアシストの設定を変更することができます。

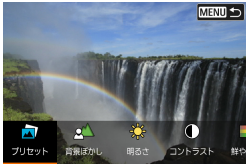
効果を付けて撮影する（クリエイティブアシスト）



1 〈Q〉ボタンを押す

- ファインダー撮影時は、〈◄〉〈►〉で **[クリエイティブアシスト]** を選び、〈(SET)〉を押します。
- ライブビュー撮影時は、メッセージを確認して **[OK]** を選びます。





2 効果を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で効果を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈☁〉〈◯〉で選ぶこともできます。



3 効果の度合い・内容を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で設定し、〈(SET)〉を押します。
- 設定をリセットしたいときは、〈✱〉ボタンを押して **[OK]** を選びます。
- 〈☁〉〈◯〉で設定することもできます。

クリエイティブアシストの効果

- **[🏞] プリセット**

  用意された効果の中から選ぶことができます。
  [B&W] を設定したときは **[鮮やかさ]** **[色あい1]** **[色あい2]** は選べません。

- **[背景ぼかし]**
  背景のボケ具合を設定することができます。設定値が大きいほど背景がくっきりした画像になります。設定値が小さいほど背景がぼけた画像になります。**[オート]** に設定したときは、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。レンズの明るさ（F値）によっては、設定できない位置があります。
- **[明るさ]**
  画像の明るさを設定することができます。
- **[コントラスト]**
  コントラスト（明暗差）の強さを設定することができます。
- **[鮮やかさ]**
  色の鮮やかさを設定することができます。
- **[色あい1]**
  アンバーとブルーの色あいを設定することができます。
- **[色あい2]**
  グリーンとマゼンタの色あいを設定することができます。
- **[モノクロ]**
  モノクロで撮影するときの色調を設定することができます。

- ストロボ撮影時、**[背景ぼかし]** は設定できません。
- 撮影モードを変更したり電源スイッチを〈OFF〉にすると、設定した内容は初期設定に戻ります。なお、**[📷：クリエイティブアシスト設定記憶]** を **[する]** に設定しておくと、設定が保持されます。

効果の登録

現在の効果をカメラに登録したいときは、クリエイティブアシストの設定画面で〈INFO〉ボタンを押して **[OK]** を選びます。最大3つまで **[プリセット]** の **[USER*]** に登録することができます。すでに3つ登録されているときは、**[USER*]** のいずれかを上書きする必要があります。

スペシャルシーンモード

被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができます。

*〈**SCN**〉はSpecial Scene（スペシャルシーン）の略です。



1 モードダイヤルを〈SCN〉にする



2 〈(SET)〉を押す



3 撮影モードを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉で撮影モードを選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈〉〈〉で選ぶこともできます。

- 各撮影モードの注意事項は、まとめて記載しています（99）。注意事項を読んでから撮影してください。

- **[:撮影モードガイド]**を**[表示しない]**に設定しているときは、手順1のあと、〈Q〉ボタンを押して〈◄〉〈►〉で**[シーン選択]**を選び、〈▲〉〈▼〉で撮影モードを選び、〈(SET)〉を押します。

SCNモードで設定できる撮影モード

撮影モード		参照頁
	ポートレート	86
	集合写真	87
	風景	88
	スポーツ	89
	キッズ	90
	流し撮り	91

撮影モード		参照頁
	クローズアップ	93
	料理	94
	キャンドルライト	95
	夜景ポートレート	96
	手持ち夜景	97
	HDR逆光補正	98

● 〈〉モードで、ライブビュー撮影を行うことはできません。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈 〉（ポートレート）モードを使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。





撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

  人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

- **望遠レンズを使用する**

  ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

- **顔にピントを合わせる**

  ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが表示されるか（ファインダー撮影時）、AFフレームが緑色になったこと（ライブビュー撮影時）を確認して撮影します。なお、ライブビュー撮影時に顔をアップで写すときは、**[：瞳AF] [する]** に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます。

- **連続撮影する**

  初期状態では、〈 〉（低速連続撮影）に設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続して撮影が行われ、被写体の表情やポーズの変化を写すことができます。

集合写真を写す

集合写真を撮るときは〈👪〉（集合写真）モードを使用します。手前から奥の人物までピントが合った写真を撮ることができます。





撮影のポイント

- **広角レンズを使用する**

  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、手前から奥の人物までピントが合いやすくなります。また、（人物の全身が写るくらいに）人物から少し離れると、ピントの合う範囲が前後に広くなります。

- **同じシーンを何枚か撮影する**

  目を閉じてしまう人がいることがあるため、何枚か撮影しておくことをおすすめします。

- 室内や暗い場所で撮影するときは、三脚の使用をおすすめします。

風景を写す

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏞〉（風景）モードを使用します。空や緑が鮮やかな、くっきりした写真になります。





撮影のポイント

- **ズームレンズは広角側にする**

  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

- **夜景を撮影するときは**

  三脚の使用をおすすめします。

動きのあるものを写す

人の走っている姿や乗り物などを撮りたいときは、〈🏃〉（スポーツ）モードを使用します。





撮影のポイント

- **望遠レンズを使用する**

  遠くからでも撮影できるように、望遠レンズの使用をおすすめします。

- **エリアAFフレームで被写体を捉え続ける**

  ファインダー撮影では、エリアAFフレームで被写体を捉えてから、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。
  ライブビュー撮影では、シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレームが表示されます。ピントが合うと、AFフレームが青色で表示されます。

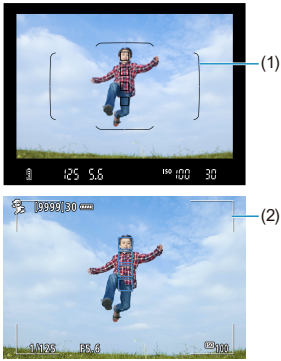
- **連続撮影する**

  初期状態では、**[□H]**（高速連続撮影）に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の動きの変化を写すことができます。

子供を写す

動き回る子供を撮りたいときは、〈🧒〉（キッズ）モードを使用します。肌色が健康的な写真になります。





撮影のポイント

- **エリアAFフレームで被写体を捉え続ける**

  ファインダー撮影では、エリアAFフレーム（1）で被写体を捉えてから、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。
  ライブビュー撮影では、シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム（2）が表示されます。ピントが合うと、AFフレームが青色で表示されます。

- **連続撮影する**

  初期状態では、**[□H]**（高速連続撮影）に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われ、被写体の表情や動きの変化を写すことができます。

- **〈ϟ〉が点滅するとき**

  〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げてください。

流し撮りをする

被写体の背景が流れるようなスピード感のある写真を撮りたいときは、〈〉（流し撮り）モードを使用します。〈〉モードに対応しているレンズを使用すると、被写体のブレを検出して補正が行われるため、被写体ブレを軽減することができます。

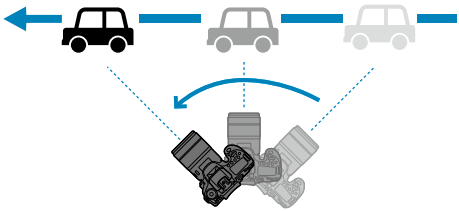




撮影のポイント

- **被写体に合わせてカメラを動かす**

  動いている被写体を追いかけるように、カメラを滑らかに動かして撮影します。動いている被写体のピントを合わせたい位置にAFフレームを合わせ、シャッターボタンを半押ししたまま、被写体の速度に合わせてカメラを動かしながら、シャッターボタンを全押しします。その後も被写体の動きに合わせてカメラを動かします。



● **背景を流す効果の度合いを設定する**

[流し効果] で「背景が流れたように写る度合い」を設定することができます。**[大]** にすると、シャッタースピードが遅くなり、被写体の背景がより流れたような写真になります。なお、被写体ブレが目立つときは、**[流し効果]** を **[中]** または **[小]** に変更すると、被写体のブレが軽減されます。

● **連続撮影する**

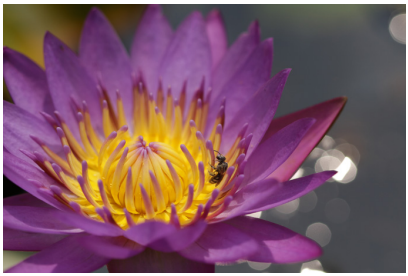
初期設定では、〈□〉（連続撮影）に設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのまま被写体の動きに合わせてカメラを動かしながら、シャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続して撮影が行われます。

- 〈〉モードに対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。
- 〈〉モードに対応したレンズを使用したときは、レンズの手ブレ補正機能の設定に関わらず、被写体のブレに対する補正と、**[流し効果]** の設定に応じたシャッタースピードの自動調整が行われます。
- 測距エリア選択モードの初期設定は、「ゾーンAF」の設定で、画面中央が選択された状態になっています。
- AF方式は、**[1点AF]** **[ゾーンAF]** のみ設定できます。初期設定は **[ゾーンAF]** の設定で、画面「中央のゾーン」が選択された状態になっています。
- 手ブレしないように脇を締めてカメラを両手で構え、被写体の動きに合わせてカメラを滑らかに動かして撮影することをおすすめします。
- 電車や車など、同じ方向に一定の速度で動く被写体を撮影すると、より効果が発揮されます。
- テスト撮影を行ったり、撮影直後に画像を再生して、撮影結果を確認することをおすすめします。
- 望遠レンズを使用するときは手ブレや被写体ブレに注意してください。手ブレを防ぐため、三脚や一脚の使用をおすすめします。

花や小物を大きく写す

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、〈🌷〉(クローズアップ)モードを使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。





撮影のポイント

- **すっきりした背景を選ぶ**

  背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

- **写したいものにできるだけ近づく**

  最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎるとピントが合いません。

- **ズームレンズは望遠側にする**

  ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

- **〈ϟ〉が点滅するとき**

  〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げてください。

料理を写す

料理を撮りたいときは、〈🍴〉（料理）モードを使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。





撮影のポイント

- **色あいを変える**

  [色あい]を変えることができます。料理の赤みを強めにしたいときは**[暖色]**（赤）側に、赤みが強すぎるときは**[寒色]**（青）側に設定を変更して撮影してください。

キャンドルライトと人物を写す

キャンドルライトに照らされた人物を撮りたいときは、〈🎂〉（キャンドルライト）モードを使用します。キャンドルライトの雰囲気を生かした色あいの写真になります。





撮影のポイント

- **中央のAFフレームでピントを合わせる**

  ファインダー中央のAFフレームを人物に合わせて撮影します。

- **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

  手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッタースピード）が点滅します。ズームレンズのときは広角側にして、カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚の使用をおすすめします。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

- **色あいを変える**

  [色あい] を変えることができます。キャンドルライトの赤みを強めにしたいときは **[暖色]**（赤）側に、赤みが強すぎるときは **[寒色]**（青）側に設定を変更してください。

- **明るさを変える**

  [明るさ] を変えることができます。画面が暗いときは+側に、画面が明るいときは－側に設定を変更してください。

● AF方式は、**[1点AF]** のみ設定できます。

夜景と人物を写す(三脚を使う)

人物と、その背景にある夜景を明るくきれいに写したいときは、〈〉(夜景ポートレート)モードを使用します。なお、**撮影には内蔵ストロボまたは外部ストロボが必要です。**三脚の使用をおすすめします。





撮影のポイント

- **広角レンズと三脚を使用する**

  ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚の使用をおすすめします。

- **画像の明るさを確認する**

  撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

- **他の撮影モードでも撮影しておく**

  ブレた写真になりやすいので、〈〉モードと〈〉モードでも撮影しておくことをおすすめします。

- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

夜景を手持ちで写す

〈📷〉（手持ち夜景）モードを使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。





撮影のポイント

- **カメラが動かないように構える**

  カメラが動かないように、脇を締めて構えます（📖56）。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

- **人物も一緒に撮るときはストロボを使用する**

  人物も一緒に撮るときは、内蔵ストロボまたは外部ストロボを使用します。人物もきれいに写るように、初めの1枚がストロボ撮影になります。4枚撮影し終わるまで人物が動かないように注意してください。

逆光シーンを写す

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、〈  〉（HDR逆光補正）モードを使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。

*「HDR」はHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。



撮影のポイント

- **カメラが動かないように構える**

  カメラが動かないように、脇を締めて構えます（📖56）。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

〈SCN〉モードの注意事項

：集合写真

- 歪曲収差補正が行われるため、画角がわずかに変化します。
- 撮影条件により、手前から奥の人物までピントが合わないことがあります。

：風景

- 内蔵ストロボが上がった状態で撮影してもストロボは発光しません。
- 外部ストロボ使用時も、ストロボは発光しません。

：スポーツ

- 手ブレしやすい暗い場所では、左下の数値（シャッタースピード）が点滅します。カメラが動かないように構えて撮影してください。
- ストロボを使用したときは、連続撮影速度が低下します。

：キッズ

- ライブビュー撮影時、連続撮影中にストロボが発光したときは、連続撮影速度が低下します。その後、ストロボが発光しなくても、連続撮影速度は低下したまま撮影されます。

：流し撮り

- シャッタースピードが遅くなります。そのため、流し撮り以外の撮影には適していません。
- 〈□H〉〈□S〉は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- 〈〉モードに対応しているレンズで撮影を行ったときに、レンズの手ブレ補正効果は、撮影した画像には反映されますが、ファインダー像や撮影時の画面では確認できません（レンズの手ブレ補正機能の設定に関わらず、撮影する瞬間だけ手ブレ補正機能、および被写体のブレに対する補正機能が作動します）。
- 〈〉モードに対応していないレンズで撮影すると、被写体のブレに対する補正は行われませんが、**【流し効果】**の設定に応じたシャッタースピードの自動調整のみ行われます。
- （夏の晴天下など）明るい場所で撮影したときや、遅い被写体を撮影したときは、設定した量の流し効果が得られないことがあります。

〈流し撮り〉：流し撮り（続き）

- 〈〉モードに対応したレンズを使用して、次のような被写体を撮影したときや、次のような撮影条件のときは、被写体のブレの補正が適切に行われないことがあります。
  - 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  - 暗い場所にある被写体
  - 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
  - 繰り返し模様の被写体
  - 模様が少ない被写体や、単調な模様の被写体
  - 写り込みがある被写体（ガラスに反射した像など）
  - ゾーンAFフレームよりも小さい被写体
  - ゾーンAFフレームの中に動いている被写体が2つ以上あるとき
  - 移動方向や速度が不規則な被写体
  - 不規則な動きが含まれている被写体（走っている人の上下運動など）
  - 速度変化が大きい被写体（動き出し直後や、カーブを曲がっているなど）
  - カメラの動かし方が速すぎる／遅すぎるとき
  - 被写体の動きにカメラの動かし方が合っていないとき
  - レンズの焦点距離が長いとき

〈料理〉：料理

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボを使用したときは、**[色あい]**が標準設定に切り換わります。
- 人物を入れて撮影すると、人物が適切な色あいにならないことがあります。

〈キャンドルライト〉：キャンドルライト

- ストロボは発光しません。なお、暗い場所ではAF補助光が光るよう、あらかじめストロボを上げておくことをおすすめします（126）。

夜景ポートレート

- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- ライブビュー撮影時に人物の顔が暗いときは、ピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください。
- 夜景などをライブビュー撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください。
- ライブビュー映像で表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。

手持ち夜景

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- 夜景などをライブビュー撮影したときに、AFフレーム内に点状の光源が含まれているときは、AFでピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動でピントを合わせてください。
- ライブビュー映像で表示される仕上がりのイメージは、撮影した画像と完全には同じになりません。
- ストロボ使用時に、被写体との距離が近いと、露出オーバーになることがあります。
- ストロボ使用時に、明かりが少ない夜景を撮影すると、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。
- ストロボ使用時に、人物と背景が近く、背景にもストロボ光が当たっているときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。また、不自然な影ができたり、適切な色あいにならないことがあります。
- 外部ストロボ使用時の照射角について
  - 照射角の自動設定に対応したストロボのときは、レンズのズーム位置に関わらず、ストロボのズーム位置がワイド（広角）端に固定されます。
  - 照射角を手動で設定するストロボのときは、発光部を通常状態にして撮影してください。

📷：手持ち夜景（続き）

- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

📷：HDR逆光補正

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- RAW画質は選択できません。
- ストロボ撮影はできません。
- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

フィルター効果を付けた撮影

フィルター効果を付けた画像を撮影することができます。ライブビュー撮影では、撮影前にフィルター効果を確認することができます。



1 モードダイヤルを〈◎〉にする



2 ライブビュー映像を表示する

- ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈📷〉にし、〈START STOP〉ボタンを押します。



3 クイック設定で［クリエイティブフィルター］を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
- 〈▲〉〈▼〉で画面左上のアイコンを選び、〈SET〉を押します。



4 フィルター効果を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉でフィルター効果（📖104～📖106）を選び〈SET〉を押します。
- フィルター効果が反映された映像が表示されます。

- 設定時にライブビュー映像を表示したくないときは、手順1のあと〈Q〉ボタンを押して、**［フィルター選択］**を選択します。



5 効果を調整して撮影する

- 〈Q〉ボタンを押し、**[クリエイティブフィルター]**の下のアイコンを選びます（、HDR、HDR、HDR、HDRを除く）。
- 〈◀〉〈▶〉で効果を調整し、〈(SET)〉を押します。

- RAW、RAW+JPEGは選択できません。RAW画質が設定されているときは、**L**の画質で記録されます。また、RAW+JPEG画質が設定されているときは、設定されているJPEG画質で記録されます。
- 〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉設定時は、連続撮影は設定できません。
- 魚眼風で撮影した画像には、ダストデリートデータ（241）は付加されません。

ライブビュー撮影時について

- ラフモノクロのときは、モニターに表示される映像と撮影画像のざらつき感が異なります。
- ソフトフォーカス、ジオラマ風のときは、モニターに表示される映像と撮影画像でぼかし具合が異なることがあります。
- ヒストグラムは表示されません。
- 拡大表示はできません。
- ライブビュー撮影時、応用撮影ゾーンのときは、クイック設定で一部のクリエイティブフィルターを設定することができます。

各クリエイティブフィルターの特徴

- **ラフモノクロ**

  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。

- **ソフトフォーカス**

  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

- **魚眼風**

  魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
  なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、映像を確認しながら設定してください。AFフレームは、中央1点固定になります。

- **水彩風**

  水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **トイカメラ風**

  トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

- **ジオラマ風**

  ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。
  画面の中央をはっきり見せたい場合は、そのまま撮影します。
  ライブビュー撮影時にはっきり見せたい部分（ジオラマ枠）を移動する場合は『ジオラマ風の操作』を参照してください（108）。AF方式は1点AFになります。AFフレームとジオラマ枠の位置を合わせて撮影することをおすすめします。
  ファインダー撮影時は、ファインダー内の中央に表示されたAFフレームを写したいものに合わせて撮影します。

- **HDR絵画調標準**

  白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

- **HDRグラフィック調**

  [HDR絵画調標準]よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

- **HDR油彩調**

  最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

- **HDRビンテージ調**

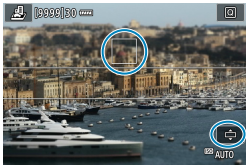
  鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

- 〈HDR〉〈HDR〉〈HDR〉〈HDR〉は、明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、1枚の画像を作成します。107の注意事項を参照してください。

〈HDR〉〈HDR〉〈HDR〉〈HDR〉の注意事項

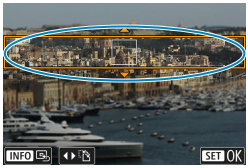
- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- ライブビュー映像で表示されるフィルター効果の仕上がりイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意して撮影してください。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED 照明などの光源下で撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- 撮影後に画像を合成してからカードに記録するため時間がかかります。画像処理中は、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- ストロボ撮影はできません。なお、暗い場所ではAF補助光が光るよう、あらかじめストロボを上げておくことをおすすめします（🕮126）。

ジオラマ風の操作



1 AFフレームを移動する

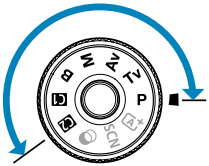
- ピントを合わせたい位置に、AFフレームを移動します。



2 ジオラマ枠を移動して撮影する

- AFフレームがジオラマ枠から出たときは、ジオラマ枠を移動させてAFフレームの位置に合わせます。
- 〈🔍〉ボタンを押すか画面右下の【⊹】をタッチすると、ジオラマ枠がオレンジ色に変わり、移動させることができます。なお、【⧉】をタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。また、ジオラマ枠が横向きの場合は〈◄〉〈►〉、縦向きの場合は〈▲〉〈▼〉でも、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。
- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉で、ジオラマ枠が移動します。〈INFO〉ボタンを押すと、ジオラマ枠が中央に戻ります。
- 〈(SET)〉を押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。

応用撮影ゾーン



応用撮影ゾーンでは、シャッタースピードや絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- モードダイヤルを回したあとに、撮影モードの説明が表示されたときは、〈(SET)〉を押すと説明が消えます（📖532）。



- あらかじめマルチ電子ロック機能がオフになっていることを確認してください。

プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。

*〈**P**〉はProgram（プログラム）の略です。
*「AE」はAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。



1 モードダイヤルを〈P〉にする



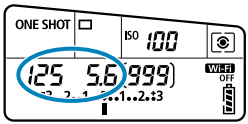
2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。



3 表示を確認して撮影する

- 露出値の表示が点滅していなければ、標準露出です。





- シャッタースピードの「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。



- シャッタースピードの「**8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

〈P〉モードと〈A+〉モードの違いについて

- 〈A+〉モードのときは失敗を防ぐために、AF方式や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して〈P〉モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AF方式や測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

- シャッターボタンを半押ししてから〈

シャッタースピードを決めて撮影する（シャッター優先AE）

シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。

*〈**Tv**〉はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。



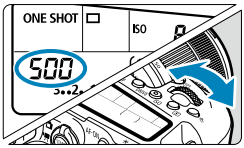
流動感のある写真
（遅いスピード：1/30秒）



動きを止めた写真
（速いスピード：1/2000秒）



1 モードダイヤルを〈Tv〉にする



2 シャッタースピードを設定する

- 〈〉で設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。



4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。



- 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉でシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。



- 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
  絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉でシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。

シャッタースピードの表示について

- 「**8000**」*から「**4**」までは分数の分母を表しています。例えば「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。
  * ライブビュー撮影時に、**【📷：シャッター方式】**が**【電子シャッター】**に設定されているときは「**16000**」

絞り数値を決めて撮影する(絞り優先AE)

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

*〈**Av**〉はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。



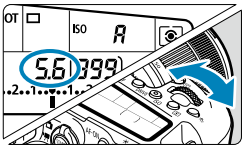
背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）



背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）



1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

- 〈 〉で設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。



4 表示を確認して撮影する

- シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。



● シャッタースピードの「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
シャッタースピードの点滅が止まるまで〈 〉で絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。

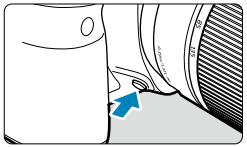


● シャッタースピードの「**8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
シャッタースピードの点滅が止まるまで〈 〉で絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示について

● 数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**00**」になります。

ピントの合う範囲の確認 応用



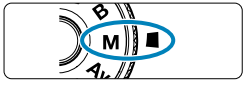
絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

- 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲は前後に広くなりますが、ファインダーは暗くなります。
- ライブビュー映像を見ながら（📖71）、絞り数値を変えて絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果が分かりやすくなります。
- 絞り込みボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。
- スピードライト470EX-AIを取り付けて、〈A.I.B〉スイッチを〈Ⓟ〉（フルオート）に設定したときは、絞り込みボタンを押すと、A.I.Bフルオート撮影の測距動作を開始します。

露出を自分で決めて撮影する(マニュアル露出)

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。

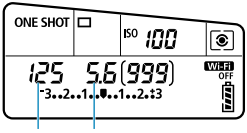
*〈**M**〉はManual(マニュアル)の略です。



1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ISO感度を設定する (📖213)

- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます(📖118)。

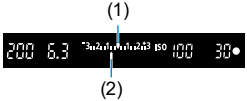


(1) (2)

3 シャッタースピードと絞り数値を設定する

- シャッタースピードは〈🌥〉、絞り数値は〈◯〉で設定します。

(1) シャッタースピード
(2) 絞り数値



4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

(1) 標準露出指標
(2) 露出レベルマーク



5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◖〉または〈◗〉になります。

ISOオート設定時の露出補正

マニュアル露出撮影時にISO感度を【A】（AUTO）に設定したときは、以下の方法で露出補正（📖160）を行うことができます。

- 【📷：露出補正／AEB設定】
- 【⚙C.Fn III-3：操作ボタンカスタマイズ】の【SET：露出補正（押しながら ）】
- クイック設定画面



- ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。



- カメラの設定が〈M〉モード＋ISOオート＋〈[•]〉（評価測光）で、【⚙C.Fn I-8:合焦後AEロックする測光モード】の設定が初期状態のときは（📖558）、シャッターボタンを半押しして、ワンショットAFでピントが合うと、半押ししている間、ISO感度が固定（ロック）されます。
- ISO感度オート設定時に〈✳〉ボタンを押して構図を変えると、〈✳〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- ISOオート設定時に【⚙C.Fn I-1：露出設定ステップ】を【1/2段】に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度（1/3段分）とシャッタースピードで露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッタースピードは変化しません。

長時間露光(バルブ)撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

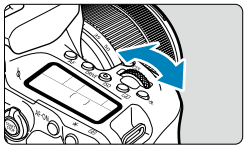


1 モードダイヤルを〈B〉にする



2 絞り数値を設定する

- 〈☁〉または〈◯〉で設定します。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます（🕮614）。
- セルフタイマーでバルブ撮影を開始するときは、撮影を終了するまでシャッターボタンの全押しを続けてください。セルフタイマー作動中に、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- **[📷：長秒時露光のノイズ低減]** で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（📖238）。
- バルブ撮影を行うときは、三脚、およびバルブタイマーの使用をおすすめします。ミラーアップ撮影（📖263）を併用することもできます。
- リモートスイッチ RS-60E3（別売）を使用して、バルブ撮影を行うことができます（📖156）。
- リモートコントローラーRC-6（別売／📖155）、またはワイヤレスリモートコントローラーBR-E1（別売／📖156）を使用してバルブ撮影を行うこともできます。リモートコントローラーのレリーズ（送信）ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、再度押すと終了します。

バルブタイマー機能 応用

バルブタイマー機能を使用すると、露光中のシャッターボタンの全押しが不要になります。

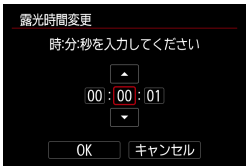


1 [📷：バルブタイマー] を選ぶ



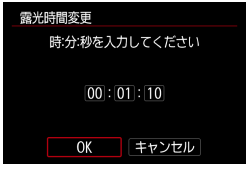
2 [する] を選ぶ

- **[する]** を選び、〈INFO〉ボタンを押します。



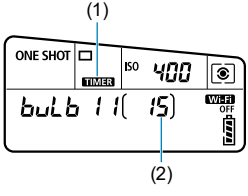
3 露光時間を設定する

- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈⬚〉の状態にします。
- 数値を設定し、〈(SET)〉を押します（〈▭〉の状態に戻ります）。



4 [OK] を選ぶ

- メニューを終了すると、表示パネルに〈TIMER〉が表示されます。



5 撮影する

- シャッターボタンを全押しして、撮影が開始されたら指を離します。
- 撮影を途中で終了するときは、シャッターボタンを全押しして指を離します。
- 設定を解除するときは、手順2で **[しない]** を選びます。

(1) バルブタイマー
(2) 露光経過時間

- バルブタイマー作動中にシャッターボタンを全押しして指を離すと、バルブタイマー撮影が終了します。
- シャッターボタンを全押しし続けたときは、設定した露光時間が経過してもバルブ撮影が継続します。
- 電源スイッチ〈OFF〉、動画撮影への切り換えを行ったとき、撮影モードを〈**B**〉以外に変更したときは、バルブタイマーが解除されます（設定が **[しない]** になります）。

AF／ドライブ／露出の設定

この章では、AF、ドライブモード、測光モードなどの設定方法について説明しています。

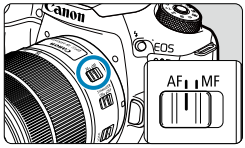
- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。
- かんたん撮影ゾーンのときは、AF動作が自動設定されます。



- 〈AF〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈MF〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

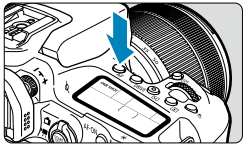
AF動作の選択

応用

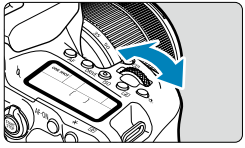


1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

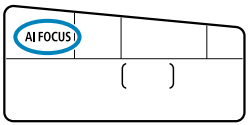


3 〈AF〉ボタンを押す（⏱6）



4 AF動作を選ぶ

- 〈 〉〈 〉を回します。
  ONE SHOT：ワンショットAF
  AI FOCUS：AIフォーカスAF
  AI SERVO：AIサーボAF





- ライブビュー撮影時は、〈◄〉〈►〉を押します。
  ONE SHOT：ワンショットAF
  SERVO：サーボAF

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- ファインダー撮影時は、被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示され、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯して電子音が鳴ります。
- ライブビュー撮影時は、被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが緑色に変わって電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

- **[電子音]** を **[切]** に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF（ファインダー撮影）/サーボAF（ライブビュー撮影）

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- ファインダー撮影時は、被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示されます。
- ライブビュー撮影時は、被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

- ピントが合っても電子音は鳴りません。
- ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。

AF動作を自動的に切り換える：AIフォーカスAF（ファインダー撮影）

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へと作動特性が自動的に切り換わります。

- ワンショットAFでピントを合わせたあと、被写体の移動や距離の変化などをカメラが検知するとAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

- サーボ状態でピントが合うと、合焦音が小さく鳴り続けます。
- サーボ状態でピントが合っても、ファインダー内の合焦マーク〈●〉は点灯しません。
- サーボ状態でのフォーカスロック撮影はできません。
- ライブビュー撮影時の〈A+〉モードではAIフォーカスAFでピント合わせを行います。なお、動いている被写体のときは、サーボAFでピント合わせを行います。被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。ただし、連写中に被写体が動いた場合はサーボAFには切り替わりません。

AF補助光

- ファインダー撮影時に、暗い場所などでAFでピントが合いにくいときは、内蔵ストロボからAF補助光を投光して、ピントを合わせやすくすることができます。〈ϟ〉ボタンを押してストロボを上げ、シャッターボタンを半押しすると、必要に応じてAF補助光が投光されます。
- ライブビュー撮影時は、内蔵ストロボを上げてもAF補助光は投光されません。

- AF動作が**【AIフォーカスAF】**、**【AIサーボAF】**に設定されているときは、ストロボからのAF補助光は投光されません。

- AF補助光を投光したくないときは、**【📷：AF補助光の投光】**を**【しない】**に設定してください。

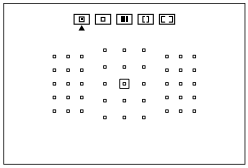
AFフレームの赤色照明（ファインダー撮影）

暗い場所で撮影するときや、暗い被写体にピントが合ったときに、AFフレームが赤く照明されます。なお、応用撮影ゾーンのときは、照明しないように設定することができます（🕮569）。

測距エリアとAFフレームの選択(ファインダー撮影)

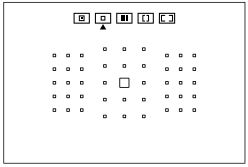
使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。詳しくは『補足情報』を参照してください。

測距エリア選択モード



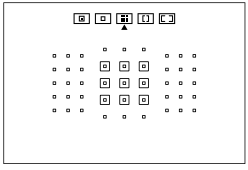
[⊡]：スポット1点AF（任意選択）

- 1点AFよりも狭い範囲でピント合わせを行います。
- ピンポイントでピントを合わせたいときや、おりの中の動物などを撮影するときなどに効果的です。
- 測距範囲が狭いため、撮影条件によってはピントが合いにくいことがあります。



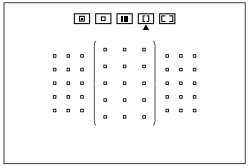
[□]：1点AF（任意選択）

- 1つのAFフレームでピント合わせを行います。



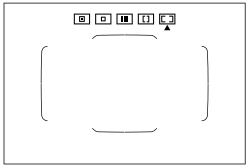
[⁝⁝]：ゾーンAF（ゾーン任意選択）

- 9点のAFフレームでピント合わせを行います。1点AFよりも被写体を捉えやすくなります。
- 基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。なお、人の顔を検知したときは、顔を優先してピントを合わせます。
- AIサーボAFのときは、ゾーンで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。



[ ]：ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

- AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。
- ゾーンAFよりも被写体を捉えやすくなります。
- 基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。なお、人の顔を検知したときは、顔を優先してピントを合わせます。
- AIサーボAFのときは、ラージゾーンで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。



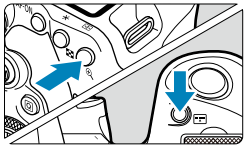
[ ]：自動選択AF

- エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。
- ワンショットAFのときは、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。なお、人の顔を検知したときは、顔を優先してピントを合わせます。
- AIサーボAFのときは、AIサーボAFを開始する位置を設定することができます（🕮133）。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

- ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AFでAIサーボAFを行うとき、撮影条件によってはAFフレームが追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角／望遠レンズを使用しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレーム、または中央寄りのAFフレームを選択してください。
- AFフレーム照明時に、ファインダー内の一部または全体が赤く見えることがありますが、これはAFフレーム表示装置の特性によるものです。
- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、AFフレームの表示が見えにくくなったり、追従応答性が遅くなることがあります。

- **[C.Fn II-10：縦位置/横位置のAFフレーム設定]** で、測距エリア選択モード+AFフレーム、またはAFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（📖565）。

測距エリア選択モードの選択



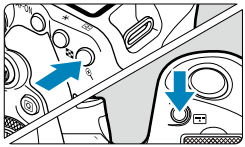
1 **〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押す（⏱6）**

2 **〈⊡〉ボタンを押す**

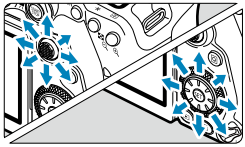
- 〈⊡〉ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。

- **[⚙C.Fn II-7：測距エリア選択モードの限定]** で、使用する測距エリア選択モードだけに限定することができます（📖563）。
- **[⚙C.Fn II-9：測距エリア/AF方式の切り換え]** を **[1：⊡→メイン電子ダイヤル]** に設定すると、〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押したあと、〈◌〉で測距エリア選択モードを選ぶことができます（📖564）。

AFフレーム／ゾーンの任意選択

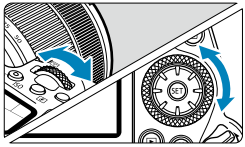


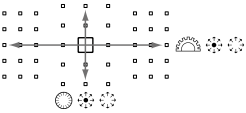
1 〈⊞〉または〈⊞〉ボタンを押す（⏱6）



2 AFフレーム／ゾーンを選択する

- 〈✥〉〈✥〉または〈⚙〉〈◎〉を操作してAFフレームを選択します。
- 〈SET〉または〈✥〉を押すと、中央のAFフレーム／ゾーンが選択されます。





- 〈Q〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回すと、縦方向のAFフレームを選択することができます。
- 表示パネルには次の内容が表示されます。
  - スポット1点AF、1点AF：**SEL [ ]**（中央）／**SEL AF**（中央以外）
  - ゾーンAF、ラージゾーンAF、自動選択AF：**[ ] AF**

AFフレームの点灯／点滅

〈⊞〉または〈⊞〉ボタンを押したときに、「点灯」しているAFフレームは、高精度なピント合わせができる「クロス測距点」です。「点滅」しているAFフレームは、横線または縦線を検出できる測距点です。詳しくは『補足情報』を参照してください。

AIサーボAFの開始位置の設定

[C.Fn II-11：〔〕/時サーボAF開始測距点] が **[1：〔〕/時の開始測距点]** のときは（📖566）、AIサーボAFの開始位置を任意に設定することができます。

1 **測距エリア選択モードを［自動選択AF］にする（📖131）**

2 **AF動作を［AIサーボAF］にする（📖124）**

3 **AFフレームを設定する（📖132）**

ピントが合いにくい撮影条件

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  （例：青空、単色の平面など）
- 非常に暗い場所にある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体
  （例：反射光の強い車のボディなど）
- 遠いところと近いところにある被写体がAFフレームの近くにある場合
  （例：おりの中の動物など）
- 点状の光源などがAFフレームの近くにある場合
  （例：夜景など）
- 繰り返し模様の被写体
  （例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- AFフレームに対してパターンが細かい被写体
  （例：AFフレームと同じサイズ、または小さいサイズの顔や花など）

これらの場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

(1) ワンショットAFのときは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにピントを固定し、構図を決めなおして撮影する（📖125）。

(2) レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行う（📖147）。



- 被写体によっては、構図をわずかにずらして再度AFを行うと、ピント合わせができることがあります。

AF方式の選択(ライブビュー撮影)

AF方式



：顔+追尾優先AF

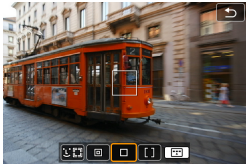
人の顔を検知してピント合わせを行います。顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム〈 〉が顔の部分に表示され、顔を追尾します。

顔を検知しないときは、AF領域全体で自動選択AFを行います。
サーボAFのときは、AFを開始する位置を設定することができます(🕮143)。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。



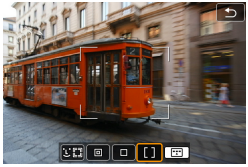
：スポット1点AF

1点AFよりも狭い範囲でピント合わせを行います。



：1点AF

1つのAFフレーム〈□〉でピント合わせを行います。

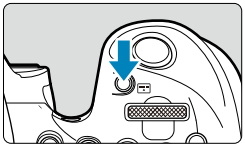


[ ]：ゾーンAF

AF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFよりも被写体を捉えやすくなります。

最も近距離の被写体を優先してピントを合わせます。また、ゾーンAFフレーム内に人物がいる場合は、顔を優先してピントを合わせます。
ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

AF方式の選択

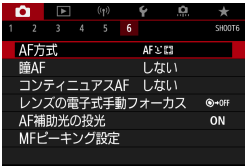


1 〈▭〉ボタンを押す



2 AF方式を選ぶ

- 〈▭〉ボタンを押すたびに、AF方式が切り換わります。



- **[📷：AF方式]**から選択することもできます。

- 〈A+〉モードのときは、**[+追尾優先AF]**に自動設定されます。
- 〈🌁〉モードのときは、**[1点AF]**・**[ゾーンAF]**のみ設定できます。
- 📖138～📖141では、AF動作が**[ワンショットAF]**（📖125）に設定されていることを前提に説明しています。**[サーボAF]**（📖125）に設定しているときは、被写体にピントが合うとAFフレームが青色に変わります。
- タッチシャッター（タッチ操作によるAFと撮影）については、📖72を参照してください。
- **[C.Fn II-9：測距エリア/AF方式の切り換え]**を**[1：▭→メイン電子ダイヤル]**に設定すると、〈▭〉ボタンを押したあと、〈🎛〉でAF方式を選ぶことができます。

● **（顔）＋追尾優先AF：**

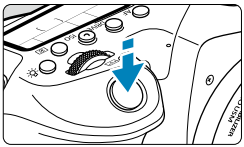
人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム〈 〉も動いて顔を追尾します。

[瞳AF] を **[する]** に設定すると、目にピントが合うように撮影することができます（142）。



1 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、AFフレーム〈 〉が表示されます。
- 〈 〉が表示されるときは、〈◄〉〈►〉でピントを合わせたい顔を選ぶことができます。
- 〈 〉を押すと、中央の人物の顔にAFフレームが移動します。



2 ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを半押しして、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
  ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色で表示されます。



顔にタッチしてピントを合わせる

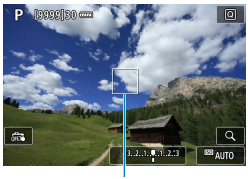
ピントを合わせたい顔や被写体にタッチすると、AFフレームが〈[顔]〉に変わりピント合わせが行われます。
画面内で顔や被写体が動いても、被写体を追尾してAFフレーム〈[顔]〉も動きます。

- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから（📖147）、AFを行ってください。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」「顔が明るすぎる／暗すぎる」「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFができません。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。

- ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。
- AFフレームは被写体により大きさが変化します。

● **スポット1点AF/1点AF/ゾーンAF**

AFフレーム、またはゾーンAFフレームを任意設定することができます。ここでは、1点AF時の画面を例に説明します。



(1)

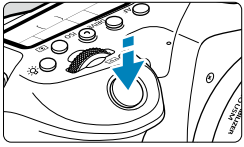
1 AFフレームを確認する

- AFフレーム（1）が表示されます。ゾーンAFのときは、ゾーンAFフレームが表示されます。



2 AFフレームを移動する

- ピントを合わせたい位置に、〈✥〉〈✥〉でAFフレームを移動します（使用するレンズによっては、画面の一番端まで動かないことがあります）。
- 画面にタッチしてAFフレームを移動することもできます。
- 〈✥〉または〈(SET)〉〈🗑〉ボタンを押すと、AFフレームまたはゾーンAFフレームが画面中央に戻ります。





3 ピントを合わせて撮影する

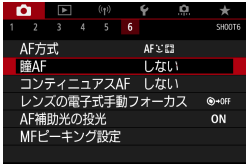
- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
  ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
  ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

- ゾーンAFでサーボAFを行うとき、撮影条件によってはAFフレームが追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときは、ピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレームを選択してください。

- **[C.Fn II-10：縦位置/横位置のAFフレーム設定]** で、AFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（📖565）。

瞳AF

AF方式が［+追尾優先AF］のとき、目にピントが合うように撮影することができます。



1 ［：瞳AF］を選ぶ



2 ［する］を選ぶ



3 被写体にカメラを向ける

- 目の周囲にAFフレームが表示されます。
- 画面にタッチして、ピントを合わせたい目を選ぶことができます。
  鼻や口などをタッチしたときは顔が選ばれます。ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。
- 〈 〉が表示されるときは、［瞳AF］の設定に応じて〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい目を選ぶことができます。

4 撮影する

- 撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことがあります。

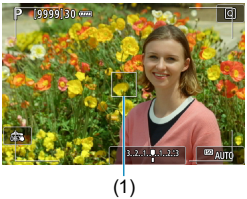
- 〈⊞〉ボタン、〈INFO〉ボタンの順に押すと、メニューを操作しなくても［瞳AF：しない］に変更できます。もう一度〈INFO〉ボタンを押すと、［瞳AF：する］にできます。

サーボAFの開始位置の設定

［C.Fn II-11：〔◯〕/時サーボAF開始測距点］が［1：〔◯〕/時の開始測距点］のときは（📖566）、サーボAFの開始位置を任意に設定することができます。

1 AF方式を［+追尾優先AF］にする（📖137）

2 AF動作を［サーボAF］にする（📖124）



3 AFフレームを設定する（📖132）

- 〈✥〉〈✥〉を操作するか、画面にタッチしてAFフレーム（1）を移動して設定します。
- 〈✥〉または〈SET〉〈🗑〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。

拡大表示

[+追尾優先AF] 以外のときに〈⊕〉ボタンを押すと（または画面の〈Q〉をタッチすると）、映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。

- **[スポット1点AF]** **[1点AF]** 設定時はAFフレームの位置、**[ゾーンAF]** 設定時は、ゾーンAFフレームの中央部が拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、**[スポット1点AF]** **[1点AF]** 設定時は拡大表示のままAFが行われます。**[スポット1点AF]** **[1点AF]** 以外を設定しているときは、通常表示に戻って、AFが行われます。
- サーボAF時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

- 拡大表示の状態でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態でAFを行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態で異なります。
- 拡大表示中、コンティニュアスAFは行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

AF撮影のヒント

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。
- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください（🕮147）。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（またはAFフレーム／ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

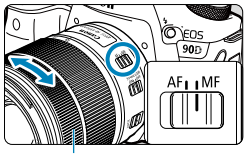
AF範囲

使用するレンズやアスペクト比、4K動画クロップ、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

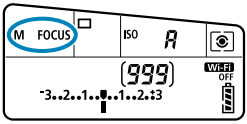
手動ピント合わせ(マニュアルフォーカス)

AFでピント合わせができないときは、以下の操作で手動ピント合わせを行うことができます。

ファインダー撮影時



(1)



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

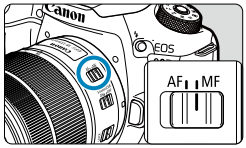
2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリング(1)を回します。

- シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせを行うと、ファインダー内にピントが合ったAFフレームが表示され、合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 自動選択AF時は、中央のAFフレームでピントが合ったときに合焦マーク〈●〉が点灯します。

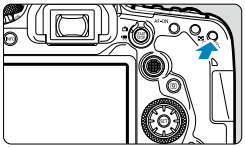
ライブビュー撮影時

映像を拡大表示して、ピントを合わせることができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



2 映像を拡大する

- 〈🔍〉ボタンを押して拡大位置を表示します。



3 拡大位置を決める

- 〈✣〉〈✣〉で、ピントを合わせたい位置に移動します。
- 〈✣〉または〈SET〉〈🗑〉ボタンを押すと、拡大位置が画面中央に戻ります。
- 〈🔍〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→ 1倍 → 5倍 → 10倍 →

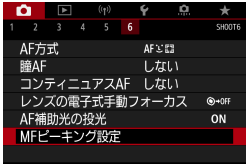
4 ピントを合わせる

- 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。
- ピント合わせが終わったら、〈🔍〉ボタンを押して通常表示にします。

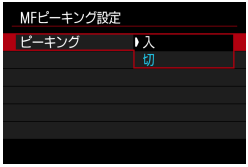
- 拡大表示中は露出が固定されます。
- 通常表示中は、タッチシャッターで撮影することができます。

MFピーキング設定（輪郭強調）

ライブビュー撮影時に、ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをしやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます（〈A+〉モードを除く）。



1 [📷：MFピーキング設定] を選ぶ



2 [ピーキング] を選ぶ

- [入] を選びます。



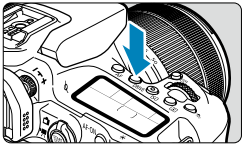
3 レベル、色を設定する

- 必要に応じて設定します。

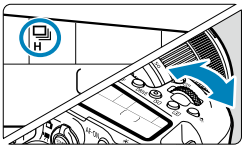
- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- 高ISO感度設定時（特に拡張ISO感度設定時など）は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、[ピーキング] を [切] に設定してください。

- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。

ドライブモードの選択



1 〈DRIVE〉ボタンを押す（⏱6）



2 ドライブモードを選ぶ

- 〈 〉を回します。

- **□：1枚撮影**

  シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

- **□H：高速連続撮影**

  シャッターボタンを全押しすると、押している間、ファインダー撮影時最高約10コマ/秒、ライブビュー撮影時最高約11コマ/秒の連続撮影を行うことができます。なお、ライブビュー撮影時に、AF動作が**[サーボAF]**に設定されているときは、最高約7.0コマ/秒になります。

- **：低速連続撮影／連続撮影**

  シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約3.0コマ/秒**（〈〉モードは、ファインダー撮影時は最高約5.7コマ/秒、ライブビュー撮影時は最高約4.3コマ/秒）の連続撮影を行うことができます。

- **S：ソフト1枚撮影**

  ファインダー撮影時に作動音を抑えた1枚撮影を行うことができます。ライブビュー撮影時は設定できません。

- **S：ソフト連続撮影**

  ファインダー撮影時に作動音を抑えた連続撮影（**最高約3.0コマ/秒**）を行うことができます。ライブビュー撮影時は設定できません。

- **：セルフタイマー：10秒／リモコン撮影**

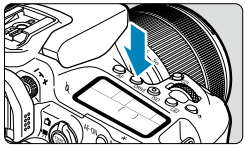
- **$_2$：セルフタイマー：2秒／リモコン撮影**

- **C：セルフタイマー：連続撮影**

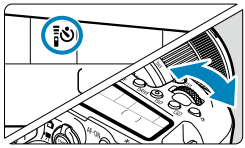
  セルフタイマー撮影については153、リモコン撮影については155を参照してください。

- 〈□H〉の最高連続撮影速度：約10コマ/秒は（📖150）、バッテリーパック LP-E6N：フル充電、シャッタースピード：1/1000秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）、手ブレ補正機能OFF（レンズの種類により異なる）、常温（+23℃）、フリッカー低減処理：なし、で連続撮影を行ったときの最高速度です。
- 〈□H〉の連続撮影速度は、温度、バッテリー残量、フリッカー低減処理、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ライブビュー撮影、内蔵ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。
- **［📷：フリッカーレス撮影］**を**【する】**に設定して（📖261）、フリッカー光源下で撮影を行うと、最高連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- AIサーボAF/サーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- バッテリーグリップ BG-E14（別売）に単3形電池を使用したときは、高速連続撮影の速度が遅くなることがあります。
- 低温下でバッテリー自体の温度が低いときは、最高連続撮影速度が低下することがあります。
- 〈□S〉〈□S〉設定時は、シャッターボタンを全押ししてからシャッターが切れるまでのタイムラグが通常よりも長くなることがあります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため（📖201）、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

セルフタイマー撮影



1 〈DRIVE〉ボタンを押す（⏲6）



2 セルフタイマーを選ぶ

- 〈☆〉を回します。

⏲ : 10秒後に撮影

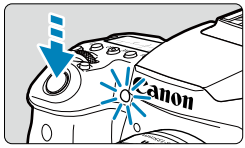
リモコン撮影を行うこともできます（📖155）。

⏲2 : 2秒後に撮影

リモコン撮影を行うこともできます（📖155）。

⏲C : 10秒後に設定枚数を連続撮影

〈◯〉で撮影する枚数（2～10）を設定します。リモコン撮影はできません。



3 撮影する

- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。

- 〈⏲c〉のときは、記録画質やストロボ使用などの撮影条件により、連続撮影の間隔が長くなることがあります。
- ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、ファインダーにアイピースカバーを取り付けてください（📖157）。ファインダーに光が入ると、適切な露出が得られないことがあります。

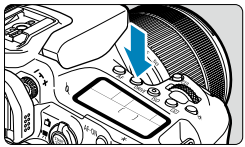
- 〈⏲2〉は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）などに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して（📖332）、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（📖80）。
- セルフタイマー撮影を開始したあと、途中で中止するときは、モニターにタッチするか、〈SET〉ボタンまたは〈DRIVE〉ボタンを押します。
- **[🔧：オートパワーオフ]** を1分以下に設定していても、リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が約2分になります。
- **[📷：バルブタイマー]** が **[する]** に設定されているときは、〈⏲c〉（**[セルフタイマー：連続撮影]**）は選択できません。

リモコン撮影

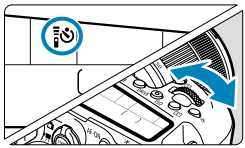
「リモートコントローラー RC-6」（別売／赤外線方式）、「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」（別売／Bluetooth接続）、または「リモートスイッチRS-60E3（別売／有線）」を使用したリモコン撮影を行うことができます。

リモートコントローラー RC-6

カメラの正面から最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。「すぐに撮影（即レリーズ）」と「2秒後撮影（2秒後レリーズ）」ができます。

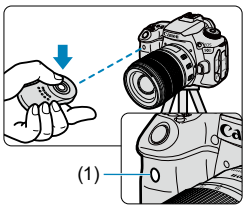


1 **〈DRIVE〉ボタンを押す（⏲6）**



2 **セルフタイマー／リモコンを選ぶ**

- 〈⏲〉で〈⏲〉または〈⏲$_2$〉を選びます。



3 **リモコンのレリーズ（送信）ボタンを押す**

- リモコンの送信部をカメラの受信部（1）に向けて、レリーズ（送信）ボタンを押します。
- フォーカスモードスイッチが〈AF〉のときはピント合わせが行われます。
- リモコンランプが点灯して撮影されます。

- カメラとスマートフォンまたはワイヤレスリモートコントローラーがBluetooth接続しているときは、RC-6などの赤外線方式のリモートコントローラーを使ったリモコン撮影はできません。
- 蛍光灯やLED照明などが近くにあると、光源の影響でカメラが誤作動して、意図せずにシャッターが切れることがあります。できるだけカメラを光源から離してください。
- テレビ用のリモコンなどをカメラに向けて操作すると、カメラが誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。
- このカメラの周りで、他のカメラのストロボが発光すると、本機が誤動作して、意図せずにシャッターが切れることがあります。リモコン受信部に他のカメラのストロボ光が入らないようにしてください。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1

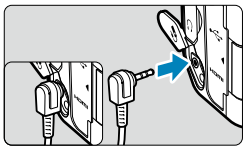
カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。
最初にカメラとBR-E1のペアリングを行なってから（📖464）、ドライブモードを〈⏱〉または〈⏱2〉に設定してください（📖151）。
操作方法については、BR-E1の使用説明書を参照してください。

RC-6、BR-E1共通

- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が約2分になります。
- 動画撮影時にRC-6またはBR-E1を使用することもできます（📖322）。

リモートスイッチRS-60E3

カメラに取り付けて、有線でリモコン撮影を行うことができます。
操作方法については、RS-60E3の使用説明書を参照してください。

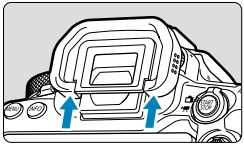


1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

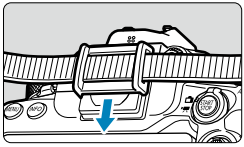
アイピースカバー

セルフタイマー撮影やリモコン撮影を行うときに、ファインダーをのぞかないで撮影すると、露出不足になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバー（41）を使います。
なお、ライブビュー撮影と動画撮影のときは、アイピースカバーを取り付ける必要はありません。



1 アイカップを取り外す

- アイカップの下側を押して取り外します。



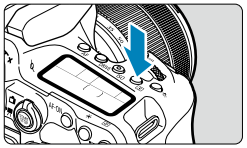
2 アイピースカバーを取り付ける

- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。
- 撮影が終わったら、アイピースカバーを取り外し、アイカップを取り付けます。

測光モードの選択

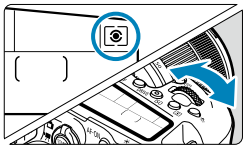
応用

被写体の明るさを測る機能の特性を選ぶことができます。かんたん撮影ゾーンのときは、評価測光（〈**SCN**：〉〈：〉モードのときは、中央部重点平均測光）に自動設定されます。



1 **〈⊛〉ボタンを押す（⏲10）**

- 〈Q〉ボタンを押して、クイック設定で設定することもできます。



2 **測光モードを選ぶ**

- 〈〉〈〉を回します。

- **⊛ 評価測光**

  逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

- **⊙ 部分測光**

  逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。画面中央部の約6.5%（ファインダー撮影時）または約4.5%（ライブビュー撮影時）の範囲を測光します。

- **· スポット測光**

  被写体の特定の部分を測光するときに有効です。画面中央部の約2.0%（ファインダー撮影時）または約2.6%（ライブビュー撮影時）の範囲を測光します。ファインダー内にスポット測光範囲が表示されます。

- **[ ] 中央部重点平均測光**

  画面中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

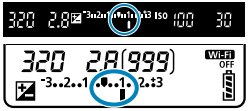
- カメラが初期状態のときは、以下のタイミングで露出が決まります。
  〈[◉]〉は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定（AEロック）されます（ワンショットAF時）。〈[⊙]〉／〈[•]〉／〈[□]〉は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- **[.C.Fn I-8：合焦後AEロックする測光モード]** で、ワンショットAFでピントが合ったときに露出を固定（AEロック）するかどうかを、設定することができます（📖558）。

露出補正

応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉モードのときに露出補正を行うことができます。なお、〈**M**〉モード+ISOオート設定時の露出補正については🕮118を参照してください。

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正



1 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

2 補正量を設定する

- 〈◌〉で設定します。
- 補正範囲は、ファインダー撮影時は±5段、ライブビュー撮影時は±3段です。
- ファインダー内と表示パネルの露出補正表示は±3段です。±3段を超える設定は、クイック設定（🕮71）または**[📷：露出補正／AEB設定]**（🕮211）で行うことができます。

3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル〈▮〉を〈⏷〉標準露出指標の位置に戻します。

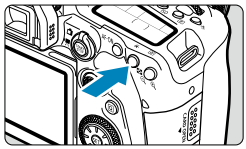
- **[📷：オートライティングオプティマイザ]**（🕮218）が、**[しない]**以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 露出補正量が±3段を超えるときは、露出レベル表示の端が〈◖〉または〈◗〉になります。

露出の固定(AEロック)

応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✳〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。逆光下の撮影などで有効です。



1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

2 〈✳〉ボタンを押す(⏱4)

- ファインダーまたはモニターに〈✳〉が表示され、露出が固定(AEロック)されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

AEロックの効果

測光モード (📖158)	AFフレーム選択 (📖131、📖132)	
	自動選択	任意選択
⊛	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
⊡ • [ ]	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

*〈⊛〉設定時に、レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

- バルブ撮影時はAEロックできません。

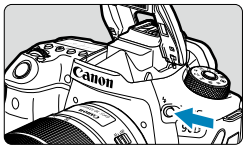
ストロボ撮影

この章では、内蔵ストロボ、または外部ストロボ（EL/EXスピードライト）を使った撮影について説明しています。

- 動画撮影時はストロボ撮影はできません。
- ストロボ撮影時はAEB撮影はできません。

内蔵ストロボ撮影

ファインダーやモニターに〈ϟ〉が表示されたときや、日中逆光時、暗い場所などでは、内蔵ストロボの使用をおすすめします。



1 **〈ϟ〉ボタンを押す**

2 **シャッターボタンを半押しする**

- ファインダーまたはモニターに〈ϟ〉が表示されていることを確認します。

3 **撮影する**

- **[ストロボの発光]**（🕮169）の設定に従って内蔵ストロボが発光します。
- 撮影が終わったら、内蔵ストロボを「カチッ」と音がするまで手で押し下げて収納します。

内蔵ストロボ撮影できる距離の目安

（約・m）

ISO感度（🕮213）	EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM	
	広角側	望遠側
	F3.5	F5.6
100	1～3.4	1～2.1
400	1～6.9	1～4.3
1600	1.7～13.7	1.1～8.6
6400	3.4～27.4	2.1～17.1

* 高ISO感度設定時に撮影距離が遠いとき、被写体条件などによっては、適正な露出が得られないことがあります。

ストロボ撮影時のシャッタースピードと絞り数値

撮影モード	シャッタースピード	絞り数値
P	自動設定（1/250～30秒）*	自動設定
Tv	手動設定（1/250～30秒）	自動設定
Av	自動設定（1/250～30秒）*	手動設定
M	手動設定（1/250～30秒）	手動設定
B	シャッターボタンを押している間、またはバルブタイマー作動中、露光が行われます	手動設定

*［**📷：ストロボ制御**］の［**スローシンクロ**］を［**1/250-30秒自動**］に設定した場合

- 内蔵ストロボが上がりきっていない状態でストロボ撮影を行わないでください。
- レンズにフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、内蔵ストロボの光がさえぎられて、撮影した画像の下側が暗くなることがあります。

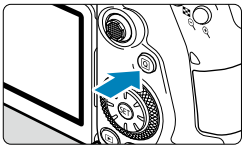
- 超望遠レンズや大口径レンズ使用時に画面の下側が暗くなるときは、外部ストロボ（別売／📖179）の使用をおすすめします。

〈Av〉モードでのストロボ撮影

手動設定した絞り数値に対し、適切な露出になるようにストロボの発光量が自動的に調整されます。
暗い場所では、主被写体は自動調光で、背景は低速シャッターの組み合わせにより、ともに標準露出の雰囲気のある写真になります。三脚の使用をおすすめします。

ストロボ調光補正 応用

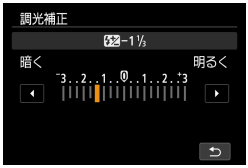
露出補正と同じ感覚で、内蔵ストロボの発光量を調整することができます。



1 〈Q〉ボタンを押す



2 [ ]を選ぶ



3 補正量を設定する

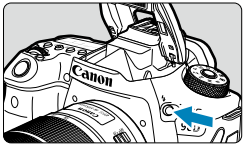
- 撮影結果が暗いときは**[明るく]**（プラス補正）、撮影結果が明るいときは**[暗く]**（マイナス補正）の方向に補正量を設定します。
- 撮影が終わったら、手順1～3の操作で補正量をゼロに戻します。

- **[📷：オートライティングオプティマイザ]**（📖218）が**[しない]**以外に設定されているときは、マイナス補正を行っても明るく撮影されることがあります。

- 設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。
- **[📷：ストロボ制御]**の**[内蔵ストロボ機能設定]**で調光補正を行うこともできます（📖168）。
- 外部ストロボ使用時も同じ操作で、カメラから外部ストロボの調光補正ができます。

✳FEロック撮影 応用

FE（Flash Exposure：フラッシュエクスポージャー）ロック撮影は、ファインダー撮影時に被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

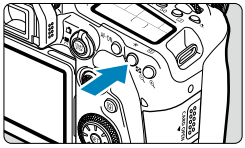




1 〈ϟ〉ボタンを押す

2 シャッターボタンを半押しする

- シャッターボタンを半押しして、ファインダー内またはモニターに〈ϟ〉が点灯していることを確認します。





3 〈✳〉ボタンを押す（⏱16）

- ファインダーまたはモニターの中央に被写体を置いて、〈✳〉ボタンを押します。
  ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。
  ファインダー内またはモニターに一瞬「**FEL**」と表示され、〈ϟ*〉が点灯します。
- 〈✳〉ボタンを押すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量が記憶されます。



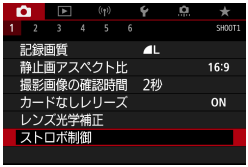
4 撮影する

- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。

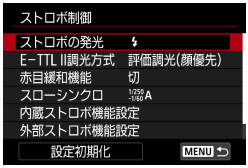
- 被写体までの距離が遠すぎて、撮影結果が暗くなるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて、再度手順2～4の操作をしてください。

ストロボ機能の設定

カメラのメニュー画面から、内蔵ストロボやEL／EXスピードライト（外部ストロボ）の機能を設定することができます。
外部ストロボの場合、設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。
なお、外部ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。



1 [📷：ストロボ制御] を選ぶ



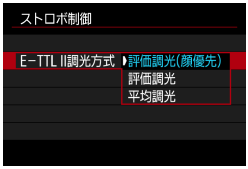
2 項目を選ぶ

ストロボの発光



[ϟᴬ]（かんたん撮影ゾーンおよび〈**P**〉モード時）に設定すると、撮影状況に応じて自動発光します。
[ϟ]に設定すると、撮影時に常時発光します。
[⊘]（応用撮影ゾーン時）は、ストロボ発光の禁止や、ストロボでのAF補助光を利用するときに選びます。

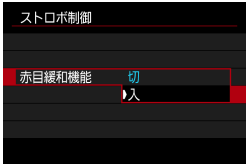
E-TTL II 調光方式 応用



[評価調光（顔優先）]に設定すると、人物の撮影に適した調光を行います。
[□ᴴ]時の連続撮影速度が、**[評価調光]**または**[平均調光]**よりも低下します。
[評価調光]に設定すると、連続撮影時の発光を優先した調光を行います。
[平均調光]に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。

- **[評価調光（顔優先）]**に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。

赤目緩和機能



[入]に設定すると、ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。

スローシンクロ 応用



〈**Av**〉絞り優先AEモード、または〈**P**〉プログラムAEモードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

- **[1/250-30 A] 1/250-30秒自動**

  明るさに応じてシャッタースピードが1/250～30秒の範囲で自動設定されます。暗い場所では（撮影状況に応じて）自動的にシャッタースピードが遅くなり、スローシンクロ撮影になります。

- **[1/250-1/60 A] 1/250-1/60秒自動**

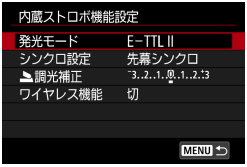
  暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

- **[1/250] 1/250秒固定**

  シャッタースピードが1/250秒に固定されるため、**[1/250-1/60秒自動]**よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では**[1/250-1/60秒自動]**よりも被写体の背景が暗くなります。

- ●〈**Av**〉〈**P**〉モードでスローシンクロ撮影を行いたいときは、**[1/250-30秒自動]**に設定してください。

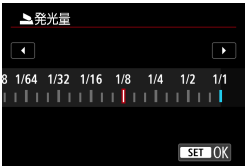
内蔵ストロボ機能設定 応用



● 発光モード

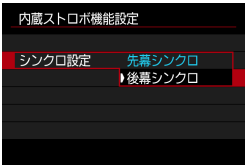


[E-TTL II] に設定すると、カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影を行うことができます。



[マニュアル発光] に設定すると、発光量を任意に設定することができます。

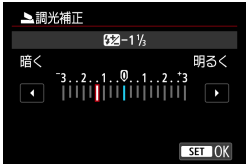
● シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する **[先幕シンクロ]** に設定します。
[後幕シンクロ] に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。

● 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/80秒以下の遅い速度に設定してください。1/80秒を超える速い速度のときは、**[後幕シンクロ]** に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

● 調光補正



露出補正と同じ感覚で、内蔵ストロボの発光量を調整することができます(📖166)。

● ワイヤレス機能



光通信ワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライトを使用して、ワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます(📖180)。

外部ストロボ機能設定 応用

画面に表示される内容や設定できる項目、項目の表示位置は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。使用するストロボの機能については、外部ストロボの使用説明書を参照してください。

表示例



(1) 発光モード
(2) ワイヤレス機能／光量比制御（RATIO）機能
(3) ズーム（照射角）
(4) シンクロ設定
(5) 調光補正
(6) FEB

- ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

● 発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。



[E-TTL II]は、ストロボの自動露出撮影ができる、EL／EXスピードライトの標準的なモードです。
[マニュアル発光]は、ストロボの**[発光量]**を自分で決めて撮影するモードです。

[CSP]（連写優先モード）は、対応する外部ストロボを使用したときに設定することができます。通常のストロボ撮影時と比べ、ストロボの発光量を自動的に1段下げ、代わりにISO感度を自動的に1段上げるモードです。連続撮影を行うときや、ストロボの電池の消耗を抑えたいときなどに効果的です。
その他の発光モードについては、各発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● 〈**Tv**〉〈**M**〉モードで、**[CSP]**の設定でストロボ撮影を行ったときに、撮影結果が露出オーバーになるときは、必要に応じて露出補正（🕮160）を行ってください。

● **[CSP]**設定時は、ISO感度が自動的に**[オート]**に設定されます。

● ワイヤレス機能



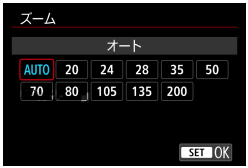
電波通信、または光通信によるワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。
詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

● 光量比制御（RATIO）機能



マクロストロボ使用時に、発光部の光量比を設定することができます。
詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

● ズーム（照射角）



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。

● シンクロ設定



通常は、撮影開始直後にストロボが発光する**【先幕シンクロ】**に設定します。**【後幕シンクロ】**に設定すると、低速シャッター時に車のライトなどの軌跡を自然な感じで撮影できます。
【ハイスピード】に設定すると、ストロボ同調最高シャッタースピードよりも速いシャッタースピードで撮影することができます。日中の屋外などで、〈**Av**〉モードで絞りを開き、被写体の背景をぼかして撮影したいときに有効です。

- 後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/80秒以下の遅い速度に設定してください。1/80秒を超える速い速度のときは、**【後幕シンクロ】**に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

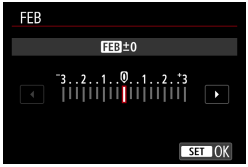
● 調光補正



露出補正と同じ感覚で、外部ストロボの発光量を調整することができます。

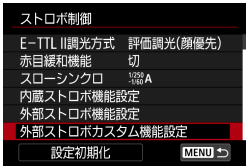
- 外部ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、外部ストロボ側の設定が優先されます。

● FEB



FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載した外部ストロボを使用すると、外部ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。

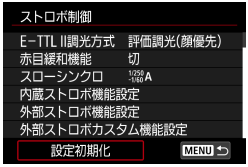
外部ストロボカスタム機能設定



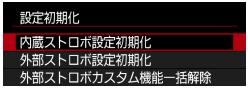
外部ストロボのカスタム機能については、ストロボの使用説明書を参照してください。

- EL／EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の**【調光方式】**を**【TTL】**（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。
- **【📷：外部ストロボ制御】**の画面から、外部ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。外部ストロボを直接操作して設定してください。

ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除 応用



1 [設定初期化] を選ぶ



2 初期化する内容を選ぶ

- **[内蔵ストロボ設定初期化] [外部ストロボ設定初期化] [外部ストロボカスタム機能一括解除]** のいずれかを選びます。
- 確認画面で **[OK]** を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

外部ストロボ撮影

EOS用EL/EXシリーズスピードライト

このカメラは、EL／EXシリーズスピードライト（別売）の全機能を使用したストロボ撮影を行うことができます。
操作方法については、EL／EXスピードライトの使用説明書を参照してください。

EL/EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

- EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。
  カメラの撮影モードを〈**M**〉または〈**Av**〉に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボ

同調シャッタースピード

小型の汎用ストロボは1/250秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

- 外部ストロボを使用する時は、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- 外部ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、**[📷：シャッター方式]**を**[電子シャッター]**以外に設定してください（📖243）。
- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

光通信ワイヤレスストロボ撮影

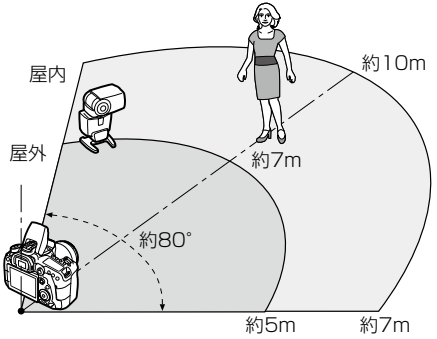
応用

内蔵ストロボ（センダー）と、光通信ワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライト（外部ストロボ）を使用して、ワイヤレス多灯ライティング撮影を行うことができます。

レシーバーの設定と配置

外部ストロボ（レシーバー）の使用説明書を参照して、下記の設定を行います。

- スピードライトをレシーバーに設定する
- カメラとスピードライトを同じ通信チャンネルに設定する
- 光量比制御を行うときは、レシーバーの発光グループを設定する
- 下図の範囲内にカメラとレシーバーを配置する
- レシーバーのワイヤレス受信部をカメラに向ける



レシーバーのオートパワーオフ解除

カメラの〈✱〉ボタンを押してください。なお、マニュアル発光のときは、レシーバーのテスト発光ボタンを押して解除してください。

光通信ワイヤレスストロボ撮影の方法

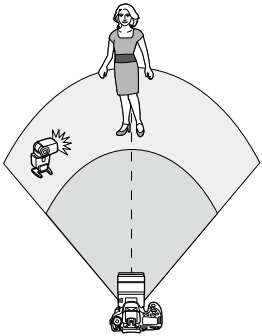
	外部ストロボ		内蔵ストロボ	参照頁	設定	
	灯数	A:B光量比			ワイヤレス機能	発光グループ
全自動撮影（E-TTL II 自動調光）	1灯	—	—	182		全部
	1灯	—	使用	184	：	—
	複数	—	—	185		全部
	複数	設定	—	186		(A：B)
	複数	—	使用	187	＋	全部と
	複数	設定	使用		＋	(A：B)
	• ストロボ調光補正			188		
	• FEロック					

	外部ストロボ		内蔵ストロボ	参照頁	設定	
	灯数	A:B光量比			ワイヤレス機能	発光グループ
マニュアル発光	1灯/複数	—	—	189		全部
	複数	設定	—			(A：B)
	1灯/複数	—	使用		＋	全部と
	複数	設定	使用		＋	(A：B)

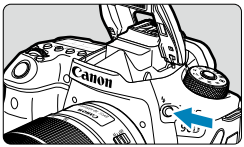
*「」「」は外部ストロボを、「」「」は内蔵ストロボを表しています。

- 内蔵ストロボを使用しない設定でも、レシーバーを光通信で制御するための発光が行われます。

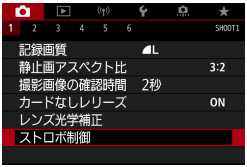
レシーバー1灯を使用した全自動撮影



レシーバー1灯とセンダーを使った全自動ワイヤレスストロボ撮影です。
手順1～4と6の操作は、すべてのワイヤレスストロボ撮影に共通です。

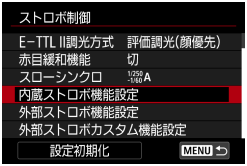


1 〈ϟ〉ボタンを押す



2 [ストロボ制御]を選ぶ

- [📷：ストロボ制御]を選びます。



3 [内蔵ストロボ機能設定]を選ぶ



4 [発光モード：E-TTL II] に設定する

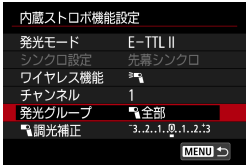


5 [ワイヤレス機能] を [ ] に設定する



6 [チャンネル] を設定する

- レシーバーと同じ光通信チャンネル（1～4）を設定します。

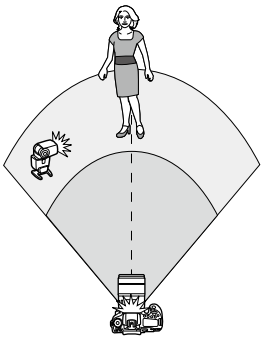


7 [発光グループ] を [全部] に設定する

8 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラを設定して撮影します。
- ワイヤレスストロボ撮影を終了するときは、**[ワイヤレス機能]** を **[切]** に設定します。

レシーバーを1灯使用した自動調光撮影



レシーバーとセンダーの光量比（発光量の割合）を変えることで、被写体にできる影のでかたを調整することができます。



1 [ワイヤレス機能]を[:]に設定する

- 183の手順5で[ワイヤレス機能]を[:]に設定します。



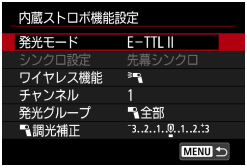
2 外部ストロボと内蔵ストロボの光量比を設定する

- [:]を選び、8：1～1：1の範囲で光量比を設定します。

- センダーの発光量が足りないときは、ISO感度を上げてください（213）。
- 光量比の8：1～1：1は、露出段数換算で3：1～1：1（1/2段ステップ）に相当します。

複数のレシーバーを使用した自動調光撮影

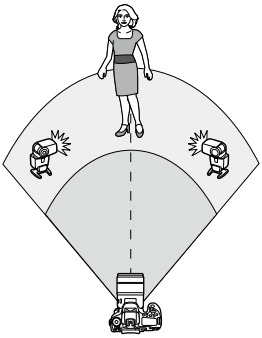
複数のレシーバーを「1つのストロボとみなして発光させたり」、「グループ分けして光量比を変えて撮影」することができます。
基本設定は下記のとおりです。



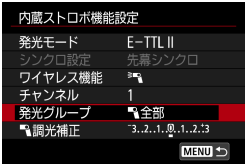
下記の基本設定を行う

発光モード ：E-TTL II
ワイヤレス機能 ：
チャンネル ：（レシーバーと同じ）

● **［全部］複数のレシーバーを1つのストロボとして発光させる**

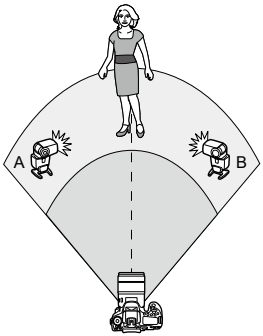


すべてのストロボが同じ光量で発光し、光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

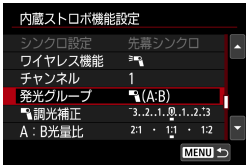


［発光グループ］を［全部］に設定する

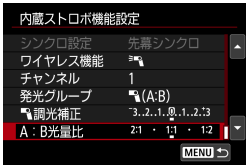
●［（A：B）］レシーバーを2グループに分けた自動調光撮影



レシーバーをAとBの2つの発光グループに分け、光量比を調整して撮影することができます。
露出は、発光グループA、Bの光量の合計が標準露出になるように自動制御されます。



1 ［発光グループ］を［（A：B）］に設定する



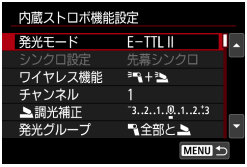
2 ［A：B光量比］を設定する

- **［発光グループ］**を**［（A：B）］**に設定すると、Cグループに設定したストロボは発光しません。

- 光量比の8：1～1：1は、露出段数換算で3：1～1：1（1/2段ステップ）に相当します。

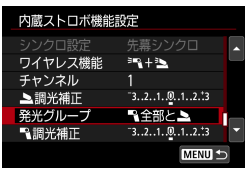
複数のレシーバーとセンダーを使用した自動調光撮影

🕮185~🕮186のワイヤレスストロボ撮影に、センダーを加えることができます。



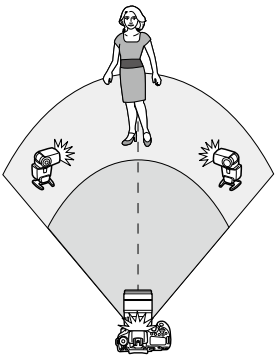
1 下記の基本設定を行う

発光モード ：E-TTL II
ワイヤレス機能 ：＋
チャンネル ：（レシーバーと同じ）

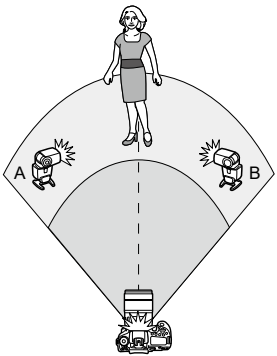


2 [発光グループ] を設定する

- [全部と] または [(A：B)] を選びます。
- [(A：B)] のときは、A：Bの光量比を設定してから撮影します。



[全部と]

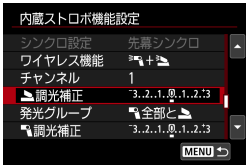


[(A：B)]

応用ワイヤレスストロボ撮影

● ストロボ調光補正

[発光モード] が **[E-TTL II]** のときに設定することができます。なお、設定できる調光補正の項目（下記参照）は、**[ワイヤレス機能]** と **[発光グループ]** の設定内容によって変わります。



調光補正

- 内蔵ストロボ、すべての外部ストロボに対して、調光補正量が一律に設定されます。

調光補正

- センターの調光補正を行うことができます。

調光補正

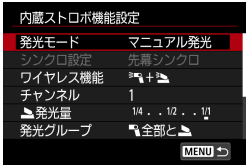
- すべてのレシーバーに対して、調光補正量が一律に設定されます。

● FEロック

〈✱〉ボタンを押すとFEロック（🕮167）を行うことができます。

発光量を設定したワイヤレス多灯撮影

[発光モード] が **[マニュアル発光]** のときに設定することができます。なお、設定できる発光量の項目（**[発光量]**、**[Aグループ発光量]** など）は、**[ワイヤレス機能]** の設定内容（下記参照）によって変わります。



ワイヤレス機能：

- **発光グループ：全部**
  すべてのレシーバーに対して、マニュアル発光量が一律に設定されます。
- **発光グループ：（A：B）**
  レシーバーをAとBの2グループに分けて、グループごとに発光量を設定することができます。

ワイヤレス機能：＋

- **発光グループ：全部と**
  センダーとレシーバーに対して、個別に発光量を設定することができます。
- **発光グループ：（A：B）**
  レシーバーをAとBの2グループに分けて、グループごとに発光量を設定することができます。また、センダーの発光量も設定することができます。

撮影

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「📷：撮影タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

静止画撮影

- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。

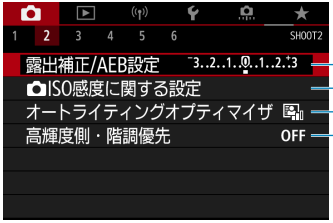
メニュー目次：静止画撮影（ファインダー撮影）

- 撮影1



199
202
204
205
206
168

- 撮影2



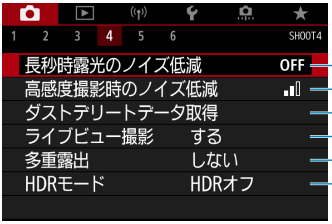
211
213
218
219

- 撮影3



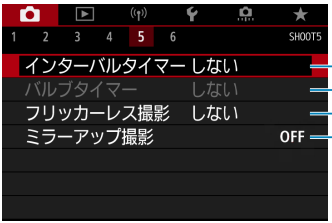
224
225
227
229
230, 233, 236

● 撮影4



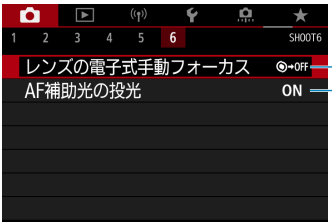
238
239
241
71
245
251

● 撮影5



258
119
261
263

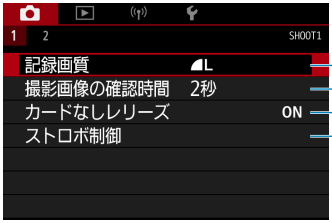
● 撮影6



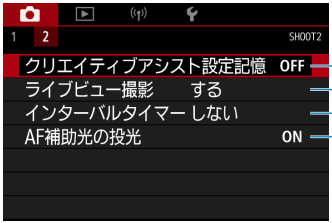
266
267

かんたん撮影ゾーンのときは、以下の画面が表示されます。なお、設定できる項目は撮影モードによって異なります。

- 撮影1



- 撮影2



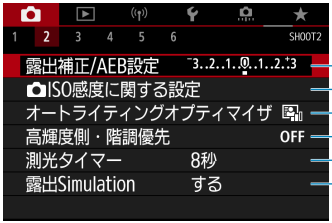
メニュー目次:静止画撮影(ライブビュー撮影)

- 撮影1



199
202
204
205
206
168

- 撮影2



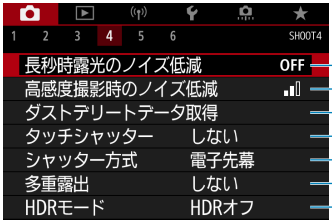
211
213
218
219
220
221

- 撮影3



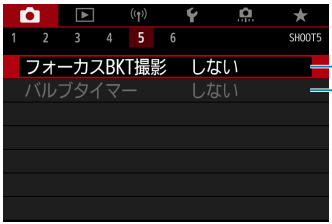
224
225
227
229
230, 233, 236

● 撮影4



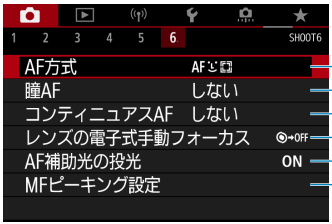
238
239
241
72
243
245
251

● 撮影5



255
119

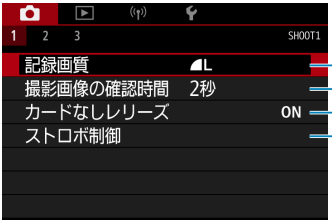
● 撮影6



135
91
265
266
267
149

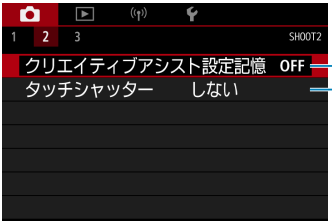
かんたん撮影ゾーンのときは、以下の画面が表示されます。なお、設定できる項目は撮影モードによって異なります。

● 撮影1



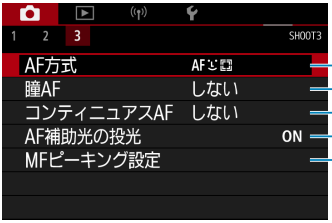
199
204
205
168

● 撮影2



82
72

● 撮影3

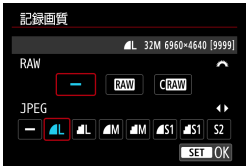


135
91
265
267
149

記録画質の設定



1 [📷：記録画質] を選ぶ



2 記録画質を設定する

- RAW画質は〈🔘〉で、JPEG画質は〈◄〉〈►〉で選びます。
- 〈(SET)〉を押すと設定されます。

- 記録画質の設定画面に表示される撮影可能枚数【****】は、アスペクトの設定（📖202）に関わらず、常に【3:2】設定時の値が表示されます。

- RAW画像とJPEG画像の設定を両方【–】にしたときは、**L**に設定されます。
- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR3）で記録されます。
- **S2**は（ファイン）の画質です。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、CRAW（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイペグ）、（ファイン）、（ノーマル）、**L**（ラージ）、**M**（ミドル）、**S**（スモール）です。

RAW画像

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換して記録した「生（ロウ）データ」で、RAWまたはRAWよりもファイルサイズが小さいCRAWから選ぶことができます。
RAW画像は、【▶：RAW現像】で現像を行い（📖364）、JPEG画像として保存することができます。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。
また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG画像などを生成することができます。

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（📖590）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の表示や現像、編集などはできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

記録画質を選ぶときの目安

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、📖615を参照してください。

連続撮影可能枚数（バースト枚数）



撮影画面の上、またはファインダー内の右下の数値などで、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。

- 連続撮影可能枚数が、「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていきます。内部メモリーがいっぱいになると、ファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、🕮615の表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

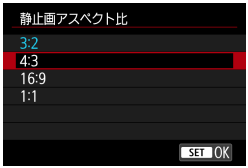
静止画のアスペクト比

応用

画像のアスペクト（縦横）比を変えて撮影することができます。



1 [📷：静止画アスペクト比] を選ぶ



2 アスペクト比を設定する

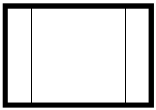
- アスペクト比を選び、〈(SET)〉を押します。

- **JPEG画像**

  設定したアスペクト比で記録されます。

- **RAW画像**

  常に **[3：2]** のアスペクト比で記録されます。RAW画像には設定したアスペクト比情報が付加され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像する際に、撮影時に設定したアスペクト比で画像を生成することができます。

	アスペクト比		
	4：3	16：9	1：1
ファインダー撮影時			
ライブビュー撮影時			

- 多重露出撮影時は［3：2］の設定で撮影されます。

- ［4：3］［16：9］［1：1］の設定で撮影したRAW画像を再生したときは、撮影範囲を示すアスペクト比の線が表示されます（この線は画像には記録されません）。

撮影直後の画像表示時間

撮影画像を表示したままにするときは【ホールド】、撮影画像を表示しないようにするときは【切】に設定します。



1 【📷：撮影画像の確認時間】を選ぶ

2 時間を設定する

- 【ホールド】に設定すると、【：オートパワーオフ】で設定した時間まで画像が表示されます。

カードの入れ忘れの防止

カードを入れ忘れた状態で、撮影できないようにすることができます。初期状態では【する】に設定されています。



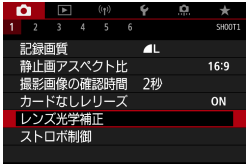
1 【📷：カードなしレリーズ】を選ぶ

2 【しない】を選ぶ

レンズの光学特性による影響の補正

応用

レンズの光学特性によって、画像の四隅が暗くなったり、画像にゆがみが生じたりするなどの現象が発生します。**[レンズ光学補正]** の機能を使用することで、これらの現象を補正することができます。



1 [📷：レンズ光学補正] を選ぶ



2 項目を選ぶ



3 [する] を選ぶ

- 装着しているレンズの名称と、**[補正データあり]** が表示されていることを確認します（ただし、**[回折補正]** 設定時は表示されません）。
- **[補正データなし]** や [🖹] マークが表示されたときは、『デジタルレンズオプティマイザ』（📖208）を参照してください。

周辺光量補正

画像の四隅が暗くなる「周辺光量の低下」を補正することができます。

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。
- 補正用データがカメラに登録されている場合は、かんたん撮影ゾーンでは自動的に周辺光量補正が行われます。

歪曲収差補正

画像にゆがみが生じる「歪曲収差」を補正することができます。

- ゆがみの補正が行われるため、撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります。
- 拡大表示を行ったときは、ゆがみが補正されていない映像が表示されます。
- 動画撮影では、歪曲収差補正は行われません。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、ダストデリートデータ（241）は付加されません。また、撮影時と異なる位置でAFフレームが表示されることがあります。

- 補正用データがカメラに登録されている場合は、〈**SCN**〉モードの〈**🏃**〉モードでは自動的に歪曲収差補正が行われます。

デジタルレンズオプティマイザ

レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することができます。
なお、**【デジタルレンズオプティマイザ】**で**【補正データなし】**や**【🖻】**が表示されたときは、EOS Utilityを使用して、レンズの補正用データをカメラに登録することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、**【デジタルレンズオプティマイザ】**を**【しない】**に設定して撮影してください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**【デジタルレンズオプティマイザ】**は表示されません（補正できません）。

- **【デジタルレンズオプティマイザ】**を**【する】**に設定したときは、**【色収差補正】【回折補正】**は表示されませんが、ともに**【する】**の設定で撮影されます。
- 補正用データがカメラに登録されている場合は、かんたん撮影ゾーンでは自動的にデジタルレンズオプティマイザによる補正が行われます。

色収差補正

被写体の輪郭部分に色のにじみが生じる「色収差」を補正することができます。

- **[デジタルレンズオプティマイザ]** を **[する]** に設定したときは、**[色収差補正]** は表示されません。

回折補正

絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下する「回折現象」を補正することができます。

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**[回折補正]** は表示されません（補正できません）。

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- **[デジタルレンズオプティマイザ]** を **[する]** に設定したときは、**[回折補正]** は表示されません。

各補正共通注意事項

- 撮影したJPEG画像の周辺光量低下、色収差、歪曲収差、回折現象を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、**【補正データあり】**と表示されていても、**【しない】**に設定することをおすすめします。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

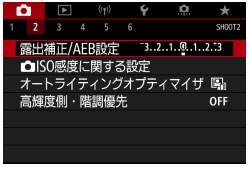
各補正共通事項

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正**【しない】**と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。
- 必要に応じて、EOS Utility使用説明書をあわせて参照してください。

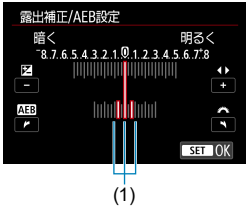
露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

自動的にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これを「AEB撮影」といいます。

*「AEB」はAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。



1 [📷：露出補正／AEB設定]を選ぶ



(1)

2 AEBレベルを設定する

- 〈☁〉でAEBレベル（1）を設定します。〈◀〉〈▶〉で露出補正量を設定することができます。
- 〈(SET)〉を押すと設定されます。
- メニューを終了すると、画面にAEBレベルが表示されます。

標準露出



マイナス補正



プラス補正



3 撮影する

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

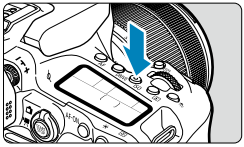
- **[📷：オートライティングオプティマイザ]**（📖218）が **[しない]** 以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなることがあります。

- ドライブモードが〈□〉のときは、3回撮影してください。〈□H〉〈□〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈⏲10〉〈⏲2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。なお、〈⏲C〉に設定したときは、設定した枚数の3倍の枚数が連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- ストロボ使用時、マルチショットノイズ低減機能、HDRモード、フォーカスBKT撮影設定時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

静止画のISO感度の設定

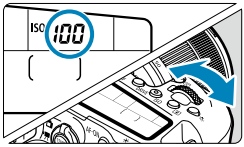
応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。
かんたん撮影ゾーンのときは、ISO感度が自動設定されます。
なお、動画撮影時のISO感度については、🕮620を参照してください。



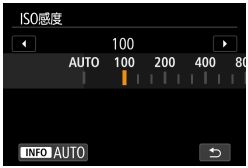
1 〈ISO〉ボタンを押す（⏱6）

- 〈Q〉ボタンを押して、クイック設定で設定することもできます。



2 ISO感度を設定する

- 〈〉〈◯〉を回します。
- 「A」または[AUTO]を選んだときは、ISO感度が自動設定されます（🕮614）。

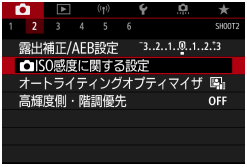


ISO感度を選ぶ時の目安

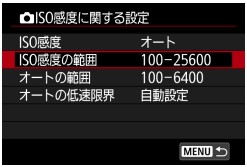
- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。

- H（ISO51200相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- **[📷：高輝度側・階調優先]** を **[する]** **[強]** に設定すると（📖219）、ISO100/125/160、および拡張ISO感度は選択できなくなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光、多重露出撮影などの条件で撮影すると、画像のノイズ（ザラツキ感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

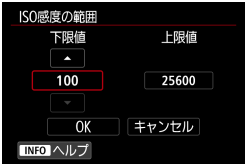
ISO感度の手動設定範囲



1 [📷：📷ISO感度に関する設定] を選ぶ

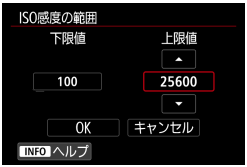


2 [ISO感度の範囲] を選ぶ



3 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

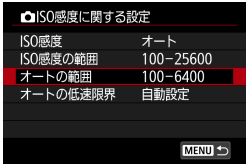


4 上限値を設定する

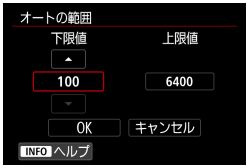
- 上限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

5 [OK] を選ぶ

ISOオート時の自動設定範囲



1 [オートの範囲] を選ぶ



2 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。



3 上限値を設定する

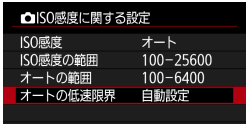
- 上限値の枠を選び〈(SET)〉を押します。
- ISO感度を選び〈(SET)〉を押します。

4 [OK] を選ぶ

- **[下限値] [上限値]** は、ISO感度でセイフティシフト（📖558）が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

ISOオート時のシャッタースピードの低速限界

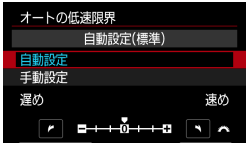
〈**P**〉〈**Av**〉モードなどで、広角レンズを使用して、動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときに、手ブレや被写体ブレを軽減することができます。



1 [オートの低速限界]を選ぶ

2 低速限界を設定する

自動設定



- **[自動設定]**を選んだときは、〈〉で遅め／速めの度合いを設定し、〈(SET)〉を押します。

手動設定



- **[手動設定]**を選んだときは、〈〉でシャッタースピードを選び、〈(SET)〉を押します。

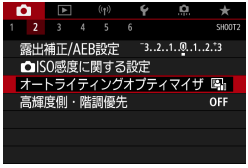
- **[オートの範囲]**で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、**[オートの低速限界]**で設定した速度よりも遅いシャッタースピードが設定されます。
- ストロボ撮影時、動画撮影時は機能しません。

- **[自動設定（標準）]**設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、**[遅め]**から**[速め]**の1ステップは、シャッタースピード1段分です。

明るさ・コントラストの自動補正（オートライティングオプティマイザ）

応用

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。



1 [📷：オートライティングオプティマイザ]を選ぶ



2 補正内容を設定する

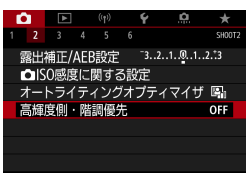
- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、**[弱め]**または**[しない]**に設定して撮影してください。
- **[しない]**以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、**[しない]**に設定してください。
- **[強め]**設定時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。また、カードに画像を記録する時間が長くなります。

- 手順2で〈INFO〉ボタンを押して**[M, Bulb時はOFF]**の**[✓]**を外すと、〈**M**〉〈**B**〉モードでも**[📷：オートライティングオプティマイザ]**が設定できるようになります。

高輝度側・階調優先の設定

応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。



1 [📷：高輝度側・階調優先]を選ぶ



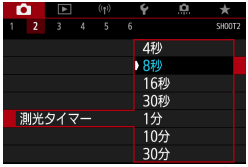
2 内容を設定して撮影する

- **[する]**を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- **[強]**設定時は、撮影シーンによって**[する]**設定時よりもさらに白とびを緩和することができます。

- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- 動画撮影時は、**[強]**は選択できません。
- **[強]**に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

測光タイマーの作動時間(ライブビュー撮影) 応用

シャッターボタンを半押ししたときなどに自動的に作動する「測光タイマー」の作動時間（露出値の表示時間／AEロック時の保持時間）を設定することができます。

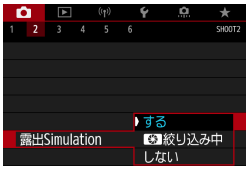


1 **［📷：測光タイマー］を選ぶ**

2 **時間を設定する**

露出Simulation(ライブビュー撮影)　応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。



1 **［：露出Simulation］を選ぶ**

2 **内容を設定する**

- **する（Exp.SIM）**

  実際の撮影結果(露出)に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

- **絞り込み中**

  通常は映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます（DISP）。**［C.Fn III-3：ボタンカスタマイズ］**（📖571）で**［絞り込み］**機能を割り当てたボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます（Exp.SIM）。

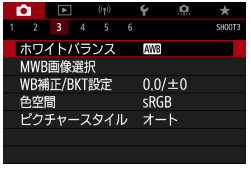
- **しない（DISP）**

  映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

ホワイトバランスの設定

応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート【AWB】（雰囲気優先）、または【AWB W】（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。



1 【📷：ホワイトバランス】を選ぶ



2 項目を選ぶ

（約）

表示	モード	色温度（K：ケルビン）
AWB	オート（雰囲気優先／📖224）	3000～7000
AWB W	オート（ホワイト優先／📖224）	
☀	太陽光	5200
🏠	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
💡	白熱電球	3200
▦	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ	自動設定*
🔧	マニュアル（📖225）	2000～10000
K	色温度（📖226）	2500～10000

* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

［AWB］オートホワイトバランス

【AWB】では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。【AWB W】を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。



1 ［📷：ホワイトバランス］を選ぶ



2 ［AWB］を選ぶ

- 【AWB】を選んだ状態で〈INFO〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

［AWB W］設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は【AWB】と同じ色あいになります。

[🖋] マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。

1 白い被写体を撮影する

- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。



2 [📷：MWB画像選択] を選ぶ



3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順1で撮影した画像を〈◀〉〈▶〉で選び、〈(SET)〉を押します。
  [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。



4 [📷：ホワイトバランス] を選ぶ

5 マニュアルWBを選ぶ

- [🖋] を選びます。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを **[モノクロ]** に設定して撮影した画像、クリエイティブフィルターで撮影した画像、撮影後にクリエイティブフィルター処理した画像、多重露出画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像は、選択できません。
- 設定に使用できない画像が表示されることがあります。

- 白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

[K] 色温度



1 [📷：ホワイトバランス] を選ぶ



2 色温度を設定する

- [K] を選びます。
- 〈☆〉で色温度を設定し、〈(SET)〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を [K] に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

ホワイトバランスの補正

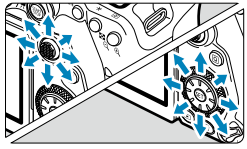
応用

ホワイトバランスを補正して、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。

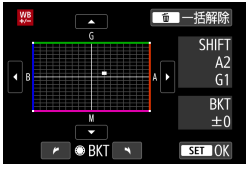
ホワイトバランス補正



1 [📷：WB補正/BKT設定]を選ぶ



設定例：A2, G1



2 ホワイトバランスを補正する

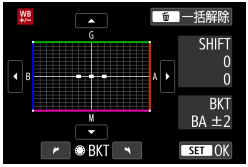
- 〈✥〉〈✥〉を操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
  画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、**[WB補正/BKT設定]**の設定を一括解除することができます。
- 〈(SET)〉を押すと設定が終了します。

- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）機能で、1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。

B/A方向±3段のとき



補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈◌〉を回すと、画面上の「■」が「■■■」（3点）に変わります。
- 右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと**【WB補正/BKT設定】**の設定を一括解除することができます。
- 〈(SET)〉を押すと設定が終了します。

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

- ①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- ライブビュー撮影時に、WBブラケティングを設定したときは、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- 「**BKT**」はBracketing：ブラケティングの略です。

色空間の設定

応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。



1 **［📷：色空間］を選ぶ**

2 **色空間を設定する**

Adobe RGB

主に商用印刷などの業務用途で使用します。Adobe RGB対応モニターや、DCF 2.0（Exif 2.21以上）対応プリンターなどの使用をおすすめします。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書を参照してください。
- かんたん撮影ゾーンのときは、**【sRGB】**に自動設定されます。

ピクチャースタイルの選択

応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。



1 **［📷：ピクチャースタイル］を選ぶ**



2 **スタイルを選ぶ**

各スタイルの画像特性

- **［オート］オート**

  撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

> ● **［オート］**で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

- **［スタンダード］スタンダード**

  鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

- **［ポートレート］ポートレート**

  肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

  📖234の **［色あい］**を変えると、肌色を調整することができます。

- **[風景]**
  青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。
- **[ディテール重視]**
  被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。
- **[ニュートラル]**
  パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。
- **[忠実設定]**
  パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。
- **[モノクロ]**
  白黒写真になります。

● **[モノクロ]** の設定で撮影したJPEG画像を、カラー写真に戻すことはできません。

● **[モノクロ]** 設定時に、ファインダー内に〈⚠〉を表示することができます（📖570）。

- **[ユーザー設定1～3]**
  [ポートレート] や **[風景]**、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（📖236）。登録されていないときは、**[オート]** の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号の意味

スタイル選択画面の記号は、**[シャープネス]** の **[強さ] [細かさ] [しきい値]** や、**[コントラスト]** などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。





	シャープネス	
		強さ
		細かさ
		しきい値
	コントラスト	
	色の濃さ	
	色あい	
	フィルター効果（モノクロ）	
	調色（モノクロ）	

- 動画撮影時、**[シャープネス]** の **[細かさ] [しきい値]** は、ともに「*」と表示されます。また、**[細かさ] [しきい値]** は動画には反映されません。

ピクチャースタイルの調整

応用

各ピクチャースタイルを初期設定から変更（調整）することができます。**[モノクロ]** の調整については、📖235を参照してください。



1 [📷：ピクチャースタイル] を選ぶ



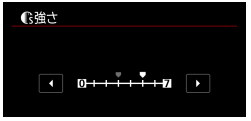
2 スタイルを選ぶ

- 調整するスタイルを選び、〈INFO〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

- 設定内容と効果については、次ページを参照してください。



4 効果の度合いを設定する



- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容と効果

	シャープネス			
		強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
		細かさ*1	1：細かい	5：粗い
		しきい値*2	1：小さい	5：大きい
	コントラスト		-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
	色の濃さ		-4：薄い	+4：濃い
	色あい		-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

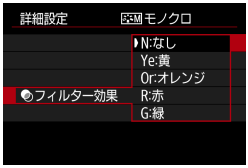
*1: 強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

*2: 「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

- 動画撮影時は【シャープネス】の【細かさ】【しきい値】の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順3で【初期設定】を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

[M] モノクロの調整

[◉] フィルター効果

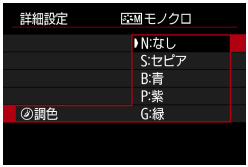


フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

- **[コントラスト]** をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

[✎] 調色



調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

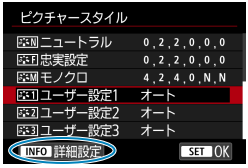
ピクチャースタイルの登録

応用

[ポートレート] や **[風景]** などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、**[ユーザー設定1]** から **[ユーザー設定3]** に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。
また、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityからカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。

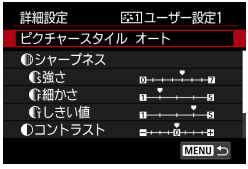


1 [📷：ピクチャースタイル] を選ぶ



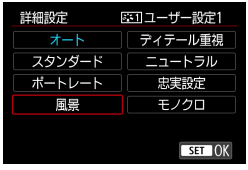
2 [ユーザー設定] を選ぶ

- **[ユーザー設定＊]** を選び、〈INFO〉ボタンを押します。



3 〈(SET)〉を押す

- **[ピクチャースタイル]** が選ばれた状態で〈(SET)〉を押します。

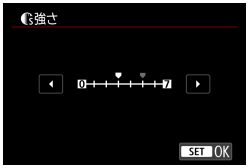


4 基本にするスタイルを選ぶ

- 基本にするスタイルを選びます。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。

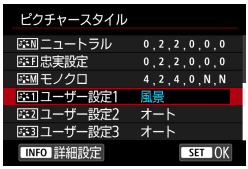


5 項目を選ぶ



6 効果の度合いを設定する

- 詳しくは、『ピクチャースタイルの調整』（📖233）を参照してください。



- 〈**MENU**〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
[ユーザー設定＊]の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

- **[ユーザー設定＊]**にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- **[🔧：カメラ設定初期化]**（📖547）を行うと、**[ユーザー設定＊]**に設定した内容が初期化されます。

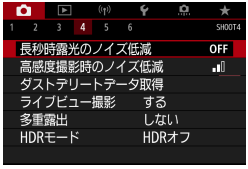
- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した**[ユーザー設定＊]**を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

ノイズ低減機能の設定

応用

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。



1 **［📷：長秒時露光のノイズ低減］を選ぶ**



2 **低減内容を設定する**

- **［AUTO］自動**

  露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

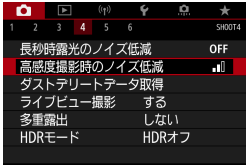
- **［ON］する**

  露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。**【自動】**で検出できないノイズがあったときに**【する】**で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

- **【自動】【する】**設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。
- **【しない】【自動】**設定時よりも**【する】**設定時の方が、画像のザラつきが多くなることがあります。
- **【する】**設定時に、ライブビュー表示の状態から長秒時露光を行うと、ノイズ低減処理中は、「**buSY**」が表示され、処理が終了するまでライブビュー表示は行われません（次の撮影はできません）。

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。



1 **［📷：高感度撮影時のノイズ低減］を選ぶ**



2 **レベルを設定する**

- **［NR］マルチショットノイズ低減機能**

  ［強め］よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。
  なお、記録画質がRAW、RAW＋JPEGに設定されているときは、**［マルチショットノイズ低減機能］**は設定できません。

マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- バルブ撮影、AEB撮影、WBブラケティング撮影、RAW、RAW+JPEG、長秒時露光のノイズ低減、多重露出、HDRモードなどが設定されているときは、**[マルチショットノイズ低減機能]**は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。ただし、EOS用外部ストロボのAF補助光は、**[📷: AF補助光の投光]**の設定に応じて投光されます。
- 動画撮影時は、**[マルチショットノイズ低減機能]**は設定できません（表示されません）。
- 電源スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、カード交換、撮影モードをかんたん撮影ゾーンや〈**B**〉に変更したり、動画撮影への切り換えを行うと、自動的に**[標準]**に切り換わります。

ゴミ消し情報の付加

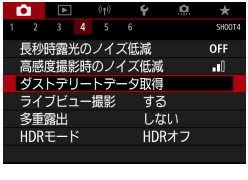
応用

センサークリーニングでゴミが除去しきれなかった場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

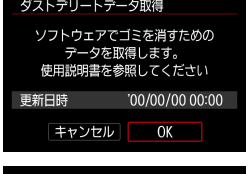
事前準備

- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、無限遠（∞）に設定する。

ダストデリートデータの取得



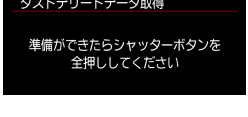
1 **［📷：ダストデリートデータ取得］を選ぶ**



2 **［OK］を選ぶ**

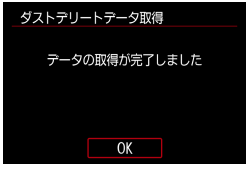
- 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。





3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、真っ白な無地の被写体（未使用のコピー用紙など）を画面いっぱいに入れて撮影します。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。



撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。

- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK]を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータの付加

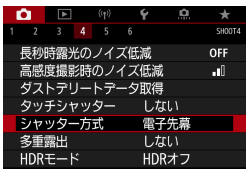
取得したダストデリートデータは、その後に撮影されるすべての静止画に付加されます。撮影の直前にデータを取得することをおすすめします。
なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalによる自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。
画像に付加されるダストデリートデータの容量は、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

- 被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

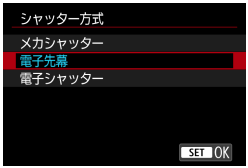
シャッター方式(ライブビュー撮影)

応用

ライブビュー撮影時に、シャッター方式を選ぶことができます。



1 **[: シャッター方式] を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

- **メカシャッター**

  撮影時にメカシャッターが作動します。TS-Eレンズ（TS-E17mm F4L、TS-E24mm F3.5L IIを除く）を使用してシフトやティルトを行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ず**[メカシャッター]**に設定してください。**[電子先幕]** **[電子シャッター]**に設定すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

- **電子先幕**

  撮影時に後幕のみ作動します。

- **電子シャッター**

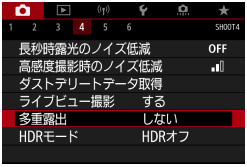
  シャッター作動音を鳴らさずに、最高1/16000秒のシャッタースピードで撮影することができます。
  ドライブモードが〈H〉〈〉〈C〉以外のときに設定できます。
  ストロボ撮影はできません。

- ファインダー撮影時のドライブモードが〈□H〉〈□〉〈□S〉に設定されていたときは、**[電子シャッター]**に設定することはできません。
- 高速シャッタースピード、絞り開放付近で撮影したときは、撮影条件によりボケ像が欠けて写ることがあります。なお、ボケ像の写り方が気になるときは、以下のいずれかの方法で撮影すると改善することがあります。
  - **[電子先幕]**以外で撮影する
  - シャッタースピードを遅くする
  - 絞り数値を大きくする
- **[電子シャッター]**設定時に、カメラを動かしたり、動きのある被写体を撮影すると、画像が歪んで撮影されることがあります。
- フリッカー光源下で**[電子シャッター]**に設定して撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。

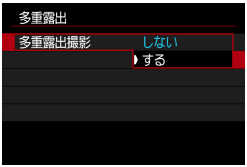
多重露出撮影

応用

複数の画像を重ね合わせた写真を撮影することができます。なお、ライブビュー撮影のときは、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。



1 [📷：多重露出] を選ぶ



2 [多重露出撮影] を設定する

- **[する]** を選びます。
- 多重露出撮影をやめるときは、**[しない]** を選びます。



3 [多重露出制御] を設定する

- **加算**

  撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。**[重ねる枚数]** に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

  重ねる枚数と露出補正量の目安

  「2枚：−1段」「3枚：−1.5段」「4枚：−2段」

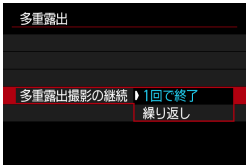
- **加算平均**

  [重ねる枚数] に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。



4 [重ねる枚数] を設定する

- 枚数を選び〈(SET)〉を押します。



5 [多重露出撮影の継続] を設定する

- **[1回で終了]** を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- **[繰り返し]** を選んだときは、手順2で **[しない]** を選ぶまで多重露出撮影が続きます。



6 1枚目を撮影する

- 撮影した画像が表示されます。
- 多重露出撮影の残り枚数は、画面に表示される（1）などで確認することができます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます（📖249）。

7 2枚目以降を撮影する

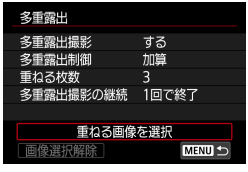
- そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈INFO〉ボタンを（何回か）押すと、映像だけを表示することができます。
- ライブビュー撮影時に、絞り込みボタン、または **[絞り込み]** 機能を割り当てたボタンを押している間、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。

- 連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。
- 保存される画像は、多重露出画像のみです。手順6、7で撮影した多重露出用の画像は保存されません。
- 記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- 多重露出撮影時は、アスペクト比を設定した撮影はできません。3：2のアスペクト比で撮影されます。
- WBブラケティング、マルチショットノイズ低減機能、HDRモード、クリエイティブフィルターが設定されているときは、多重露出撮影の設定はできません。
- 多重露出撮影時は、**[📷:レンズ光学補正]**［📷:**オートライティングオプティマイザ**］［📷:**高輝度側・階調優先**］の設定が自動的に**【しない】**になります。
- **[📷:ピクチャースタイル]**が**【オート】**に設定されているときは、**【スタンダード】**で撮影されます。
- 多重露出撮影は、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。
- **【加算】**設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- **【加算】**の設定でライブビュー撮影を行ったときは、多重露出撮影終了時にライブビュー機能が自動的に終了します。
- 手順7で撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
- 電源スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、カード交換などを行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 撮影モードをかんたん撮影ゾーン、または〈C1/C2〉にすると、多重露出撮影が終了します。
- カメラとパソコンを接続しているときは、多重露出撮影はできません。なお、撮影中に接続すると多重露出撮影が終了します。

- 最後に撮影したときの撮影情報が多重露出画像に記録されます。

カードに記録されているRAW画像に重ね合わせる

カードに記録されているRAW画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択したRAW画像はそのまま残ります。



1 [重ねる画像を選択]を選ぶ

2 1枚目の画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で1枚目に設定する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- [OK]を選びます。
  選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

3 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は**[重ねる枚数]**で設定した枚数よりも1枚少なくなります。

- JPEG画像は選択できません。
- **[📷：高輝度側・階調優先]**を**[する]** **[強]**に設定して撮影した画像、**[📷：静止画アスペクト比]**を**[3:2]**以外に設定して撮影した画像は、1枚目に指定できません。
- **[📷：レンズ光学補正]** **[📷：オートライティングオプティマイザ]**は、1枚目に指定した画像の設定に関わらず、**[しない]**で撮影されます。
- ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定した画像と同じ設定で撮影されます。
- 1枚目に指定した画像のピクチャースタイルが**[オート]**のときは、**[スタンダード]**で撮影されます。
- 他のカメラで撮影した画像は選択できません。
- 重ね合わせに使用できない画像が表示されることがあります。

- 多重露出撮影を行ったRAW画像を選ぶこともできます。
- **[画像選択解除]**を選ぶと、指定が解除されます。

撮影途中の画像確認と画像消去



設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます。
この状態で〈🗑〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
⮌ 前の画面に戻る	〈🗑〉ボタンを押す前の画面に戻ります。
1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
保存して終了	途中まで撮影した画像を多重露出画像として保存して終了します。
保存しないで終了	撮影した画像を保存しないで終了します。

- 多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

? こんなときは

- **記録画質に制限はありますか？**

  各撮影画像、多重露出画像とも、記録画質の設定通りに記録されます。

- **カードに記録されている画像に重ね合わせたい**

  [重ねる画像を選択] で、多重露出1枚目の画像を選択することができます（🕮248）。カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることはできません。

- **多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？**

  多重露光撮影中にオートパワーオフは機能しません。
  なお、多重露出撮影を始める前は、カメラで設定した時間どおりにオートパワーオフが働き、多重露出の設定が解除されます。

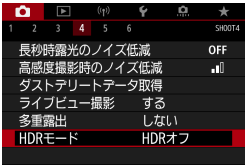
HDR(ハイダイナミックレンジ)撮影

応用

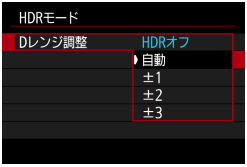
明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。風景などの静物の撮影に適しています。

HDR撮影では、1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を連続撮影して、自動的に画像合成を行います。撮影したHDR画像はJPEG画質で記録されます。

*「HDR」はHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。



1 [📷：HDRモード] を選ぶ



2 [Dレンジ調整] を設定する

- **[自動]** を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。



3 [仕上がり効果] を設定する

仕上がり効果

- **［HDR］ナチュラル**

  明暗差の大きいシーンで、通常は白とびしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。

- **［HDR］絵画調標準**

  ［ナチュラル］よりも白とびや黒つぶれが緩和された写真になりますが、コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

- **［HDR］グラフィック調**

  ［絵画調標準］よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

- **［HDR］油彩調**

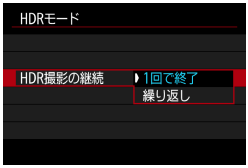
  最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

- **［HDR］ビンテージ調**

  鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

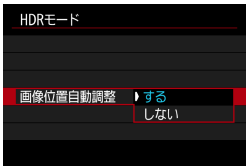
	絵画調標準	グラフィック調	油彩調	ビンテージ調
彩度	標準	高い	より高い	低い
輪郭強調	標準	弱い	強い	より強い
明るさ	標準	標準	標準	暗い
階調	フラット	フラット	フラット	よりフラット

- 各仕上がり効果とも、設定されているピクチャースタイル（📖230）を基本にした画像特性で撮影されます。



4 [HDR撮影の継続] を設定する

- **[1回で終了]** を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- **[繰り返し]** を選んだときは、手順2で **[HDRオフ]** を選ぶまでHDR撮影が続きます。



5 [画像位置自動調整] を設定して撮影する

- 手持ち撮影を行うときは **[する]**、三脚などを使用するときは **[しない]** を選びます。

- RAW画質で撮影したときは、HDR画像はJPEG **L** の画質で記録されます。RAW+JPEG画質で撮影したときは、HDR画像は設定したJPEG画質で記録されます。
- 拡張ISO感度（H）でHDR撮影を行うことはできません。
- **[📷：レンズ光学補正]** の **[歪曲収差補正]**、**[📷：オートライティングオプティマイザ]** **[📷：高輝度側・階調優先]** の設定は自動的に **[しない]** になります。
- AEB撮影、ストロボ撮影はできません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- HDR撮影はシャッタースピードを自動的に変えて3枚の画像を撮影します。〈**Tv**〉〈**M**〉モードでも、設定したシャッタースピードを基準に、シャッタースピードが変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。

ライブビュー撮影時について

- ライブビュー映像で表示される仕上がり効果のイメージは、撮影画像と完全には同じになりません。

- **[画像位置自動調整]** を **[する]** に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報（📖392）、およびダストデリートデータ（📖241）は画像に付加されません。
- **[画像位置自動調整]** を **[する]** に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい（または暗い）露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- **[画像位置自動調整]** を **[しない]** に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はファインダー内と表示パネルに「**buSY**」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

フォーカスブラケット撮影（ライブビュー撮影）

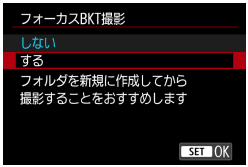
応用

フォーカスBKT*撮影は、1回のレリーズで自動的にピント位置を変えながら連続撮影を行う機能です。深度合成機能のあるEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalなどを使用すると、撮影した画像から広い範囲でピントの合った画像を生成することができます。

*「BKT」はBracketing（ブラケティング）の略です。



1 [📷：フォーカスBKT撮影] を選ぶ



2 [フォーカスBKT撮影] を設定する

- **[する]** を選びます。



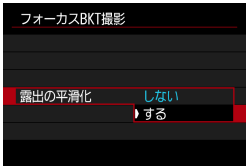
3 撮影回数を設定する

- 1度に撮影する回数（枚数）を設定します。
- **[2]** ～ **[999]** 回の範囲で設定することができます。



4 [ステップ幅] を設定する

- ピントを移動する幅を設定します。ピントの移動幅は撮影時の絞り数値に応じて自動で調整されます。
  なお、絞り数値を大きくすると、ピントの移動幅が大きくなるため、同じステップ幅と撮影回数の設定で、より広い範囲のフォーカスブラケット撮影が行われます。
- 設定が終わったら、〈(SET)〉を押します。



5 [露出の平滑化] を設定する

- **[露出の平滑化]** を **[する]** に設定すると、カメラに表示される絞り数値と、ピント位置により変化する実際の絞り数値（実効FNo.）との差を調整して、フォーカスブラケット撮影中の画像の明るさの変化を抑えることができます。

6 撮影する

- 撮影した画像を新規フォルダに保存するときは、画面の [📁+] をタッチし、[OK] を選びます。
- ピントを合わせたい範囲の近距離側にピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- 撮影が開始されたら、シャッターボタンから指を離します。
- 無限遠側にピント位置を移動しながら連続撮影が行われます。
- 設定した枚数になったとき、またはピント位置が無限遠に達すると、撮影は終了します。

- フォーカスブラケット撮影は、三脚を使用して、静止した被写体を撮影する機能です。
- 目的とする画角より広めに撮影することをおすすめします。深度合成後は必要に応じてトリミングしてください。
- 下記のレンズを使用することができます（2019年4月現在）。
  - EF16-35mm F4L IS USM
  - EF24-70mm F4L IS USM
  - EF100mm F2.8L MACRO IS USM
  - EF180mm F3.5L MACRO USM
  - EF-S35mm F2.8 MACRO IS STM
  - EF-S60mm F2.8 MACRO USM
  - EF-S18-135mm F3.5-5.6 IS USM
- 下記のレンズを使用すると、撮影画像に明るさの変化が生じることがありますので、**[露出の平滑化]** を **[しない]** に設定してください。
  - EF100mm F2.8 L MACRO IS USM
  - EF180mm F3.5 L MACRO USM
  - EF-S60mm F2.8 MACRO USM
- 適切な**[ステップ幅]**は被写体により異なります。**[ステップ幅]**が適切でないときは、合成した画像ムラが生じたり、撮影枚数が多くなり撮影の終了までに時間がかかることがあります。事前にテスト撮影を行なって **[ステップ幅]** の目安を確認しておくことをおすすめします。
- 撮影回数を多く設定すると、合成に時間がかかります。
- ストロボ撮影はできません。
- フリッカー光源下では、画像にムラが発生することがあります。そのときは、シャッタースピードを遅くすることで緩和されることがあります。
- レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉のときは、フォーカスブラケット機能は使用できません。
- 撮影を中止したときは、最後の画像の露出が不完全になります。Digital Photo Professionalで画像を合成するときは、最後に撮影された画像を使用しないでください。

- 三脚、リモートスイッチ（別売／📖156）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売／📖156）などの使用をおすすめします。
- 絞り数値を、F5.6~F11の範囲で設定して撮影することをおすすめします。
- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度などは1枚目の条件で固定されます。
- 撮影を中止するときは、シャッターボタンを再度全押しします。
- 電源スイッチを〈**OFF**〉にすると、**[フォーカスBKT撮影]** が **[しない]** になります。

インターバルタイマー撮影

ファインダー撮影時に、インターバルタイマー機能を使用すると、撮影間隔、撮影回数を任意に設定して、一定間隔で1枚撮影を繰り返すことができます。

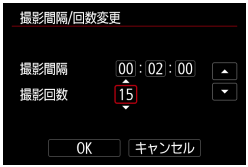


1 [📷：インターバルタイマー] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

- **[する]** を選び、〈INFO〉ボタンを押します。



3 撮影間隔、撮影回数を設定する

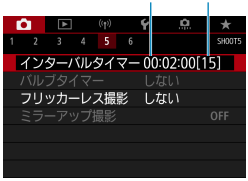
- 項目（時：分：秒／回数）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈⏶〉の状態にします。
- 数値を設定し〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

- **撮影間隔**

  [00：00：01] ～ **[99：59：59]** の範囲で設定することができます。

- **撮影回数**

  [01] ～ **[99]** の範囲で設定することができます。**[00]** に設定したときは、撮影回数制限なしで、インターバルタイマー撮影を終了するまで撮影が継続します。



4 [OK]を選ぶ

- メニュー画面に設定した内容が表示されます。

(1) 撮影間隔
(2) 撮影回数

5 撮影する

- 1枚目が撮影され、以降は設定した内容でインターバルタイマー撮影が行われます。
- インターバルタイマー撮影中は、表示パネルに〈TIMER〉が点滅します。
- 設定した回数の撮影が終わると、インターバルタイマー撮影が終了し、自動的に解除されます。

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- インターバルタイマー撮影を開始したあとでも、シャッターボタンを全押しすると、通常の撮影を行うことができます。ただし、次のインターバルタイマー撮影の約5秒前になると、撮影機能の設定、メニュー操作、画像の再生などの操作や表示が中断され、撮影準備状態になります。
- 次のインターバルタイマー撮影が行われるタイミングで撮影しているときや、画像処理中のときは、その回のインターバルタイマー撮影がキャンセルされます。
- インターバルタイマー中は、**[: オートパワーオフ]**が**[しない]**以外に設定されているときは、約8秒間何も操作しないと、オートパワーオフが機能します。次の撮影の約1分前になると、自動的に電源が入ります。
- AEBやWBブラケティング、多重露出、HDRモードと組み合わせて撮影することもできます。
- 電源スイッチを〈OFF〉にすると、インターバルタイマー撮影を途中で終了することができます。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉に設定されているときは、AFでピントが合わないと撮影が行われません。〈**MF**〉に設定し、手動でピントを合わせてから撮影することをおすすめします。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときは、設定した間隔で撮影できません。そのため、設定した撮影回数より少ない枚数の静止画が記録されます。また、シャッタースピードが撮影間隔とほぼ同じ（近い）ときも、撮影枚数が少なくなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- ストロボを使用してインターバルタイマー撮影を行うときは、ストロボの充電に必要な時間よりも長い撮影間隔を設定してください。撮影間隔が短いと、ストロボなしで撮影が行われることがあります。
- 撮影間隔が短いときは、撮影が行われなかったり、AFが行われずに撮影されることがあります。
- 電源スイッチを〈**OFF**〉にしたときや、撮影モードを〈**B**〉〈**C1**/**C2**〉にしたとき、EOS用ソフトウェアEOS Utilityを使用したときは、インターバルタイマーが解除され、設定が**【しない】**になります。
- インターバルタイマー撮影開始後は、リモコン撮影（🕮155）やEOS用外部ストロボによるリモートレリーズ撮影はできません。

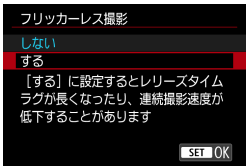
フリッカーの影響の低減

応用

蛍光灯などの光源下で、速いシャッタースピードで撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。ファインダー撮影時にフリッカーレス撮影機能を使用すると、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。



1 **［📷：フリッカーレス撮影］を選ぶ**



2 **［する］を選ぶ**

3 **撮影する**

- **［する］**設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、レリーズタイムラグが長くなることがあります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- ミラーアップ撮影時、ライブビュー撮影時、動画撮影時は機能しません。
- 100Hz、120Hz の点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。
- **〈P〉〈Av〉**モードで連続撮影中にシャッタースピードが変化したときや、同一シーンでシャッタースピードを変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なることがあります。色あいの変化が気になるときは、**〈M〉〈Tv〉**モードでシャッタースピードを一定にして撮影してください。
- **［する］**に設定したときと、**［しない］**に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。

- AEロック撮影時を含む撮影開始時に、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が変化することがあります。
- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- フリッカーの影響が低減された状態で撮影が行われるときは、〈Flicker!〉が点灯します。ファインダー内に〈Flicker!〉が表示されないときは、**[ファインダー内表示]**の**[フリッカー検知]**で**[表示する]**を選びます（📖536）。なお、フリッカーが発生しない光源下や、フリッカーを検知できないときは、〈Flicker!〉は表示されません。
- **[フリッカー検知]**が**[表示する]**の状態で、**[📷：フリッカーレス撮影]**を**[しない]**に設定し、フリッカー光源下で測光を行ったときは、ファインダー内の〈Flicker!〉が点滅して警告が行われます。
- かんたん撮影ゾーンのときは〈Flicker!〉は表示されませんが、フリッカーの影響が低減された状態で撮影されます。
- ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

ミラーアップ撮影

応用

ファインダー撮影時に、ミラーを上げた状態にしておくことで、ミラー動作のショックによるブレを低減することができます。近接（マクロ）撮影や超望遠レンズを使用した撮影、低速シャッターによる撮影などに効果的です。



1 [📷：ミラーアップ撮影] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

3 ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しする

- ミラーが上がります。

4 もう一度シャッターボタンを全押しする

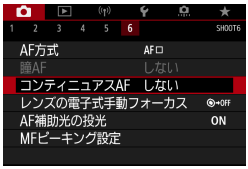
- 撮影が行われ、ミラーが下がります。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 晴天の真夏の海岸や、スキー場のように極端に明るいところでミラーアップ撮影を行うときは、ミラーアップ安定後、速やかに撮影してください。
- ミラーアップ中は、撮影機能の設定やメニュー操作などはできません。

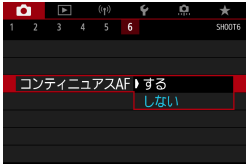
- **[する]** 設定時は、1枚撮影になります。
- セルフタイマーを併用することもできます。
- ミラーアップしてから約30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しすると、ミラーアップします。
- 三脚と別売のリモートコントローラー（リモートスイッチ RS-60E3、リモートコントローラーRC-6、ワイヤレスリモートコントローラーBR-E1の使用をおすすめします。

コンティニュアスAF(ライブビュー撮影)

ライブビュー撮影時に、常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。



1 **[📷：コンティニュアスAF]を選ぶ**



2 **[する]を選ぶ**

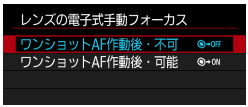
- **[する]**設定時は、常にレンズが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。

レンズの電子式手動フォーカスの設定 応用

電子式の手動フォーカス機能を備えたEF/EF-Sレンズを使用して、ワンショットAFを行ったときの手動ピント調整の設定ができます。



1 [📷：レンズの電子式手動フォーカス]を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **ワンショットAF作動後・不可**
  AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。
- **ワンショットAF作動後・可能**
  AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。

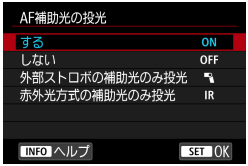
● お使いのレンズの手動フォーカス機能の仕様は、レンズの使用説明書でご確認ください。

AF補助光の設定

ファインダー撮影時に、内蔵ストロボ、またはEOS用の外部ストロボから、AF補助光を投光することができます。



1 **［📷：AF補助光の投光］を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

- **［ON］する**

  必要に応じてAF補助光が投光されます。
  内蔵ストロボでAF補助光を投光するときは、〈ϟ〉ボタンを押します。

- **［OFF］しない**

  AF補助光は投光されません。AF補助光を投光したくないときに設定します。

- **［］外部ストロボの補助光のみ投光**

  外部ストロボ使用時のみ、必要に応じてAF補助光が投光されます。

- **［IR］赤外光方式の補助光のみ投光**

  赤外光方式のAF補助光機能を搭載した外部ストロボ使用時は、赤外光によるAF補助光が投光されます。

- 外部ストロボのカスタム機能で**【AF補助光の投光】**が**【しない】**に設定されているときは、外部ストロボからのAF 補助光は投光されません。

- ライブビュー撮影時に、LEDライト付きEXスピードライトを取り付けて、**【する】**または**【外部ストロボの補助光のみ投光】**に設定すると、必要に応じてストロボのLEDライトからAF補助光が投光されます。

静止画撮影全般の注意事項

ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時共通

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。

ライブビュー撮影時

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

画質について

- 撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

白い［🌡］と赤い［🌡］表示について

- 撮影を長時間行ったり、高温下で撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い【🌡】または赤い【🌡】が表示されます。
- 白い【🌡】は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 白い【🌡】が表示されたときは、高ISO感度を使用せず、低ISO感度での撮影をおすすめします。
- 赤い【🌡】は、もうすぐ撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで撮影ができなくなるため、撮影を一時休止するか、一旦電源を切ってしばらくカメラを休止してください。
- 高温下で撮影を長時間行うと、白い【🌡】または赤い【🌡】が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い【🌡】が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示中は、シャッタースピードと絞り数値が赤色で表示されます。拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

映像について

- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面や露出値の表示がちらつくことがあります。そのときは、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で【**：画面の明るさ**】を明るい設定にすると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

カスタム機能について

- 一部のカスタム機能は機能しません（設定が無効になるカスタム機能があります）。

レンズとストロボについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- 内蔵ストロボ使用時にFEロックはできません。また、外部ストロボ使用時にFEロック、モデリング発光はできません。

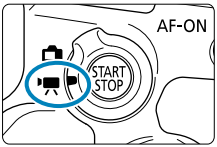
- HDMIケーブル HTC-100（別売）を使用すると、映像をテレビに表示することができます（🕮344）。ただし、音声は出力されません。

ライブビュー撮影時の情報表示について

静止画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、🕮623を参照してください。

- 【Exp.SIM】が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- 【Exp.SIM】が点滅しているときは、低輝度、または高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 撮影機能の設定条件によっては、露出シミュレーションが行われないことがあります。そのときは【Exp.SIM】とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき画面に表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。
- ヒストグラムは、【📷：露出Simulation】が【する】に設定されているときに（🕮221）表示することができます。

動画撮影



動画撮影を行うときは、ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にします。

- ページタイトルの右の応用は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。

- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。

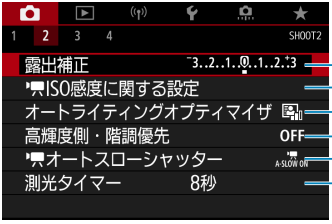
メニュー目次:動画撮影

● 撮影1



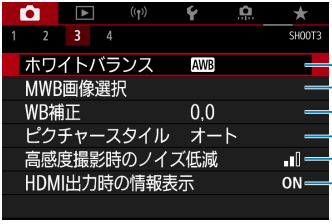
288
295
298
322
300
322
312

● 撮影2



211
322
218
323
324
220

● 撮影3



224
225
227
230
238
325

● 撮影4



135
317
142
266
319
320
149

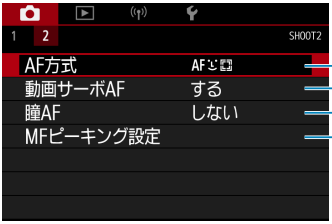
かんたん撮影ゾーンのときは、以下の画面が表示されます。なお、設定できる項目は撮影モードによって異なります。

- 撮影1



288
295
298
300
322
312

- 撮影2



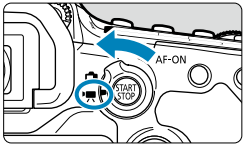
135
317
142
149

動画撮影

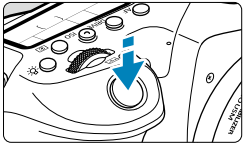
自動露出撮影

明るさに応じて自動露出制御が行われます。

1 モードダイヤルを〈SCN〉〈◒〉〈M〉以外にする

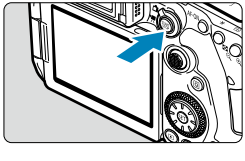


2 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする



3 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（📖135、📖147）。
- 初期状態では、**[📷：動画サーボAF]**が**[する]**に設定されているため、常時ピント合わせが行われます（📖317）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。



4 動画を撮影する

- 〈START STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が始まります。



- 動画撮影中は画面右上に「●REC」が表示されます。
- 音声は内蔵マイク（📖31）で記録されます。
- もう一度〈START STOP〉ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

かんたん撮影ゾーン時のISO感度について

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。

〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈B〉モード時のISO感度について

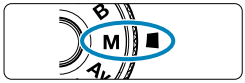
- [📷：🎥ISO感度に関する設定]の内容に従って設定されます（📖322）。

- 〈SCN〉モードに設定したときは、HDR動画撮影になります（📖284）。
- 〈Tv〉〈Av〉モードに設定しても、シャッタースピード、絞り数値を優先した動画撮影はできません。〈P〉モードと同じ、自動露出撮影になります。
- タイムラプス動画撮影時のISO感度については、📖322を参照してください。

- かんたん撮影ゾーンのときは、〈A+〉モードで撮影したときと同じ撮影結果になります。また、〈A+〉モードでは画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます（📖627）。
- 応用撮影ゾーンのときは、〈✱〉ボタン（📖161）を押すと、露出を固定（AEロック）することができます。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊡〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈⊡〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 応用撮影ゾーンのときは、±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- 動画の画像情報（Exif情報）にISO感度、シャッタースピード、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、自動露出で動画を撮影する際（タイムラプス動画撮影を除く）、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したEXスピードライトの使用説明書を参照してください。

マニュアル露出撮影

任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。



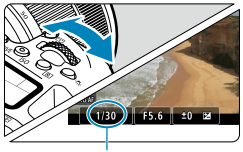
1 ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする

2 モードダイヤルを〈M〉にする



3 ISO感度を設定する

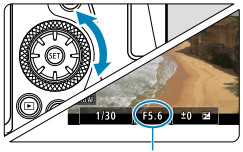
- 〈ISO〉ボタンを押します。
  モニターにISO感度の設定画面が表示されます。
- 〈☆〉〈◯〉で設定します。



(1)

4 シャッタースピードと絞り数値を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッタースピード（1）は〈☆〉、絞り数値（2）は〈◯〉で設定します。



(2)

5 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順3、4と同じです（📖277）。

- 動画撮影中にシャッタースピード、絞り数値やISO感度の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- ISOオート設定時に±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、〈⊞〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます（〈⊞〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- 〈M〉モード時に撮影準備状態で〈INFO〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。

〈M〉モード設定時のISO感度

ISO感度を任意に設定したり、[AUTO]を選ぶこともできます。ISO感度については、🕮620を参照してください。

設定できるシャッタースピード

〈**M**〉モード時に設定できるシャッタースピードは1/4000～1/8秒です。

- タイムラプス動画撮影（📖300）のときは、設定できるシャッタースピードが異なります。

静止画撮影

動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

動画撮影時の情報表示

動画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、📖625を参照してください。

動画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- 【AWB】【AWB W】の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にシャッターボタンを半押ししてAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- カメラに内蔵されたマイク（🕮277）を指などでふさがないようにしてください。
- 『動画撮影全般の注意事項』は、🕮326〜🕮327にまとめて記載しています。
- 必要に応じて🕮269〜🕮271の『静止画撮影全般』もお読みください。

動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、4K／フルHD／HD撮影時ともに約100%です。
- **[🔧:動画撮影時シャッターボタンの機能]**の**[全押し]**を**[動画撮影の開始/終了]**に設定すると、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます。
- 音声はカメラに内蔵されたマイク（📖277）でステレオ録音されます。
- 外部マイク入力端子に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）などの外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます（📖296）。
- ミニプラグ（φ3.5mm）を備えたマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- カラーサンプリングは、4K動画／フルHD動画／HD動画：YCbCr 4:2:0（8bit）、色空間は、4K動画／フルHD動画／HD動画：Rec.ITU-R BT.709で記録されます。

HDR動画の撮影

明暗差の大きいシーンで白とびが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）動画を撮影することができます。



1 モードダイヤルを〈SCN〉にする



2 HDR動画を撮影する

- 通常の動画撮影と同じ方法で撮影します。

- HDR動画は、複数のフレームを合成して映像を生成するため、映像の一部がゆがむことがあります。手ブレの影響により、この現象が目立つことがあるため、三脚の使用をおすすめします。なお、三脚を使用して撮影しても、コマ送りやスロー再生を行ったときは、通常の再生を行ったときに比べ、残像が目立ったり、ノイズが増えたように見えることがあります。

- 記録サイズは、FHD 29.97P IPB（NTSC）、またはFHD 25.00P IPB（PAL）で記録されます。
- HDR動画撮影時のISO感度は、自動設定されます。

フィルター効果を付けた動画撮影

〈🎨〉（クリエイティブフィルター）モードでは、フィルター効果を付けた動画を撮影することができます。



1 モードダイヤルを〈🎨〉にする

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

- クイック設定の状態になります。



3 [📹]を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉で画面左上の[📹]（撮影モード）を選び、〈(SET)〉を押します。



4 フィルター効果を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉でフィルター効果（📖286～📖287）を選び、〈(SET)〉を押します。
- フィルター効果が反映された映像が表示されます。
- ジオラマ風動画のときは、ピントを合わせたい位置に、AFフレームを移動します。AFフレームがジオラマ枠から出たときは、ジオラマ枠を移動させてAFフレームの位置に合わせます。



5 フィルター効果の強さを調整する

- 〈Q〉ボタンを押して、**[撮影モード]** の下のアイコンを選びます。
- 〈◄〉〈►〉で効果を調整し、〈(SET)〉を押します。
- ジオラマ風動画設定時は、再生時の速度（倍速）を選びます。

6 撮影する

- 拡大表示はできません。
- ヒストグラムは表示されません。
- ビデオスナップ、タイムラプス動画、動画電子ISは設定できません。

- 応用撮影ゾーンのときは、クイック設定でクリエイティブフィルターを設定することができます（📖103）。

各クリエイティブフィルターの特徴について

- **ファンタジー**

  夢の中にいるような、幻想的でやわらかな雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺にモヤがかかったような動画になります。効果を調整することで、画面周辺のモヤがかかる範囲を変えることができます。

- **オールドムービー**

  映像の揺れや傷、明滅効果で古い映画のような雰囲気になります。画面の上下が黒くマスクされます。効果を調整することで、映像の揺れや傷の具合を変えることができます。

- **メモリー**

  遠い昔の記憶のような雰囲気になります。全体的にやわらかい感じで、画面周辺の光量を落とした動画になります。効果を調整することで、画面全体の彩度や画面周辺の暗部の範囲を変えることができます。

- **ダイナミックモノクローム**

  黒と白の階調を際立たせ、力強い臨場感のある雰囲気になります。効果を調整することで、粒子のざらついた感じや白黒の感じを変えることができます。

- **ジオラマ風動画**

  ジオラマ（ミニチュア模型）風の動画が撮影できます。再生時の速さを、選んでから撮影します。手順4で〈🔍〉ボタンを押す（または画面右下の［🔍］をタッチする）と、ジオラマ枠の色が変わり、〈▲〉〈▼〉で移動させることができます。画面の中央に戻したいときは〈INFO〉ボタンを押します。画面左下の［⊡］をタッチすると、ジオラマ枠の縦／横を切り換えることができます。〈(SET)〉を押すと、ジオラマ枠の位置が確定します。手順5で再生時の速度を、**［5倍速］［10倍速］［20倍速］**のいずれかに設定してから撮影します。AF方式はライブ1点AFで、白枠の中央にピントが合います。撮影中、白枠は表示されません。

倍速と再生時間の目安（動画を1分間撮影したとき）

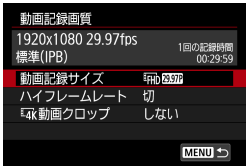
倍速	再生時間
5倍	約12秒
10倍	約6秒
20倍	約3秒

- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。

［］について

- 音声は録音されません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- 再生時間が1秒未満のときは編集できません（📖338）。

動画記録画質の設定



[📷：動画記録画質]で、画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を設定することができます。撮影した動画は、MP4形式で記録されます。
なお、**[動画記録サイズ]**の画面に表示されるフレームレートは、**[🎥：ビデオ方式]**の設定（📖520）により、自動的に切り換わります。

● 動画をカードに記録するときに必要なカードの書き込み／読み取り速度（要求カード性能）は、動画記録サイズにより異なります。動画撮影を行う前に📖617を参照して、要求カード性能を確認してください。

画像サイズ

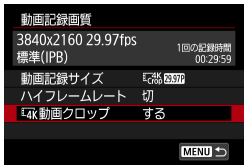
- **[4K] 3840×2160**
  4K画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。
- **[FHD] 1920×1080**
  フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。
- **[HD] 1280×720**
  ハイビジョン（HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。

- **[: ビデオ方式]** の設定を変更したときは、**[: 動画記録サイズ]** の再設定を行ってください。
- 4K動画、FHD 59.94P / 50.00P で撮影した動画は、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録画質の設定や、クロップ撮影の設定により、解像感やノイズ感は異なります。

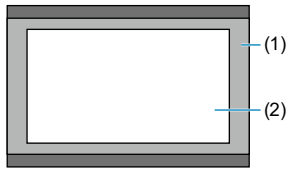
- VGA画質の動画を撮影することはできません。

4K動画撮影

- 4K動画を撮影するには高性能なカードが必要です。詳しくは、617の『動画が記録できるカード』を参照してください。
- 4K動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。**動画撮影時に［ ］や赤い が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。**
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、約830万画素（3840×2160）のJPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（342）。
- **[4K 動画クロップ]** で **[する]** を選ぶと、撮影画面の中央部をクロップした動画（望遠レンズで撮影したような動画）を撮影することができます。ただし、タイムラプス動画では **[する]** に設定してもクロップなしで撮影されます。



撮影範囲



(1) **[しない]**
(2) **[する]**

フレームレート（fps：frame per second）

- ［59.94P］59.94fps／［29.97P］29.97fps／［23.98P］23.98fps
  テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- ［50.00P］50.00fps／［25.00P］25.00fps
  テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

圧縮方式

- ［IPB］IPB（標準）
  複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。
- ［IPB］IPB（軽量）
  IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。（同じ容量のカードであれば）IPB（標準）よりも撮影できる時間が長くなります。

動画記録形式

- ［MP4］MP4
  このカメラで撮影した動画は、すべてMP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。

動画が記録できるカード

各動画記録サイズで記録できるカードについては、🕮617を参照してください。
なお、動画を撮影するときは、書き込み／読み取り速度（要求カード性能）が🕮617の表に示す速度、または規格以上で、大容量のカードを使用してください。なお、**事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録サイズ（🕮288）で正しく記録できることを確認してください。**

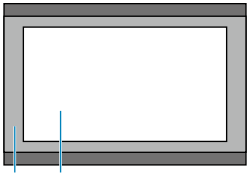
- 4K動画撮影を行うときは、撮影前にカードを初期化してください（🕮511）。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（🕮511）。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

ハイフレームレート

フルハイビジョン（Full HD）画質で119.88fps/100.0fpsの高フレームレートの動画を撮影することができます。スローモーション再生用の映像素材の撮影に適しています。なお、1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。





(1) (2)

FHD 119.9P IPB、またはFHD 100.0P IPBで記録されます。また、撮影画面の中央部をクロップして撮影されます。
ハイフレームレート動画撮影中は、動画サーボAF、動画電子ISは機能しません。また、AFによるピント合わせはできません。

（1）Full HD撮影時
（2）ハイフレームレート撮影時

なお、ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録されるため、1/4倍速のスローモーションで再生されます。

- 設定を【切】に戻したときは、【動画記録サイズ】の設定を確認してください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でハイフレームレート動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ハイフレーム動画撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- ハイフレームレート動画撮影時に画面に表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- 音声は記録されません。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

- **このカメラで初期化した「SD/SDHCカード」使用時**

  SD/SDHCカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。
  FAT32形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。
  なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

- **このカメラで初期化した「SDXCカード」使用時**

  SDXCカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。
  exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

- 4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか、カードリーダーを使用してください（593）。パソコン（OS）の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

各動画記録サイズで動画記録できる時間、およびファイルサイズについては、🕮618を参照してください。

撮影時間の制限

- **ハイフレームレート以外の動画撮影時**
  1回に撮影できる時間は最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。
- **ハイフレームレート動画撮影時**
  1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。7分29秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、ハイフレームレート動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

録音の設定



内蔵のステレオマイク、または外部ステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。
[📷：録音] で録音に関する設定を行うことができます。

録音／録音レベル

- **オート**
  録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。
- **マニュアル**
  録音レベルを任意に調整することができます。
  [録音レベル] を選び、レベルメーターを見ながら〈◀〉〈▶〉を押すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（−12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。
- **しない**
  録音は行われません。

ウィンドカット

[オート] に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を自動的に低減することができます。カメラに内蔵されたマイクを使用したときのみ機能します。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

アッテネーター

音割れを抑制する機能です。**[録音]** を **[オート]** または **[マニュアル]** に設定して音割れするときは、**[入]** を選びます。

外部マイク

外部マイク入力端子に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます。指向性ステレオマイクロホンDM-E1（別売）の使用をおすすめします。

ヘッドフォン

ヘッドフォン端子に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画撮影時または再生時の音声を聴くことができます。ヘッドフォンの音量は、**[：ヘッドフォン音量]**（📖523）または、〈Q〉ボタンを押して【🎧】を選び、〈◀〉〈▶〉で調整します。

- 内蔵マイク／外部マイク使用時にWi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクやヘッドフォンを接続するときは、プラグが根元まで差し込まれていることを確認してください。
- カメラに内蔵されたマイクにより、撮影中の操作音やカメラの作動音なども一緒に録音されます。なお、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を使用すると、これらの音を低減できることがあります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- ヘッドフォン使用時の音声は、ノイズ低減処理が行われていないため、実際に動画に記録される音声とは異なります。
- ヘッドフォンで音声を聴きながら、**[録音]**の設定を切り換えないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

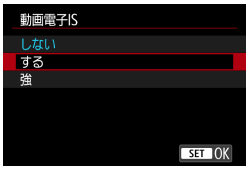
- かんたん撮影ゾーンのときは**[録音]**：**[する]**（**[しない]**になります。なお、**[する]**に設定したときは、録音レベルが自動調整されます。
- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（**[録音：しない]**設定時を除く）。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。

動画電子IS

動画撮影時の手ブレを、カメラの「動画電子IS」機能で軽減することができます。手ブレ補正機能が搭載されていないレンズを使用したときでも、動画電子IS機能により、手ブレ補正効果が得られます。手ブレ補正機能が搭載されているレンズを使用するときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。



1 **[📷：動画電子IS] を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

- **しない（((OFF）**
  動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。
- **する（((**
  手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。
- **強（((**
  [する] 設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

- レンズの（光学式）手ブレ補正スイッチが〈OFF〉のときは、動画電子ISは機能しません。
- レンズの焦点距離が800mmを超えるときは、動画電子ISは機能しません。
- 〈SCN〉〈◕〉モード時、ハイフレームレート、タイムラプス動画、クリエイティブフィルター設定時は、動画電子ISは設定できません。
- 画角が広くなるほど、手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭くなるほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- TS-Eレンズや魚眼レンズ使用時、または他社製レンズ使用時は「しない」に設定することをおすすめします。
- 拡大表示時、動画電子ISの効果は映像に反映されません。
- 動画電子ISは映像を拡大しているため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- 動画電子ISを設定すると、AFフレームの大きさも変わります。
- 三脚使用時は「しない」に設定することをおすすめします。

タイムラプス動画の撮影

一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、4K動画またはフルHD動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

タイムラプス動画は、4K撮影時：4K 29.97P ALL-I（NTSC）／4K 25.00P ALL-I（PAL）、フルHD撮影時：FHD 29.97P ALL-I（NTSC）／FHD 25.00P ALL-I（PAL）の設定で、ともにMP4形式で記録されます。

なお、フレームレートは、**[: ビデオ方式]**の設定（📖520）により自動的に切り換わります。

---

1 **撮影モードを選ぶ**

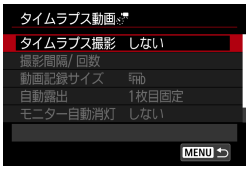
- 〈A+〉〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**B**〉モードのときは自動露出撮影になります。
- 〈**M**〉モードのときはマニュアル露出撮影になります。

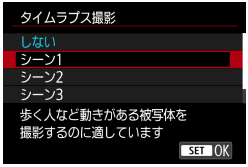
2 **ライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈🎥〉にする**

3 **[📷 : タイムラプス動画]を選ぶ**



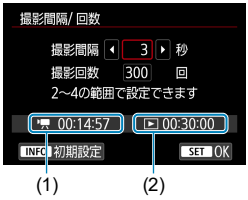
4 **[タイムラプス撮影]を選ぶ**





5 シーンを選ぶ

- 撮影シーンに応じて、シーンを選びます。
- 撮影間隔と回数を自由に設定して撮影したいときは**[カスタム]**を選びます。



6 撮影間隔を設定する

- **[撮影間隔/回数]**を選びます。
- **[撮影間隔]**（秒）を選びます。〈◀〉〈▶〉で数値を設定し〈(SET)〉を押します。
- **[🎥:撮影所要時間]**（1）、**[▶:再生時間]**（2）を参考にして設定します。

[カスタム] 設定時

- **[撮影間隔]**（分：秒）を選びます（1秒間隔の撮影はできません）。
- 〈(SET)〉を押して〈⍏〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉で数値を設定し〈(SET)〉を押します（〈▭〉の状態に戻ります）。
- **[OK]**を選ぶと設定されます。



7 撮影回数を設定する

- **[撮影回数]** を選びます。〈◀〉〈▶〉で数値を設定し〈(SET)〉を押します。
- **[🎥：撮影所要時間]** **[▶：再生時間]** を参考にして設定します。

[カスタム] 設定時

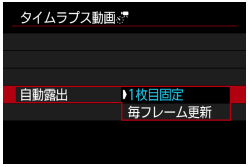
- 項目（桁）を選びます。
- 〈(SET)〉を押して〈⇕〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉で数値を設定し〈(SET)〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
- **[▶：再生時間]** が赤く表示されていないことを確認します。
- **[OK]** を選ぶと設定されます。

- **[シーン**]** 設定時は、各シーンに適切な撮影ができるように、設定できる撮影間隔/回数が限定されています。
- タイムラプス動画が記録できるカード（要求カード性能）については、🕮617を参照してください。
- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。



8 動画記録サイズを選ぶ

- **4K（3840×2160）**
  4K画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。
  フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。
  [動画記録画質] で **[4K 動画クロップ]** を **[する]** に設定した場合でも、クロップなしで撮影されます。
- **FHD（1920×1080）**
  フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。
  フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。



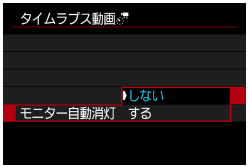
9 [自動露出] を設定する

- **1枚目固定**

  1枚目を撮影するときに測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。

- **毎フレーム更新**

  2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、**[オート]** に設定されているときは、2枚目以降も1枚毎に自動更新されます。



10 [モニター自動消灯] を設定する

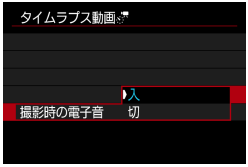
- **しない**

  タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます（撮影のときだけ画面が消灯します）。撮影開始から約30分経過すると、画面が消灯します。

- **する**

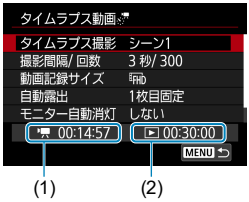
  撮影開始から約10秒経過すると、画面が消灯します。

● タイムラプス動画撮影中に〈INFO〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。



11 電子音を設定する

- **[撮影時の電子音]** を選びます。
- **[切]** に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。



12 設定内容を確認する

(1) 撮影所要時間

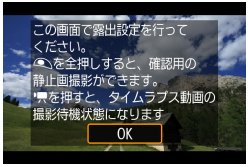
撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「***日」で表示されます。

(2) 再生時間

一定間隔で撮影した静止画から4K動画、またはフルHD動画を生成したときに、動画として記録される時間です（＝動画再生に必要な時間）。

13 メニューを終了する

- 〈**MENU**〉ボタンを押してメニュー画面を消します。



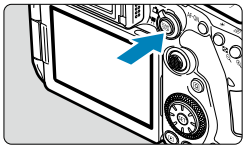
14 メッセージを確認する

- メッセージを確認して [OK] を選びます。

15 テスト撮影する

- 静止画撮影と同じように、露出や撮影機能の設定を行い、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
- シャッターボタンを全押しすると、テスト撮影が行われ、カードに画像（静止画）が記録されます。
- 撮影結果を確認し、問題がなければ次の手順に進みます。
- もう一度テスト撮影するときは、この手順を繰り返します。

- テスト撮影画像は、JPEG ◢L の画質で記録されます。
- **[：動画撮影時シャッターボタンの機能]** の **【半押し】** が、**【測光・動画サーボ】** に設定されている状態で、タイムラプス動画撮影の設定を行うと、自動的に **【測光・ワンショット】** に切り換わります。

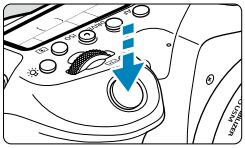


16 〈START STOP〉ボタンを押す

- タイムラプス動画の撮影準備状態になります。
- 手順15に戻る時は、もう一度動画撮影ボタンを押します。



(1) (2)



17 タイムラプス動画を撮影する

- 〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示される「撮影所要時間(1)」「撮影間隔(2)」を再確認します。
- シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。
- タイムラプス動画撮影中は、AFは行われません。
- タイムラプス動画撮影中は、画面右上に「●REC」が表示され、表示パネルに〈⁂〉が点滅します。
- タイムラプス動画撮影を解除するときは、**[タイムラプス撮影]**を**[しない]**に設定します。

- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、**【再生時間】**が赤く表示されます。そのまま撮影することはできますが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- 設定した**【撮影回数】**でファイルサイズが4GBを超えるときに、カードがexFAT形式でフォーマットされていないときは（🕮512）、**【再生時間】**が赤く表示されます。そのまま撮影を行ったときは、ファイルサイズが4GBに達した時点で、タイムラプス動画撮影が終了します。
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、**【タイムラプス動画】**で**【しない】**以外を選ぶことはできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- シャッタースピードが1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや、高ISO感度撮影時のノイズなど）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。そのときは【Exp.SIM】マークが点滅します。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声は記録されません。
- タイムラプス動画撮影時は、**【：動画撮影時シャッターボタンの機能】**の設定に関わらず、シャッターボタンを全押しすると、動画撮影を開始／終了することができます。
- **【撮影間隔】**が3秒以下で、**【自動露出】**が**【毎フレーム更新】**に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。

- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときや、遅いシャッタースピードが自動設定されたときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。また、シャッタースピードが撮影間隔と近いときも、撮影が行われないことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- **[モニター自動消灯]**を**[しない]**に設定しても、露光中はモニターが消灯します。また、次の撮影までの間隔が短いときは、映像が表示されないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、**[：タイムラプス動画]**を**[しない]**に設定してください。**[しない]**以外を選択しているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズの手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチ〈**OFF**〉を行ったときや、オートパワーオフで電源が自動的に切れたときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が**[しない]**になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が**[しない]**になります。
  - **[：センサークリーニング]**の**[今すぐクリーニング]**、**[：カメラ設定初期化]**を選んだとき
  - モードダイヤルを〈**SCN**〉〈〉に設定したとき

- 白い【🌡】（📖326）が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い【🌡】が消えてから（カメラ内部の温度が下がってから）撮影開始することをおすすめします。
- **【自動露出】**を**【毎フレーム更新】**に設定して撮影したときは、撮影モードにより、タイムラプス動画の画像情報（Exif情報）に、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値が記録されないことがあります。

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前に手順15のテスト撮影や、タイムラプス動画自体のテスト撮影をおすすめします。
- 映像の視野率は、4K／フルHDタイムラプス動画撮影時ともに約100%です。
- タイムラプス動画撮影を開始したあと、途中で中止するときは、シャッターボタンを全押しするか、〈START/STOP〉ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のときも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのとき**【再生時間】**は「00'00"」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- カラーサンプリングは、4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：YCbCr 4:2:0（8bit）、色空間は、4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

リモートコントローラー RC-6（別売）、またはワイヤレスリモートコントローラーBR-E1（別売）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。あらかじめ、**[📷：リモコン撮影]**を**[する]**に設定してください。

● **リモートコントローラー RC-6使用時**

カメラの状態／リモコン設定	〈2〉「2秒後撮影」	〈●〉「すぐに撮影」
テスト撮影画面	撮影待機状態へ	静止画撮影
撮影待機状態	テスト撮影画面へ	撮影開始
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

● **ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時**

- あらかじめ、BR-E1とペアリングを行ってください（📖464）。
- テスト撮影を行い、カメラを撮影準備状態（📖307 手順16の状態）にしたあと、BR-E1の撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを、〈●〉即レリーズ（すぐに撮影）、または〈2〉2秒後レリーズ（2秒後撮影）に設定してください。
- リモコンのスイッチが〈🎥〉に設定されているときは、タイムラプス動画撮影を開始することはできません。

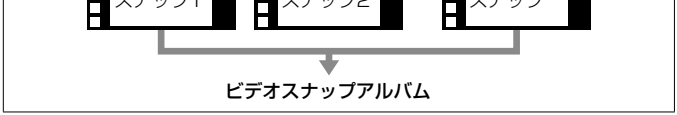
カメラの状態／リモコン設定	〈●〉「すぐに撮影」 〈2〉「2秒後撮影」	〈🎥〉「動画撮影」
テスト撮影画面	静止画撮影	撮影待機状態へ
撮影待機状態	撮影開始	テスト撮影画面へ
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

タイムラプス動画撮影可能時間の目安

タイムラプス動画撮影ができる時間（撮影開始からバッテリー切れまで）の目安については、📖619を参照してください。

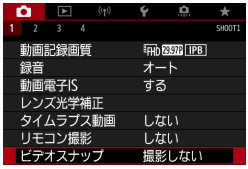
ビデオスナップの撮影

1シーンが数秒間の短い動画「ビデオスナップ」（以下スナップ）を繰り返し撮影して、旅行やイベントなどの想い出を、1つの動画に簡潔にテンポ良くまとめた「ビデオスナップアルバム」（以下アルバム）を作ることができます。
ビデオスナップは、動画記録サイズが FHD 29.97P IPB（NTSC）、FHD 25.00P IPB（PAL）のときに設定できます。
できあがったアルバムは、BGM（音楽）と一緒に再生することもできます（🕮376）。



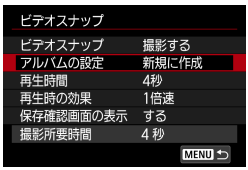
ビデオスナップの設定をする

1 モードダイヤルを〈◎〉以外にする



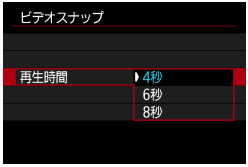
2 [📷：ビデオスナップ] を設定する

- **[撮影する]** を選びます。



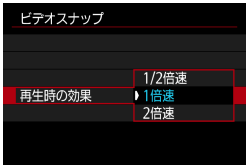
3 [アルバムの設定] を設定する

- **[アルバムを新規に作成]** を選びます。
- メッセージを確認して **[OK]** を選びます。



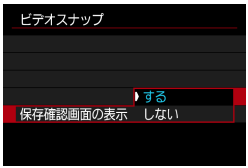
4 [再生時間] を設定する

- 1スナップの再生にかかる時間です。



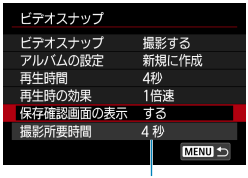
5 [再生時の効果] を設定する

- アルバムの再生速度です。



6 [保存確認画面の表示] を設定する

- **[する]** を選びます。



7 撮影所要時間を確認する

- 再生時間と再生時の効果をもとに、1スナップの撮影に必要な時間（1）が表示されます。

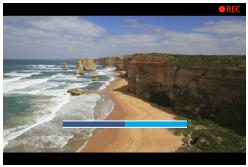


(2)

8 メニューを終了する

- 〈MENU〉ボタンを押してメニューを終了します。
- 画面に撮影時間（2）を示す青いバーが表示されます。

スナップを撮影してアルバムを作る



9 最初のスナップを撮影する

- 動画撮影ボタンを押して撮影します。
- 撮影時間を示す青いバーが減っていき、設定時間経過後、自動的に撮影が終了します。
- 確認画面が表示されます（🕮315）。



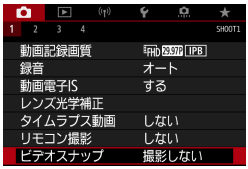
10 アルバムとして保存する

- **［アルバムとして保存］**を選びます。
- アルバムの先頭スナップとして保存されます。



11 続けてスナップを撮影する

- 手順9と同じ操作で、次のスナップを撮影します。
- **［アルバムに追加する］**を選びます。
- 別のアルバムを作るときは、**［新しいアルバムとして保存］**を選びます。
- 必要に応じて手順11を繰り返します。



12 ビデオスナップ撮影を終了する

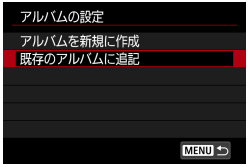
- **[ビデオスナップ]** を **[撮影しない]** に設定します。**通常の動画を撮影するときは、[撮影しない] に設定してください。**
- 〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了すると、通常の動画撮影に戻ります。

手順10、手順11の画面について

項目	内容
アルバムとして保存（手順10）	アルバムの最初のスナップとして保存します。
アルバムに追加する（手順11）	いま撮影したスナップを、直前に記録したアルバムに追加します。
新しいアルバムとして保存（手順11）	新しいアルバムを作成し、最初のスナップとして保存します。直前に記録したアルバムとは別ファイルになります。
撮影したスナップを再生する（手順10、手順11）	いま撮影したスナップを再生します。
アルバムとして保存しない（手順10） アルバムに追加しないで消去（手順11）	いま撮影したスナップをアルバムに保存しないで消去します。確認画面で **[OK]** を選びます。

- スナップを撮影したあと、すぐに次のスナップを撮影したいときは、**[📷：ビデオスナップ]** の **[保存確認画面の表示]** を **[しない]** に設定します。この設定にしておくと、撮影直後に確認画面が表示されなくなるため、すぐに次のスナップを撮影することができます。

既存のアルバムに追記する



1 [既存のアルバムに追記]を選ぶ

- 312の手順3で**[既存のアルバムに追記]**を選びます。



2 既存のアルバムを選ぶ

- 〈◌〉で既存のアルバムを選び、〈(SET)〉を押します。
- **[OK]**を選びます。
  一部の設定が、既存のアルバムの設定に変更されます。

3 メニューを終了する

- 〈**MENU**〉ボタンを押してメニューを終了します。
  ビデオスナップの撮影画面が表示されます。

4 スナップを撮影する

- 『スナップを撮影してアルバムを作る』(314)を参照し、スナップを撮影します。

- 他のカメラで撮影したアルバムは選択できません。

ビデオスナップ撮影全般の注意事項

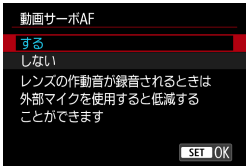
- **[再生時の効果]**で、**[1/2倍速]** **[2倍速]**を選んだときは、音声は記録されません。
- 1スナップの撮影所要時間は目安です。フレームレートとの関係上、再生時に表示される撮影時間と若干ズレが生じる場合があります。

動画サーボAF

動画撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。



1 **［📷：動画サーボAF］を選ぶ**



2 **［する］を選ぶ**

- **［する］設定時**
  - シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
  - 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、画面左下の［SERVO AF］をタッチすると、動画サーボAFを一時的に停止することができます。
  - 動画サーボAFが停止しているときに、〈**MENU**〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。
- **［しない］設定時**
  - シャッターボタンを半押しするか、〈**AF-ON**〉ボタンを押すと、ピント合わせが行われます。

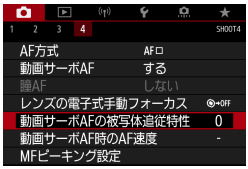
［動画サーボAF：する］設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
  - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
  - 近距離で動いている被写体
  - 絞り数値が大きいとき
  - 🕮146の『ピントが合いにくい撮影条件』も参照してください。
- 常にレンズが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間（🕮618）が短くなります。
- レンズの種類により、ピント合わせのための作動音が記録されることがあります。そのときは、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）を使用することで、作動音の記録を低減できることがあります。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。

動画サーボAFの被写体追従特性

応用

動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、被写体がAFフレームから外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。



1 [📷：動画サーボAFの被写体追従特性]を選ぶ



- **粘る：-3/-2/-1**

  被写体がAFフレームから外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。マイナスの数値が大きいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。

- **敏感：+1/+2/+3**

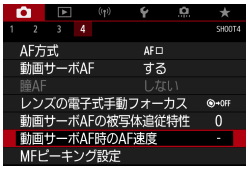
  AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。プラスの数値が大きいほど、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

- **[📷：動画サーボAF]**が**[する]**、**[📷：AF方式]**が**[1点AF]**のときに設定することができます。
- **[📷：AF方式]**が**[1点AF]**以外のときは、**[0]**に設定したときと同じ動作になります。

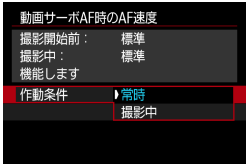
動画サーボAF時のAF速度

応用

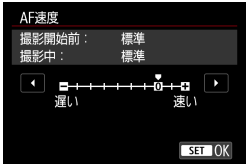
動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。
この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。



1 [📷：動画サーボAF時のAF速度] を選ぶ



- **作動条件：**
  設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（**[常時]**）、動画撮影中のみ有効にするか（**[撮影中]**）を設定することができます。



- **AF速度：**
  作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さ（0）から遅い方向に7段階（-1～-7）、速い方向に2段階（+1,+2）の調整を行うことができます。

***「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて**

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください。

- 使用するレンズによっては、AF速度を調整しても、速度が変わらないことがあります。

- **[📷：動画サーボAF]** が **[する]**、**[📷：AF方式]** が **[1点AF]** のときに設定することができます。
- **[📷：AF方式]** が **[1点AF]** 以外のときは、**[AF速度]** を **[標準 (0)]** に設定したときと同じ動作になります。
- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、**[📷：動画サーボAF時のAF速度]** の右端に「*」が表示されます。

その他のメニュー機能

[📷1]

- **レンズ光学補正** 応用

  動画撮影時は、周辺光量補正、色収差補正を行うことができます。レンズ光学補正については、📖206を参照してください。

- **リモコン撮影**

  [する] に設定すると、リモートコントローラーRC-6またはワイヤレスリモートコントローラーBR-E1（別売）を使用して、動画撮影の開始／停止を行うことができます。

  リモートコントローラー RC-6使用時

  表示パネルに **[📡]** が表示されます。撮影タイミングスイッチを〈**2**〉の位置にして、送信ボタンを押します。〈●〉（すぐに撮影）の位置のときは、**[🔧：動画撮影時シャッターボタンの機能]** の設定で動作します。

  ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

  あらかじめ、BR-E1とペアリングを行ってください（📖464）。
  通常の動画撮影を行うときは、撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを〈🎥〉の位置にして、レリーズボタンを押します。
  タイムラプス動画撮影を行うときは、📖311を参照してください。

[📷2]

- **🎥ISO感度に関する設定** 応用

  - **ISO感度**

    [🎥M] モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。

  - **ISO感度の範囲**

    動画撮影時のISO感度の手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。

  - **オートの上限**

    [🎥] モード、または **[🎥M]** モード+ISOオートの設定で動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

● **オートの上限**

[🎥**]** モード、または **[**🎥M**]** モード+ISOオートの設定で4Kタイムラプス/フルHDタイムラプス動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。

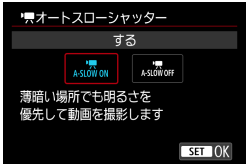
- ISO25600は拡張感度です（**[H]** と表示されます）。
- 4K動画撮影、4Kタイムラプス/フルHDタイムラプス動画撮影ではISO25600は設定できません。

● **高輝度側・階調優先** 応用

ハイライト部分の白とびが緩和された動画を撮影することができます。高輝度側・階調優先については、📖219を参照してください。

- 動画撮影時は、**[**📷**：高輝度側・階調優先]** 設定時に **[強]** は選択できません（表示されません）。

● オートスローシャッター 応用



暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、**[しない]**設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を記録するかどうかを選択することができます。
この機能は、撮影モードが**[ ]**のときに設定できます（機能します）。また、動画記録サイズのフレームレートが、59.94P、50.00Pのときに機能します。

● しない

[する]設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、**[する]**設定時よりも映像が暗くなることがあります。

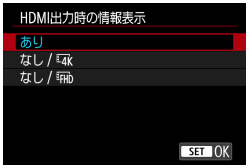
● する

暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に1/30秒（NTSC）、または1/25秒（PAL）まで遅くして、**[しない]**設定時よりも明るい映像を撮影することができます。

● 暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、**[しない]**に設定することをおすすめします。

[📷3]

● HDMI出力時の情報表示 応用



HDMIケーブルで映像を出力するときの情報表示を設定することができます。

● あり

HDMI出力先に、映像および撮影情報やAFフレームなどが表示されます。なお、カメラの画面は消灯します。
記録した映像はカードに保存されます。

● なし/4K

4K動画の映像のみをHDMI出力します。カメラの画面には撮影情報やAFフレームなども表示されますが、カードに映像は記録されません。また、Wi-Fi通信はできません。

● なし/FHD

フルHD動画の映像のみをHDMI出力します。カメラの画面には撮影情報やAFフレームなども表示されますが、カードに映像は記録されません。また、Wi-Fi通信はできません。

動画撮影全般の注意事項

カメラ内部の温度上昇に伴う、赤い［🔥］表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い［🔥］が表示されます。
- 赤い［🔥］は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。なお、赤い［🔥］が表示されてから動画撮影が自動的に終了するまでの時間は撮影状況によって異なります。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、赤い［🔥］が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

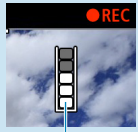
［📹］表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、［4K 動画クロップ］で［する］を選んでからライブビュー状態を長時間続けると、カメラ内部の温度が上昇して［📹］が表示されることがあります。［📹］が表示された状態では、動画撮影を行うことはできません。また、動画撮影中に［📹］が表示されたときは、約3分後に撮影が終了します。
- ［📹］が表示されたり、動画撮影が終了した場合は、カメラの電源を切ったり、動画撮影モードを解除したりするなどして、カメラ内部の温度が下がるのを待ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 自動露出で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 高ISO感度、高温下、遅いシャッタースピード、暗い場所などの条件が重なった状態で動画撮影を行うと、画質が低下することがあります。
- 動画撮影を長時間行うと、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。動画撮影をしないときは、こまめに電源を切ってください。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、（MP4形式に対応していても）再生できないことがあります。

記録と画質について



(1)

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーター（1）がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
- 書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケーターがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声が正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケーターが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

音声の制約について

- **[動画記録サイズ]** が FHD 29.97P IPB（NTSC）、FHD 25.00P IPB（PAL）のとき、かんたん撮影ゾーン、ビデオスナップ、または **[C.Fn III-9：音声圧縮]** が **[する]** のときは、以下の制約事項があります。ご了承ください。
  - 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
  - Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがあります。

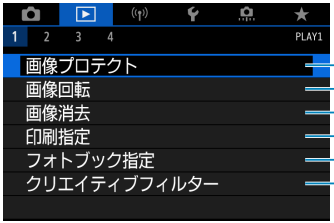
再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「▶：再生タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。

- 他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。
- 再生機能に使用できない画像が表示されることがあります。

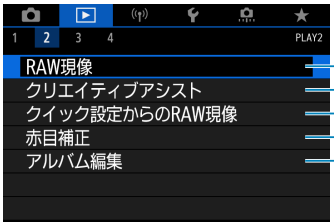
メニュー目次:再生タブ

● 再生1



346
349
350
354
358
361

● 再生2



364
370
372
373
374

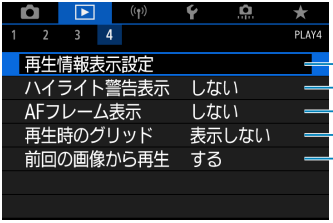
● 再生3



377
379
380
383
385
387

● かんたん撮影ゾーンのときは、[▶:RAW現像] [▶:クイック設定からのRAW現像]は表示されません。

● 再生4



389
391
392
393
394

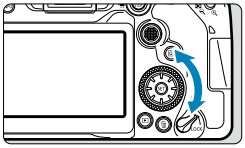
画像の再生

1枚表示



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。
  最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

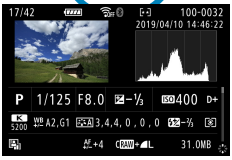


2 画像を選ぶ

- 〈◯〉を左に回すと、新しい順に画像が表示されます。
  右に回すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈⁂〉でも画像を選ぶことができます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。







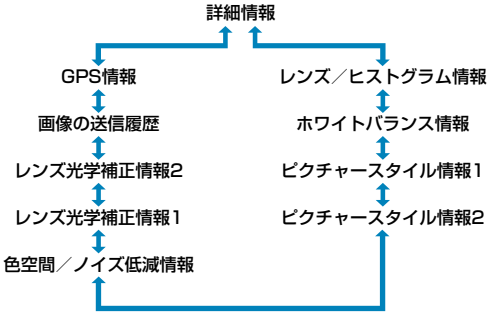
3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

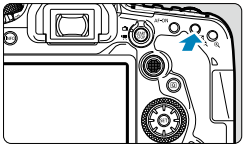
- **[📷：静止画アスペクト比]** を **[3：2]** 以外に設定して（📖202）撮影したRAW画像は、再生したときに撮影範囲を示す線が表示されます。
- **[▶：画像検索の条件設定]** で検索条件が設定されているときは（📖385）、絞り込まれた画像だけが表示されます。

撮影情報表示

撮影情報表示の画面（📖332）が表示されている状態で〈▲〉〈▼〉を押すと、画面下側の撮影情報が以下のように切り換わります。



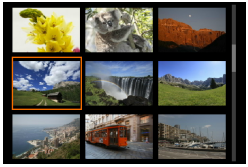
インデックス表示(複数画像表示)



1 インデックス表示にする

- 画像を再生した状態で、〈▪·🔍〉ボタンを押します。
- ４枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
  さらに〈▪·🔍〉ボタンを押すと、9枚→36枚→100枚表示になります。
  〈🔍〉ボタンを押すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。





2 画像を選ぶ

- 〈☁〉〈◯〉を回して、オレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- インデックス表示の状態で〈(SET)〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

タッチ再生

カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

画像送り

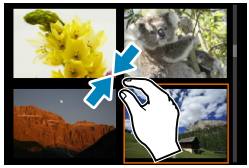




ジャンプ表示



インデックス表示

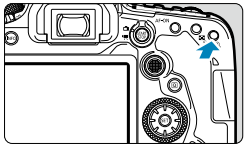


拡大表示



● 画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。

画像の拡大表示

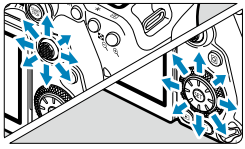


1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で〈🔍+〉ボタンを押します。
  拡大表示になります。画面右下に拡大位置（1）が表示されます。
- 〈🔍+〉ボタンを押すたびに拡大します。
- 〈🔍-〉ボタンを押すたびに縮小します。さらに〈🔍-〉ボタンを押すと、インデックス表示（📖334）になります。



(1)

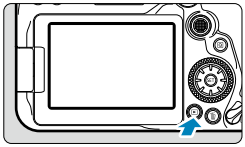


2 表示位置を移動する

- 〈✥〉〈✥〉を操作して表示位置を移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すか、[↩]をタッチすると、拡大表示が終了します。



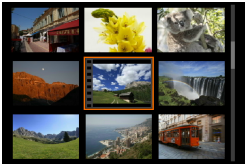
動画の再生



1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。





2 動画を選ぶ

- 〈◎〉で再生する動画を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に〈SET 🎥〉が表示されている画像が動画です。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈㊗〉を押して1枚表示にします。

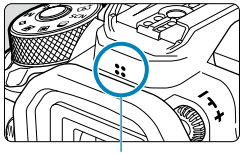


3 1枚表示の状態で〈㊗〉を押す

4 〈㊗〉を押して動画を再生する

- 動画再生が始まります。
- 再生中に〈㊗〉を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。
- 〈▲〉〈▼〉で、再生中でも音量を調整することができます。





(1)

(1) スピーカー

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈(SET)〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◌〉でスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 前スキップ	〈(SET)〉を押すたびに4秒戻します。
◀II フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると早送りします。
⏭ 次スキップ	〈(SET)〉を押すたびに4秒送ります。
✂ 編集	編集画面を表示します（📖340）。
フレーム切り出し	4K動画／4Kタイムラプス動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画（JPEG画像）として保存することができます（📖342）。
♫ BGM選択	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます（📖376）。
▬▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒）
音量	〈▲〉〈▼〉でスピーカー（📖337）の音量を調整することができます。

動画再生パネル（ビデオスナップアルバム）

項目	再生内容
▶ 再生	〈(SET)〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◯〉でスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 前のチャプター	前のスナップの先頭画面を表示します。
◀II フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると早送りします。
⏭ 次のチャプター	次のスナップの先頭画面を表示します。
チャプター消去	再生中のスナップを削除します。
✂ 編集	編集画面を表示します（📖340）。
♫ BGM選択	BGMを選んで音楽と一緒にアルバムを再生できます（📖376）。
▬▬	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒）
音量	〈▲〉〈▼〉でスピーカー（📖337）の音量を調整することができます。

- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（📖344）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈▲〉〈▼〉を操作しても音量は変わりません）。
- カードの読み取り速度が遅いときや、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。

- 動画撮影可能時間については、📖618を参照してください。

動画の前後部分のカット



1 1枚表示の状態で〈(SET)〉を押す

- 動画再生パネルが表示されます。



2 動画再生パネルで［✂］を選ぶ





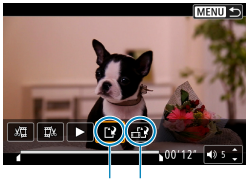
3 削除する範囲を指定する

- ［］（前部を削除）か、［］（後部を削除）を選びます。
- 〈◀〉〈▶〉を押すと、1フレーム（または1スナップ）ずつ送られます。〈▶〉を押したままにすると、早送りになります。
- 削除する範囲が決まったら、〈(SET)〉を押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。



4 編集内容を確認する

- ［▶］を選ぶと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押します。



(1) (2)

5 保存する

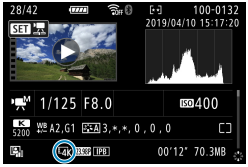
- **[ ]**（1）を選びます。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは **[新規保存]**、編集前の動画を残さないときは **[上書き保存]** を選びます。
- **[ ]**（2）を選ぶと、圧縮して別のファイルで保存します。4K動画はフルHD動画に変換して圧縮されます。
- 確認画面で **[OK]** を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

- 約1秒単位（画面下部に **[ ]** が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。
- 動画記録サイズが FHD 29.97P IPB（NTSC）/ FHD 25.00P IPB（PAL）の動画は、圧縮して新規保存はできません。

- ビデオスナップアルバムの編集方法は、『ビデオスナップアルバムの編集』（374）を参照してください。

4K動画／4Kタイムラプス動画からのフレームの切り出し

4K動画、4Kタイムラプス動画から任意のフレームを選び、約830万画素（3840×2160）の静止画（JPEG画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し（4Kフレームキャプチャー）」と言います。



1 **画像を再生する**

- 〈▶〉ボタンを押します。

2 **4K動画または4Kタイムラプス動画を選ぶ**

- 〈◎〉で選びます。
- 撮影情報表示の画面（📖631）で［4K］と表示されている画像が4K動画／4Kタイムラプス動画です。
- インデックス表示のときは、〈(SET)〉を押して1枚表示にします。

3 **1枚表示の状態で〈(SET)〉を押す**

- 動画再生パネルが表示されます。



4 **切り出すフレームを選ぶ**

- 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。
- 動画再生パネルの操作方法については、📖338を参照してください。



5 **［🖼］を選ぶ**



6 保存する

- **[OK]** を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画（JPEG画像）として保存されます。

7 表示する画像を選ぶ

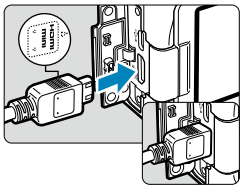
- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。
- **[元の動画]** または **[切り出した静止画]** を選びます。

- フルHD動画やフルHDタイムラプス動画、他のカメラで撮影した4K動画／4Kタイムラプス動画からは、フレーム切り出しはできません。

テレビで見る

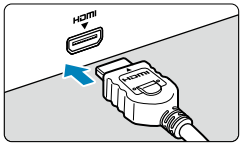
カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。

なお、**テレビに映像が表示されないときは、[:ビデオ方式] の [NTSC] [PAL] の設定を確認してください**（テレビが対応している方式に合わせてください）。



1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈▲HDMI MINI〉がカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

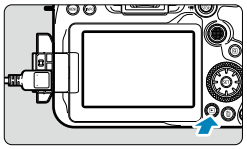


2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

- 画像がテレビに表示されます（カメラのモニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈**HDMI OUT**〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは、**[🔧：HDMI 出力解像度]** を **[1080p]** に設定してください（📖543）。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

画像の保護(プロテクト)

大切な画像を誤って消さないように、プロテクト（保護）することができます。

画像を選択して1枚ずつプロテクト



1 [▶：画像プロテクト]を選ぶ



2 [画像を選択]を選ぶ

3 画像を選ぶ

- 〈◎〉でプロテクトする画像を選びます。



4 プロテクトする

- 〈(SET)〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に〈🔑〉(1)が表示されます。
- もう一度〈(SET)〉を押すと、プロテクトが解除され〈🔑〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

- [▶：画像プロテクト] の [範囲指定] を選びます。

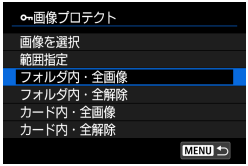


2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。指定した範囲の画像がプロテクトされ、〈🔑〉が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。



[▶：画像プロテクト]で**[フォルダ内・全画像]**または**[カード内・全画像]**を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。
解除するときは**[フォルダ内・全解除]**または**[カード内・全解除]**を選びます。

[▶：画像検索の条件設定]で検索条件が設定されているときは（📖385）、表示される内容が**[検索結果・全画像][検索結果・全解除]**に変わります。



[検索結果・全画像]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。
[検索結果・全解除]を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

- カードを初期化すると（📖511）、プロテクトされた画像も消去されます。

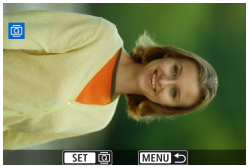
- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（📖353）を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

画像の回転

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で画像を回転させることができます。

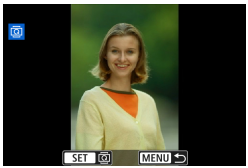


1 [▶：画像回転] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◎〉で選びます。



3 回転させる

- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

- [🔧：縦位置画像回転表示] を [する📷 💻]（📖510）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、[🔧：縦位置画像回転表示] を [する📷 💻] に設定します。

画像の消去

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（🕮346）をかけた画像は消去されません。

- 消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚ずつ消去

1 消去する画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押します。
- 〈◯〉で選びます。



2 〈🗑〉ボタンを押す

3 消去する



JPEG画像／RAW画像／動画

- 【消去】を選びます。

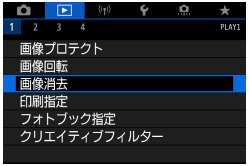


RAW＋JPEG画像

- 項目を選びます。

チェック［√］を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。



1 ［▶：画像消去］を選ぶ

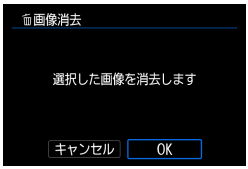


2 ［選択して消去］を選ぶ



3 画像を選ぶ

- 〈◎〉で消去する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。



4 消去する

- 〈🗑〉ボタンを押して［OK］を選びます。

範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

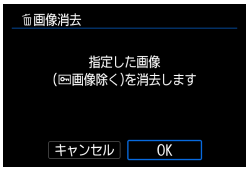
- **[範囲指定]** を選びます。



2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。

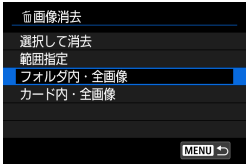
3 〈🗑〉ボタンを押す



4 消去する

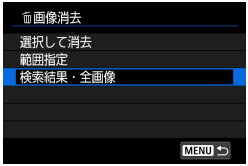
- [OK] を選びます。

フォルダ内／カード内全画像消去



[▶：画像消去]で**[フォルダ内・全画像]**または**[カード内・全画像]**を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

[▶：画像検索の条件設定]で検索条件が設定されているときは（385）、表示される内容が**[検索結果・全画像]**に変わります。



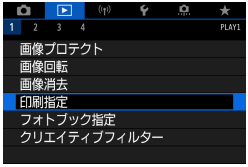
[検索結果・全画像]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。

- プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います（511）。

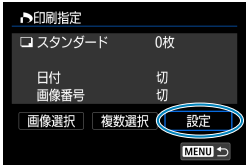
画像の印刷指定／DPOF

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。
印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容の設定



1 **［▶：印刷指定］を選ぶ**

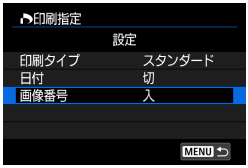


2 **［設定］を選ぶ**

3 **項目の内容を設定する**

- **［印刷タイプ］［日付］［画像番号］**の内容を設定します。

印刷タイプ		**スタンダード**	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	**入**	**［入］**にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。	
	切		
画像番号	**入**	**［入］**にすると、画像番号を付けて印刷します。	
	切		



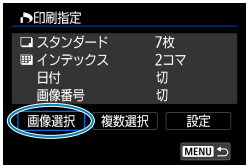
4 設定を終了する

- 〈**MENU**〉ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の**[画像選択]**[**複数選択**]で、印刷する画像を指定します。

- 画像サイズが大きい画像を**[インデックス]**[**両方**]の設定で印刷すると（📖354）、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから（📖379）インデックス印刷を行ってください。
- **[日付]**[**画像番号**]を**[入]**にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- **[インデックス]**に設定したときは、**[日付]**と**[画像番号]**を同時に**[入]**にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

印刷する画像の指定

● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。
〈**MENU**〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。



● スタンダード／両方

〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈◯〉を回すと、99枚まで印刷指定することができます。

(1) 指定枚数
(2) 総指定枚数

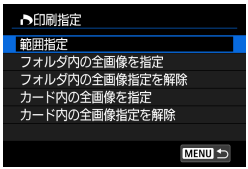


● インデックス

〈(SET)〉を押して【✓】を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

(3) チェックマーク
(4) インデックスマーク

● 複数選択



● 範囲指定

【複数選択】の**【範囲指定】**を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に【✓】が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

● **フォルダ内の全画像**

[フォルダ内の全画像を指定]を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
[フォルダ内の全画像指定を解除]を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● **カード内の全画像**

[カード内の全画像を指定]を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
[カード内の全画像指定を解除]を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

[▶：画像検索の条件設定]で検索条件が設定されているときは（385）、**[複数選択]**を選んだときに、表示される内容が**[検索結果の全画像を指定]** **[検索結果の全画像の指定解除]**に変わります。

● **検索結果の全画像**

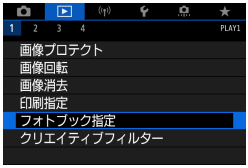
[検索結果の全画像を指定]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。
[検索結果の全画像の指定解除]を選ぶと、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。また、**[複数選択]**でまとめて印刷指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。
- PictBridgeに対応したプリンターで印刷するときは、一度に印刷指定する画像を400以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

フォトブックにする画像の指定

フォトブックにする画像を998枚まで指定することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、フォトブック指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

画像を選択して1枚ずつ指定



1 [▶：フォトブック指定] を選ぶ



2 [画像を選択] を選ぶ



3 指定する画像を選ぶ

- 〈◎〉で指定する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 他にフォトブック指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

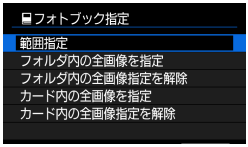
範囲を指定してフォトブック指定

インデックス表示された画像を見ながら、フォトブックにする画像の範囲（始点／終点）を指定して、まとめてフォトブック指定することができます。



1 [複数選択] を選ぶ

- [▶]：**フォトブック指定**] の [**複数選択**] を選びます。



2 [範囲指定] を選ぶ

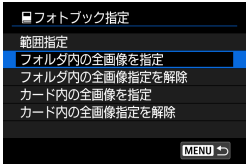


3 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に【✓】が表示されます。

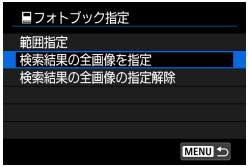
フォルダ内／カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてフォトブック指定することができます。



[▶：フォトブック指定]の**[複数選択]**で**[フォルダ内の全画像を指定]**または**[カード内の全画像を指定]**を選ぶと、その中のすべての画像がフォトブック指定されます。
解除するときは**[フォルダ内の全画像指定を解除]**または**[カード内の全画像指定を解除]**を選びます。

[▶：画像検索の条件設定]で検索条件が設定されているときは（📖385）、**[複数選択]**を選んだときに、表示される内容が**[検索結果の全画像を指定]** **[検索結果の全画像の指定解除]**に変わります。

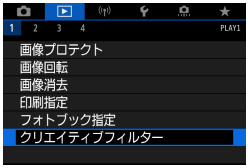


[検索結果の全画像を指定]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がフォトブック指定されます。
[検索結果の全画像の指定解除]を選ぶと、絞り込まれた画像のフォトブック指定がすべて解除されます。

- RAW画像と動画はフォトブック指定できません。また、**[複数選択]**でまとめてフォトブック指定を行っても、RAW 画像と動画は指定されません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

フィルター効果の付加

撮影した静止画に、ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風のフィルター処理を行い、別画像として保存することができます。



1 [▶：クリエイティブフィルター] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◯〉で画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈▪Q〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



3 フィルター効果を選ぶ（📖362）



4 フィルター効果を調整する

- フィルター効果を調整し、〈(SET)〉を押します。
- ジオラマ風は〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉で、はっきり見せたい部分（白枠）を移動させ、〈(SET)〉を押します。



5 保存する

- 【OK】を選びます。
- 表示される保存先のフォルダと画像番号を確認して【OK】を選びます。
- 他にフィルター処理を行いたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

- RAW＋JPEGで撮影した画像は、RAW画像を使ってフィルター処理を行い、JPEG画像として保存します。
- アスペクト比を設定して撮影したRAW画像は、フィルター処理を行うと、設定したアスペクト比で保存されます。
- 魚眼風のフィルター処理を行った画像には、ダストデリートデータ（📖241）は付加されません。

各クリエイティブフィルターの特徴

- **ラフモノクロ**
  ざらついた感じの白黒写真になります。コントラストを調整することで、白黒の感じを変えることができます。
- **ソフトフォーカス**
  やわらかい感じの写真になります。ぼかし具合を調整することで、やわらかさの感じを変えることができます。

- **魚眼風**

  魚眼レンズで撮影したような効果が得られます。タル型にゆがんだ写真になります。
  なお、フィルター効果のレベルによって、画像周辺のカットされる領域が変わります。また、フィルター効果により画面中央が拡大されるため、記録画素数によっては、画面中央の解像感が低下することがありますので、手順4でフィルター効果が反映された画像を確認しながら設定してください。

- **油彩風**

  油絵のような写真で、被写体の立体感が強調されます。効果を調整することで、コントラストや彩度を変えることができます。なお、空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **水彩風**

  水彩画のような写真で、やわらかい感じの色になります。効果を調整することで、色の濃度を変えることができます。なお、夜景や暗い撮影シーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。

- **トイカメラ風**

  トイカメラ（おもちゃのカメラ）で撮影したような独特の色調で、画面の四隅が暗い写真になります。色調によって、色の感じを変えることができます。

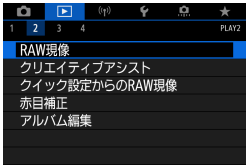
- **ジオラマ風**

  ジオラマ（ミニチュア模型）風の写真になります。はっきり見せたい部分を変えることができます。手順4で〈INFO〉ボタンを押す（または画面の［］をタッチする）と、はっきり見せたい部分（白枠）の横／縦を切り換えることができます。

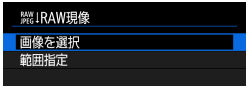
RAW画像の現像

応用

RAWまたはCRAWで撮影した画像をカメラで現像して、JPEG画像を作ることができます。RAW画像はそのままなので、条件を変えて現像したJPEG画像を作ることができます。
RAW画像はEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うこともできます。



1 [▶：RAW現像] を選ぶ



2 項目を選び、画像を選択する

- RAW現像を行う画像をまとめて選択（指定）することができます。



画像を選択

- 〈◎〉で現像する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押します。



範囲指定

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。
- 〈Q〉ボタンを押します。

3 現像条件を設定する

撮影時の設定で現像

- 撮影を行ったときの画像設定の条件で現像されます。



細かく設定して現像

- 〈 〉〈 〉で項目を選びます。
- 〈 〉〈 〉を回すと、設定が切り換わります。
- 〈SET〉を押すと、機能の設定画面が表示されます。
- 〈 〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

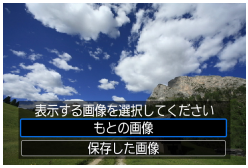
比較画面について

- 〈INFO〉ボタンを押して〈 〉を回すと、**[変更後]**と**[撮影時設定]**を切り換えることができます。
- **[変更後]**のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押します。



4 保存する

- **[細かく設定して現像]**のときは**[ ]**（保存）を選びます。
- 内容を確認し、**[OK]**を選びます。
- 他に現像したい画像があるときは**[はい]**を選び、手順2～4を繰り返します。



5 表示する画像を選ぶ

- **[もとの画像]** または **[保存した画像]** を選びます。

拡大表示

[細かく設定して現像] を選んだあと、表示された画面で〈🔍〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、**[記録画質]** の設定により異なります。〈✥〉〈✥〉で拡大表示位置を変えることができます。
[↩] をタッチするか、〈▪·🔍〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

アスペクト比を設定した画像の現像

[📷：静止画アスペクト比]（📖202）を **[3：2]** 以外に設定して撮影したRAW画像を現像したときは、設定したアスペクト比のJPEG画像が作られます。

- RAW、CRAW 画質で撮影した多重露出画像を現像するときは、一部の項目の設定変更はできません。

現像処理の項目

- **[☀±0] 明るさ補正**
  1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。
- **[WB] ホワイトバランス**（222）
  ホワイトバランスを選ぶことができます。**[AWB]**を選んだときは、**[オート（雰囲気優先）]**/**[オート（ホワイト優先）]**を選ぶことができます。**[K]**を選んだときは、色温度を設定することができます。
- **[Standard] ピクチャースタイル**（230）
  ピクチャースタイルを選ぶことができます。シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。
- **[ALO] オートライティングオプティマイザ**（218）
  オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。
- **[NR] 高感度撮影時のノイズ低減**（239）
  ノイズ低減処理の内容を設定することができます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（336）で確認してください。
- **[L] 記録画質**（199）
  JPEG画像を生成する際の記録画質を設定することができます。

- **[sRGB] 色空間（📖229）**
  sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラのモニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。
- **[レンズ光学補正]**
  - **[OFF] 周辺光量補正（📖207）**
    レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。**[する]**を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（📖336）で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。
  - **[OFF] 歪曲収差補正（📖207）**
    レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。**[する]**を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。
    解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。
  - **[OFF] デジタルレンズオプティマイザ（📖208）**
    レンズの収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を、光学設計値を利用して補正することができます。なお、**[する]**を選んだときは、色収差補正、回折補正の項目は表示されませんが、ともに**[する]**で現像されます。

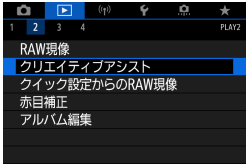
- **[色収差補正]（209）**
  レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。**[する]**を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（336）で確認してください。
- **[回折補正]（209）**
  レンズの絞りの影響によって画像の鮮鋭さが低下する現象を補正することができます。**[する]**を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（336）で確認してください。

- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- **[明るさ補正]**を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- **[デジタルレンズオプティマイザ]**設定時は、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、**[デジタルレンズオプティマイザ]**を**[しない]**に設定してください。

- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。

好みの効果を付けた現像(クリエイティブアシスト)

RAW画像を現像して、好みの効果をつけたJPEG画像を作成することができます。



1 [▶:クリエイティブアシスト]を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◌〉で現像する画像を選び、〈(SET)〉を押します。



3 効果を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で効果を選びます。



- [プリセット]を選んで〈(SET)〉を押すと、[VIVID]や[SOFT]など、用意された設定から効果を選ぶことができます。なお、[AUTO1][AUTO2][AUTO3]は、画像の状態からカメラが判断したおすすめの効果です。



- **[明るさ] [コントラスト]** などは、〈SET〉を押して〈◀〉〈▶〉で効果を選びます。
- 調整が終了したら〈SET〉を押します。



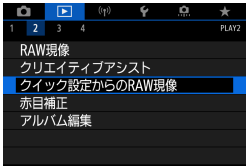
- 〈✱〉ボタンを押すと効果がリセットされます。
- 〈⊞〉ボタンを押して効果を確定します。



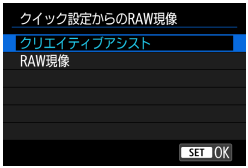
4 [OK] を選んで保存する

RAW現像の種類の選択

クイック設定画面から行うRAW現像の種類を選ぶことができます。



1 [▶：クイック設定からのRAW現像]を選ぶ

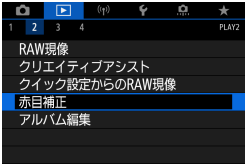


2 項目を選ぶ

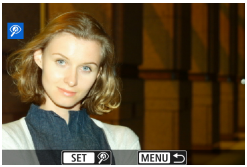
- **クリエイティブアシスト**
  好みの効果を付けたRAW現像ができます（📖370）。
- **RAW現像**
  条件を設定したRAW現像ができます（📖364）。

赤目補正

目が赤く撮影されてしまった画像の赤目部分を自動的に補正します。別画像として保存できます。



1 [▶：赤目補正] を選ぶ



2 〈◯〉で画像を選ぶ

- 画像を選んだら【👁】をタッチするか、〈(SET)〉を押します。
- 補正された部分に白枠が表示されます。

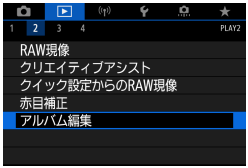


3 [OK] を選ぶ

- 別画像として保存されます。

- 画像によっては正しく補正されないことがあります。

ビデオスナップアルバムの編集



1 [▶：アルバム編集] を選ぶ



2 編集するアルバムを選ぶ

- 〈(SET)〉を押して【✓】を付けます。
- 選び終わったら〈Q〉ボタンを押します。



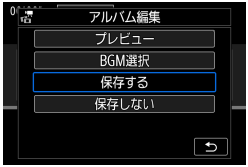
3 編集する項目を選ぶ

項目	内容
ビデオスナップ並べ換え	〈◎〉で移動したいスナップを選び、〈(SET)〉を押します。〈◎〉で移動し〈(SET)〉を押します。
ビデオスナップ削除	〈◎〉で削除したいスナップを選び、〈(SET)〉を押します。選択したスナップに、[🗑]が表示されます。もう一度〈(SET)〉を押すと、選択が解除され[🗑]が消えます。
▶ビデオスナップ再生	〈◎〉で再生したいスナップを選び、〈(SET)〉を押します。〈▲〉〈▼〉で音量が調整できます。



4 編集を終了する

- 〈**MENU**〉ボタンを押して編集を終了します。
- **[📝]**（編集完了）を選びます。



5 保存する

- アルバムの再生時にBGMを一緒に再生するときは、**[BGM選択]**でBGMを選択します（📖376）。
- 編集結果を確認するときは**[プレビュー]**を選びます。
- **[保存する]**を選ぶと編集したアルバムが新規アルバムとして保存されます。

- 編集後のアルバムを再度編集することはできません。

BGMの選択

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用して、BGMをカードにコピーすると、アルバム再生時やスライドショー時にBGMを再生することができます。



1 [BGM選択] を選ぶ

- **[BGM選択]** で **[する]** を選びます。

2 音楽を選ぶ

- 〈☆〉で音楽を選び、〈(SET)〉を押します。**[スライドショー]** では、音楽を複数選ぶことができます。

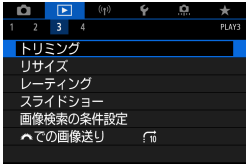
3 試聴する

- 〈INFO〉ボタンを押すと、試聴することができます。
- 〈▲〉〈▼〉で音量が調整できます。再度〈INFO〉ボタンを押すと、停止します。
- 音楽を削除するときは、〈☆〉で音楽を選び、〈🗑〉ボタンを押します。

- BGMをカードにコピーする方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。

JPEG画像のトリミング

撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEGで撮影した画像で行うことができます。RAWで撮影した画像は、トリミングできません。

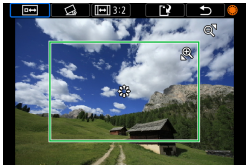


1 [▶：トリミング] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◯〉でトリミングする画像を選びます。



3 トリミング枠の設定を行う

- 〈(SET)〉を押すと、トリミング枠が表示されます。
- 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。

- **枠の大きさを変える**

  〈🔍〉で枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

- **枠のアスペクト比と縦横を変える**

  〈◯〉で〈▭〉を選びます。〈(SET)〉を押すと、枠のアスペクト比が変わります。

● **枠を移動する**

〈✥〉〈✥〉を操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

● **傾きを補正する**

±10°の範囲で傾きを補正することができます。〈◯〉で〈⧄〉を選び、〈(SET)〉を押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈◯〉を回すか（0.1°単位）、画面左上に表示された左右の矢印にタッチして（0.5°単位）、傾きを補正します。補正が終わったら〈(SET)〉を押します。



4 トリミング範囲を確認する

● 〈◯〉で〈▭〉を選びます。
トリミングされる範囲が表示されます。



5 保存する

● 〈◯〉で〈⧉〉を選びます。
● **[OK]**を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
● 保存先のフォルダと画像番号を確認して**[OK]**を選びます。
● 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

● 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
● トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
● トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報（🕮392）、ダストデリートデータ（🕮241）は付加されません。

JPEG画像のリサイズ

撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGの**L**/**M**/**S1**で撮影した画像で行うことができます。JPEGの**S2**とRAWで撮影した画像は、リサイズできません。

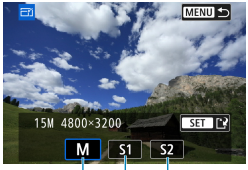


1 [▶：リサイズ] を選ぶ



2 画像を選ぶ

- 〈◎〉でリサイズする画像を選びます。



(1)

3 画像サイズを選ぶ

- 〈(SET)〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズ（1）を選びます。



4 保存する

- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

● リサイズした画像の画像サイズについては、📖621を参照してください。

レーティングの設定

撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク（[•]/[•]/[•]/[•]/[•]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

画像を選択して1枚ずつレーティング



1 [▶：レーティング] を選ぶ



2 [画像を選択] を選ぶ



3 レーティングする画像を選ぶ

- 〈◎〉でレーティングを行う画像を選びます。



4 レーティングを設定する

- 〈(SET)〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈▲〉〈▼〉でお気に入りマークを選び、〈(SET)〉を押します。
  お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

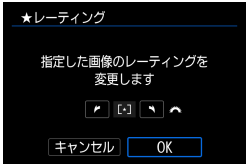
- [▶：レーティング] の [範囲指定] を選びます。



2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 続けて終わりの画像（終点）を選びます。始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

3 〈Q〉 ボタンを押す

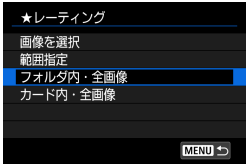


4 レーティングを設定する

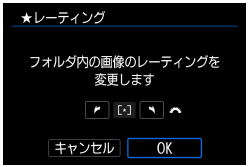
- 〈☁〉 でお気に入りマークを選び、[OK] を選びます。
  指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

フォルダ内／カード内全画像レーティング

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



[▶：レーティング]で**[フォルダ内・全画像]**または**[カード内・全画像]**を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



〈〉でレーティングを選び、**[OK]**を選びます。
レーティングを行わないときや、解除するときは**[OFF]**を選びます。

[▶：画像検索の条件設定]で検索条件が設定されているときは（385）、表示される内容が**[検索結果・全画像]**に変わります。



[検索結果・全画像]を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

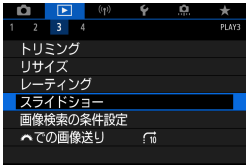
- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると**[###]**と表示されます。
- **[▶：画像検索の条件設定]**【▶：**での画像送り】**で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。

画像の自動再生(スライドショー)

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、**[▶:画像検索の条件設定]**で絞り込みます(📖385)。



2 [▶:スライドショー]を選ぶ



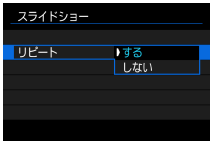
3 再生内容を設定する

- **[設定]**を選びます。
- 静止画の**[再生間隔]**と**[リピート]**(繰り返し再生)、**[切り換え効果]**(画像を切り換える際の演出効果)を設定します。
- BGMを流したいときは、**[BGM選択]**でBGMを選択します(📖376)。
- 設定が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押します。

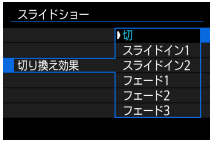
再生間隔



リピート



切り換え効果



BGM選択





4 スライドショーを開始する

- **[スタート]** を選びます。
  [画像読み込み中...] が表示されたあと、スライドショーが始まります。

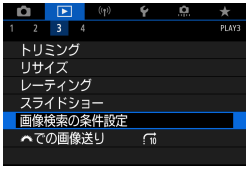
5 スライドショーを終了する

- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは〈(SET)〉を押します。一時停止中は画面左上に **[❚❚]** が表示されます。再度〈(SET)〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈**INFO**〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（📖332）。
- 動画再生中に〈▲〉〈▼〉で、音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◯〉を回すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

再生する画像の絞り込み

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。
なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。



1 [▶：画像検索の条件設定]を選ぶ

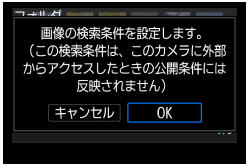


(1)

2 検索条件を設定する

- 〈◯〉で項目を選びます。
- 〈🎛〉で内容を設定します。
- 項目の左端に[✓]（1）が付きます（検索条件として指定されます）。
- 項目を選び〈INFO〉ボタンを押すと、[✓]が消えます（指定が解除されます）。

項目	内容
★レーティング	選択した（レーティング）条件の画像を表示します。
⊙日付	選択した撮影日の画像を表示します。
🖿フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
🔑プロテクト	選択した（プロテクト）条件の画像を表示します。
ファイルの種類	選択した種類の画像ファイルを表示します。



3 検索条件を確定する

- 〈(SET)〉を押して、表示されるメッセージを確認します。
- [OK] を選びます。
  検索条件が設定されます。



(2)

4 検索した画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。
  検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。
  絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠（2）が付きます。

検索条件の解除

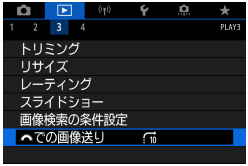
手順2の画面で〈🗑〉ボタンを押すと、すべての検索条件が解除されます。

- 設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順3で〈(SET)〉は押せません。

- 電源やカード、画像編集などに関連した操作を行うと、検索条件の設定が解除されることがあります。
- [▶：**画像検索の条件設定**] の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

ジャンプ表示(画像飛ばし表示)

1枚表示のときに〈  〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示(ジャンプ表示)することができます。

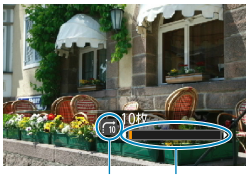


1 **[▶:での画像送り]を選ぶ**



2 **ジャンプ方法を選ぶ**

- **[指定した枚数ごとに画像を表示]**を選んだときは、〈〉でジャンプする枚数を設定します。
- **[指定したレーティングの画像を表示]**を選んだときは、〈〉でレーティング(📖380)を指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。



(1)　(2)

3 画像送りをする

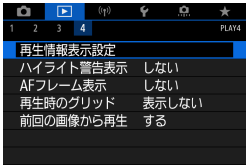
- 〈▶〉ボタンを押します。
- 1枚表示の状態で〈◌〉を回します。設定した方法でジャンプ表示が行われます。

(1)　ジャンプ方法
(2)　再生位置

- **[：撮影日]** は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- **[：フォルダ]** は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- **[：動画]** **[：静止画]** は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。

再生する情報の設定

画像の再生時に表示する画面と、表示する内容（情報）を任意に設定することができます。



1 [▶：再生情報表示設定] を選ぶ



2 表示する画面の番号に [✓] を付ける

- 〈◯〉で番号を選びます。
- 〈SET〉を押すと [✓] が付きます。
- この手順を繰り返して、表示する画面の番号に [✓] を付け、[OK] を選びます。
- 画像を再生して、〈INFO〉ボタンを押したり、撮影情報表示画面で〈▲〉〈▼〉を操作したときに、設定した内容が表示されます。

ヒストグラム

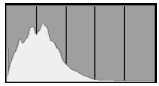


ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。[▶：再生情報表示設定] の画面の左下に〈INFO〉が表示されているときに、〈INFO〉ボタンを押すと、表示するヒストグラムを切り換えることができます。

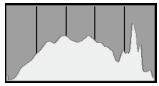
● **[輝度] 表示**

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左:暗、右:明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



普通の明るさ



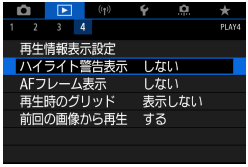
明るい成分が多い

● **[RGB] 表示**

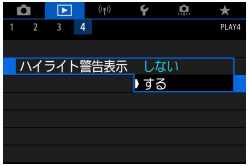
このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

ハイライト警告の表示

再生画面に、露出オーバーで白とびした部分を点滅表示することができます。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。



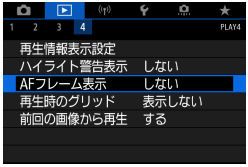
1 [▶：ハイライト警告表示] を選ぶ



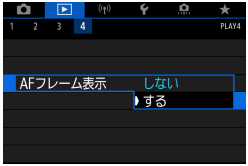
2 [する] を選ぶ

AFフレームの表示

再生画面に、ピント合わせを行ったAFフレームを赤い枠で表示することができます。なお、AFフレーム自動選択のときは、AFフレームが複数表示されることがあります。



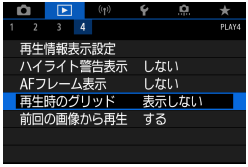
1 **[▶：AFフレーム表示] を選ぶ**



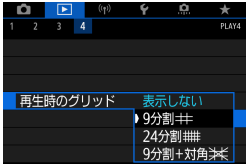
2 **[する] を選ぶ**

グリッドの表示

静止画を1枚表示するときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

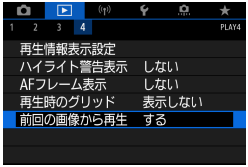


1 **［▶：再生時のグリッド］を選ぶ**

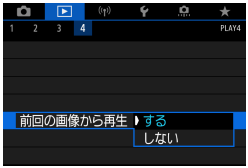


2 **項目を選ぶ**

再生開始時に最初に表示する画像の設定



1 [▶：前回の画像から再生]を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **[する]**を選んで画像を再生すると、前回再生したときに最後に表示されていた画像が最初に表示されます（撮影を行ったときを除く）。
- **[しない]**を選んで電源を入れ直すと、最新の画像が最初に表示されます。

無線通信機能

この章では、Bluetooth®機能やWi-Fi®機能を使用して、カメラとスマートフォンやWebサービスなどと無線接続して画像を送信する方法や、パソコンやワイヤレスリモコンでカメラを操作する方法などについて説明しています。

必ずお読みください

このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。

無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

メニュー目次:無線タブ

● **無線1**



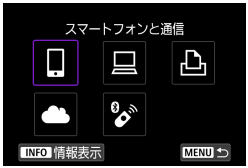
397
470
471
472
473
480

- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、無線通信機能を使用することはできません。
- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。
- カメラにカードが入っていないときは、Wi-Fi接続できません（【□】は除く）。また、【凸】およびWebサービスでは、カードに画像が記録されていないときも、Wi-Fi接続できません。
- カメラの電源を〈OFF〉にしたときや、カードスロットカバーやバッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi接続を終了します。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

Wi-Fi/Bluetooth接続の選択



1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 カメラと接続する項目を選ぶ

スマートフォンと通信（📖399）

スマートフォンやタブレット（以降は「スマートフォン」と記載）にWi-Fi接続して、専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。

EOS用または専用ソフトウェアと連携（📖426）

パソコンにWi-Fi接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってカメラをリモート操作することができます。また、専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラの画像をパソコンに自動送信することができます。

Wi-Fi対応プリンターで印刷（📖434）

Wi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターにWi-Fi接続して、画像を印刷することができます。

Webサービスへ画像を送信（📖444）

キヤノンユーザーのためのオンラインフォトサービス CANON iMAGE GATEWAY（登録無料）を通じて、家族や友人との画像共有や、さまざまなWebサービスを利用した画像共有を行うことができます。

ワイヤレスリモコンと接続

別売のワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とBluetooth接続して、リモコン撮影を行うことができます（📖464）。

スマートフォンと通信

カメラとBluetooth low energy technology（以降は「Bluetooth」と記載）対応スマートフォンをBluetooth接続して、以下のことができます。

- スマートフォンのみの操作によるWi-Fi接続（🕮400）
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続（🕮405）
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加（🕮475）
- スマートフォンをリモコンにしたカメラの操作（🕮404）

また、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでのカメラ内の画像の閲覧および保存（🕮404）
- スマートフォンでのカメラのリモート操作（🕮404）
- カメラからスマートフォンへの画像の送信（🕮413）

スマートフォンのBluetooth機能とWi-Fi機能をONにする

スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能とWi-Fi機能をONにしておきます。なお、スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。

- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（🕮458）を参照してください。

スマートフォンにCamera Connectをインストールする

AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンに、専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールします。

- スマートフォンのOSは、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時やWi-Fi接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます。

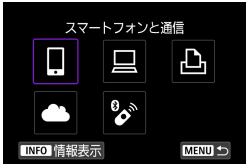
- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより、本書の記載と実際の画面例などが異なることがあります。

Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する

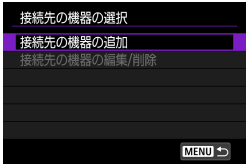
カメラ側の操作-1



1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

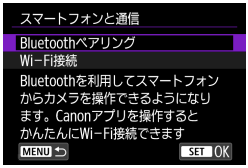


3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



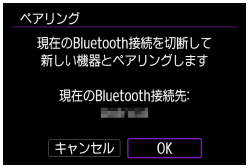
4 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは **[表示しない]** を選びます。
- Camera Connectがインストールされていないときは、**[Android]** または **[iOS]** を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp Storeにアクセスして Camera Connectをインストールします。



5 [Bluetoothペアリング] を選ぶ

- ペアリングが開始されます。



- 2台目以降のスマートフォンとペアリングするときは、左の画面で [OK] を選びます。

スマートフォン側の操作-1



6 Camera Connectを起動する



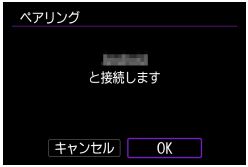
7 ペアリングするカメラをタッチする

- Androidの場合は手順9に進みます。



8 [ペアリング] をタッチする（iOSのみ）

カメラ側の操作-2

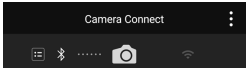


9 [OK] を選ぶ



10 〈(SET)〉を押す

- ペアリングが完了して、スマートフォンとBluetooth接続されます。
  Camera Connectのトップ画面にBluetooth接続中の図が表示されます。



- 2台以上の機器と同時にBluetooth接続することはできません。Bluetooth接続するスマートフォンを切り換えるときは、📖478を参照してください。
- Bluetooth接続中は、カメラのオートパワーオフ中もバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

ペアリングできないとき

- スマートフォン側に、前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。スマートフォンのBluetooth設定画面で、前回ペアリングしたカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください。

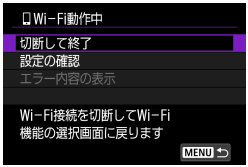
- Bluetooth接続中に、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信できます(📖413)。

スマートフォン側の操作-2

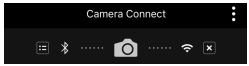


11 Camera Connectの機能をタッチする

- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら【接続】をタッチします。
- Camera Connectの機能については📖404を参照してください。
- Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。



- カメラのモニターに【Wi-Fi動作中】の画面が表示されます。
- Camera Connectのトップ画面にBluetoothおよびWi-Fi接続中の図が表示されます。



これでBluetooth対応スマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、『Wi-Fi接続の終了』（📖421）を参照してください。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。
- 再度Wi-Fi接続するときは、Camera Connectを起動して、使用したい機能をタッチします。

[Wi-Fi動作中] の画面について

切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

Camera Connectの機能

カメラ内の画像一覧

- 画像の閲覧、削除、レーティングを行うことができます。
- スマートフォンに画像を保存することができます。

リモートライブビュー撮影

- スマートフォンでライブビュー映像を見ながらリモート撮影することができます。

撮影自動転送

- 撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信するときに（📖412）、カメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

Bluetoothリモートコントローラー

- Bluetooth接続中のスマートフォンをリモコンにして、カメラの操作を行うことができます。なお、Wi-Fi接続中は使用できません。
- Bluetoothリモートコントローラーの使用中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

位置情報

- このカメラでは使用できません。

カメラ設定

- カメラの設定を変更することができます。

電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続

カメラとスマートフォンがBluetooth接続中であれば、カメラの電源スイッチが〈OFF〉の状態でも、スマートフォンを操作してWi-Fi接続することができます。



1 **［(ᯤ)：Bluetooth設定］を選ぶ**



2 **［電源オフ中の通信］で［する］を選ぶ**



- カメラの電源スイッチが〈OFF〉の状態で、Camera Connectのメニューから**［カメラ内の画像一覧］**をタッチすると、Wi-Fi接続が開始されます。
- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら**［接続］**をタッチします。
  Wi-Fi接続が完了すると、カメラ内の画像の一覧が表示されます。

- Camera Connectを操作して、スマートフォンへの画像の保存、カメラ内の画像の削除を行うことができます。
- Wi-Fi接続を終了するときは、Camera Connectのトップ画面で［✕］をタッチします（📖421）。

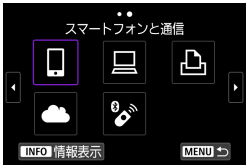
- 無線通信の設定を初期化したり、スマートフォンの接続情報を消去すると、本機能は使用できなくなります。

ペアリングの解除

スマートフォンとのペアリングを解除するときは、以下の手順で行います。

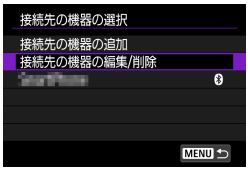


1 [((ı)) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

- 履歴（467）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。

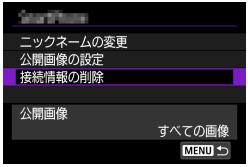


3 [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ

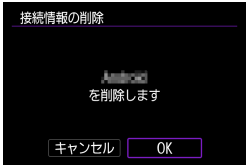


4 ペアリングを解除するスマートフォンを選ぶ

- ペアリング中のスマートフォンは [ ] が表示されます。



5 [接続情報の削除] を選ぶ



6 [OK] を選ぶ

7 スマートフォン側の登録を解除する

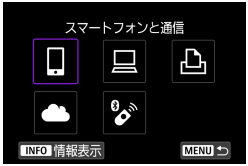
- スマートフォンのBluetooth設定画面で、カメラの登録を解除します。

Bluetooth機能を使用せずWi-Fi接続する

カメラ側の操作-1

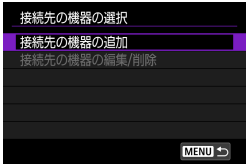


1 [((ı)) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

- 履歴（467）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。

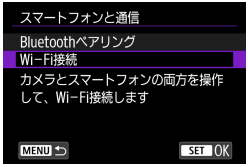


3 [接続先の機器の追加] を選ぶ

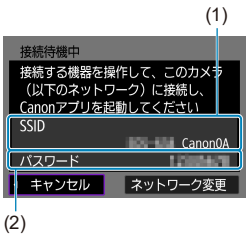


4 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは [表示しない] を選びます。



5 [Wi-Fi接続]を選ぶ



6 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラのモニターに表示されるSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- **[Wi-Fi設定]**で**[パスワード]**を**[なし]**に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります（🕮470）。

- 手順6で**[ネットワーク変更]**を選ぶと、アクセスポイント経由でWi-Fi接続することができます（🕮458）。

スマートフォン側の操作

スマートフォンの画面例



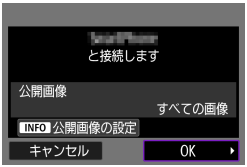
7 スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、手順6で確認したSSID（ネットワーク名）をタッチします。
- パスワード欄には、手順6で確認したパスワードを入力します。



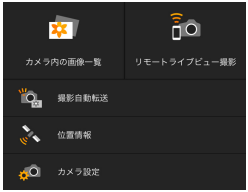
8 Camera Connectを起動してWi-Fi接続するカメラをタッチする

カメラ側の操作-2



9 [OK] を選ぶ

- 公開する画像を設定するときは、〈INFO〉ボタンを押します。📖423の手順5を参照して設定してください。



- スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Camera Connectを使用してカメラを操作します（📖404）。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、『Wi-Fi接続の終了』（📖421）を参照してください。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、『2回目以降のWi-Fi接続』（📖467）を参照してください。

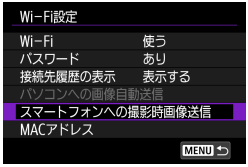
- Wi-Fi接続中に、再生時のクイック設定画面からスマートフォンに画像を送信できます（📖413）。

撮影画像の自動送信

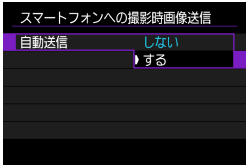
撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信することができます。あらかじめ、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続しておきます。



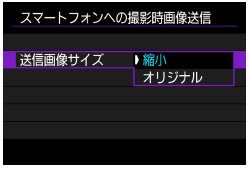
1 [(ᯤ)：Wi-Fi設定] を選ぶ



2 [スマートフォンへの撮影時画像送信] を選ぶ



3 [自動送信] で [する] を選ぶ



4 [送信画像サイズ] を設定する

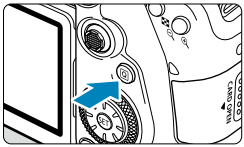
5 撮影する

カメラからスマートフォンへ画像を送信

カメラとスマートフォンがBluetooth接続（Androidのみ）またはWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。



1 画像を再生する



2 〈Q〉ボタンを押す



3 [スマートフォンへ画像を送信]を選ぶ

- Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り換わります。

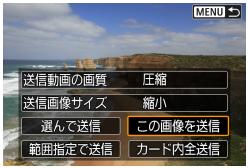
4 送信方法を選んで送信する

(1) 1枚ずつ送信



1 送信する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉または〈◯〉で送信する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈▩·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



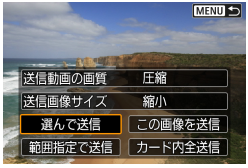
2 [この画像を送信]を選ぶ

- **[送信画像サイズ]**で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]**で、送信する動画の画質を選ぶことができます。

(2) 複数の画像を選んで送信



1 〈(SET)〉を押す



2 [選んで送信]を選ぶ

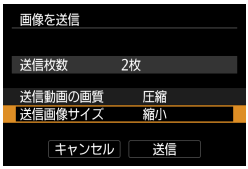


3 送信する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉または〈◌〉で送信する画像を選び、〈(SET)〉を押します。

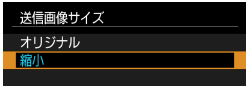


- 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、3枚表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときは〈🔍〉ボタンを押します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈Q〉ボタンを押します。

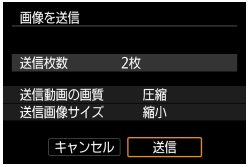


4 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]** で画質を選びます。

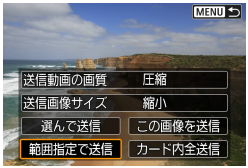


5 [送信] を選ぶ

(3) 範囲を指定して送信する場合



1 〈(SET)〉を押す



2 [範囲指定で送信]を選ぶ

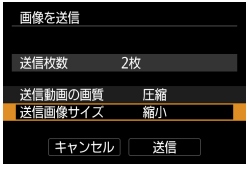


3 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈▪·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

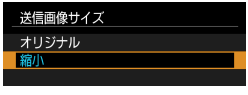
4 範囲を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押します。

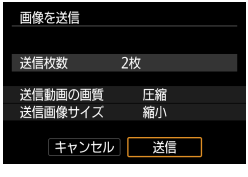


5 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]** で画質を選びます。

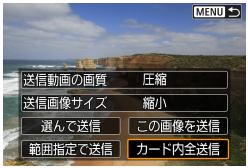


6 [送信] を選ぶ

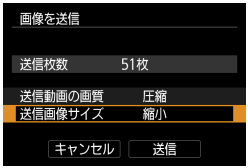
(4) カード内の画像をすべて送信



1 〈(SET)〉を押す



2 [カード内全送信]を選ぶ

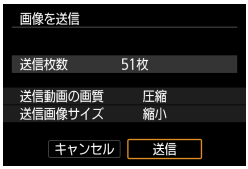


3 [送信画像サイズ]を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]**で画質を選びます。



4 [送信]を選ぶ

(5) 検索条件が設定された画像を送信

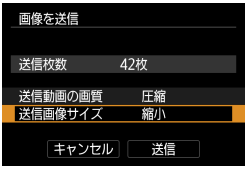
[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。
[画像検索の条件設定] については、『再生する画像の絞り込み』(385) を参照してください。



1 〈(SET)〉を押す

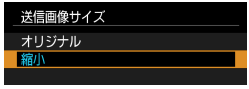


2 [検索結果全送信] を選ぶ

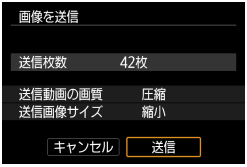


3 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



- 動画を送信するときは、**[送信動画の画質]** で画質を選びます。



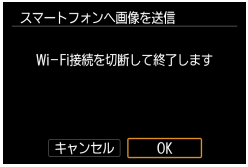
4 [送信] を選ぶ

画像の送信の終了

Bluetooth接続中にカメラを操作して画像を送信した場合（Androidのみ）



- 画像の送信画面で〈**MENU**〉ボタンを押します。



- 左の画面で【OK】を選ぶと、画像の送信とWi-Fi接続を終了します。

Wi-Fi接続中にカメラを操作して画像を送信した場合



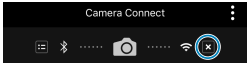
- 画像の送信画面で〈**MENU**〉ボタンを押します。
- Wi-Fi接続を終了するときは『Wi-Fi接続の終了』（📖421）を参照してください。

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。

- 画像の送信中に【キャンセル】を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- 静止画を縮小するときは、同時に送信する静止画がすべて縮小されます。なお、**S2**サイズの静止画は縮小されません。
- 動画を圧縮するときは、同時に送信する動画がすべて圧縮されます。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

Wi-Fi接続の終了

下記のいずれかの操作を行ってください。



Camera Connectの画面で［×］をタッチする



［Wi-Fi動作中］の画面で［切断して終了］を選ぶ

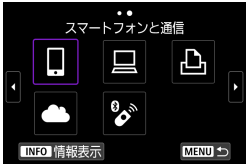
- 【Wi-Fi動作中】の画面が表示されていないときは、【(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続】を選びます。
- 【切断して終了】を選び、確認画面で【OK】を選びます。

スマートフォンに公開する画像の設定

Wi-Fi接続を終了してから設定します。

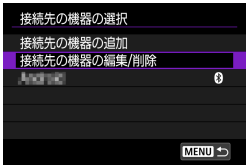


1 [(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [スマートフォンと通信] を選ぶ

- 履歴（📖467）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。

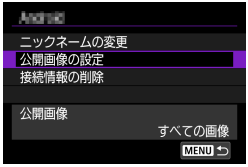


3 [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ

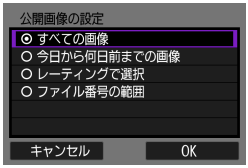


4 スマートフォンを選ぶ

- 画像を公開するスマートフォンの名称を選びます。



5 [公開画像の設定]を選ぶ



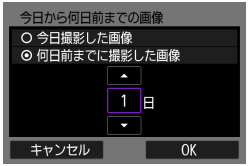
6 項目を選ぶ

- [OK]を選ぶと、設定画面が表示されます。

[すべての画像]

カード内のすべての画像を公開します。

[今日から何日前までの画像]

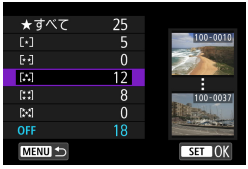


撮影日で公開する画像を指定します。最大で9日前までの画像を指定できます。

- **[何日前までに撮影した画像]**のときは、今日から何日前までに撮影した画像を公開するかを指定します。〈▲〉〈▼〉で日数を指定し、〈(SET)〉を押して確定します。
- [OK]を選ぶと、公開する画像が設定されます。

- **[公開画像の設定]**で**[すべての画像]**以外を設定しているときは、リモート撮影はできません。

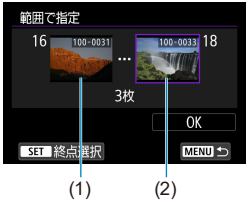
[レーティングで選択]



レーティングを付加した画像（または付加していない画像）やレーティングの種類で公開する画像を指定します。

- レーティングの種類を選ぶと、公開する画像が設定されます。

[ファイル番号の範囲]（範囲で指定）



ファイル番号順に並んだ画像の開始と終了の画像を選んで、公開する画像を指定します。

1. 〈(SET)〉を押して、画像の選択画面を表示します。
   〈◀〉〈▶〉または〈◯〉で画像を選びます。
   〈▪·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。
2. 始点（1）の画像を選びます。
3. 〈▶〉で終点（2）の画像を選びます。
4. [OK]を選びます。

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈🎥〉のときは、動画撮影が継続します。
  - ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈📷〉のときは、動画撮影が終了します
- スマートフォンとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- スマートフォンへの画像保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。また、カメラのモニターが消灯することがあります。

- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。

パソコンとWi-Fi接続

ここでは、カメラとパソコンをWi-Fi接続してEOS用または専用ソフトウェアと連携する方法について説明しています。パソコンに最新のソフトウェアをインストールしてからWi-Fi接続の設定を行ってください。
パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。

EOS Utilityでカメラを操作

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、カメラ内の画像の取り込みや、カメラの操作などを行うことができます。

カメラ側の操作-1

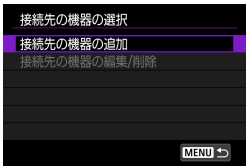


1 [(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ

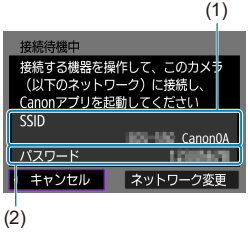


2 [EOS Utilityでリモート操作] を選ぶ

- 履歴（📖467）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



4 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- **[Wi-Fi設定]**で**[パスワード]**を**[なし]**に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります。詳しくは、470を参照してください。

パソコン側の操作-1

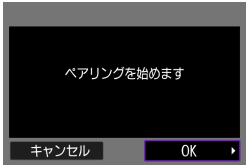
パソコンの画面例



5 SSIDを選んでパスワードを入力する

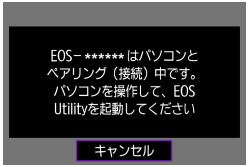
- パソコンのネットワークの設定画面から、手順4で確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、手順4で確認したパスワードを入力します。

カメラ側の操作-2



6 [OK] を選ぶ

- 下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「******」は、接続しようとしているカメラのMACアドレス下6桁です。



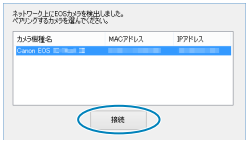
パソコン側の操作-2

7 EOS Utilityを起動する



8 EOS Utilityの［Wi-Fi/LAN接続ペアリング］をクリックする

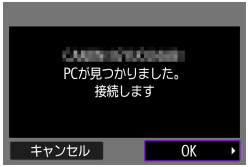
- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、**[はい]** を選びます。



9 [接続] をクリックする

- 接続するカメラを選んで、**[接続]** をクリックします。

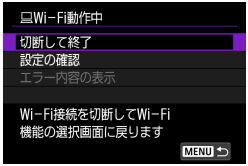
カメラ側の操作-2



10 Wi-Fi接続を確立する

- 【OK】を選びます。

[Wi-Fi動作中]の画面について



切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

これでパソコンとのWi-Fi接続は完了です。

- パソコンのEOS Utilityでカメラを操作します。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、『2回目以降のWi-Fi接続』を参照してください（467）。

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈▶■〉のときは、動画撮影が継続します。
  - ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈📷〉のときは、動画撮影が終了します
- ライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈▶■〉のときに、EOS Utilityの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- EOS UtilityとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェースケーブルでの接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

カメラ内の画像の自動送信

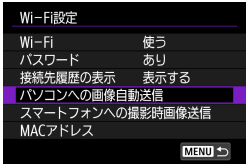
専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます。

パソコン側の操作-1

1 パソコンとアクセスポイントを接続してImage Transfer Utility 2を起動する

- はじめてImage Transfer Utility 2 を起動したときは、画面の手順にしたがって操作を行うとペアリングを設定する画面が表示されます。

カメラ側の操作-1

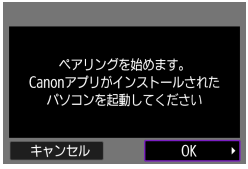


2 [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

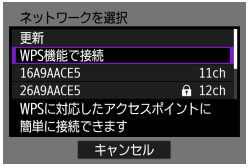
- [(ᯤ):Wi-Fi設定] を選びます。
- [パソコンへの画像自動送信] を選びます。



3 [自動送信] で [する] を選ぶ



4 [OK] を選ぶ



5 アクセスポイントとWi-Fi接続する

- パソコンと接続しているアクセスポイントとカメラをWi-Fi接続します。接続方法は『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（📖458）を参照してください。



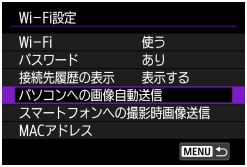
6 カメラとペアリングするパソコンを選ぶ

パソコン側の操作-2

7 カメラとパソコンをペアリングする

- カメラを選んで、**【ペアリング】**をクリックします。

カメラ側の操作-2

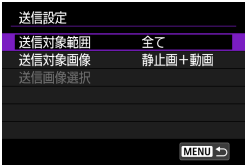


8 [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

- [(ᯤ): Wi-Fi設定] を選びます。
- [パソコンへの画像自動送信] を選びます。



9 [送信設定] を選ぶ



10 送信する対象を選ぶ

- [送信対象範囲] で [選択画像のみ] を選んだときは [送信画像選択] の画面で送信する画像を設定します。
- 設定が終了したらカメラの電源を切ります。

パソコンが起動した状態で、アクセスポイントの通信範囲内でカメラの電源を入れると、カメラ内の画像がパソコンに自動送信されます。

- 自動送信が始まらないときは、カメラの電源を入れなおしてください。

プリンターとWi-Fi接続

ここでは、カメラとWi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターを直接Wi-Fi接続して画像を印刷する方法について説明しています。プリンターの操作方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。



1 [(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続]を選ぶ

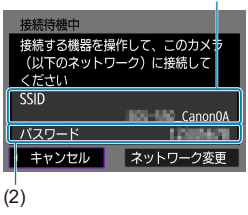


2 [凸Wi-Fi対応プリンターで印刷]を選ぶ

- 履歴（📖467）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の追加]を選ぶ



4 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- **[Wi-Fi設定]**で**[パスワード]**を**[なし]**に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります（📖470）。

5 プリンターを操作する

- お使いのプリンターのWi-Fiに関する設定メニューから、確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、手順4で確認したパスワードを入力します。



6 プリンターを選ぶ

- 検出されたプリンターの一覧から、Wi-Fi接続するプリンターを選びます。
- 接続したいプリンターが表示されない場合、**[再検索]** を選択することで表示されることがあります。

- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（458）を参照してください。

画像の印刷

1枚ずつ印刷

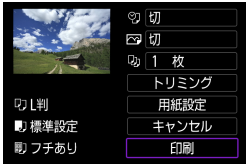


1 印刷する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉または〈◯〉で印刷する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈▦·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を印刷]を選ぶ



3 印刷する

- 印刷の設定方法は、📖439を参照してください。
- [印刷]を選び、[OK]を選ぶと印刷が始まります。

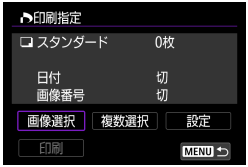
画像を指定して印刷



1 〈(SET)〉を押す



2 [印刷指定]を選ぶ



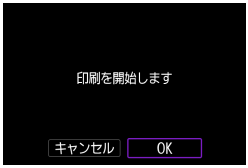
3 印刷内容を設定する

- 設定方法は、『画像の印刷指定／DPOF』(📖354)を参照してください。
- Wi-Fi接続前に印刷指定をしているときは、手順4に進んでください。

4 [印刷]を選ぶ

- **[印刷]**は、画像が選択され、印刷できる状態になっていないと選択できません。

5 [用紙設定]の内容を設定する (📖439)



6 印刷する

- 【OK】を選ぶと印刷が始まります。

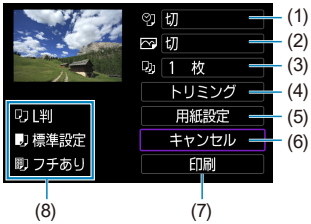
- プリンターとWi-Fi接続中は撮影できません。
- 動画は印刷できません。
- 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
- プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
- **【フチあり】**にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
- 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。
- RAW画像は**【印刷指定】**を選んで印刷することはできません。印刷するときは、**【この画像を印刷】**を選んで印刷してください。

- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。
- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、**【印刷】**を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 印刷を途中で中止するときは、**【中止】**が表示されている間に〈(SET)〉を押して**【OK】**を選びます。
- **【印刷指定】**で印刷するときに、途中で印刷を中止してから残りの画像を印刷するときは、**【再開】**を選びます。ただし、次のときは印刷の再開はできません。
  - 再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  - インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
- 印刷中に問題が発生したときは、📖443を参照してください。

印刷の設定

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

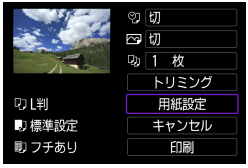
印刷設定画面



(1) 日付や画像番号の印刷を設定します（📖441）
(2) 印刷効果を設定します（📖441）
(3) 印刷枚数を設定します（📖441）
(4) 印刷範囲を設定します（📖442）
(5) 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します（📖440）
(6) 画像の選択画面に戻ります
(7) 印刷を開始します
(8) 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

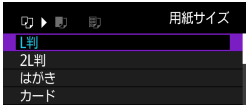
* **プリンターの機種により、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

用紙設定



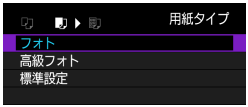
- **［用紙設定］**を選びます。

[用紙サイズ]の設定



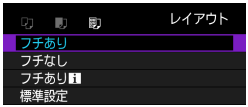
- プリンターにセットされている用紙のサイズを選びます。

[用紙タイプ]の設定



- プリンターにセットされている用紙のタイプを選びます。

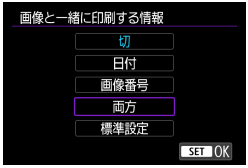
[レイアウト]の設定



- 印刷レイアウトを選びます。

- 用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、解像度が低く印刷されることがあります。

[ ] 日付／画像番号印刷の設定



- [ ] を選びます。
- 印刷内容を選びます。

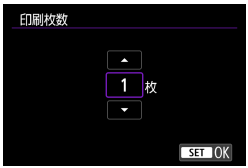
[ ] 印刷効果（イメージオプティマイズ）の設定



- [ ] を選びます。
- 印刷効果を選びます。

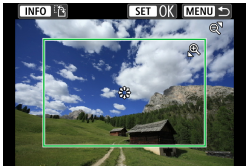
- ISO感度「H」で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。
- 印刷効果などの選択肢にある**【標準設定】**は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。**【標準設定】**の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。

[ ] 印刷枚数の設定



- [ ] を選びます。
- 印刷枚数を選びます。

トリミング（印刷範囲）の設定



トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

- 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、**[用紙設定]**の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈⊕〉〈⊡·⊖〉で枠の大きさが変わります。

枠を移動する

〈✥〉〈✥〉で枠が上下左右に移動します。

枠の縦/横を切り換える

〈INFO〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。

3 〈(SET)〉を押してトリミングを終了する

- 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認できます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど解像度が低く印刷されます。

プリンターエラー発生時の操作について

- プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、**[続行]**を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

- 印刷中に問題が発生したときは、カメラのモニターにエラーメッセージが表示されます。問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

- 用紙が正しくセットされていることを確認してください。

インクエラー

- インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

- 用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

- 選択した画像は印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

Webサービスへ画像を送信

ここでは、Webサービスを利用して画像を送信する方法について説明しています。

Webサービスの情報の登録

パソコンまたはスマートフォンを使って、利用するWebサービスの情報をカメラに登録します。

- CANON iMAGE GATEWAYをはじめとする各種Webサービスの設定には、インターネットに接続できるパソコンまたはスマートフォンおよびブラウザーが必要です。
- CANON iMAGE GATEWAYに接続する際にお使いいただくブラウザー（Microsoft Internet Explorerなど）のバージョンや設定条件については、CANON iMAGE GATEWAYのサイトで確認してください。
- CANON iMAGE GATEWAYのサービスに対応している国／地域の情報は、弊社Webサイト（http://www.canon.com/cig/）で確認してください。
- CANON iMAGE GATEWAYでの操作や設定については、CANON iMAGE GATEWAYのヘルプをご確認ください。
- CANON iMAGE GATEWAY以外のWebサービスも利用するときは、そのWebサービスのアカウントが必要です。詳しくは、各WebサービスのWebサイトを確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

CANON iMAGE GATEWAYの登録

CANON iMAGE GATEWAYとカメラを連携できるように、CANON iMAGE GATEWAYをカメラに登録します。
パソコンまたはスマートフォンのメールアドレスが必要です。

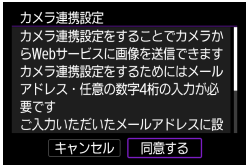
カメラ側の操作-1



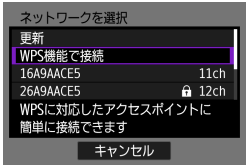
1 [(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [☁Webサービスへ画像を送信] を選ぶ

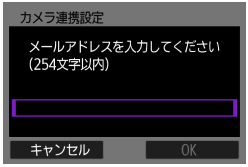


3 [同意する] を選ぶ



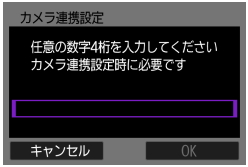
4 Wi-Fi接続する

- アクセスポイントとWi-Fi接続します。
  🕮460の手順6に進みます。



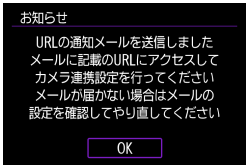
5 メールアドレスを入力する

- メールアドレスを入力して【OK】を選びます



6 4桁の数字を入力する

- 任意の4桁の数字を入力し【OK】を選びます。



7 【OK】を選ぶ

- 【 】が【 】になります。



パソコンまたはスマートフォン側の操作

8 カメラ連携を設定する

- 受信した通知メールのURLにアクセスします。
- カメラ連携設定ページの案内にしたがって設定します。

カメラ側の操作-2



9 CANON iMAGE GATEWAYを送信先に追加する

- [ ] を選びます。
  CANON iMAGE GATEWAYが追加されます。



他のWebサービスの登録

パソコンまたはスマートフォン側の操作

1 利用するWebサービスの設定をする

- CANON iMAGE GATEWAYのWebサイトにアクセスして、カメラ連携設定のページを表示します。
- 画面の指示にしたがって、利用するWebサービスの設定をします。

カメラ側の操作



2 設定したWebサービスを送信先に追加する

- 【(ψ)：Wi-Fi/Bluetooth接続】を選びます。
- 【📷】を選びます。

画像の送信

撮影した画像を家族や友人と共有できるよう、登録したWebサービスへカメラ内の画像を送信したり、オンラインアルバムのリンク先を送信できます。

WebサービスとのWi-Fi接続



1 ［((ᵢ))：Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ



2 Webサービスを選ぶ

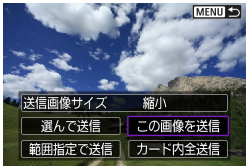
- 履歴（📖467）が表示されたときは、〈◀〉〈▶〉で画面を切り換えます。
- Webサービスの種類や設定によって、送信先の選択画面が表示されることがあります（📖462）。

1枚ずつ送信



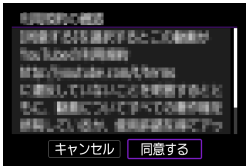
1 送信する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉または〈◎〉で送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈⊞·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。



2 [この画像を送信] を選ぶ

- **[送信画像サイズ]** で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

複数の画像を選んで送信



1 〈(SET)〉を押す

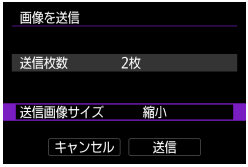


2 [選んで送信]を選ぶ



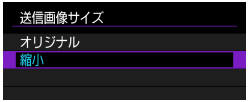
3 送信する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉または〈◯〉で送信する画像を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈▩·🔍〉ボタンを押すと、3画像表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときは、〈🔍〉ボタンを押します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈Q〉ボタンを押します。



4 [送信画像サイズ] を選ぶ

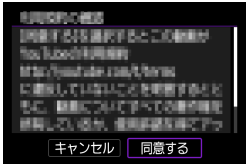
- 送信先がYouTubeのときは、**[送信画像サイズ]** は表示されません。
- 表示される画面で画像サイズを選びます。





5 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

範囲を指定して送信

画像の範囲を指定して、まとめて送信します。



1 〈(SET)〉を押す



2 [範囲指定で送信]を選ぶ



3 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
  画像が選択され、[✓]が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈▪▪·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示の枚数を変えることができます。

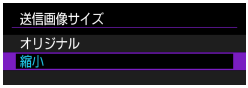
4 範囲を確定する

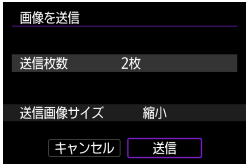
- 〈Q〉ボタンを押します。



5 [送信画像サイズ] を選ぶ

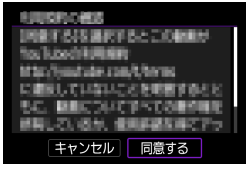
- 表示される画面で画像サイズを選びます。





6 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で【OK】を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

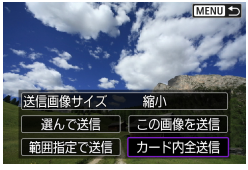


- 【利用規約の確認】の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、【同意する】を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

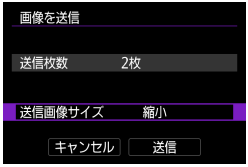
カード内の画像をすべて送信



1 〈(SET)〉を押す

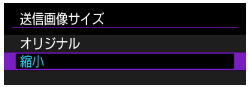


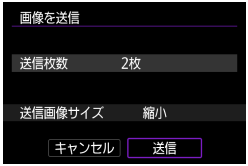
2 [カード内全送信] を選ぶ



3 [送信画像サイズ] を選ぶ

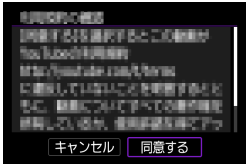
- 表示される画面で画像サイズを選びます。





4 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



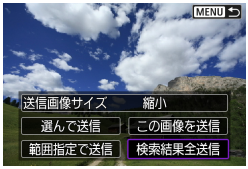
- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

検索条件が設定された画像を送信

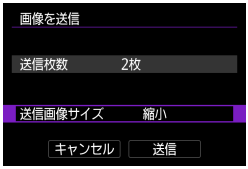
[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。
[画像検索の条件設定] については、『再生する画像の絞り込み』(🕮385) を参照してください。



1 〈(SET)〉を押す

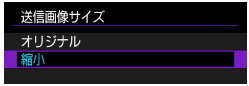


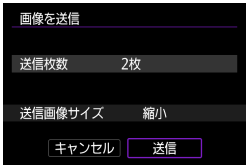
2 [検索結果全送信] を選ぶ



3 [送信画像サイズ] を選ぶ

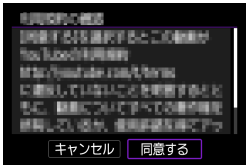
- 表示される画面で画像サイズを選びます。





4 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

- Webサービスにwi-Fi接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- CANON iMAGE GATEWAY以外のWebサービスへ画像を送信した場合、そのWebサービスへ送信できていないのに、送信エラーが表示されないことがあります。このような場合の送信エラーは、CANON iMAGE GATEWAYのサイトで確認できますので、エラーの内容をご確認の上、再度送信してください。

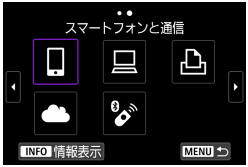
- Webサービスによっては送信できる画像の種類や数、動画の時間が制限されます。
- **[範囲指定で送信]**、**[カード内全送信]** または **[検索結果全送信]** で、一部の画像が送信できないことがあります。
- 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されます。なお、動画や**S2**サイズの静止画は縮小されません。
- **[縮小]** が有効になるのは、このカメラと同じ機種のカメラで撮影された静止画だけです。それ以外のカメラで撮影された静止画は、サイズを縮小せずに送信します。
- CANON iMAGE GATEWAYにアクセスすると、画像を送信したWebサービスの送信履歴が確認できます。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

アクセスポイントを使用したWi-Fi接続

ここでは、WPS(PCB方式）に対応したアクセスポイントを利用したWi-Fi接続の方法について説明しています。
あらかじめ、WPS用ボタンの場所と押す時間を確認しておいてください。
Wi-Fi接続の開始から完了まで1分程度かかる場合があります。



1 [(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 項目を選ぶ

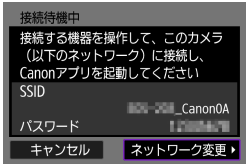
- 履歴（📖467）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ

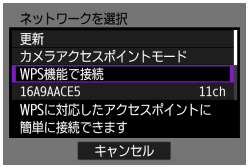


- **[スマートフォンと通信]** を選んだときは左の画面が表示されます。Camera Connectをインストール済みのときは **[表示しない]** を選びます。
- 次に表示される **[スマートフォンと通信]** の画面では **[Wi-Fi接続]** を選びます。



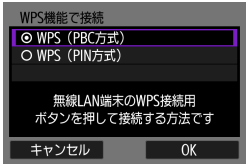
4 [ネットワーク変更] を選ぶ

- [📱] [💻] [🖨] を選んだときに表示されます。



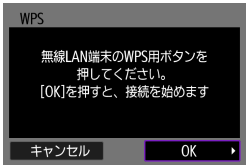
5 [WPS機能で接続] を選ぶ

- 手順5の画面で表示される **[カメラアクセスポイントモード]** については、📖462を参照してください。



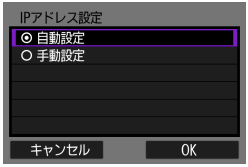
6 [WPS（PBC方式）]を選ぶ

- 【OK】を選びます。



7 アクセスポイントにWi-Fi接続する

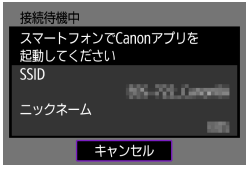
- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。
- 【OK】を選びます。



8 [自動設定]を選ぶ

- 【OK】を選ぶと、Wi-Fi機能に応じた設定画面が表示されます。
- 【**自動設定**】でエラーが表示されたときは、📖462を参照してください。

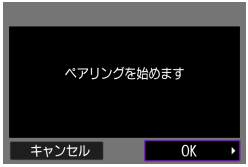
9 Wi-Fi機能に応じた設定を行う



[スマートフォンと通信]

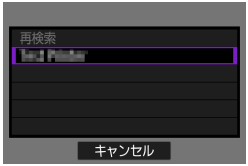
- スマートフォンのWi-Fi機能で、モニターに表示されたSSID（ネットワーク名）をタッチして、接続するアクセスポイントのパスワードを入力します。

410の手順8に進みます。



[EOS Utilityでリモート操作]

428の手順7または手順8に進みます。



[Wi-Fi対応プリンターで印刷]

435の手順6に進みます。

CANON iMAGE GATEWAYを登録する

446の手順5に進みます。

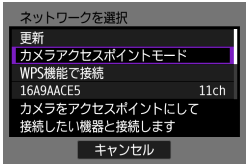
送信先画面

Webサービスによっては、送信先の選択画面が表示されることがあります。送信先の登録や送信時の設定は、パソコンで行います。設定方法については、EOS Utilityの使用説明書を参照してください。



- **[送信先]**の画面が表示されることがあります。
- 登録した送信先の一覧から、送信先を選びます。
- 接続設定や画像の送信方法は、他のWebサービスと同じです。

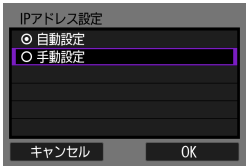
カメラアクセスポイントモード



カメラアクセスポイントモードは、カメラと各機器を直接Wi-Fi接続する方法です。**[Wi-Fi機能]**で、[📱][💻][🖨]を選んだときに表示されます。

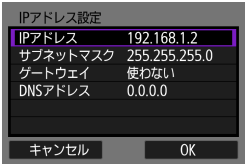
IPアドレスの手動設定

表示される項目はWi-Fi機能によって異なります。



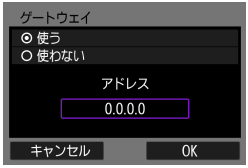
1 [手動設定]を選ぶ

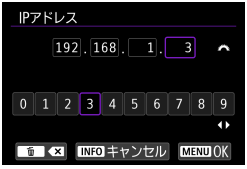
- [OK]を選びます。



2 項目を選ぶ

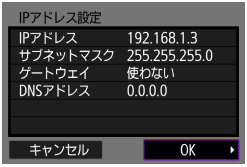
- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。
- ゲートウェイを使う場合は、**【使う】**を選んでから**【アドレス】**を選びます。





3 数値を入力する

- 〈☁〉で上側の入力場所を選び、〈◀〉〈▶〉で入力する数値を選びます。〈(SET)〉を押すと選んだ数値が入力されます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。



4 【OK】を選ぶ

- 必要な項目の設定が完了したら**【OK】**を選びます。
- 設定する内容が分からない場合は、『ネットワークの設定を確認する』(📖497)を参照するか、ネットワーク管理者、またはネットワークに詳しい方に問い合わせてください。

ワイヤレスリモコンと接続

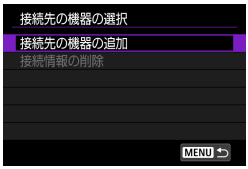
ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1（別売／📖156）とBluetooth接続して、ワイヤレスでリモコン撮影することができます。



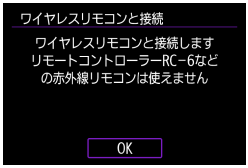
1 [(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



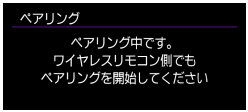
2 [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ



3 [接続先の機器の追加] を選ぶ



4 〈(SET)〉 を押す



5 ペアリングする

- [ペアリング] の画面が表示されたら、BR-E1の〈**W**〉ボタンと〈**T**〉ボタンを同時に3秒以上押します。
- 「****（BR-E1の個別名称）と接続しました」が表示されたら、〈(SET)〉を押します。

6 リモコン撮影できるように設定する

- 静止画撮影時は、ドライブモードで［⁞⏲］または［⁞⏲2］を選びます（📖153）。
- 動画撮影時は、［📷：**リモコン撮影**］で［**する**］を選びます。
- このあとの操作は、BR-E1の使用説明書を参照してください。

- カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth接続中はカメラのバッテリーが消耗します。

- Bluetooth機能を使わないときは、手順1で［**使わない**］に設定することをおすすめします。

ペアリング解除

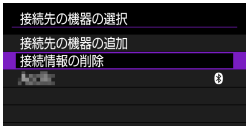
他のBR-E1とペアリングするときは、接続中のリモコンの登録を解除します。



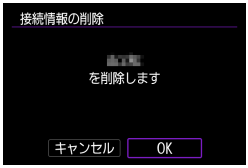
1 [(ᯤ) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 [ワイヤレスリモコンと接続] を選ぶ



3 [接続先の削除] を選ぶ



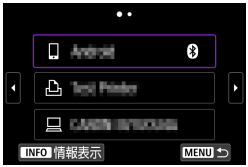
4 [OK] を選ぶ

2回目以降のWi-Fi接続

一度Wi-Fi接続して接続設定が登録された機器やWebサービスに、再度Wi-Fi接続する方法です。



1 [(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続]を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 表示された履歴から、Wi-Fi接続する項目を選びます。表示されていないときは〈◀〉〈▶〉で画面を切り換えます。
- **[接続先履歴の表示]**を**[表示しない]**に設定しているときは履歴は表示されません(📖470)。

3 接続先の機器を操作する

[📱] スマートフォンの場合

- Camera Connectを起動します。
- スマートフォンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_CanonOA」と表示されます。

[🖳] パソコンの場合

- パソコンでEOS用ソフトウェアを起動します。
- パソコンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとパソコンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_CanonOA」と表示されます。

[🖷] プリンターの場合

- プリンターの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとプリンターを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_CanonOA」と表示されます。

複数の接続設定の登録

無線通信機能全体で、接続設定を10個まで登録することができます。



1 [((ı)) : Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 項目を選ぶ

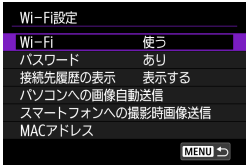
- 履歴（📖467）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。
- **[スマートフォンと通信]** は『スマートフォンと通信』（📖399）を参照してください。
- **[EOS Utilityでリモート撮影]** は『パソコンとWi-Fi接続』（📖426）を参照してください。
- **[Wi-Fi対応プリンターで印刷]** は『プリンターとWi-Fi接続』（📖434）を参照してください。
- Webサービスへ画像を送信するときは『Webサービスへ画像を送信』（📖444）を参照してください。

- 接続設定を削除するときは、📖478を参照してください。

Wi-Fi機能の設定



1 **[(ψ)：Wi-Fi設定]を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

- **Wi-Fi**
  飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、**[使わない]**に設定してください。
- **パスワード**
  [なし]に設定すると、Wi-Fi接続時のパスワードの入力を省略することができます（アクセスポイントとのWi-Fi接続時を除く）。
- **接続先履歴の表示**
  Wi-Fi接続した機器の履歴を**[表示する]**／**[表示しない]**が設定できます。
- **パソコンへの画像自動転送**
  専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます（🕮431）。
- **スマートフォンへの撮影時画像送信**
  撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます（🕮412）。
- **MACアドレス**
  カメラのMACアドレスの確認ができます。

Bluetooth機能の設定



1 [(ᯤ)：Bluetooth設定] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **Bluetooth**
  Bluetooth機能を使わないときは **[使わない]** を選びます。
- **接続先情報の確認**
  ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。
- **Bluetoothアドレス**
  カメラのBluetoothアドレスを確認できます。
- **電源オフ中の通信**
  カメラとスマートフォンをペアリングすると表示されます。
  [する] を選ぶと、スマートフォンと電源オフ中のカメラをWi-Fi接続して、カメラ内の画像の閲覧などができます（🕮405）。

ニックネームの変更

スマートフォンやカメラで表示される、このカメラのニックネームを変更することができます。



1 **[(ᯤ)：ニックネーム]を選ぶ**

2 **仮想キーボード（📖482）で文字を入力する**

- 入力が終了したら〈**MENU**〉ボタンを押します。

GPS機器を使用した位置情報の付加

GPSレシーバー GP-E2（別売）やBluetooth対応スマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。

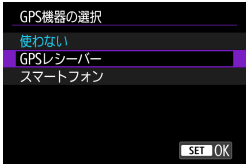
GP-E2

1 GP-E2をカメラに取り付ける

- GP-E2をカメラのアクセサリーシューに取り付けて電源を入れます。詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。



2 [((ı)) : GPS機器の設定] を選ぶ



3 [GPS機器の選択] で [GPSレシーバー] を選ぶ

4 撮影する

- **[設定]** について、詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。

GP-E2を使用するときのご注意

- 使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- GP-E2のファームウェアをVer.2.0.0以上にアップデートしてください。ファームウェアをアップデートする際は、インターフェースケーブルが必要です。アップデートの方法については、キヤノンのホームページを参照してください。
- このカメラとGP-E2を、ケーブルで接続して使用することはできません。
- このカメラでは撮影方位は記録されません。

スマートフォン

スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connectをインストール（399）してから設定を行ってください。

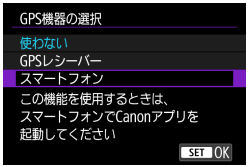
1 スマートフォンの位置情報機能をオンにする

2 Bluetooth接続する

- カメラとスマートフォンをBluetooth接続します（400）。



3 [(ᯤ)：GPS機器の設定]を選ぶ



4 [GPS機器の選択]で[スマートフォン]を選ぶ

- 設定後にCamera Connectを起動します。

5 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

GPS接続表示

静止画撮影画面（🕮623）または動画撮影画面（🕮625）のGPS接続表示で、スマートフォンからの位置情報の取得の状態を確認することができます。

- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

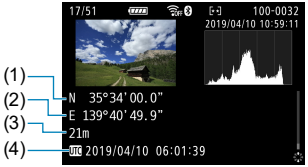
なお、GP-E2使用時のGPS接続表示については、GP-E2の使用説明書を参照してください。

撮影時に位置情報を画像に付加する

GPSアイコンが点灯中に撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

画像に付加される位置情報について

撮影情報表示の画面（🕮332、🕮389）で、撮影した画像に付加された位置情報を確認することができます。



(1) 緯度
(2) 経度
(3) 標高
(4) 協定世界時

- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth接続しているときのみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源スイッチを入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
  - ワイヤレスリモコンとBluetooth接続する
  - カメラの電源を切る
  - Camera Connectを終了する
  - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
  - カメラの電源が切れる
  - Bluetooth接続が終了する
  - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる

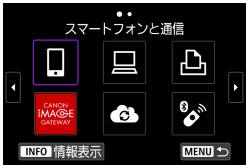
- 協定世界時（UTC: Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 動画撮影のときは、撮影開始時の情報が付加されます。

接続設定の変更／削除

接続設定の変更や削除は、Wi-Fi接続を終了してから行います。

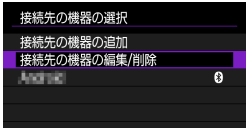


1 [(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 履歴（📖467）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。

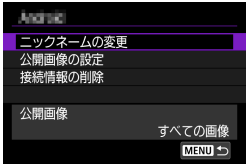


3 [接続先の機器の編集/削除] を選ぶ

- [ᛒ]がグレーで表示されたスマートフォンを選ぶと、Bluetooth接続を切り換えることができます。**[スマートフォンと通信]** の画面が表示されたら **[Bluetooth接続]** を選び、次の画面で〈(SET)〉を押します。



4 接続設定の変更や削除を行う機器を選ぶ



5 項目を選ぶ

- 表示される画面で接続設定の変更や削除を行います。

- **ニックネームの変更**

  ニックネームを仮想キーボード（📖482）で変更できます。

- **公開画像の設定（📖422）**

  [スマートフォンと通信]を選んだときに表示されます。設定した内容が画面の下側に表示されます。

- **接続情報の削除**

  ペアリング中のスマートフォンの接続設定を削除したときは、スマートフォンのカメラの登録も解除してください（📖406）。

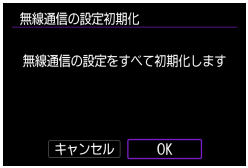
- Webサービスの接続設定は、CANON iMAGE GATEWAYのWebサイトで削除します。

無線通信の設定初期化

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。



1 **［(ᯤ)：無線通信の設定初期化］を選ぶ**



2 **［OK］を選ぶ**

- **［🔧：カメラ設定初期化］**を行っても、無線通信の設定情報は削除されません。
- カメラとスマートフォンをペアリングしていたときは、スマートフォンのBluetooth設定画面で、無線通信の設定を初期化したカメラの登録を解除してください。

情報表示画面

エラーの内容とカメラのMACアドレスを確認することができます。



1 **［(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続］を選ぶ**



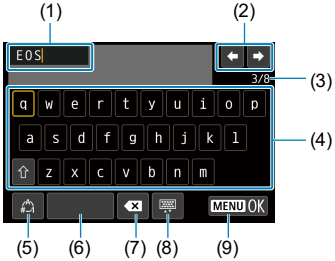
2 **〈INFO〉ボタンを押す**

- **［情報表示］**の画面が表示されます。



- エラーが発生しているときに〈(SET)〉を押すと、エラーの内容が表示されます。

仮想キーボードの操作方法



(1)	文字を入力するエリア（入力エリア）	(6)	スペース
(2)	入力エリアでのカーソルの移動	(7)	入力エリアでの文字の削除
(3)	入力した文字数/入力できる文字数	(8)	キーボードの種類の変更
(4)	キーボード	(9)	入力の終了
(5)	入力モードの切り換え		

- (2)、(4) ～ (8) は〈✣〉〈✣〉で移動します。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは〈(SET)〉を押します。

エラー表示の対応

エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- **[情報表示]** の画面で〈(SET)〉を押す（🕮481）。
- **[Wi-Fi動作中]** の画面で **[エラー内容の表示]** を選ぶ。

下記のエラー番号のページをクリックすると該当ページにジャンプします。

11 (🕮484)	12 (🕮484)	21 (🕮485)	22 (🕮486)
23 (🕮487)	61 (🕮488)	63 (🕮489)	64 (🕮489)
65 (🕮490)	66 (🕮490)	67 (🕮490)	68 (🕮491)
69 (🕮491)	91 (🕮491)	121 (🕮491)	125 (🕮492)
126 (🕮492)	127 (🕮492)	141 (🕮492)	142 (🕮492)
151 (🕮493)	152 (🕮493)		

- エラーが発生したときは、**[Wi-Fi/Bluetooth接続]** の画面の右上に **[Err**]** と表示されます。カメラの電源を〈OFF〉にすると表示されなくなります。

11：接続先が見つかりません

- [📱] の場合、Camera Connectは起動していますか？
  ➡ Camera Connectから接続操作を行ってください（📖410）。
- [💻] の場合、EOS用ソフトウェアは起動していますか？
  ➡ EOS用ソフトウェアを起動して、再度接続操作を行ってください（📖428）。
- [🖨] の場合、プリンターの電源は入っていますか？
  ➡ プリンターの電源を入れてください。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  ➡ 暗号化の認証方式が **[オープン]** の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。
  大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（📖482）。

12：接続先が見つかりません

- 接続先の機器とアクセスポイントの電源は入っていますか？
  ➡ 接続先の機器とアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- カメラの設定がIPアドレス【自動設定】になっています。この設定で間違いありませんか?
  - ➡ DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス【手動設定】にして設定を行ってください（📖462）。

DHCPサーバーの確認内容

- DHCPサーバーの電源は入っていますか？
  - ➡ DHCPサーバーの電源を入れてください。
- DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？
  - ➡ DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
  - ➡ DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- DHCPサーバーは正常に機能していますか？
  - ➡ DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

22：DNSサーバーから応答がありません

カメラの確認内容

- カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？
  - ➡ IPアドレス【手動設定】にして、使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください（📖497、📖462）。

DNSサーバーの確認内容

- DNSサーバーの電源は入っていますか？
  - ➡ DNSサーバーの電源を入れてください。
- DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか?
  - ➡ DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNSサーバーは正常に機能していますか？
  - ➡ DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
  - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- Wi-Fi接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
  - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください（📖497、📖462）。
  - ➡ カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23：ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

カメラの確認内容

- カメラと同じネットワークにWi-Fi接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していませんか？
  - ➡ カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。
  - ➡ DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス【**手動設定**】の設定になっているときは、IPアドレス【**自動設定**】の設定にしてください（🕮460）。

エラー 20番台の対応について

- エラー 21 ～ 23が表示された場合は、下記の確認も行ってください。
- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？**
  - 暗号化の認証方式が【**オープン**】の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（🕮482）。

61：同じSSIDの無線LANネットワークがみつかりません

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
  - ➡ アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動してください（🕮494）。

カメラの確認内容

- カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？
  - ➡ アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください。

アクセスポイントの確認内容

- アクセスポイントの電源は入っていますか？
  - ➡ アクセスポイントの電源を入れてください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは**［情報表示］**の画面（🕮481）で確認できます。

63：無線LANの認証に失敗しました

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証方式を設定していますか？
  - ➡ カメラで設定できる認証方式は、**[オープン]**、**[共有キー]**、**[WPA/WPA2-PSK]** です。
- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  - ➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは **[情報表示]** の画面（📖481）で確認できます。

64：無線LAN端末に接続できません

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
  - ➡ カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは **[情報表示]** の画面（📖481）で確認できます。

65：無線LANの接続が切れました

- アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
  - ➡ アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください（🕮494）。
- 何らかの理由で、Wi-Fi接続が切れ、再接続できない状態になっています。
  - ➡ アクセスポイントにほかの機器からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合（IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz帯））、雨天や高湿度などの影響が考えられます（🕮494）。

66：無線LANのパスワードが違います

- カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？
  - ➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください。

67：無線LANの暗号方式が違います

- カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
  - ➡ カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
  - ➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは **[情報表示]** の画面（🕮481）で確認できます。

68：無線LAN端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

- アクセスポイントのWPS（Wi-Fi Protected Setup）ボタンは、アクセスポイントで指示されている時間押し続けましたか？
  ➡ WPSボタンをアクセスポイントの使用説明書で指示されている時間押し続けてください。
- アクセスポイントのすぐ近くで接続操作をしていますか？
  ➡ 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69：複数の無線LAN端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

- ほかのアクセスポイントがWPS（Wi-Fi Protected Setup）のPBC方式（プッシュボタン接続方式）で接続操作を行っています。
  ➡ しばらく待ってから接続操作を行ってください。

91：その他のエラー

- エラー 11 ～ 69以外の異常が発生しました。
  ➡ カメラの電源スイッチを入れ直してください。

121：サーバーの空き容量が不足しています

- 送信先Webサーバーの空き容量が不足しています。
  ➡ Webサーバー内の不要な画像を削除し、Webサーバーの空き容量を確認してから再度送信してください。

125：ネットワークの設定を確認してください

- ネットワークが接続されていますか？
  ➡ ネットワークの接続状態を確認してください。

126：サーバーと接続できませんでした

- CANON iMAGE GATEWAYがメンテナンス中か、一時的に負荷が集中しています。
  ➡ しばらくしてからWebサービスの接続をやり直してください。

127：エラーが発生しました

- Webサービスの接続中に、エラー 121 ～ 126以外の異常が発生しました。
  ➡ WebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

141：プリンターは処理中です。もう一度接続してください

- プリンターが印刷中ではありませんか？
  ➡ 印刷が終わってからWi-Fi接続をやり直してください。
- プリンターにほかのカメラがWi-Fi接続していませんか？
  ➡ ほかのカメラのWi-Fi接続を終了してから、Wi-Fi接続をやり直してください。

142：プリンター情報の取得に失敗しました。もう一度接続してください

- プリンターの電源は入っていますか？
  ➡ プリンターの電源を入れてから、Wi-Fi接続をやり直してください。

151：送信を中止しました

- 何らかの理由で、パソコンへの画像の自動送信が中断されました。
  ➡ カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから再度〈ON〉にすると、自動送信が再開されます。

152：カードのスイッチが書き込み禁止位置になっています

- カードの書き込み禁止スイッチが、書き込み禁止位置になっていませんか？
  ➡ カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み可能位置にしてください。

無線通信機能での注意事項

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

カメラとスマートフォンとの距離について

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth接続は可能でもWi-Fi接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけてWi-Fi接続を行ってください。

アクセスポイントのアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響でWi-Fiの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用してWi-Fiの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うとWi-Fiの通信速度が遅くなります。

カメラを複数使うときの注意

- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz帯）のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fiのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように5チャンネル分、間を開けてください。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1の使用について

- カメラとスマートフォンがBluetooth接続されているときは、BR-E1を使用することはできません。【(ᯤ)：Wi-Fi/Bluetooth接続】の【ワイヤレスリモコンと接続】で、カメラの接続先をワイヤレスリモコンに変更してください。

セキュリティーについて

セキュリティーに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- **通信の傍受**

  悪意ある第三者によってWi-Fiの電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。

- **ネットワークへの不正アクセス**

  悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、ネットワークのセキュリティーを確保するための仕組みや機能を使用することをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

- **Windowsの場合**

  Windowsの **[コマンドプロンプト]** を開き、ipconfig/allと入力して〈**Enter**〉キーを押します。
  パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

- **Mac OSの場合**

  Mac OS Xの **[ターミナル]** を開き、ifconfig -aと入力して〈**Return**〉キーを押します。**[en0]** 項目 **[inet]** の ***.***.***.*** がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。
  * **[ターミナル]** については、Mac OS Xのヘルプを参照してください。

なお、📖462でカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

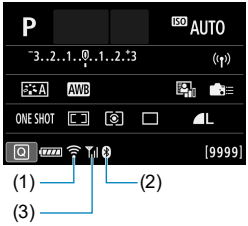
例）192.168.1.10

無線通信機能の接続状態

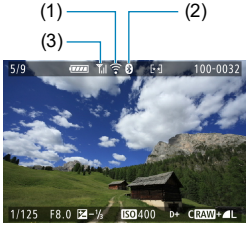
モニターと表示パネルで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。

モニター

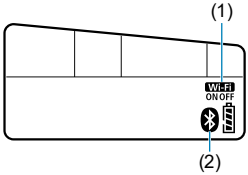
クイック設定画面



再生時の情報表示画面



表示パネル



(1)	Wi-Fi機能
(2)	Bluetooth機能
(3)	電波強度

通信状態		モニター		表示パネル
		Wi-Fi機能	電波強度	Wi-Fi機能
未接続	Wi-Fi：使わない		消灯	
	Wi-Fi：使う			
接続開始		 （点滅）		 （点滅）
接続中				
送信中		 （←→）		
接続エラー		 （点滅）		 （点滅）

Bluetooth機能の表示

Bluetooth機能	接続状態	モニター	表示パネル
[使う]	Bluetooth接続中		
	Bluetooth未接続		
[使わない]	Bluetooth未接続	非表示	非表示

- スマートフォンとのWi-Fi接続時、またはパソコンへの画像の自動送信時は「Bluetooth接続中」になります。
- パソコン、プリンター、WebサービスとのWi-Fi接続時は「Bluetooth未接続」になります。

機能設定

この章では、メニュー機能の「：機能設定タブ」の項目について説明しています。

- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。

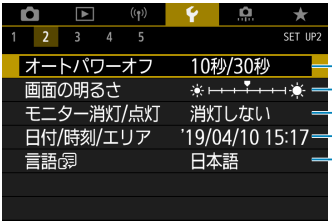
メニュー目次:機能設定タブ

● 機能設定1



505
507
510
511

● 機能設定2



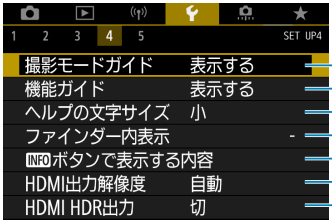
513
514
515
516
519

● 機能設定3



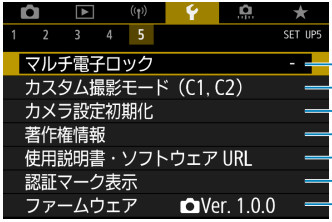
520
521
522
523
524
528

● 機能設定4



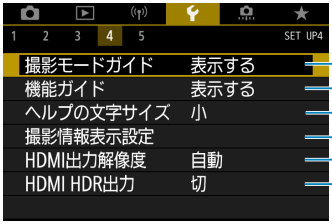
📖532
📖533
📖535
📖536
📖538
📖543
📖544

● 機能設定5



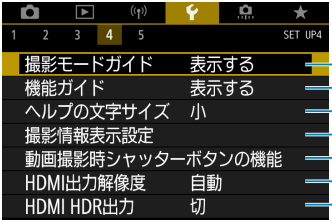
📖545
📖546
📖547
📖548
📖550
📖550
📖550

ライブビュー撮影のときは、[4] は以下の画面が表示されます。



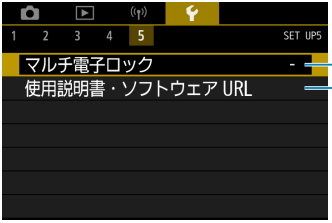
📖532
📖533
📖535
📖539
📖543
📖544

動画撮影のときは、[4] は以下の画面が表示されます。



532
533
535
539
542
543
544

かんたん撮影ゾーン、[HDR動画] モードのときは、[5] は以下の画面が表示されます。



545
550

フォルダの作成と選択

画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

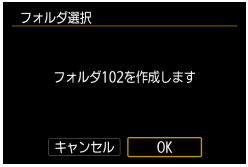
フォルダの作成



1 [：フォルダ選択] を選ぶ



2 [フォルダ作成] を選ぶ



3 [OK] を選ぶ

フォルダの選択



- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

(1) フォルダ内画像数
(2) 最小番号画像
(3) フォルダ名
(4) 最大番号画像

フォルダについて

- 1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（🕮509）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

パソコンを使ったフォルダ作成

- カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

画像番号の設定

撮影した画像には0001～9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

（例）IMG_0001.JPG
画像番号



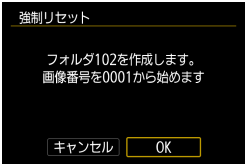
1 [：画像番号]を選ぶ



2 項目を設定する

- **[番号の付け方]**を選びます。
- **[通し番号]** **[オートリセット]**のいずれかを選びます。





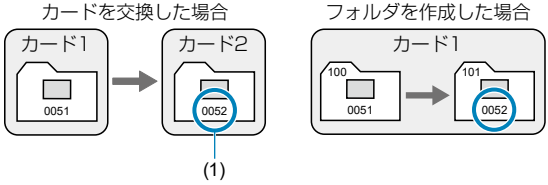
- 画像番号をリセットしたいときは、**[強制リセット]**を選びます（📖509）。
- **[OK]**を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。

- フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。
ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。

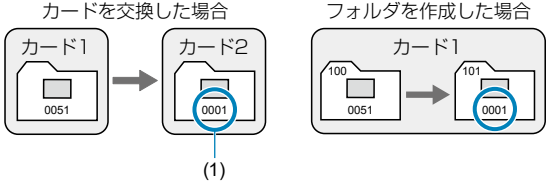


(1) 続きの画像番号

オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。
ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



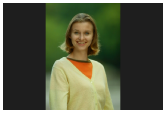
(1) 画像番号リセット

強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

縦位置撮影画像の自動回転表示



縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。



1 [: 縦位置画像回転表示] を選ぶ

2 項目を選ぶ

- **する**
  カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **する**
  パソコンでの表示で自動回転表示を行います。
- **しない**

- **[しない]** で撮影した画像は、**[する]** に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

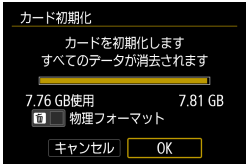
カードの初期化

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

- **カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。**

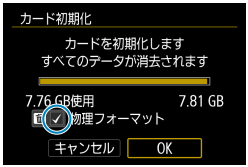


1 [：カード初期化] を選ぶ



2 初期化する

- [OK] を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、**[物理フォーマット]** の横に〈✓〉が付いた状態で **[OK]** を選びます。

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、MicrosoftからライセンスされたexFAT技術を搭載しています。

カードの初期化が必要な場合

- **新しく買ってきたカードを使うとき**
- **他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき**
- **画像やデータでカードがいっぱいになったとき**
- **カードに関するエラーが表示されたとき（📖613）**

物理フォーマット

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に【キャンセル】を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

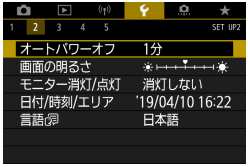
カード初期化時のファイルフォーマット

- **SD/SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。**
- exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

- このカメラで初期化したSDXCカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーによっては、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

オートパワーオフ

カメラの電源が切れるまでの時間を変えることができます。



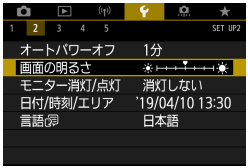
1 **[: オートパワーオフ] を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

- モニターの表示は、**[OFF]** に設定しても約30分で消えます。ただし、カメラの電源は切れません。

画面の明るさの調整



1 [🔧：画面の明るさ]を選ぶ



2 調整する

- グレーチャートを参考にして、〈◄〉〈►〉で調整し、〈(SET)〉を押します。

- 撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（📖389）で確認することをおすすめします。

モニターの消灯／点灯の設定

ファインダー撮影時に、モニターの消灯と点灯を、シャッターボタンの半押しと連動させることができます。



1 **［🔧：モニター消灯/点灯］を選ぶ**

2 **項目を選ぶ**

- **消灯しない**

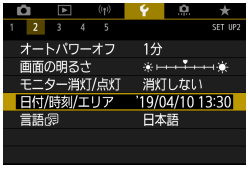
  シャッターボタンを半押ししても、モニターは消灯しません。〈INFO〉ボタンを押すと消灯します。

- **半押し連動**

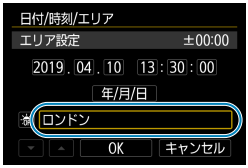
  シャッターボタンを半押しすると、モニターが消灯します。指を離すと点灯します。

日付／時刻／エリアの設定

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。
エリアから設定しておくと、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付/時刻に変更されます。
撮影画像には撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

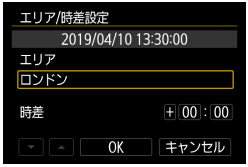


1 [: 日付/時刻/エリア] を選ぶ

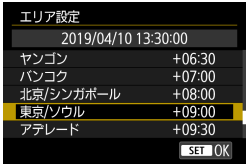


2 エリアを設定する

- 〈◄〉〈►〉で **[エリア設定]** を選びます。
- 〈(SET)〉を押します。



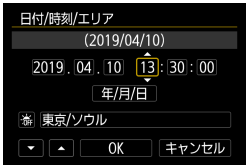
- 〈(SET)〉を押します。



- 〈▲〉〈▼〉でエリアを選び、〈(SET)〉を押します。
- 該当するエリアがないときは、〈**MENU**〉ボタンを押して **[時差]**（協定世界時との時差）で設定します。

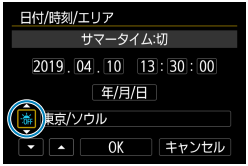


- 〈◀〉〈▶〉で **[時差]** の項目（＋－/時/分）を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で設定し、〈(SET)〉を押します。
- エリア/時差の設定が終わったら、〈◀〉〈▶〉で **[OK]** を選び、〈(SET)〉を押します。



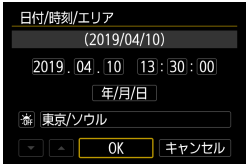
3 日付/時刻を設定する

- 〈◀〉〈▶〉で項目を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で設定し、〈(SET)〉を押します。



4 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◀〉〈▶〉で **[☀]** を選び、〈(SET)〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉で **[☀]** を選び、〈(SET)〉を押します。
- サマータイムを **[☀]** にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。**[☀]** にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。



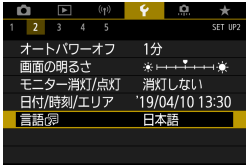
5 設定を終了する

- 〈◀〉〈▶〉で **[OK]** を選びます。

- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- **[エリア/時差設定]** の内容を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

- **[：日付/時刻/エリア]** の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

表示言語



1 [🔧：言語] を選ぶ



2 言語を設定する

ビデオ方式

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。



1 [：ビデオ方式] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **NTSC**
  テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- **PAL**
  テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

タッチ操作時の設定



1 [：タッチ操作] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **[敏感]** に設定すると、**[標準]** に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。
- タッチ操作を禁止するときは、**[しない]** を選びます。

タッチパネル操作時の注意事項

- 爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。
- **[敏感]** 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

操作時の電子音



1 [：電子音] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **タッチ音切**
  タッチ操作時の電子音を消します。
- **切**
  ピントが合ったとき、セルフタイマー撮影時、タッチ操作時の電子音を消します。

ヘッドフォンの音量



1 [: ヘッドフォン音量] を選ぶ



2 調整する

- 〈◄〉〈►〉で調整し、〈(SET)〉を押します。

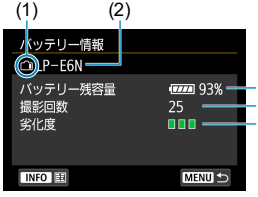
- **[: 録音]** が **[しない]** 以外のときは、内蔵マイクまたは外部マイクからの音をヘッドフォンで確認することができます。

バッテリー情報の確認

使用しているバッテリーの状態を確認することができます。また、複数のバッテリーをカメラに登録しておくと、登録済みのバッテリーのおおよその残量や、使用履歴を確認することができます。



1 [: バッテリー情報] を選ぶ



(1) バッテリー位置

(2) 使用しているバッテリー、または家庭用電源の型式が表示されます。

(3) バッテリー残量表示（53）とともに、残量が1%単位で表示されます。

(4) 使用しているバッテリーで撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。

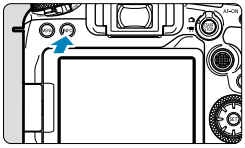
(5) バッテリーの劣化状態が表示されます。
- ▮▮▮（緑）：劣化していません
- ▮▮▯（緑）：少し劣化しています
- ▮▯▯（赤）：バッテリーの買い換えをおすすめします

- キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- 撮影回数は静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- バッテリーグリップ BG-E14（別売）に、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用したときも電池情報が表示されます。単3形電池を使用したときは、電池残量表示の情報のみ表示されます。
- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

バッテリーの登録

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数のバッテリーを登録するときは、バッテリーごとに以下の操作を行ってください。

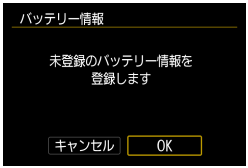


1 〈INFO〉ボタンを押す

- バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈INFO〉ボタンを押します。
  登録されていないバッテリーは灰色で表示されます。



2 [登録]を選ぶ



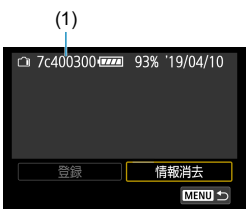
3 [OK]を選ぶ

- バッテリーの表示が白色に変わります。

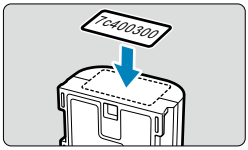
- 家庭用電源アクセサリー使用時は、バッテリーの登録はできません。

バッテリーのシリアル番号が一目でわかるようにする

登録したバッテリーパック LP-E6N/LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに記載して、バッテリーに貼っておくと便利です。



1 シリアル番号（1）をシール（25mm×15mm程度）に記載する



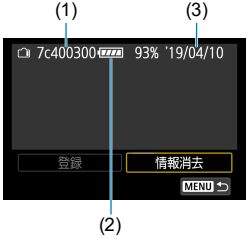
2 シールを貼る

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- カメラからバッテリーを取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼ります。

- 手順2の図以外の位置にシールを貼らないでください。バッテリーが入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。
- バッテリーグリップ BG-E14（別売）使用時は、バッテリーマガジンへのバッテリーの取り付け／取り外しを繰り返すと、シールがはがれることがあります。はがれたときは、新しいシールを貼りなおしてください。

登録済みで使用していないバッテリーの残量の確認方法

現在使用していないバッテリーの残量や前回使用した日を、確認することができます。



シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、バッテリーに貼ってあるシールのシリアル番号（1）を照合します。
  手元にあるバッテリーのおおよその残量（2）や、前回使用した日（3）を確認することができます。

バッテリー情報の消去

1 **［情報消去］を選ぶ**

- 📖525の手順2で**［情報消去］**を選びます。

2 **消去するバッテリーを選ぶ**

- ［✓］が表示されます。

3 **〈🗑〉ボタンを押す**

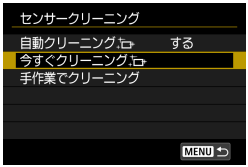
- 確認画面で［OK］を選びます。

撮像素子の清掃

すぐにクリーニングを行う



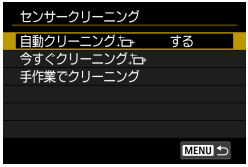
1 [：センサークリーニング] を選ぶ



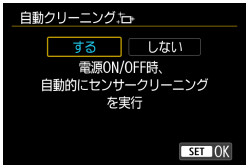
2 [今すぐクリーニング] を選ぶ

- 確認画面で [OK] を選びます。

自動クリーニングの設定



1 [自動クリーニング] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉で項目を選び、〈(SET)〉を押します。

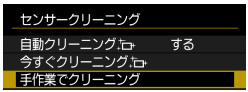
- 机の上などにカメラを置き、底面が机に付いた状態で行うと、効果的にゴミを除去できます。
- 繰り返してクリーニングしても効果は大きく変わりません。なお、清掃終了直後は、**[今すぐクリーニング]** が選べないことがあります。
- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像や撮影画面に「輝点」が生じることがあります。**[今すぐクリーニング]** を行うと、輝点の発生が改善することがあります（528）。

手作業での清掃 応用

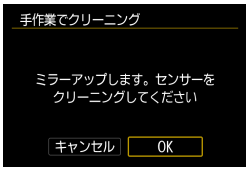
自動クリーニングで取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、手作業で撮像素子を清掃することができます。
必ずフル充電したバッテリーを使用してください。
撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ修理受付窓口にお申し付けください。



1 **[: センサークリーニング] を選ぶ**



2 **[手作業でクリーニング] を選ぶ**



3 **[OK] を選ぶ**

- 表示パネルに「**CLn**」が点滅します。

4 **レンズを取り外して撮像素子を清掃する**

5 **清掃を終了する**

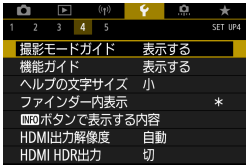
- 電源スイッチを〈**OFF**〉にします。

- 家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。

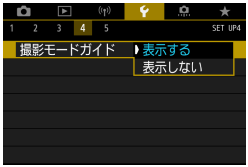
- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、ミラーが下がるため、撮像素子やシャッター幕、ミラーが損傷する恐れがあります。**
  - **電源スイッチを〈OFF〉にする**
  - **バッテリーを取り出す／入れる**
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕やミラーを破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中にバッテリーの残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

撮影モードガイドの表示

撮影モードを変更したときに、撮影モードの説明（撮影モードガイド）を表示することができます。



1 [: 撮影モードガイド] を選ぶ

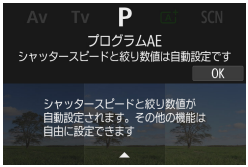


2 [表示する] を選ぶ



3 モードダイヤルを回す

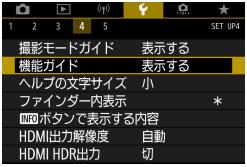
- 選択した撮影モードの説明が表示されます。
- 〈▼〉で詳しい説明が表示されます。



- 〈(SET)〉を押すと、撮影モードガイドは消えます。〈**SCN**〉、〈◎〉モードのときは、撮影モードの選択画面が表示されます。

機能ガイドの表示

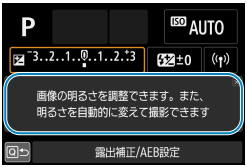
クイック設定時に、機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。



1 **［：機能ガイド］を選ぶ**



2 **［表示する］を選ぶ**



● 説明の表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

ヘルプ機能

[INFO ヘルプ]が表示されているときに〈INFO〉ボタンを押すと、機能の説明（ヘルプ）が表示されます。もう一度押すと表示が終了します。画面の右側にスクロールバー（1）が表示されたときは、〈◌〉を回します。

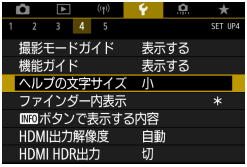
● [📷：高感度撮影時のノイズ低減] の例



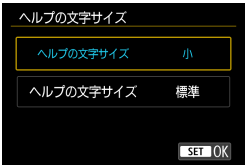
● [：マルチ電子ロック] の例



文字サイズの変更



1 [: ヘルプの文字サイズ] を選ぶ

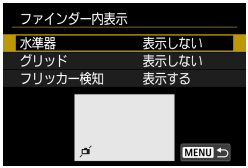


2 項目を選ぶ

ファインダー内表示の設定



1 **［：ファインダー内表示］を選ぶ**

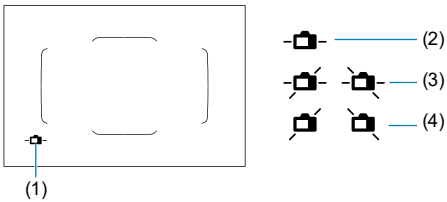


2 **項目を選ぶ**

- 〈▲〉〈▼〉で選び、〈(SET)〉を押します。

水準器の表示

シャッターボタンを半押しすると水準器（1）が表示されます。縦位置撮影時も機能します。



(2) 水平　(3) 傾き1°　(4) 傾き2°以上

- 傾きの確認は、ともに水平方向のみです（前後方向の傾きは表示されません）。
- ±1°程度の誤差が生じることがあります。

- ファインダー内表示が初期状態から変更されているときは、**[: ファインダー内表示]** に「*」が表示されます。

グリッドの表示

カメラの傾き確認や構図確認に有効なグリッドを、ファインダー内に表示することができます。

- ライブビュー撮影時、および動画撮影開始前に、モニターにグリッドを表示することができます（📖540）。

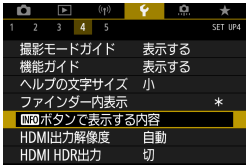
フリッカー検知の表示 応用

この機能を設定しておくと、カメラが、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）を検知したときに、ファインダー内に〈**Flicker!**〉が表示されます。

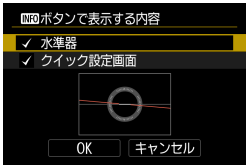
- **[: フリッカーレス撮影]** を **[する]** に設定すると、フリッカーによる露出への影響が低減された状態で撮影することができます（📖261）。

〈INFO〉ボタンで表示する内容

撮影準備状態で〈INFO〉ボタンを押したとき、モニターに表示する項目を選ぶことができます。



1 [：INFOボタンで表示する内容] を選ぶ

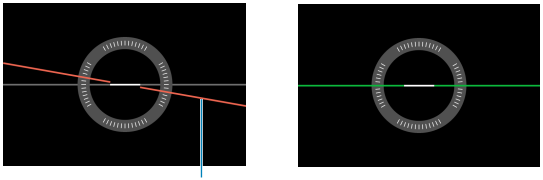


2 項目を選ぶ

- 表示する項目を選び、[✓] を付けます。
- [OK] を選びます。

水準器の表示

傾きがほぼ補正されると、赤い線が緑に変わります。

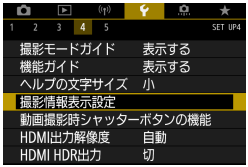


- ±1°程度の誤差が生じることがあります。
- カメラが大きく傾いているときは、誤差が大きくなります。

- ライブビュー撮影時に、AF方式が [+追尾優先AF] に設定されているときは、水準器は表示されません。
- [クイック設定画面] については、622を参照してください。

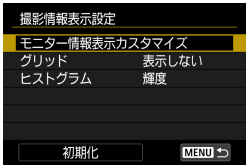
モニター表示のカスタマイズ

ライブビュー撮影時または動画撮影時のモニター表示をカスタマイズすることができます。



[: 撮影情報表示設定] を選ぶ

情報表示のカスタマイズ



1 [モニター情報表示カスタマイズ] を選ぶ



2 画面を選ぶ

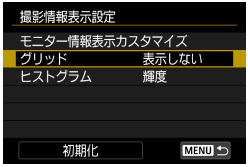
- 〈▲〉〈▼〉でモニターに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈(SET)〉を押して [✓] を外します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと画面の編集ができます。



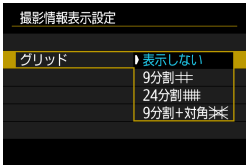
3 画面を編集する

- 〈▲〉〈▼〉でモニターに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈(SET)〉を押して [✓] を外します。
- [OK] を選ぶと設定されます。

グリッドの表示

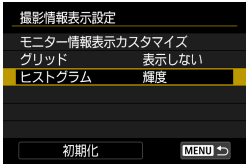


1 [グリッド] を選ぶ

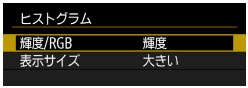


2 項目を選ぶ

ヒストグラムの設定



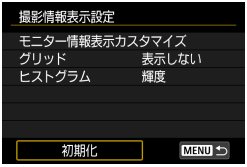
1 [ヒストグラム] を選ぶ



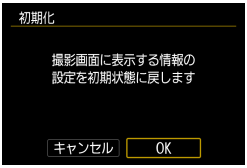
2 項目を選ぶ

- 表示内容（**[輝度]** または **[RGB]**）と表示サイズ（**[大きい]** または **[小さい]**）を選びます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと設定されます。

設定の初期化



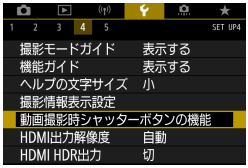
1 [初期化] を選ぶ



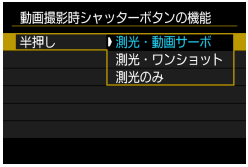
2 [OK] を選ぶ

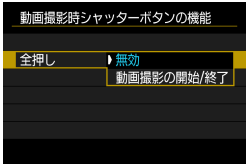
動画撮影時のシャッターボタンの機能

動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。



1 [：動画撮影時シャッターボタンの機能]を選ぶ





2 項目を選ぶ

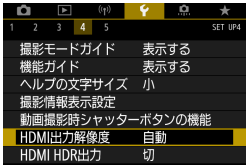
- **半押し**
  シャッターボタンを半押ししたときの動作を設定することができます。
- **全押し**
  シャッターボタンを全押ししたときの動作を設定することができます。

なお、**[全押し]**を**[動画撮影の開始/終了]**に設定すると、動画撮影ボタンのほか、シャッターボタンの全押し、またはリモートコントローラー RC-6、ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1、リモートスイッチ RS-60E3で、動画撮影を開始／終了することができます。

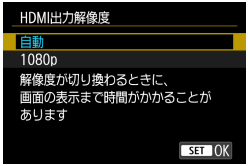
- **[全押し]**を**[無効]**に設定しても、タイムラプス動画撮影時にシャッターボタンを全押ししたときは、タイムラプス動画撮影が開始／終了します。

HDMI出力時の解像度

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMIケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。



1 [: HDMI 出力解像度] を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **自動**

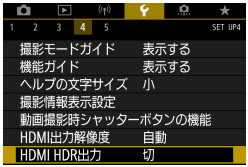
  接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

- **1080p**

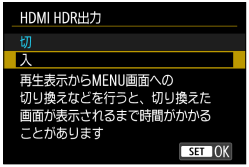
  1080pの解像度で出力します。解像度が切り換わるときの表示や時間が気になるときに選びます。

HDR対応テレビでのRAW画像の表示

HDR対応テレビにカメラをつないで、RAW画像をHDR表示で見ることができます。



1 [: HDMI HDR 出力] を選ぶ



2 [入] を選ぶ

- HDR表示中は、RAW現像などの画像の操作を行うことはできません。
- 多重露出で撮影されたRAW画像の場合は、JPEG画像をHDR表示します。

- HDR対応テレビの設定が、HDR入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDRテレビに表示しているときは、画像の効果や一部の情報が表示されないことがあります。

マルチ電子ロック機能

マルチ電子ロック機能をオンにしたときに操作を禁止する操作部材を設定します。不用意な操作による設定変更を防止することができます。



1 [: マルチ電子ロック] を選ぶ



2 操作を禁止する操作部材を選ぶ

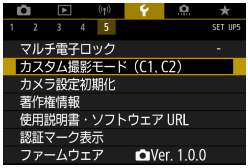
- 〈(SET)〉を押すと、[✓] が表示されます。
- [OK] を選びます。
  〈LOCK〉スイッチを〈LOCK〉に合わせると、[✓] を付けた操作部材がロックされます。

- かんたん撮影ゾーンのときは、**[タッチ操作]** のみ設定できます。なお、〈◎〉モードでは、〈〉〈〉も操作することができます。
- 初期状態から設定が変更されているときは、**[:マルチ電子ロック]** の右端に「*」が表示されます。

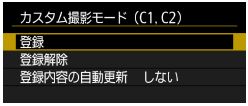
カスタム撮影モードの登録

応用

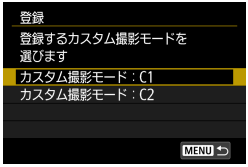
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、カスタム撮影モードとして登録することができます。



1 [: カスタム撮影モード (C1,C2)] を選ぶ



2 [登録] を選ぶ



3 登録する

- **[登録]** 画面で「C*」を選び、〈(SET)〉を押します。
- **[カスタム撮影モード : C*]** 画面で **[OK]** を選びます。
  カメラの設定内容が、カスタム撮影モードのC*に登録されます。

登録内容の自動更新

カスタム撮影モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で **[登録内容の自動更新]** を **[する]** に設定します。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で **[登録解除]** を選ぶと、各モードの設定内容を、登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

- カスタム撮影モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

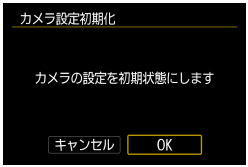
カメラの設定の初期化

応用

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。



1 [: カメラ設定初期化] を選ぶ



2 [OK] を選ぶ

- カスタム機能の一括解除、操作カスタマイズ設定の初期化については、581を参照してください。

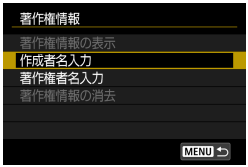
著作権情報

応用

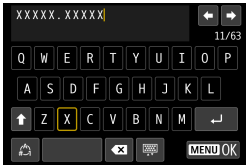
著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。



1 [🔧：著作権情報] を選ぶ



2 項目を選ぶ



3 文字を入力する

- 〈✣〉〈✣〉または〈◯〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- [⏏] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- [⌫] を選ぶか、〈🗑〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

著作権情報の確認



手順2で**[著作権情報の表示]**を選ぶと、入力した**[作成者]**[**著作権者**]の情報を確認することができます。

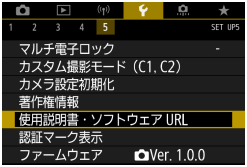
著作権情報の消去

手順2で**[著作権情報の消去]**を選ぶと、**[作成者]** **[著作権者]**の情報が消去されます。

- 入力した作成者名または著作権者名が長いときは、**[著作権情報の表示]**を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityで、著作権情報を設定・確認することもできます。

その他の情報



- **使用説明書またはソフトウェアのダウンロード**

  [：使用説明書・ソフトウェアURL] を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。また、表示されるURLのWebサイトにパソコンでアクセスして、ソフトウェアをダウンロードすることができます。

- **認証マークの表示** 応用

  [：認証マーク表示] を選ぶと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

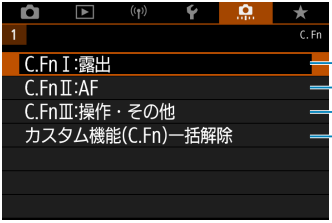
- **ファームウェアのバージョン** 応用

  [：ファームウェア] を選ぶと、このカメラまたは使用中のレンズのファームウェアをアップデートすることができます。

カスタム機能／マイメニュー

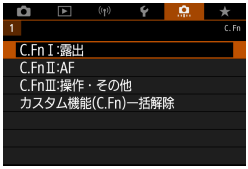
撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。また、設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

メニュー目次:カスタム機能タブ



カスタム機能の設定方法

応用



1 [C.FnⅠ:露出] / [C.FnⅡ:AF] / [C.FnⅢ:操作・その他] を選ぶ



2 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉で設定するカスタム機能番号（1）を選びます。



3 設定を変更する

- 〈▲〉〈▼〉で設定内容（番号）を選びます。
- 手順2、3を繰り返して、その他のカスタム機能を設定します。



- 画面の下に並んでいる番号で、設定状態を確認することができます。
- 初期設定から変更した項目は青色で表示されます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
  手順1の画面に戻ります。

カスタム機能一覧

応用

のカスタム機能は、ライブビュー（LV）撮影時、または動画撮影時は機能しません（設定が無効になります）。

C.Fn I：露出			LV撮影	動画撮影
1	露出設定ステップ	556	○	○
2	ISO感度設定ステップ	556	○	M時
3	ブラケティング自動解除	556	○	
4	ブラケティング順序	557	○	
5	ブラケティング時の撮影枚数	557	○	
6	セイフティシフト	558	○	
7	露出補正の自動解除	558	○	
8	合焦後AEロックする測光モード	558	○	

C.Fn II：AF			LV撮影	動画撮影
1	被写体追従特性	559	○	
2	速度変化に対する追従性	560	○	
3	測距点乗り移り特性	561	○	
4	AIサーボAF1コマ目レリーズ	561		
5	AIサーボAF連続撮影中レリーズ	562		
6	AF測距不能時のレンズ動作	563	○	○
7	測距エリア選択モードの限定	563		
8	AF方式の限定*	564	○	○
9	測距エリア/AF方式の切り換え	564	○	○
10	縦位置/横位置のAFフレーム設定	565	○	
11	( )/ 時サーボAF開始測距点	566	○	
12	自動選択：EOS iTR AF	567		
13	AFフレーム選択時の循環	568		
14	測距時のAFフレーム表示	568		
15	ファインダー情報の照明	569		
16	AFマイクロアジャストメント	569		

* ライブビュー（LV）撮影時の機能です。

C.Fn III：操作・その他

			LV撮影	動画撮影
1	ファインダー内❗警告の項目	📖570		
2	Tv/Av値設定時のダイヤル回転	📖570	○	○
3	操作ボタンカスタマイズ	📖571	設定により異なる	
4	電源オフ時のレンズ収納	📖574	○	○
5	音声圧縮	📖574		○

カスタム機能で変更できる内容

応用

撮影スタイルに応じて、[📷] タブでカメラの機能を細かく設定することができます。

C.Fn I：露出

C.Fn I-1：露出設定ステップ

シャッタースピードと絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

- 0：1/3段
- 1：1/2段

● **[1/2段]** 設定時は、図のように表示されます。



C.Fn I-2：ISO感度設定ステップ

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。

- 0：1/3段
- 1：1段

● **[1段]** に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。

C.Fn I-3：ブラケティング自動解除

電源スイッチを〈OFF〉にしたときの、AEBとWBブラケティングの解除を設定することができます。

- 0：する
- 1：しない

C.Fn I-4：ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

- 0：0→−→+
- 1：−→0→+
- 2：+→0→−

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
− ：マイナス補正	− ：ブルー寄りに補正	− ：マゼンタ寄りに補正
+ ：プラス補正	+ ：アンバー寄りに補正	+ ：グリーン寄りに補正

C.Fn I-5：ブラケティング時の撮影枚数

AEB撮影、WBブラケティング撮影時の撮影枚数を変更することができます。

なお、**[ブラケティング順序]** を **[0→−→+]** に設定したときは、下表のように撮影されます。

- 0：3枚
- 1：2枚
- 2：5枚
- 3：7枚

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3：3枚	標準（0）	−1	+1				
2：2枚	標準（0）	±1					
5：5枚	標準（0）	−2	−1	+1	+2		
7：7枚	標準（0）	−3	−2	−1	+1	+2	+3

- **[2枚]** 設定時は、AEBレベルを設定するときに補正方向（+または−）を選ぶことができます。WBブラケティング設定時は、B/A方向、またはM/G方向の補正になります。

C.Fn I-6：セイフティシフト

被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えたとき、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。**[Tv値/Av値]** は〈**Tv**〉、〈**Av**〉モードで機能します。**[ISO感度]** は〈**P**〉、〈**Tv**〉、〈**Av**〉モードで機能します。

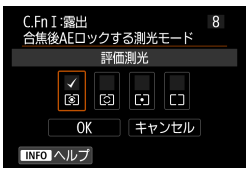
- 0：しない
- 1：Tv値/Av値
- 2：ISO感度

- **[📷：📷ISO感度に関する設定]** の **[ISO感度の範囲]** **[オートの低速限界]** が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、**[オートの範囲]** の設定によります（📖216）。ただし、手動設定されているISO感度が**[オートの範囲]**を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトが行われます。

C.Fn I-7：露出補正の自動解除

- 0：しない
  電源スイッチを〈OFF〉にしても、露出補正の設定は解除されません。
- 1：する
  電源スイッチを〈OFF〉にすると、露出補正の設定が解除されます。

C.Fn I-8：合焦後AEロックする測光モード



ワンショットAFでピントが合ったときに、露出を固定（AEロック）するかどうかを、測光モードごとに設定することができます。シャッターボタンを半押ししている間、露出が固定されます。

AEロックする測光モードを選び、**[✓]** を付けます。**[OK]** を選ぶと設定されます。

C.Fn II : AF

C.Fn II-1 : 被写体追従特性

AIサーボAF/サーボAF時の測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性を設定することができます。

- 0
  標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。
- 粘る : −2／粘る : −1
  障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。−1よりも−2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。
  その反面、意図しない被写体にピントが合ったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。
- 俊敏 : +2／俊敏 : +1
  AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。
  その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

C.Fn II-2：速度変化に対する追従性

被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対するAIサーボAF/サーボAFの追従性の設定です。

- 0
  移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。
- −2／−1
  移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。0の設定でも被写体のわずかな動きや手前の障害物に影響されてピントが不安定なときに効果的です。
- +2／+1
  急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。
  その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

C.Fn II-3：測距点乗り移り特性

被写体が上下左右に大きく移動したときの、被写体に対する測距点（AFフレーム）の乗り移り（切り換わり）による、追従性の設定です。
この設定は、測距エリア選択モードが **[自動選択AF]** **[ゾーンAF]** **[ラージゾーンAF]** のとき、またはAF方式が **[顔+追尾優先AF]** **[ゾーンAF]** のときに機能します。

- 0
  測距点の乗り移りが緩やかな、標準的な設定です。
- +2／+1
  狙っている被写体が上下左右に大きく移動して、被写体が測距点から外れても、周囲の測距点に乗り移って、被写体にピントを合わせ続けます。被写体移動の連続性と、コントラストなどを判断し、信頼性の高い測距点を選んで乗り移りが行われます。+1よりも+2のほうが、測距点が乗り移りやすくなります。
  その反面、広角レンズなど被写界深度の深いレンズを使用したときや、遠くにある小さい被写体を撮影すると、意図しない測距点でピント合わせが行われることがあります。

C.Fn II-4：AIサーボAF1コマ目レリーズ

AIサーボAFで1コマ目を撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

- バランス重視
  ピントとレリーズタイミングのバランスをとった設定です。
- レリーズ優先
  シャッターボタンを押すと、ピントが合っていなくてもすぐに撮影されます。ピントよりも一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。
- ピント優先
  シャッターボタンを押しても、ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。

C.Fn II-5：AIサーボAF連続撮影中レリーズ

AIサーボAF＋連続撮影で1コマ目を撮影したあと、連続撮影を続けているときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます。

- バランス重視
  ピントと連続撮影速度のバランスをとった設定です。暗いときや被写体のコントラストが低いときは、連続撮影速度が遅くなることがあります。
- 連続撮影速度優先
  ピントよりも連続撮影速度を優先します。
- ピント優先
  連続撮影速度よりもピントを優先します。ピントが合うまで撮影されません。

- **[連続撮影速度優先]**に設定しても、フリッカー低減処理が行われる撮影条件のときは（📖261）、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。

- **[バランス重視]**設定時に暗い場所でピントが合わないときは、**[ピント優先]**に設定すると改善することがあります。

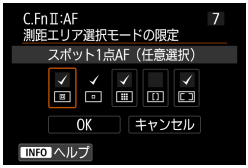
C.Fn II-6：AF測距不能時のレンズ動作

AFでピントが合わせられないときのレンズの動作を設定することができます。

- 0：サーチ駆動する
  AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。
- 1：サーチ駆動しない
  AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を行いません。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

- 超望遠レンズなど、測距範囲が広いレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、**[1：サーチ駆動しない]** に設定することをおすすめします。

C.Fn II-7：測距エリア選択モードの限定



測距エリア選択モードを、使用するモードだけに限定することができます。測距エリア選択モード選び、〈SET〉を押して **[✓]** を付けます。**[OK]** を選ぶと設定されます。なお、測距エリア選択モードについては、📖128～📖129を参照してください。

- **[1点AF（任意選択）]** の **[✓]** を外すことはできません。
- **[測距エリア選択モードの限定]** で **[✓]** を付けても、レンズによっては使用できない測距エリア選択モードがあります。

C.Fn II-8：AF方式の限定

AF方式の選択項目を、使用するAF方式だけに限定することができます。
なお、AF方式については、🕮135～🕮137を参照してください。
使用を限定するAF方式を選び**[✓]**を付けます。**[OK]**を選ぶと設定されます。

- **[1点AF]** の **[✓]** を外すことはできません。

C.Fn II-9：測距エリア選択モードの切換

- 0：⊡→ 測距エリア選択ボタン
  〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押したあと、〈⊡〉ボタンを押すと、測距エリア選択モードが切り換わります。
- 1：⊡→ メイン電子ダイヤル
  〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押したあと、〈◠〉を回すと、測距エリア選択モードが切り換わります。

- **[1：⊡→メイン電子ダイヤル]** 設定時に、AFフレームを横方向へ移動するときは、〈✲〉〈✲〉を操作してください。

C.Fn II-10：縦位置/横位置のAFフレーム設定

- 0：同じ
  縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ測距エリア選択モードと任意選択AFフレーム、または同じ位置のAFフレームまたはゾーンAFフレームになります。
- 1：別々に設定：[⊡]＋[⊡]（LV時は[⊡]）
  カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、測距エリア選択モードとAFフレームまたはゾーンAFフレームを設定することができます。
  ①②③のそれぞれの姿勢で、測距エリア選択モードとAFフレーム（またはゾーン）を任意選択すると記憶されます。撮影時はカメラの姿勢に応じて、設定した測距エリア選択モードと任意選択したAFフレームまたはゾーンAFフレームに切り換わります。
- 2：別々に設定：[⊡]
  カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を設定することができます。姿勢に応じて自動的にAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を切り換えたいときに有効です。
  ①②③のそれぞれの姿勢で設定した、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置が記憶されます。

- **[⚙：カスタム機能（C.Fn）一括解除]**を選択すると（📖581）、①②③の姿勢で設定した内容が解除されます。
- 設定時と異なるレンズを装着したときに、設定した内容が解除されることがあります。

C.Fn II-11：〔 〕/ 時サーボAF開始測距点

測距エリア選択モードを自動選択AFに設定したとき、またはAF方式を［ +追尾優先AF］に設定したときに、どのAFフレーム（測距点）からAIサーボAFまたはサーボAFを開始するかを設定することができます。

- 0：自動
  撮影状況に応じてAIサーボAFまたはサーボAFを開始するAFフレームが自動的に決まります。
- 1：〔 〕/ 時の開始測距点
  AF動作がAIサーボAF、測距エリア選択モードが自動選択AF、またはAF動作が［サーボAF］、AF方式が［ +追尾優先AF］に設定されているときに、任意設定したAFフレームからAIサーボAF、またはサーボAFが始まります。
- 2：回 ロ時に設定した測距点
  スポット1点AF、1点AFから、自動選択AF、または［ +追尾優先AF］に切り換えたときに、それまで任意設定していたAFフレームからAIサーボAFまたはサーボAFが始まります。自動選択AF、または［ +追尾優先AF］に切り換える前に設定していたAFフレームからAIサーボAF、またはサーボAFを開始したいときに有効です。

C.Fn II-12：自動選択：EOS iTR AF

ファインダー撮影時に、人物を認識してAFを行う機能です。測距エリア選択モードが、ゾーンAF（ゾーン任意選択）、ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）、自動選択AFのときに機能します。

- 0：する（顔優先）
  [1：する] よりも顔を優先して、カメラが測距点を自動選択します。
  ワンショットAF時は、測距エリアの中にいる、静止している人物の顔にピントが合いやすくなります。
  AIサーボAF時は、測距エリアの中にいる、人物の顔にピントが合いやすくなります。
  一度ピントが合うと、初めにピント合わせをした顔にピントが合い続けるよう、測距点が自動選択されます。
- 1：する
  AF情報と人物の認識情報を基に、カメラが測距点を自動選択します。
  ワンショットAF時は、測距エリアの中にいる、静止している人物にピントが合いやすくなります。
  AIサーボAF時は、測距エリアの中にいる、人物にピントが合いやすくなります。人物が検知できないときは、最も近距離にある被写体にピントが合います。一度ピントが合うと、初めにピント合わせをした部分の色にピントが合い続けるよう、測距点が自動選択されます。
- 2：しない
  AF情報だけで測距点の自動選択が行われます。

- **[0：する（顔優先）]** または **[1：する]** 設定時は、**[2：しない]** に設定したときよりも、ピント合わせにやや時間がかかります。
- **[0：する（顔優先）]** または **[1：する]** に設定しても、撮影条件や被写体によっては効果が得られないことがあります。
- EOS用の外部ストロボから、AF補助光が自動的に投光されるような暗い場所では、AF情報だけで測距点の自動選択が行われます（人物の認識情報を使用したAFは行われません）。

C.Fn II-13：AFフレーム選択時の循環（ファインダー撮影）

- 0：しない（端で突き当たり）
  一番端のAFフレームを頻繁に使用するときに有効です。
- 1：する
  一番端のAFフレームで止まらずに反対側のAFフレームが選択できます。

● [C.Fn II-11：〔〕/〔〕時サーボAF開始測距点] が [1：〔〕/〔〕時の開始測距点] に設定されているときは、AIサーボAFの開始測距点を選択するときにも機能します。

C.Fn II-14：測距時のAFフレーム表示（ファインダー撮影）

AFフレーム選択時、AF開始前（撮影準備状態）、AF開始時、AF中、合焦時、合焦後の測光タイマー作動中に、AFフレームを表示するかどうかを設定することができます。

○：表示／×：非表示

測距時のAFフレーム表示	AFフレーム選択時	AF開始前（撮影準備状態）	AF開始時
0：選択AFフレーム（常時表示）	○	○	○
1：全AFフレーム（常時表示）	○	○	○
2：選択フレーム（測距前/合焦時）	○	○	○
3：選択AFフレーム（合焦時表示）	○	×	○
4：表示しない	○	×	×

測距時のAFフレーム表示	AF中	合焦時	合焦後の測光タイマー作動中
0：選択AFフレーム（常時表示）	○	○	○
1：全AFフレーム（常時表示）	○	○	○
2：選択フレーム（測距前/合焦時）	×	○	○
3：選択AFフレーム（合焦時表示）	×	○	×
4：表示しない	×	×	×

C.Fn II-15：ファインダー情報の照明

- 0：自動
  暗い場所や、暗い被写体にピントが合ったときに、自動的に赤く照明されます。
- 1：する
  周囲の明るさに関わらず、赤く照明されます。
- 2：しない
  赤い照明は行われません。

[自動]/**[する]**設定時に〈Q〉ボタンを押すと、AIサーボAF時にAFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます。

- OFF：しない
  AIサーボAF時に赤い照明は行われません。
- ON：する
  AIサーボAF時にピントを合わせているAFフレームが赤く照明されます。連続撮影中も照明が行われます。
  なお、**[2：しない]**に設定したときは機能しません。

- 〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押したときは、この設定に関わらず赤く照明されます。
- ファインダー内に表示されるアスペクト線、水準器、グリッドなども赤く照明されます。

C.Fn II-16：AFマイクロアジャストメント

AFでピントが合う位置を微調整することができます（📖575）。

C.Fn III：操作・その他

C.Fn III-1：ファインダー内❗警告の項目

以下の機能が設定されているときに、ファインダー視野内と表示パネルに〈❗〉を表示することができます（📖34）。
警告表示を行う対象を選び、〈(SET)〉を押して［✓］を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

- M モノクロ設定時
  ［📷：ピクチャースタイル］が［モノクロ］に設定されているときに（📖231）、警告表示が行われます。
- ホワイトバランス補正時
  ホワイトバランス補正が設定されているときに（📖227）、警告表示が行われます。
- NR 設定時
  ［📷：高感度撮影時のノイズ低減］が［マルチショットノイズ低減機能］に設定されているときに（📖238）、警告表示が行われます。
- HDR設定時
  ［📷：HDRモード］が設定されているときに（📖251）、警告表示が行われます。

● ［✓］を付けた機能を設定したときは、応用撮影ゾーンの設定画面（📖67）に表示される各設定項目にも〈❗〉が表示されます。

C.Fn III-2：Tv/Av値設定時のダイヤル回転

シャッタースピード、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。
撮影モードが〈**M**〉のときは〈🎛〉〈◯〉、それ以外の撮影モードでは〈🎛〉の設定方向が反転します。〈**M**〉モード時に〈◯〉を回したときの設定方向と、〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉モード時に〈◯〉を回して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。

- 0：通常
- 1：設定方向を反転

C.Fn III-3：操作ボタン カスタマイズ

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。



1 操作部材を選ぶ



2 割り当てる機能を選ぶ

- 〈(SET)〉を押すと設定されます。

- 手順1の画面で〈🗑〉ボタンを押すと、設定した内容を解除することができます。操作ボタンカスタマイズの設定は、**【カスタム機能(C.Fn)一括解除】**を選んでも解除されません。

各操作部材に割り当てできる機能の一覧

		機能		AF-ON	✳	
AF	AF	測光・AF開始	○	○	○	
	AF-OFF	AF停止		○	○	○
	ONE SHOT SERVO	ワンショットAF⇄AIサーボ/サーボ		○	○	○
		AFフレームダイレクト選択				
	SERVO AF	動画サーボAF一時停止				
露出		測光開始	○			
	AEL FEL	AEロック/FEロック		○	○	○
	✳H	AEロック（ホールド）		○	○	○
	✳	AEロック		○	○	○
	✳	AEロック（押している間）	○			
	FEL	FEロック		○	○	○
	ISO	ISO感度設定（押しながら）		○	○	
		露出補正（押しながら）		○	○	
	±0	調光補正				
	Tv	Mモード時、シャッタースピード変更				
	Av	Mモード時、絞り数値変更				
画像		記録画質選択				
		ピクチャースタイル選択				
	WB	ホワイトバランス				
		フォルダ作成				
操作		絞り込み				○
		手ブレ補正機能作動				○
	MENU	メニュー表示				
	/	ストロボ機能設定				
		Wi-Fi/Bluetooth接続				
	OFF	無効		○	○	○

LENS	SET			
○				
○				
○				
				○
	○			
○				
○				
○				
○				
	○			
	○			
	○			
		○	○	
		○	○	
	○			
	○			
	○			
	○			
	○			
○				
	○			
	○			
	○			
	○			○

● 〈LENS〉は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」を表しています。

C.Fn III-4：電源オフ時のレンズ収納

カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、ギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）の繰り出している部分の自動収納を設定することができます。

- 0：する
- 1：しない

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

- **[0：する]** 設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

C.Fn III-5：音声圧縮

動画撮影時の音声データの圧縮に関する設定です。**[1：しない]** を選ぶと、音声データを圧縮時よりも高音質で記録することができますが、ファイルサイズは大きくなります。

- 0：する
- 1：しない

- **[1：しない]** で撮影した動画ファイルを編集して圧縮保存すると、音声データも圧縮されます。
- **[動画記録サイズ]** が FHD 29.97P IPB（NTSC）、FHD 25.00P IPB（PAL）のときは **[1：しない]** を選んでも音声データは圧縮されます。
- かんたん撮影ゾーンおよびビデオスナップでは、**[1：しない]** を選んでも音声データは圧縮されます。

AF合焦位置の微調整(AFマイクロアジャストメント)

応用

ファインダー撮影でAFを行ったときの、ピントの合う位置を微調整することができます。

- 通常はAFマイクロアジャストメントを行う必要はありません。必要な場合のみ、調整を行ってください。なお、調整により適切なピントで撮影できなくなる恐れがありますので、十分に注意してください。

1:全レンズ一律調整

「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。AF撮影のときは、使用するレンズに関わらず、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。



1 [C.Fn II:AF]を選ぶ



2 [16:AFマイクロアジャストメント]を選ぶ



3 [1:全レンズ一律調整]を選ぶ

4 〈Q〉ボタンを押す



5 調整する

- 「−：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- 調整が終わったら〈(SET)〉を押します。
- もう一度〈(SET)〉を押します。

6 調整結果を確認する

- 撮影を行い、調整結果を確認します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

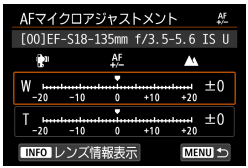
- **[1：全レンズ一律調整]** のときは、ズームレンズの広角側と望遠側で、別々にAF調整を行うことはできません。

2：レンズごとに調整

レンズごとに調整を行い、調整結果をカメラに登録することができます。登録できるレンズは最大40本です。登録したレンズを使用してAF撮影を行うと、常に調整値分、ピント合焦位置がシフトします。
「調整→撮影→確認」を繰り返して、調整値を手動で設定します。使用レンズがズームレンズのときは、広角側（W）、望遠側（T）の調整値を設定します。



1 [2：レンズごとに調整] を選ぶ



2 〈Q〉ボタンを押す



(1)

3 レンズ情報を確認／変更する

レンズ情報表示

- 〈INFO〉ボタンを押すと、レンズ名と10桁のシリアル番号が表示されます。シリアル番号が表示されているときは、[OK] を選び手順4に進みます。
- レンズのシリアル番号が認識できないときは、「0000000000」と表示されますので、次ページの操作で番号を入力します。
- 番号の先頭に表示される「*」については次ページを参照してください。

(1) 登録番号



シリアル番号の入力

- 入力する桁を選び〈(SET)〉を押して〈◇〉の状態にします。
- 数値を入力し〈(SET)〉を押します。
- すべての桁の入力が終わったら【OK】を選びます。

レンズのシリアル番号

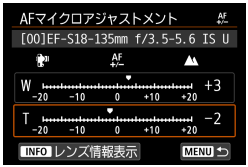
- **手順3で10桁の番号の先頭に「*」が表示されたレンズは、同じ種類のレンズを複数登録することはできません。なお、番号を入力しても「*」の表示は消えません。**
- **レンズに記載されているシリアル番号と、手順3で表示されるシリアル番号が異なることがありますが、故障ではありません。**
- レンズのシリアル番号にアルファベットが含まれているときは、アルファベットを除く数字を入力してください。
- レンズのシリアル番号が11桁以上のときは、「下10桁」の番号を入力してください。
- シリアル番号が記載されている位置は、レンズによって異なります。
- レンズによっては、シリアル番号がレンズに記載されていないことがあります。番号の記載がないレンズを登録するときは、任意の番号を入力してください。

- 【2:レンズごとに調整】を選んだときに、エクステンダーを使用しているときは、「レンズ+エクステンダー」の組み合わせで登録されます。
- すでに40本登録されているときは、メッセージが表示されます。上書き消去するレンズを選ぶと、登録することができます。

単焦点レンズ



ズームレンズ





4 調整する

- ズームレンズのときは、広角側（W）または望遠側（T）を選びます。〈(SET)〉を押すとオレンジ色の枠が消え、調整ができるようになります。
- 調整値を設定し〈(SET)〉を押します。
- 「－：」側に設定すると、合焦位置が基準から手前側（前方）に調整されます。
- 「＋：」側に設定すると、合焦位置が基準から奥側（後方）に調整されます。
- ズームレンズのときは、この手順を繰り返して、広角側（W）、望遠側（T）の調整値をそれぞれ設定します。
- 調整が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押して手順1の画面に戻ります。

5 調整結果を確認する

- 撮影を行い、調整結果を確認します。
- 必要に応じて調整を繰り返します。

- ズームの中間（焦点距離）位置で撮影を行ったときは、広角側と望遠側の調整結果に基づいて自動的に補正されます。なお、片側だけ調整を行ったときも、中間位置に対して自動補正が行われます。

AFマイクロアジャストメントの一括解除

画面の下に【🗑 一括解除】が表示されているときに、〈🗑〉ボタンを押すと、【1：全レンズ一律調整】【2：レンズごとに調整】で調整した内容をすべて解除することができます。

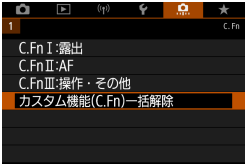
AFマイクロアジャストメント全般の注意事項

- AFによる合焦位置は、被写体条件や明るさ、ズーム位置などの撮影条件により、わずかに変動します。そのため、この機能で調整を行っても、適切な位置でピントが合わないことがあります。
- 1ステップあたりの調整幅は、使用するレンズの開放絞り数値によって異なります。「調整→撮影→確認」を繰り返してピント調整を行ってください。
- 調整した内容は、ライブビュー撮影時、動画撮影時のAFには反映されません。
- 【📷：カスタム機能（C.Fn）一括解除】を行っても（📖581）、調整した内容は保持されますが、設定は【0：しない】になります。
- 調整結果を確認するときは、ワンショットAFでピント合わせを行ってください。

AFマイクロアジャストメント共通事項

- 実際に撮影する環境下で調整を行うことをおすすめします。より適確なピント調整を行うことができます。
- 調整を行うときは三脚の使用をおすすめします。
- 調整を行うときは、記録画質◢Lで撮影することをおすすめします。

カスタム機能の設定解除



[: カスタム機能(C.Fn)一括解除] を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。ただし、**[操作ボタン カスタマイズ]** の設定は解除されません。

メニュー目次:マイメニュータブ



マイメニューの登録

応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

マイメニュータブの追加（作成）



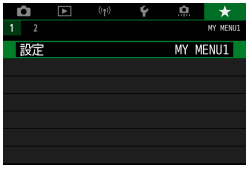
1 [マイメニュータブの追加] を選ぶ



2 [OK] を選ぶ

- 手順1、2を繰り返すと、[MY MENU5] まで作成することができます。

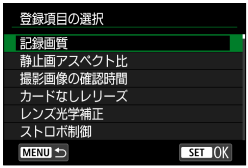
マイメニュータブに項目を登録



1 [MY MENU＊：設定] を選ぶ



2 [登録項目の選択] を選ぶ



3 項目を登録する

- 項目を選び〈(SET)〉を押します。
- 確認画面で **[OK]** を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定



タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。**[登録項目の並べ替え]** を選び、並び順を変える項目を選んで〈(SET)〉を押します。**[▲▼]** が表示された状態で〈◎〉で並び順を変え、〈(SET)〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。**[選択して削除]** を選ぶと1項目ずつ削除、**[タブ内の全項目削除]** を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

● **タブの削除**

現在設定しているタブを削除することができます。**[タブの削除]**を選ぶと、[MY MENU＊]のタブが削除されます。

● **タブ名の変更**

タブの名称を［MY MENU＊］から任意の名称に変更することができます。

1 ［タブ名の変更］を選ぶ



2 文字を入力する

- ［⌫］を選ぶか、〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
- 〈✲〉〈✲〉を操作して文字を選び、〈(SET)〉を押します。
- ［⇧］を選ぶと、入力モードが切り換わります。

3 入力を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選びます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除



作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

- **マイメニュータブの全削除**

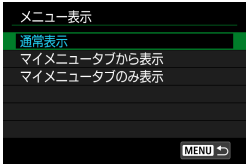
  作成したタブをすべて削除することができます。**[マイメニュータブの全削除]**を選ぶと、**[MY MENU1]** ～ **[MY MENU5]** のタブがすべて削除され、**[★]**タブが初期状態に戻ります。

- **全項目削除**

  [MY MENU1] ～ **[MY MENU5]** タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。**[全項目削除]**を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

- **[タブの削除]**・**[マイメニュータブの全削除]**を行うと、**[タブ名の変更]**で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



[メニュー表示] を選ぶと、〈**MENU**〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

- **通常表示**

  前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

- **マイメニュータブから表示**

  [★] タブの画面から表示されます。

- **マイメニュータブのみ表示**

  [★] タブの画面だけが表示されます（**[📷]** **[▶]** **[📡]** **[🔧]** **[📷]** タブは表示されません）。

資料

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

ソフトウェア

EOS用または専用ソフトウェアのダウンロード／インストール

ソフトウェアは必ず最新版をインストールしてください。
旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、上書きインストールしてください。

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- インターネットに接続していない状態では、パソコンにソフトウェアをインストールすることはできません。
- 旧バージョンのソフトウェアでは、このカメラで撮影した画像をパソコンで正しく表示できません。また、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。

1 ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。

  canon.jp/eos-sw

- カメラ底面に記載のシリアル番号を入力して、ソフトウェアをダウンロードします。
- パソコン上で解凍します。
  - **Windows**

    表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。
  - **macOS**

    dmgファイルが生成/表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

(1) dmgファイルをダブルクリックする
➡ デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。
インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。
(2) インストーラーファイルをダブルクリックする
➡ インストーラーが起動します。

2 画面の指示に従ってインストールする

ソフトウェア使用説明書のダウンロードについて

ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

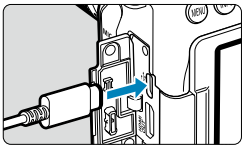
- **ソフトウェア使用説明書のダウンロードサイト**
  canon.jp/eos-sw-manual

パソコンへの画像の取り込み

EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、3通りあります。

パソコンとインターフェースケーブル（別売）で接続

1 ソフトウェアをインストールする (📖590)



2 カメラとパソコンを、インターフェースケーブル IFC-600PCU（パソコン側の端子はUSB Type-A）で接続する

- カメラのデジタル端子にプラグを差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

3 EOS Utility を使って画像を取り込む

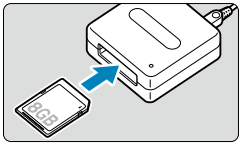
- EOS Utility使用説明書を参照してください。

- Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

カードリーダー

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1 ソフトウェアをインストールする (590)



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

- EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

パソコンとWi-Fi接続

カメラとパソコンをWi-Fi接続して、画像をパソコンに取り込むことができます（426）。

バッテリーグリップ BG-E14

BG-E14は、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を2個、または単3形電池を使用できるバッテリーグリップです。縦位置用のシャッターボタンやメイン電子ダイヤルなどを備えています。カメラへの取り付けや使用方法は、BG-E14の使用説明書を参照してください。

家庭用電源アクセサリー

DCカプラー DR-E6（別売）と、ACアダプター AC-E6N（別売）を使用すると、家庭用電源をカメラの電源として使うことができます。カメラへの取り付けや使用方法は、DR-E6およびAC-E6Nの使用説明書を参照してください。

- ACアダプター AC-E6N以外は使用しないでください。
- カメラの電源が入った状態で、電源コードやコネクターの抜き差し、DCカプラーの取り出しを行わないでください。
- 使い終わったら、電源プラグをコンセントから抜いてください。

- ACアダプターキット ACK-E6を使用することもできます。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

バッテリーが充電できない

- バッテリー残量（🕮524）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器またはバッテリーに異常が発生した場合や、(2) バッテリーと通信できない場合（純正以外のバッテリー使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けたバッテリーの内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、バッテリーが高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、バッテリーの温度が下がると自動的に充電が始まります

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- バッテリー収納部ふたが閉まっているか確認してください（🕮47）。
- バッテリーがカメラに正常に入っているか確認してください（🕮47）。
- バッテリーを充電してください（🕮44）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（🕮48）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

[ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか？]と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。
- バッテリーの出し入れを行ってください（📖47）。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください（📖44）。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。**[🔧：バッテリー情報]**でバッテリーの劣化状態を確認してください（📖524）。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - レンズの手ブレ補正機能を使う
  - モニターを頻繁に使用する
  - ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行う
  - 無線通信機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、**[🔧：オートパワーオフ]**を**[しない]**にしてください（📖513）。
- **[🔧：オートパワーオフ]**を**[しない]**に設定していても、カメラを約30分放置すると、節電のためモニターの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。

バッテリーグリップを単3形電池で使用したときにカメラが作動しない

- バッテリーマガジンの出し入れを行なってから電源を入れなおすと、カメラが作動することがあります。

撮影関連

レンズが装着できない

- RFレンズ、EF-Mレンズは使用できません（📖54）。

ファインダーが暗い

- 充電したバッテリーをカメラに入れてください（📖44）。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（📖48）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（📖48）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（📖48、📖350）。
- ワンショットAFでピントを合わせたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅するときや、ライブビュー撮影／動画撮影時にAFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（📖57、📖147）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、📖50、📖613を参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

シャッターボタンを2回押さないと撮影できない

- **[📷：ミラーアップ撮影]** を **[しない]** に設定してください。

画像がボケている／ブレている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（📖54）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（📖56、📖57）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈**ON**〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする（📖112）、ISO感度を上げる（📖213）、ストロボを使用する（📖164、📖179）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- 📖78の『ブレの少ない画像の撮影』を参照してください。

AFフレーム（測距点）が少ない／エリアAFフレームの形が異なる

- 使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。

AFフレームが点滅している／2つ表示される

- 〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押したときのAFフレームの点灯／点滅については、🕮133を参照してください。

AFフレームが赤く照明されない

- AFフレームは、暗い場所で撮影するときや、暗い被写体にピントが合ったときに、赤く照明されます。
- 〈**P**〉〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**B**〉モードのときは、ピントが合ったときに、AFフレームを赤く照明するかどうかを設定することができます（🕮569）。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。AIサーボAF/サーボAF、およびAIフォーカスAFでサーボ状態のときは、フォーカスロック撮影はできません（🕮80、🕮125）。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、温度、バッテリー残量、フリッカー低減処理、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ライブビュー撮影、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。詳しくは🕮150、🕮152を参照してください。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、🕮615に目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても（例：高速タイプのカードを使用しても）、表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、📖615の表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています（書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります）。そのため、表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- **[📷：オートライティングオプティマイザ]**を**[しない]**に設定してください（📖218）。**[弱め]** **[標準]** **[強め]**に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出＋ISOオート時に露出補正ができない

- 📖118を参照して露出補正を行ってください。

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- **[デジタルレンズオプティマイザ]**が**[する]**に設定されているときは、**[色収差補正]** **[回折補正]**は表示されませんが、ともに**[する]**の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に**[デジタルレンズオプティマイザ]** **[回折補正]** **[歪曲収差補正]**の項目は表示されません。

内蔵ストロボが発光しない

- 内蔵ストロボを短時間に連続発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。

外部ストロボが発光しない

- カメラに外部ストロボが確実に取り付けられているかどうか確認してください。
- 汎用ストロボを使用してライブビュー撮影を行うときは、**[📷:シャッター方式]**を**[電子シャッター]**以外に設定してください（📖243）。

外部ストロボがいつもフル発光する

- EL/EXシリーズスピードライト以外のストロボを使用すると、常時フル発光します（📖179）。
- 外部ストロボカスタム機能の**[調光方式]**が**[TTL]**（自動調光）に設定されていると、常時フル発光します（📖179）。

外部ストロボ調光補正ができない

- 外部ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

リモコン撮影ができない

- 静止画撮影を行うときは、ドライブモードを〈📡〉または〈📡$_2$〉に設定してください（📖151）。動画撮影を行うときは、**[📷:リモコン撮影]**を**[する]**に設定してください（📖322）。
- リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1を使用するときは、📖156を参照してください。
- カメラとスマートフォンまたはワイヤレスリモートコントローラーがBluetooth接続されているときは、RC-6などの赤外線方式のリモートコントローラーを使ったリモコン撮影はできません。**[Bluetooth設定]**を**[使わない]**に設定してください。
- リモコンを使用してタイムラプス動画撮影を行うときは、📖311を参照してください。

ライブビュー撮影ができない

- **[📷：ライブビュー撮影]** を **[する]** に設定します。

ライブビュー撮影時にシャッター音が2回する

- ライブビュー撮影時にストロボを使用したときは、1回の撮影でシャッター音が2回します。

ライブビュー撮影時に白い🌡と赤い🌡が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い **[🌡]** が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い **[🌡]** が表示されたときは、もうすぐライブビュー撮影が自動的に終了することを示しています（📖269）。

静止画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- **[📷：📷 ISO感度に関する設定]** で **[ISO感度の範囲]** の設定を確認してください。
- **[📷：高輝度側・階調優先]** が **[する]** **[強]** に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

動画撮影時に赤い🌡が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い **[🌡]** が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（📖326）。

動画撮影時に［🎥］が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。**[🎥]** が表示された状態では、動画撮影を行うことはできません。また、動画撮影中に **[🎥]** が表示されたときは、約3分後に撮影が終了します（📖326）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、🕮617を参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが〈**M**〉以外のときは、ISO感度が自動設定されます。〈**M**〉モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます（🕮280）。

動画撮影にすると手動設定したISO感度が変わる

- ファインダー撮影時、ライブビュー撮影時は［📷：📷ISO感度に関する設定］の［ISO感度の範囲］（🕮215）、動画撮影時は［📷：🎥ISO感度に関する設定］の［ISO感度の範囲］（🕮322）の設定内容でISO感度が設定されます。

動画撮影時に拡張ISO感度が選択できない

- ［📷：🎥 ISO感度に関する設定］で［ISO感度の範囲］の設定を確認してください。
- ［📷：高輝度側・階調優先］が［する］に設定されているときは、拡張ISO感度は設定できません。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出（明るさ）や色あいの変化が記録されることがあります。〈**M**〉モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、ファインダー撮影、またはライブビュー撮影を行ってください。

無線通信機能関連

スマートフォンとペアリングできない

- Bluetooth Specification Version 4.1以上に対応しているスマートフォンを使用してください。
- スマートフォンの設定画面で、Bluetooth機能をONにしてください。
- スマートフォンのBluetooth機能設定画面では、カメラとのペアリングはできません。スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）インストールしてください（399）。
- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください（406）。

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください（396）。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。

スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connectを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connectを一旦終了させてから再起動してください。

操作関連

〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉で設定を変更できない

- 〈LOCK〉スイッチを下側（ロック解除）にしてください（60）。
- **[：マルチ電子ロック]**の設定内容を確認してください（545）。

タッチ操作ができない

- **[：タッチ操作]**が**[標準]**または**[敏感]**に設定されているか確認してください（521）。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- **[：C.Fn II-7：測距エリア選択モードの限定]**、**[：C.Fn II-9：測距エリア/AF方式の切り換え]**、**[：操作ボタン カスタマイズ]**の設定内容を確認してください（563、564、571）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- 撮影モードがかんたん撮影ゾーンのときや、ライブビュー撮影、動画撮影のときは、一部のタブや項目は表示されません。

[★]マイメニュータブから表示される／[★]タブしか表示されない

- **[★]**タブの**[メニュー表示]**が**[マイメニュータブから表示]**または**[マイメニュータブのみ表示]**に設定されています。**[通常表示]**に設定してください（587）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- **[：色空間]**を[sRGB]に設定してください。[Adobe RGB]に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（229）。

ファイル名の先頭文字が「MVI_」になっている

- 動画ファイルです（📖507）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（📖507）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（📖516）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（📖516、📖517）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付/時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（📖354）。

[###]が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると[###]と表示されます。

ファインダー内のAFフレームの表示速度が遅い

- 低温下では、AFフレーム表示装置（液晶）の特性上、表示速度が遅くなることがあります。常温に戻れば表示速度が速くなります。

モニターの表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- ［▶：ハイライト警告表示］が［する］に設定されています（📖391）。

画像に赤い枠が表示される

- ［▶：AFフレーム表示］が［する］に設定されています（📖392）。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 以下の画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。
  - 〈SCN：〉モードで撮影した画像
  - HDRモードで撮影した画像
  - 〈：HDR HDR HDR HDR〉モードで撮影した画像
  - マルチショットノイズ低減機能を使って撮影した画像
  - トリミングを行った画像

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません（📖346）。

画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- ［▶：画像検索の条件設定］で再生する画像の絞り込みが行われています（📖385）。検索条件を解除してください。

動画を再生すると操作音や作動音がする

- 動画撮影中にダイヤル操作やレンズ操作を行うと、その操作音も録音されます。指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）の使用をおすすめします（🕮296）。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、〈**M**〉モードで撮影してください（🕮279）。

テレビに映像が表示されない

- **[🔧：ビデオ方式]** の **[NTSC] [PAL]** の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- HDMIケーブルのプラグが根元まで確実に差し込まれているか確認してください（🕮344）。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（🕮293）。ただし、SDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOSにより、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブル（別売）で接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utility（📖590）を使用するか、パソコンとWi-Fi接続（📖426）して、カメラ内の画像を取り込んでください。

画像をリサイズできない

- JPEGのS2とRAW画像は、カメラでリサイズできません（📖379）。

画像をトリミングできない

- RAW画像は、カメラでトリミングできません（📖377）。

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像に「輝点（白、赤、青など）」が生じることがあります。**[🔧:センサークリーニング]**の**[今すぐクリーニング]**を行うと（📖528）、輝点の発生が改善することがあります。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- **[**：**センサークリーニング]** の **[今すぐクリーニング]** を選んだときは、清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません（528）。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがあります（52）。

パソコン接続関連

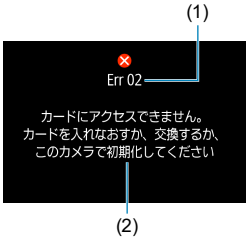
パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください（590）。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブル（別売）を使用してパソコンと通信を行うことはできません。

カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、**[**：**タイムラプス動画]** を **[しない]** に設定してください（301）。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。問題が解決しないときは、エラー番号（Errxx）を控えて、修理受付窓口へご相談ください。

(1) エラー番号
(2) 原因･対処方法

データシート

静止画撮影

● 撮影可能枚数の目安

（約・枚）

温度		常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	ファインダー撮影時	1860	1850
	ライブビュー撮影時	510	500
50%ストロボ撮影	ファインダー撮影時	1300	1200
	ライブビュー撮影時	450	440

- フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用
- CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準による
- バッテリーグリップ BG-E14（別売）使用時の目安
  LP-E6N×2個使用時：カメラ単体時の約2倍
  単3形アルカリ乾電池使用時（常温+23℃）：ストロボ撮影なし・約210枚、50%ストロボ使用・約200枚（ファインダー撮影時）/ストロボ撮影なし・約50枚、50%ストロボ使用：約50枚（ライブビュー撮影時）

● ISOオートの範囲

撮影モード	ISO感度設定	
	ストロボなし	ストロボあり
P/**Tv**/**Av**/**M**	ISO100～25600*	ISO100～1600*
B	ISO400*	ISO400*

*【オートの範囲】の【下限値】【上限値】による
- かんたん撮影ゾーン時のISO感度は自動設定

● 記録画質を選ぶときの目安

（約）

記録画質	記録画素数	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数	
				標準	高速
JPEG					
◢L	32M	11.1	2720	57	58
◢L		5.6	5380	57	58
◢M	15M	5.8	5190	55	55
◢M		3.0	9860	57	56
◢S1	8.1M	3.6	8390	57	57
◢S1		2.0	14600	57	57
S2	3.8M	1.6	18390	57	57
RAW					
RAW	32M	35.6	850	24	25
CRAW	32M	20.4	1490	39	39
RAW＋JPEG					
RAW ◢L	32M 32M	35.6 11.1	650	23	24
CRAW ◢L	32M 32M	20.4 11.1	960	37	36

- 撮影可能枚数は、当社試験基準32GBカード使用時の枚数
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、当社試験基準SDカード（標準：32GB／高速：UHS-II対応32GB）を使用し、当社試験基準（〈H〉高速連続撮影、アスペクト：3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定
- **ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、被写体やカードの銘柄、静止画アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動する**

● 高速タイプのSDカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、表に示した枚数の連続撮影ができます。

● 静止画アスペクト比設定時の記録画素数

（約・画素）

記録画質	3：2	4：3
RAW / CRAW	6960×4640（3230万）	6960×4640（3230万）
L	6960×4640（3230万）	6160×4640（2860万）*
M	4800×3200（1540万）	4256×3200（1360万）*
S1	3472×2320（810万）*	3072×2320（710万）*
S2	2400×1600（380万）	2112×1600（340万）*

記録画質	16：9	1：1
RAW / CRAW	6960×4640（3230万）	6960×4640（3230万）
L	6960×3904（2720万）*	4640×4640（2150万）
M	4800×2688（1290万）*	3200×3200（1020万）
S1	3472×1952（680万）*	2320×2320（540万）
S2	2400×1344（320万）*	1600×1600（260万）

- 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
- 「*」印が付いたアスペクト比の撮影範囲表示は、実際に撮影される範囲とわずかに異なることがあります。撮影結果を確認しながら撮影してください。
- JPEG画像のファイルサイズについては、🕮615に記載している値を参考にしてください。**[📷：静止画アスペクト比]**を設定して同一条件で撮影したときは、**[3：2]** の設定で撮影したときよりもファイルサイズが小さくなります。

動画撮影

● 動画が記録できるカード

動画記録サイズ			SDカード
5.4K	29.97P 25.00P 23.98P	IPB	UHS-I、UHSスピードクラス3以上
4K	119.9P 100.0P	IPB	
	59.94P 50.00P	IPB	SDスピードクラス10以上
FHD	29.97P 25.00P 23.98P	IPB	SDスピードクラス4以上
	HDR動画		
	29.97P 25.00P	IPB	
HD	59.94P 50.00P	IPB	
4Kタイムラプス動画			読み取り速度40Mbps以上
フルHDタイムラプス動画			読み取り速度20Mbps以上

• 動画電子IS：**【しない】**設定時

● 動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

（約）

動画記録サイズ			カードごとの総記録可能時間			ファイルサイズ
			8GB	32GB	128GB	
4K	29.97P 25.00P 23.98P	IPB	8分	35分	2時間21分	860 MB/分
FHD	119.9P 100.0P	IPB	8分	35分	2時間22分	858 MB/分
FHD	59.94P 50.00P	IPB	17分	1時間10分	4時間43分	431 MB/分
FHD	29.97P 25.00P 23.98P	IPB	35分	2時間20分	9時間23分	216 MB/分
FHD	HDR動画					
FHD	29.97P 25.00P	IPB	1時間26分	5時間47分	23時間11分	87 MB/分
HD	59.94P 50.00P	IPB	40分	2時間42分	10時間49分	187 MB/分

• 動画電子IS：【しない】設定時

● カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（📖326）。

● 動画撮影可能時間の目安

（合計・約）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能時間	2時間40分	2時間30分

• フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用時
• 【📷：動画記録サイズ】：4K FHD、【📷：動画サーボAF】：【する】設定時

● タイムラプス動画撮影可能時間の目安

（約）

タイムラプス動画撮影		常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影間隔	モニター自動消灯		
2秒	しない	5時間10分	5時間10分
	する	7時間30分	7時間30分
10秒	しない	4時間10分	4時間10分
	する	8時間40分	8時間40分

- フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用時
- 撮影条件により、撮影可能時間は変動する

動画撮影時のISO感度について

[🎥] モード時

- ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- [📷：🎥ISO感度に関する設定] の [オートの上限] を [H(25600)] に設定すると（📖322）、自動設定範囲の上限がH（ISO25600相当）まで拡張されます。

[🎥M] モード時

- ISO感度を [AUTO] に設定したときは、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- ISOオート設定時に、[📷：🎥ISO感度に関する設定] の [オートの上限] を [H(25600)] に設定すると（📖322）、自動設定範囲の上限がH（ISO25600相当）まで拡張されます。
- 手動設定のときは、ISO100～12800の範囲で設定することができます。なお、[📷：🎥ISO感度に関する設定] の [ISO感度の範囲] を [H (25600)] に設定すると（📖322）、手動設定範囲の上限がH（ISO25600相当）まで拡張されます。

- 4K動画撮影、4Kタイムラプス/フルHDタイムラプス動画撮影では、[H(25600)] は設定できません。

画像の再生

● 撮影時の記録画質とリサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ		
	M	S1	S2
L*	○	○	○
M		○	○
S1			○

● リサイズした画像の画像サイズ

（約・画素）

記録画質	3：2	4：3
M	1540万（4800×3200）	—
S1	810万（3472×2320）	—
S2	380万（2400×1600）	340万（2112×1600）

記録画質	16：9	1：1
M	1290万（4800×2688）	1020万（3200×3200）
S1	680万（3472×1952）	540万（2320×2320）
S2	320万（2400×1344）	260万（1600×1600）

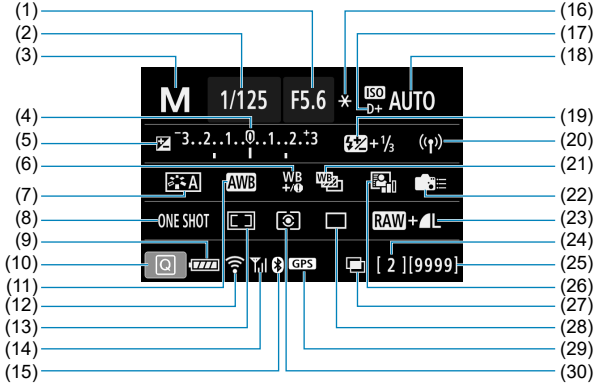
- 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
- リサイズ条件により、画像がわずかにトリミングされることがあります。

情報表示

クイック設定画面（ファインダー撮影）

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。

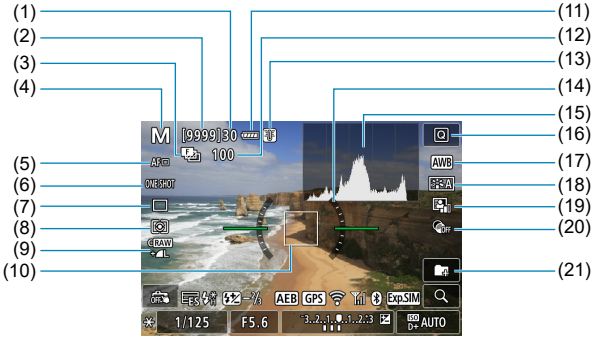


(1) 絞り数値
(2) シャッター速度
(3) 撮影モード
(4) 露出レベル表示
(5) 露出補正
(6) ホワイトバランス補正
(7) ピクチャースタイル
(8) AF動作
(9) バッテリー残量
(10) クイック設定マーク
(11) ホワイトバランス
(12) Wi-Fi機能
(13) 測距エリア選択モード／AFフレーム選択
(14) 無線通信の電波強度
(15) Bluetooth機能
(16) AEロック
(17) 高輝度側･階調優先
(18) ISO感度
(19) 調光補正
(20) Wi-Fi/Bluetooth接続
(21) ホワイトバランスブラケティング
(22) 操作ボタンカスタマイズ
(23) 記録画質
(24) 連続撮影可能枚数／多重露出残り枚数
(25) 撮影可能枚数／自動クリーニング
(26) オートライティングオプティマイザ
(27) 多重露出／HDR／マルチショットノイズ低減
(28) ドライブモード
(29) GPS受信状態
(30) 測光モード

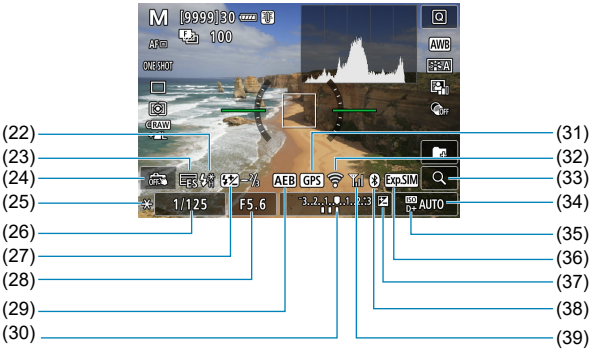
ライブビュー撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1) 連続撮影可能枚数
(2) 撮影可能枚数／セルフタイマー撮影秒数
(3) フォーカスブラケット撮影／HDR撮影／多重露出撮影／マルチショットノイズ低減／バルブタイマー撮影／インターバルタイマー撮影
(4) 撮影モード／シーン判別アイコン
(5) AF方式
(6) AF動作
(7) ドライブモード
(8) 測光モード
(9) 記録画質
(10) AFフレーム(1点AF)
(11) バッテリー残量
(12) フォーカスブラケット撮影残り枚数／多重露出残り枚数／インターバルタイマー残り枚数
(13) 温度上昇警告
(14) 水準器
(15) ヒストグラム
(16) クイック設定ボタン
(17) ホワイトバランス／ホワイトバランス補正
(18) ピクチャースタイル
(19) オートライティングオプティマイザ
(20) クリエイティブフィルター
(21) フォルダ作成



(22) ストロボ使用勧告（点滅）／
ストロボ充電完了（点灯）／
FEロック／ハイスピードシンクロ
(23) 電子シャッター
(24) タッチシャッター
(25) AEロック
(26) シャッタースピード／
マルチ電子ロック警告
(27) ストロボ調光補正
(28) 絞り数値
(29) AEB撮影／FEB撮影
(30) 露出レベル表示

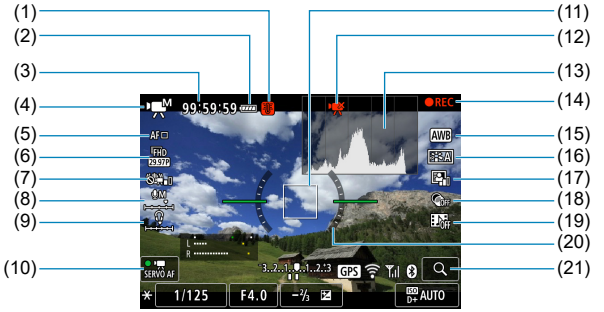
(31) GPS受信状態
(32) Wi-Fi機能
(33) 拡大ボタン
(34) ISO感度
(35) 高輝度側・階調優先
(36) 露出シミュレーション
(37) 露出補正
(38) Bluetooth機能
(39) Wi-Fi電波強度

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます（🕮539）。
- AF方式が【+追尾優先AF】のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

動画撮影画面

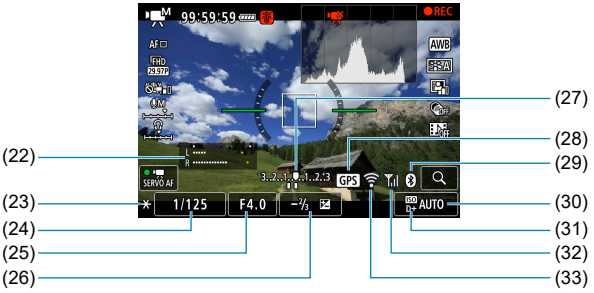
〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1) 温度上昇警告
(2) バッテリー残量
(3) 動画撮影可能時間／撮影経過時間
(4) 動画撮影モード／タイムラプス動画／シーン判別アイコン
(5) AF方式
(6) 動画記録サイズ
(7) 動画電子IS
(8) 録音レベル（マニュアル）
(9) ヘッドフォン音量
(10) 動画サーボAF

(11) AFフレーム（1点AF）
(12) 4K動画クロップ撮影禁止
(13) ヒストグラム（マニュアル露出時）
(14) 動画撮影中
(15) ホワイトバランス／WB補正
(16) ピクチャースタイル
(17) オートライティングオプティマイザ
(18) クリエイティブフィルター
(19) ビデオスナップ
(20) 水準器
(21) 拡大ボタン



(22) 録音レベルメーター（マニュアル）
(23) AEロック
(24) シャッタースピード
(25) 絞り数値
(26) 露出補正
(27) 露出レベル表示
(28) GPS受信状態
(29) Bluetooth機能
(30) ISO感度
(31) 高輝度側・階調優先
(32) Wi-Fi電波強度
(33) Wi-Fi機能

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます（🕮539）。
- AF方式が【+追尾優先AF】のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

シーン判別アイコン一覧

〈A+〉モードで、ライブビュー撮影または動画を撮影するときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

被写体 / 背景	人物	動いているとき*1	人物以外の被写体 自然や屋外シーン	動いているとき*1	近いとき*2	背景色
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*3				*3	オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時*1	 *4*5	*3	 *4*5	*3		

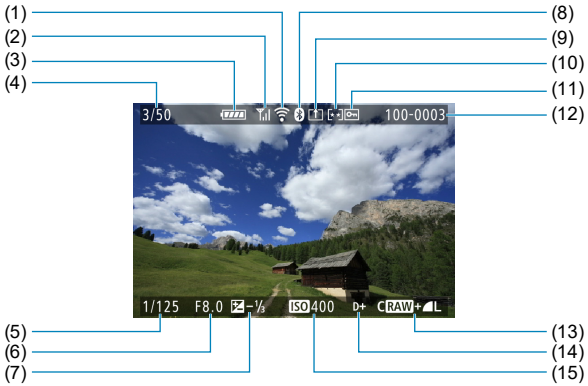
*1: 動画撮影中は表示されません。
*2: 距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。
*3: 判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

- シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*4: 下記の条件が揃ったときに表示されます。
「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」
*5: 下記のレンズを使用したときに表示されます。
・EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II　・EF-S55-250mm F4-5.6 IS II
・EF300mm F2.8L IS II USM　・EF400mm F2.8L IS II USM
・EF500mm F4L IS II USM　・EF600mm F4L IS II USM
・2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ
*4+*5：*4と*5の条件がすべて揃ったときは、シャッタースピードが遅くなります。

再生画面

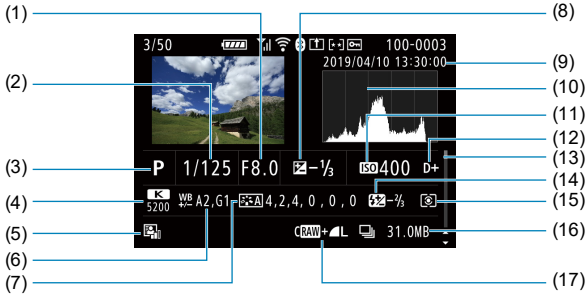
● 静止画の簡易情報表示



(1)	Wi-Fi機能
(2)	Wi-Fi電波強度
(3)	バッテリー残量
(4)	再生番号／総記録画像数／検索結果画像数
(5)	シャッタースピード
(6)	絞り数値
(7)	露出補正量
(8)	Bluetooth機能
(9)	パソコン／スマートフォンに送付済み
(10)	レーティング
(11)	画像プロテクト
(12)	フォルダ番号−画像番号
(13)	記録画質／画像加工済み／トリミング
(14)	高輝度側・階調優先
(15)	ISO感度

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

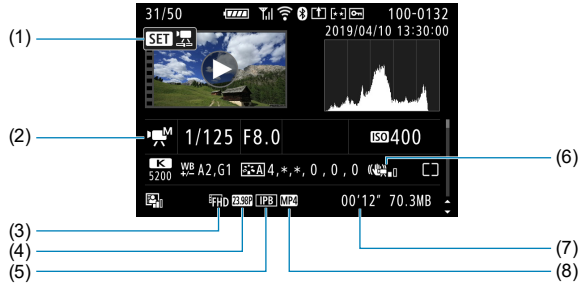
● 静止画の詳細情報表示



(1)	絞り数値
(2)	シャッタースピード
(3)	撮影モード／多重露出
(4)	ホワイトバランス
(5)	オートライティングオプティマイザ
(6)	ホワイトバランス補正量
(7)	ピクチャースタイル／設定内容
(8)	露出補正量
(9)	撮影日時
(10)	ヒストグラム（輝度/RGB）
(11)	ISO感度
(12)	高輝度側・階調優先
(13)	スクロールバー
(14)	ストロボ調光補正量／バウンス／HDR撮影／マルチショットノイズ低減
(15)	測光モード
(16)	ファイルサイズ
(17)	記録画質／画像加工済み／トリミング

* RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は（🕮202）、撮影範囲が線で表示されます。
* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、〈⚡〉が表示されます。
* バウンス撮影を行った画像は、〈⚡〉が表示されます。
* HDR撮影を行った画像は、仕上がり効果のマーク（🕮252）とダイナミックレンジの調整幅が表示されます。
* 多重露出撮影を行った画像は、〈▣〉が表示されます。
* マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、〈NR〉が表示されます。
* RAW現像、リサイズ処理、トリミング、クリエイティブアシストを行って保存した画像は、〈🖼〉が表示されます。
* トリミングを行って保存した画像は、〈⧉〉が表示されます。

● 動画の詳細情報表示



(1)	動画再生	(5)	圧縮方式
(2)	動画撮影モード/タイムラプス動画/ビデオスナップ	(6)	動画電子IS
(3)	画像サイズ	(7)	記録時間
(4)	フレームレート	(8)	動画記録形式

* タイムラプス動画で、テスト撮影した静止画は、〈🎥〉が表示されます。

● 動画再生時、**[ピクチャースタイル]** の **[シャープネス]** の **[細かさ]** **[しきい値]** は、「*, *」と表示されます。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- App Store、macOSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

HDMI™
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD("AVC VIDEO")AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM
* 規定により英語で表記しています。

第三者のソフトウェアについて

本製品には、以下に示す第三者のソフトウェアが含まれています。

●AES-128 Library

Copyright (c) 1998-2008, Brian Gladman, Worcester, UK. All rights reserved.

LICENSE TERMS

The redistribution and use of this software (with or without changes) is allowed without the payment of fees or royalties provided that:

1. source code distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer;
2. binary distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in their documentation;
3. the name of the copyright holder is not used to endorse products built using this software without specific written permission.

DISCLAIMER

This software is provided 'as is' with no explicit or implied warranties in respect of its properties, including, but not limited to, correctness and/or fitness for purpose.

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

- バッテリーパック LP-E6N/LP-E6は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

索　引

数字

1点AF：128, 135, 140
1枚撮影：150
1枚表示：332
4K（動画）：288
4Kフレームキャプチャー：342

アルファベット

A

Adobe RGB：229
AEB：211, 556
AEロック：161
AF
　AF測距不能時のレンズ動作：563
　AF速度：320
　AF動作：124, 145
　AFフレーム赤色照明：127
　AFフレーム選択：132, 140
　AF方式：135
　AF方式の限定：564
　AF補助光：126
　AFマイクロアジャストメント：575
　エリアAFフレーム：89, 90
　構図変更：80
　コンティニュアスAF：265
　手動ピント合わせ：147
　測距エリア選択モード：128, 131
　電子音：522
　瞳AF：142
　レンズの電子式手動フォーカス：266
AF-ONボタン：61
AI FOCUS（AIフォーカスAF）：126
AI SERVO（AIサーボAF）：125
　特性：559, 561
Av（絞り優先AE）：114
〈A+〉(シーンインテリジェントオート)：76

B

BGM：376
Bluetooth機能：399, 464
　アドレス：471
　接続：400
buSY：201
B（バルブ）：119

C

〈C1〉/〈C2〉（カスタム撮影）：546

D

DCカプラー：594
DIGITAL端子：592
DPOF：354

E

Err：613
exFAT：293, 512

F

FAT32：293, 512
FEB：177
FEロック：167
Full HD（動画）：288

G

GPS：473

H

HDMI：325, 344, 543
HDMI HDR：544
HDMI出力：325
HDR絵画調標準：106
HDR逆光補正：98
HDRグラフィック調：106
HDR撮影：251
HDR動画撮影：284
HDRビンテージ調：106
HDR油彩調：106
HD（動画）：288

I

ICCプロファイル：229
INFOボタン：62, 332, 538, 622, 623, 625
IPB：290
ISO感度：213, 322
　ISOオートの範囲：216, 614
　ISO感度の範囲：322
　オートの低速限界（静止画）：217
　オートの範囲（静止画）：216
　感度拡張：215
　自動設定範囲：216
　手動設定範囲：215
　設定ステップ：556

J

JPEG（ジェイペグ）：615

L

LOCK：545

M

MF（手動ピント合わせ）：147
MFピーキング：149
MP4：290
MWB：225
M（マニュアル露出）：117

N

NTSC：290, 520

O

ONE SHOT（ワンショットAF）：125

P

PAL：290, 520
P（プログラムAE）：110

Q

[Q]（クイック設定）：67

R

RAW+JPEG：199, 615
RAW現像：364
RAW（ロウ）：200

S

〈SCN〉（スペシャルシーン）：38, 84
SD、SDHC、SDXCカード　→カード
SERVO（サーボAF）：125
sRGB：229

T

Tv（シャッター優先AE）：112

U

UHS-II/UHS-I：10
USB（デジタル）端子：592
UTC：477

W

WB（ホワイトバランス）：222
Wi-Fi機能：395
　Android：399
　Camera Connect：399, 404
　CANON iMAGE GATEWAY：444
　EOS Utility：426
　Image Transfer Utility 2：431
　iOS：399
　IPアドレス：462
　MACアドレス：481
　PictBridge：434
　SSID：409, 427, 434
　Wi-Fi設定：470
　WPS (Wi-Fi Protected Setup)：458
　印刷：436
　印刷指定：439
　選んで送信：414, 451
　カード内全画像送信：418, 454
　画像閲覧：404
　仮想キーボード：482
　画像検索の条件設定：419, 456
　カメラアクセスポイントモード：462
　公開画像の設定：422
　再接続：467
　情報表示画面：481
　接続先の機器の編集：422, 478
　接続先履歴：467
　接続情報の消去：479
　設定初期化：480
　送信画像サイズ：412, 417, 452
　注意事項：494
　ニックネーム：479
　ネットワークの設定：497
　ネットワーク変更：459
　ネットワーク名：409, 427, 434
　プリンター：434
　リモート操作：404

かな

あ

アイカップ：157
アイピースカバー：41
赤目緩和：169
アクセサリーシュー：31, 179
アクセスランプ：49
アスペクト比　→静止画アスペクト比
アッテネーター：296
後幕シンクロ：171, 176
アルバム（ビデオスナップ）：312, 374
安全上のご注意：25

い

位置決め穴：33
位置情報：473
色あい：234
色温度：226
色空間：229, 368
色収差補正：369
色の濃さ：234
印刷
　印刷指定（DPOF）：354
　フォトブック指定：358
インターバルタイマー：258
インデックス表示：334

う

ウィンドカット：295

え

絵文字：8
エラー表示：613
エリアAFフレーム：89, 90
エリア（地域）：516

お

応用撮影ゾーン：39
オートパワーオフ：513
オートフォーカス　→AF
オートライティングオプティマイザ：218
オートリセット：509
お気に入りマーク：380
温度警告：269, 326
音量（動画再生）：338, 339

か

カード：10, 30, 48
　入れ忘れ防止：205
　書き込み禁止：48
　初期化（フォーマット）：511
　トラブル：50, 598
　物理フォーマット：511
カードなしレリーズ：205
回折補正：209, 369
階調優先：219
回転（画像）：349, 510
外部ストロボ　→ストロボ
外部マイク：296
顔+追尾優先：135, 138
拡大表示：144, 147
拡張ISO感度：213, 215, 322, 620
拡張子：199, 290
各部名称：31
カスタム機能：551
カスタム撮影モード：546
画像
　AFフレーム表示：392
　インデックス表示：334
　オートリセット：509
　拡大表示：336
　画像番号：507
　強制リセット：509
　検索条件：385
　再生：329
　撮影情報：333, 630
　自動回転：510
　自動再生：383
　ジャンプ表示（画像送り）：387
　手動回転：349
　消去：350
　スライドショー：383
　テレビで見る：344
　通し番号：508
　取り込み（パソコン）：592
　ハイライト警告：391
　ヒストグラム：389
　表示時間：204
　プロテクト（保護）：346
　レーティング：380
画像送り（ジャンプ表示）：387
画像検索：385
画素数：615
傾き補正：378
家庭用電源：594
カメラ
　構え方：56
　カメラブレ：120, 154, 156
　設定初期化：547
簡易情報表示：629

かんたん撮影ゾーン：38
感度 →ISO感度

き

キッズ：90
機能ガイド：533
キャンドルライト：95
強制リセット：509
魚眼風：105, 363
記録画質：199, 615
近接撮影：93

く

クイック設定：67
クリーニング：528
クリエイティブアシスト：82, 370
クリエイティブフィルター：103, 285, 361
グリッド：393, 540
クローズアップ：93

け

警告表示：570
言語：519

こ

高感度撮影時のノイズ低減：239
高輝度側・階調優先：219
高速連続撮影：150
故障：595
コントラスト：218, 234

さ

サーボAF
　SERVO：125
　開始測距点：566
　動画サーボAF：317, 319, 320
再生：329
先幕シンクロ：176
撮影画像の確認時間：204
撮影可能時間（動画）：618
撮影可能枚数：614
撮影情報表示：539, 622
撮影モード
　Av（絞り優先AE）：114
　〈A+〉（シーンインテリジェントオート）：76
　B（バルブ）：119
　〈C1〉/〈C2〉（カスタム撮影）：546
　M（マニュアル露出）：117
　P（プログラムAE）：110
　SCN（スペシャルシーン）：84
　Tv（シャッター優先AE）：112
　クリエイティブフィルター：103
撮影モードガイド：532
撮像素子の清掃：528
サブ電子ダイヤル：59
サマータイム：517
三脚ねじ穴：33

し

シーンインテリジェントオート：76
シーン判別アイコン：81, 627
ジオラマ風：106, 108, 363
ジオラマ風動画：287
被写界深度：116
自動再生：383
自動選択AF：129
視度調整：56
絞り込み：116
絞り優先AE：114
シャープネス：234
シャッターボタン：57
シャッターボタンの機能：542
シャッター優先AE：112

ジャンプ表示：387
集合写真：87
充電：44
周辺光量補正：207, 368
縮小表示：334
手動ピント合わせ：147
消去（画像）：350
初期化（フォーマット）：511
シリアル番号：33
白黒写真：83, 231, 235
白とび：391
シンクロ設定：171, 176
シンクロ接点：31

す
水彩風：105, 363
水準器：539
ストラップ：41
ストロボ（スピードライト）
　FEB：177
　FEロック：166
　赤目緩和：169
　外部ストロボ：179
　カスタム機能：177
　撮影できる距離：164
　シンクロ（先幕／後幕）：171, 176
　ストロボ制御（機能設定）：168
　スローシンクロ：170
　調光補正：172
　同調速度：179
　内蔵ストロボ：164
　マニュアル発光：171, 174
　ワイヤレス：172, 175
スピーカー：32
スペシャルシーン（SCN）：84
スポーツ：89
スポット1点AF：128, 135, 140
スポット測光：158
スモール（記録画質）：199
スライドショー：383

せ
静止画アスペクト比：202, 616
清掃：528
セイフティシフト：558
設定初期化：547
　カスタム機能：581
　カスタム撮影モード：546
　ストロボ機能設定：178
　操作カスタマイズ：581
　マイメニュー：586
セピア調（モノクロ写真）：235
セルフタイマー：153
全押し：57, 542
センサークリーニング：528

そ
操作ボタン カスタマイズ：571
ゾーンAF：128, 136, 140
測距点乗り移り特性：561
速度変化に対する追従性：560
測距エリア選択モード：128, 131
測距点（AFフレーム）：128
測距点自動選択：129
測光タイマー：220
測光モード：158
ソフトウェア：590
　使用説明書：591
ソフトフォーカス：105, 362

た
タイムラプス動画：300
ダイレクト選択（AFフレーム）：572
多重露出：245
ダストデリートデータ：241
タッチ音：522

タッチシャッター：72
タッチ操作：70, 335, 521
縦位置画像回転表示：510
ダブルタップ：335

ち

チャージャー：40, 44
中央部重点平均測光：158
調色（モノクロ）：235
調光補正：166, 172
長時間露光：119
長秒時露光のノイズ低減：238
著作権情報：548

て

低速連続撮影：151
デジタル端子：32, 592
デジタルレンズオプティマイザ：208, 368
手ブレ：78
手持ち夜景：97
テレビを見る：344
電源：52
　オートパワーオフ：513
　家庭用電源：594
　撮影可能枚数：614
　充電：44
　バッテリー残量：53
　バッテリー情報：524
　劣化度：524
電子音：522
電池　→電源

と

トイカメラ風：105, 363
動画：273
　AEロック：278
　AF方式：135
　HDMI出力：325, 543
　HDR動画撮影：284
　圧縮方式：290
　アッテネーター：296
　ウィンドカット：295
　オートスローシャッター：324
　外部マイク：296
　記録時間：294, 618
　クイック設定：67
　クリエイティブフィルター：285
　グリッド：540
　サーボAF時のAF速度：320
　サーボAFの被写体追従特性：319
　再生：337
　撮影範囲：289
　自動露出撮影：277
　情報表示：622, 625
　前後カット：340
　測光タイマー：220
　タイムラプス動画：300
　テレビで見る：344
　動画記録サイズ：288
　動画記録できるカード：617
　動画サーボAF：317, 319, 320
　動画撮影ボタン：33
　動画電子IS：298
　ビデオスナップ：312
　ビデオスナップアルバム：312
　ファイルサイズ：293, 618
　フレーム切り出し：342
　フレームレート：290
　ヘッドフォン：296
　編集：340
　マイク：296
　マニュアル露出撮影：279
　録音／録音レベル：295
動画クリエイティブフィルター：285

通し番号：508
ドライブモード：150
ドラッグ：70
トラブル：595
トリミング（画像）：377

な

内蔵ストロボ：164
流し撮り：91

に

任意選択（AF）：132
認証マーク：550

の

ノイズ低減
　高感度撮影時：239
　長秒時露光：238
ノーマル（記録画質）：199

は

バースト枚数：201, 615
背景ぼかし設定：83
ハイダイナミックレンジ　→HDR
ハイビジョン：288
ハイライト警告：391
パソコンへの画像取り込み：592
発光モード：171, 174
バッテリーグリップ：594
バッテリー（電池）　→電源
バリアングルモニター：51
バルブ撮影：119
　バルブタイマー：120
半押し：57, 542
汎用ストロボ：179

ひ

ピクチャースタイル：230, 233, 236
被写界深度確認：116
被写体追従特性：559
ヒストグラム：389, 540
日付／時刻：516
ビデオスナップ：312
ビデオ方式：520
瞳AF：142
評価測光：158
表示パネル：36
ピント合わせ →AF

ふ

ファームウェア：550
ファイルサイズ：293, 615, 618
ファイル名：507
ファイン（記録画質）：199
ファインダー
　グリッド：540
　視度調整：56
　情報表示：536
　水準器：536
フィルター効果（モノクロ）：235
風景：88
フォーカスブラケット撮影：255
フォーカスモードスイッチ：54
フォーカスロック：80
フォーマット（カード初期化）：511
フォトブック指定：358
フォルダ作成／選択：505
付属品：3
部分測光：158

ブラケティング
AEB：211
FEB：177
WB-BKT：228
フォーカスBKT：255
フリッカーレス：261
フルハイビジョン（Full HD）：288
フレーム切り出し：342
フレームレート：290, 520
プログラムAE：110
プログラムシフト：111
プロテクト（保護）：346
雰囲気優先（AWB）：224

へ

ヘッドフォン：296
ヘルプ：534
文字サイズ：535

ほ

ポートレート：86
ボタンカスタマイズ：571
ホワイトバランス：222
色温度指定：226
オート：224
ブラケティング：228
雰囲気優先：224
補正：227
マニュアル：225
ホワイト優先（AWB）：224

ま

マイク：296
マイメニュー：583
マニュアルフォーカス：147
マニュアル露出：117
マルチコントローラー1/
マルチコントローラー2：60
マルチショットノイズ低減：239
マルチ電子ロック：545

み

ミドル（記録画質）：199
ミラーアップ撮影：263

む

無線通信：395

め

メイン電子ダイヤル：58
メニュー：63
カスタム機能：552
機能設定：502
再生：330
静止画撮影：193
設定操作：64
動画撮影：274
灰色（グレー）表示：66
マイメニュー：583
無線通信機能：396
メモリーカード　→カード

も

モードダイヤル：38, 58
モニター：30, 51
明るさ：514
角度調整：51
モノクロ：231

や

夜景ポートレート：96

ゆ

油彩風：363

よ

要求カード性能：291, 617

ら

ラージ（記録画質）：199
ラージゾーンAF：129
ライブビュー撮影：71, 77
　1点AF：135
　AF動作：124
　AF方式：135
　アスペクト比：202
　顔+追尾優先AF：138
　クイック設定：67
　クリエイティブフィルター：103
　グリッド：393, 540
　撮影可能枚数：614
　手動ピント合わせ：147
　情報表示：622
　スポット1点AF：135
　ゾーンAF：136
　測光タイマー：220
　瞳AF：142
　フォーカスブラケット撮影：255
　露出シミュレーション：221
ラフモノクロ：105, 362

り

リサイズ：379
リモートコントローラー：155
リモートスイッチ：156
リモコン端子：156
料理：94

れ

レーティング：380
レンズ
　色収差補正：209, 369
　回折補正：209, 369
　光学補正：206, 368
　周辺光量補正：207, 368
　デジタルレンズオプティマイザ：208, 368
　フォーカスモードスイッチ：54
　ロック解除：55
　歪曲収差補正：207, 368
レンズの電子式手動フォーカス：266
連続撮影可能枚数：201, 615
連続撮影（連写）：150

ろ

ロウ：199, 200
録音／録音レベル：295
露出シミュレーション：221
露出設定ステップ：556
露出補正：211
露出補正（M+ISOオート）：118
露出レベル表示：624

わ

歪曲収差補正：207, 368
ワイヤレスストロボ撮影：180
ワンショットAF：125



CT2-D036-E
© CANON INC. 2022